

自分で守る健康社会拠点

将来の社会ニーズ：健康を自分ごと化して地域や世代間の失われた絆を取り戻す社会

『自分で守る健康社会』を実現するためには『健康を自分ごと化』する社会の創造が必要である。そのためには国民一人一人がアクセスできるエビデンスに基いたヘルスケアシステムが不可欠である。このヘルスケアシステムの実現のために東大ならではの総合力と研究リソースを生かしつつ、『入院を外来に、外来を家庭に、家庭で健康に』の理念を掲げ、【高齢社会満足度/医療コスト=健康幸福指数】の指標を最大化し、世界の模範となる社会を構築する。技術課題である、「日帰り治療技術の開発」、「外来を家庭に」を可能とする即時診断技術、ICTシステムの開発、「家庭での未病モニタリング技術の開発、健康リスクの見える化」を行い、同時に基盤として構築する「健康医療ICTのプラットフォーム」にこれらの成果を集約し、国民一人一人が行動変容を起こし『健康を自分ごと化』できる社会システムを整える。

設定した将来の社会ニーズに基づく課題（研究開発テーマ）

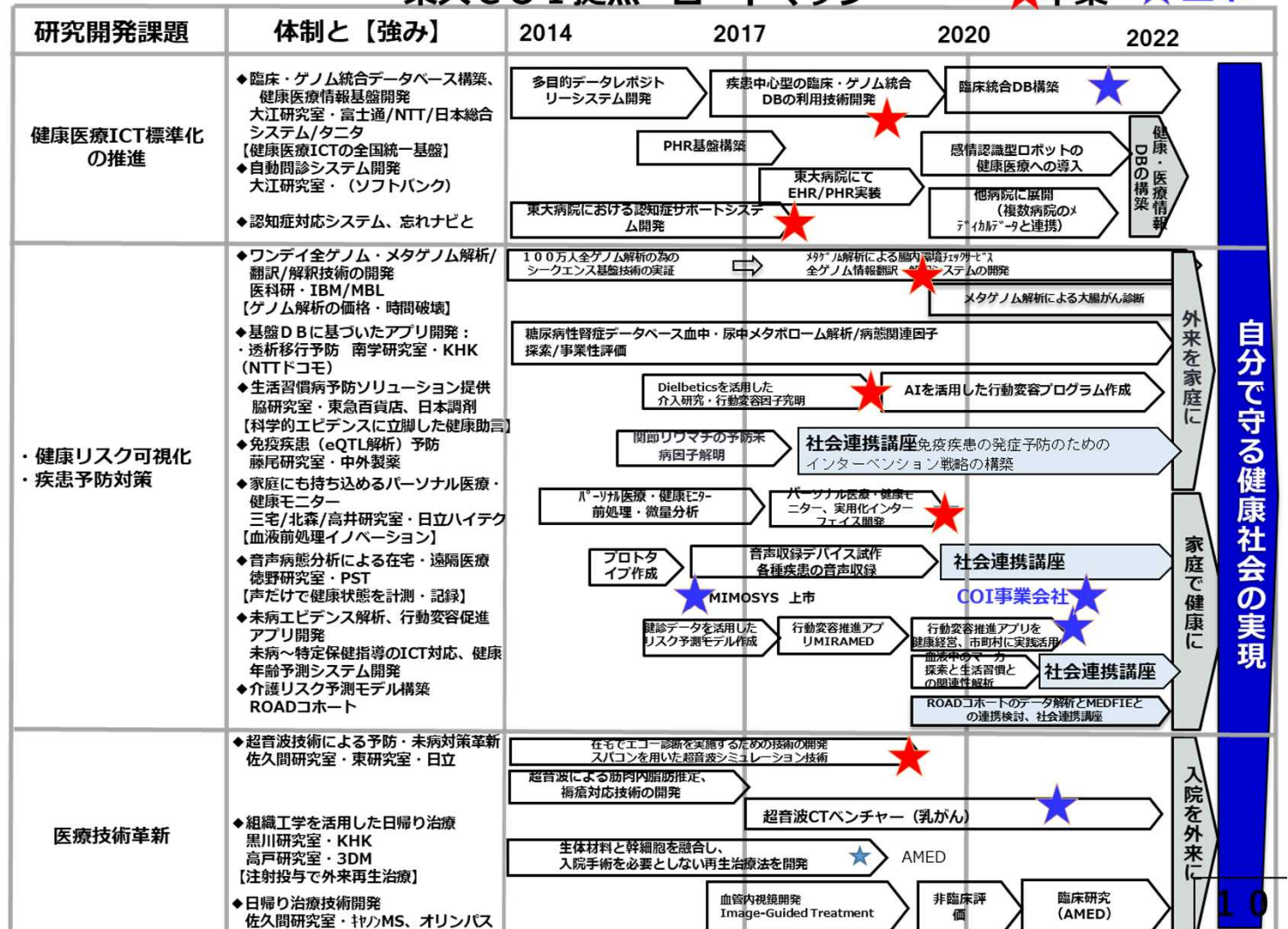
<現状>

医療費が年々増大する中、入院日数・通院回数の削減は医療費の削減に効果的と言われている。一方、ますます高齢化する社会において更に重要なことは、国民一人ひとりが『健康の自分ごと化』を意識して生活様式を変更し、生活習慣病を回避して高齢者も社会に貢献できる環境作りを行う事である。『健康の自分ごと化』を達成するためには、どこでも誰でもエビデンスに基づいた個人の健康医療情報にアクセスできることが不可欠であるが未だシステムが整っていない。一方、社会システムの観点から考えると、個人が自然に健康増進に意欲を燃やせる改革も並行して行われなければならない。

- 健康医療ICT標準化の推進
 - すべての研究開発から得られた健康医療データをデータベースに蓄積し、総合的な健康医療の診断、治療を深化させるには“健康医療ICT標準化”が必要。
 - 更にすべての研究成果をエビデンスに基いて“次世代健康コンシェルジュ”による健康の自分ごと化が可能となるICT技術の開発が必要。
- 健康リスクの可視化、疾患予防対策
 - 家庭で健康増進・予防・超早期診断を行うための“リスク予測モデル”に基づいた行動変容推進アプリの開発、予防・未病対応が行えるデバイス、アプリの開発が必要。その成果を活かせるインセンティブのある社会システムの改革が必要。
- 医療技術革新
 - “入院を外来に”するために“日帰り治療システム”の技術開発が必要。
 - “外来を家庭に”するために“外来即時診断システム”の技術開発が必要。

東大COI拠点 ロードマップ

★卒業 ★上市



自分で守る健康社会の実現

COIプログラム 終了報告書 別紙2 活動実績一覧

拠点名 V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核:東京大学)

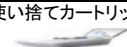
項目				H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	フェーズ1 (H25-H27)	フェーズ2 (H28-H30)	フェーズ3 (R1-R3)	計 (H25-R3)	単位	
① プロトタイプ				0	1	13	13	7	2	5	1	1	14	22	7	43	件	
② 実用化				0	0	3	4	3	3	2	3	0	3	10	5	18	件	
③ 事業化(製品・サービス等の提供)				0	0	5	3	2	3	1	5	4	5	8	10	23	件	
④ 起業(ベンチャー企業等の設立)				0	0	2	1	0	1	1	0	1	2	2	2	6	件	
⑤ 知的財産権の状況	登録	拠点全体	国内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	件	
			外国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	件	
		うちパイドール適用	国内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	件
			外国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	件
	ライセンス			直接入力	直接入力	0	0	0	0	0	2	3	0	0	5	5	件	
	⑥ 成果の発信	プレス発表(イベント告知は除く)			0	0	0	0	5	2	6	11	10	0	7	27	34	件
成果発信イベントの開催			0	0	0	0	2	0	9	3	2	0	2	14	16	件		
展示会への出展		国内	0	0	4	3	16	7	3	1	0	4	26	4	34	件		
		外国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	件	
⑦ 掲載・放映	雑誌掲載(WEB含む)			直接入力	直接入力	13	24	8	2	4	5	27	13	34	36	83	件	
	新聞掲載(WEB含む)			直接入力	直接入力	45	10	8	1	1	31	13	45	19	45	109	件	
	テレビ放映			直接入力	直接入力	7	1	5	1	0	2	8	7	7	10	24	件	
⑪ 論文	原著論文(発行済み)			4	23	43	37	49	32	46	65	26	70	118	137	325	件	
	その他著作物(総説、書籍など)			0	0	1	1	29	12	18	17	8	1	42	43	86	件	
⑫ 発表	口頭発表			5	21	14	26	38	30	46	48	15	40	94	109	243	件	
	ポスター発表			1	5	3	20	23	31	48	13	1	9	74	62	145	件	
	招待講演			1	28	42	44	62	26	50	37	21	71	132	108	311	件	
	その他			1	6	6	2	4	5	12	0	0	13	11	12	36	件	
⑬ 受賞				0	0	2	1	5	2	2	2	2	2	8	6	16	件	

COIプログラム 終了報告書 別紙2 活動実績一覧

拠点名: V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核: 東京大学)

① プロトタイプ

No	成果名称	発表等時期	担当機関 (企業・大学等)	概要	備考 (課題番号等)	年度
1	脂質異常症リスク分析予防サービス (平成26年度版)		東京大学大学院 薬学系研究科、 株式会社ハビタ スケア		【27】生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立	H26
2	筋肉内脂肪測定装置		日立アロカ		【18】超音波CTによる検診技術の開発/組織内脂肪推定法の開発	H27
3	血球分離デバイス		日立ハイテック、東京大学		【19】統合した携帯型分析システムの開発	H27
4	自動採血装置		日立ハイテック、東京大学		【19】統合した携帯型分析システムの開発	H27
5	連続採尿機		シミック(トラストメディカル)		【26】尿中バイオマーカーを用いたPOCデバイスによる心腎連関・多臓器不全の早期診断と治療介入	H27
6	マイクロELISA装置		シミック(マイクロ化学技研)		【26】尿中バイオマーカーを用いたPOCデバイスによる心腎連関・多臓器不全の早期診断と治療介入	H27
7	RaPIDシステム運用プログラム		ペプチドリウム	安川電機製双腕ロボットによるRaPIDシステム運用プログラム	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新 【30】重症薬疹治療薬の開発	H27
8	エレクトロクロミック眼鏡		東海光学		【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H27
9	パーソナルライフデータ・ストレージ・システム		日本総合システム	東大病院の通院患者を対象とした実証実験を開始させるためのプロトタイプの完成	【8】患者の在宅健康医療データ連携システムの研究開発	H27
10	臨床データ抽出ツール		富士通		【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	H27
11	臨床ゲノム・アノテーション・ツール		富士通		【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	H27
12	2型糖尿病リスク分析予防サービス 解析自動化プログラム(平成27年度構築)		東京大学大学院 薬学系研究科、 株式会社ハビタ スケア		【27】生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立	H27
13	beagle medica製薬会社向けシステム(治験・製造販売後調査等)(平成27年度構築)		株式会社キャピタルメディカ、株式会社ハビタスケア		【27】生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立	H27
14	MIMOSYS	42151	PST(株)	音声から心の状態を定量化するアルゴリズム	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
15	看護師エコー支援ツール		東京大学、株式会社日立製作所	看護師(在宅)用超音波画像観察支援システム 泌尿器系教育用基本アプリケーションパッケージ	【18】超音波CTによる検診技術の開発/組織内脂肪推定法の開発	H28
16	乳がん撮像の臨床研究のための超音波CTプロトタイプ		東京大学、株式会社日立製作所	東大病院およびつくば国際プレストクリニックにて臨床試験を開始。	【18】超音波CTによる検診技術の開発/組織内脂肪推定法の開発	H28
17	自動採血装置		東京大学、株式会社日立ハイテクノロジーズ	統合した携帯型分析システムの開発	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
18	原薬Dの球形粒子製造方法		東京大学、東和薬品株式会社	原薬Dの球形粒子を見出しの生成機構の研究から20~200 μmの所望の粒度の球状粒子を得る事が可能となり、製造プロセスのスケールアップ検討を実施し、2kgスケールでも想定通りの球形粒子が得られることを実証した	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H28
19	原子ビームを用いた3次元元素分析装置のための技術開発		東京大学、株式会社バスカル	既存の装置を活用した試験機の整備を行った	【35】原子ビームを用いた3次元元素分析装置のための技術開発	H28
20	エレクトロクロミック眼鏡(シートタイプ)		東京大学、東海光学株式会社		【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28

21	エレクトロクロミック眼鏡(基板成長タイプ)		東京大学、東海光学株式会社		[22]エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
22	臨床データ抽出ツール(2016年版)		富士通株式会社		[2]臨床・ゲノム統合データベース構築	H28
23	臨床ゲノム・アノテーション・ツール(2016年版)		富士通株式会社		[2]臨床・ゲノム統合データベース構築	H28
24	わすれなびと	2016/6/17	東京大学、エーザイ株式会社	認知症・軽度認知障害の方やそのご家族のためのICTコミュニケーションツール「わすれなびと」の臨床研究開始について東大病院神経内科、エーザイ株式会社、株式会社ココカラファインが発表	[23]Preclinicalな状態像の検出指標把握と受診勧奨に導く仕組みの構築→産学連携プロジェクト"THE"	H28
25	2型糖尿病リスク分析予防サービス(ライトバージョン)及び自動化プログラム		東京大学、株式会社ハピタスケア	生活習慣病予防のための健康指導ビジネス	[27]生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立	H28
26	PLS(パーソナルライフデータ・ストレージ)		東京大学、日本総合システム株式会社	患者の在宅健康医療データ連携システム https://nsspls2.com/ https://nsspls2.com/plsmed/	[8]患者の在宅健康医療データ連携システムの研究開発	H28
27	「カラダ予想図」	2017/3/13	東京大学	メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化アプリケーション(カラダ予想図)健康リスクの可視化・日常生活改善の教育ツール	[10]メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	H28
28	手指採血の自動化装置	2018/1/15	(株)日立ハイテクノロジーズ	使い捨てカートリッジを用いる自動採血装置 	[19]統合した携帯型分析システムの開発	H29
29	原薬球形粒子の製造技術研究	未発表	東京大学、東和薬品(株)	原薬Dや他の原薬の研究、および原薬Zの製法研究	[14]結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
30	原薬Kの合成法研究	未発表	東和薬品(株)	効率的合成法の研究	[14]結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
31	ゲノム情報DBのスケールアウト実証とトレーサビリティ実証		東京大学、富士通(株)		[2]臨床・ゲノム統合データベース構築	H29
32	ゲノム情報検索の最適化		東京大学、富士通(株)		[2]臨床・ゲノム統合データベース構築	H29
33	パーソナルライフデータ・ストレージ・システム		東京大学、日本総合システム(株)		[8]患者の在宅健康医療データ連携システムの研究開発	H29
34	生活習慣介入プログラム「MEDFIE」	未定	東京大学	健診結果のデータから将来のメタボリックシンドロームの発症リスクスコアを表示。 	[10]メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	H29
35	パーソナルライフデータ・ストレージ・システム	2018	日本総合システム(株)		[8]患者の在宅健康医療データ連携システムの研究開発	H30
36	血管内視鏡プロトタイプ(直径1.2mm/1.5mm)	2018/11/27 中間評価 2019/1/8 COIシンポ	オリンパス(株)		[15]血管内ヘルスケアデータを取得する機能を有した低侵襲診断機器(血管内視鏡)に関する研究	H30
37	患者症状からの疾患原因遺伝子の推定プログラムの試作		富士通株式会社	患者症状(を表現するHPOターム群)を基に、症状オントロジー上での疾患概念の類似度を計算することで、原因遺伝子を推定するためのプログラムを試作し、その予測精度の評価を行った。特に、患者症状の陽性所見データだけでなく、陰性所見データも合わせて用いることで予測精度を向上し得るかの検討を行った。	[2]臨床・ゲノム統合データベース構築	R1
38	MIMOSYSを用いたクライシスマネジメントシステムの構築	2019/4/18	アメリカ合衆国ジョージア州Georgia Department of Behavioral Health and Developmental Disabilities、Behavioral	左記期間と共同でMIMOSYSを用いたクライシスマネジメントシステムの構築を目指す	[6]音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
39	MIMOSYSサービス提供	2019/12/13	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会	MIMOSYSが、女子ラグビートップ選手の国内合宿および海外遠征において、メンタルコンディショニングツールとして導入	[6]音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
40	心の元気度	2020/2/5	三井情報株式会社	「RsrTech神縄国際IT見本市」にて、MIMOSYSをストレス判定アプリとして紹介	[6]音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1

41	φ1.2mm血管内視鏡プロト機(操作性向上タイプ)	2019/1/21	オリンパス株式会社	血管内視鏡の細径化に伴い、内視鏡のコシが消失し冠動脈穿孔リスクが高くなったため、心金としてスリット付きパイプ用いる構造のプロトを試作した	【15】血管内ヘルスケアデータを取得する機能を有した低侵襲診断機器(血管内視鏡)に関する研究	R1
42	コロナ対応版PLS	2020/6/19	日本総合システム(株)	コロナウイルス感染症に関する健康状態(体温、咳・強いだるさ・息苦しさを自己管理できる機能を緊急開発し一般公開した。	【8】患者の在宅健康医療データ連携システムの研究開発	R2
43	心臓大動脈弁自動抽出・計測・表示アプリケーション臨床プロトタイプ	2022/3学会発表予定	キヤノンメディカルシステムズ(株)	4D-CTによる心臓画像より、大動脈弁の弁尖をそれぞれ自動で分離・セグメンテーションを行い、臨床特徴量を計測するアプリケーションソフトウェア	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合によるImage-Guided Treatment (IGT)の実現	R3

COIプログラム 終了報告書 別紙2 活動実績一覧

拠点名: V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核: 東京大学)

② 実用化

No	成果名称	発表等時期	担当企業等	概要	備考 (課題番号等)	年度
1	SS-MIX2GW	42186	富士通	http://mcdrs.jp/	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	H27
2	beagle medica臨床研究向けシステム		株式会社キャピタルメディカ、株式会社ハビタスケア		【27】生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立	H27
3	MIMOSYS-SDK販売		PST		【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
4	原薬Dの新規製造プロセス		東京大学、東和薬品株式会社	原薬Dの合成プロセスの鍵となる不斉酸化反応の新規鉄触媒の開発を進め、製造プロセス全体の最適化検討を実施し、製品化可能な高品質原薬が得られることを実証した	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H28
5	わすれなびと		東京大学、エーザイ株式会社	「わすれなびと」について、その医療機器デジタルデバイスの可能性につき、薬事申請上の課題を議論	【23】Preclinicalな状態像の検出指標把握と受診勧奨に導く仕組みの構築→産学連携プロジェクト"THE"	H28
6	2型糖尿病リスク分析予防サービス フォローサービス		東京大学、株式会社ハビタスケア	2型糖尿病リスク分析予防サービスフォローサービスの解析及び報告書作成自動化プログラムのトライアル	【27】生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立	H28
18	パーソナルライフデータ・ストレージ・システム	2017年	日本総合システム(株)	東大病院の通院患者を対象とした実証実験を開始	【18】パーソナルライフ医療医療データ連携システムの研究開発	H28
7	原薬Dの新規製造プロセスの開発	未発表	東京大学、東和薬品(株)	新製法研究、およびパイロット製造等	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
8	原薬Aの工業的製造法の開発	未発表	東京大学、東和薬品(株)	設備に合わせた改良研究	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
9	原薬Dの球形粒子製造方法の開発	未発表	東和薬品(株)	製法研究	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
10	iOS版MIMOSYS	43503	PST(株) 東京大学	これまでAndoroido版しかなかったMIMOSYSのiOS版をリリースした。	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
13	MIMOSYS for Android APP	43189	PST株式会社	MIMOSYS Androidアプリ for 多言語版	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
14	心の鏡	43217	BIOTOPIA	神奈川県BIOTOPIA施設にて心の鏡コーナーでMIMOSYSを活用したシステムを構築	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
11	東大病院におけるゲノムレポート参照システムの構築	43796	富士通株式会社	「がん遺伝子パネル検査」の保険診療が開始されたことに伴い、その中核拠点病院である、東京大学医学部附属病院において、遺伝子検査結果のレポートを標準的な仕様に基づくストレージ(SS-MIX2拡張ストレージ)に登録・管理し、医療者によるアクセスコントロールを行った上で、その内容を電子カルテシステム上から、適宜参照させるためのシステムを構築した。またそれを用いた運用が開始された。	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	R1
12	血圧高値の従業員を対象とした在宅健康データ共有システム(東急百貨店向けPLS)	44098	日本総合システム(株)	PLSを改修し東急百貨店健康保険組合の組合員を対象とした研究を行っている。約50人が利用しており健康管理に役立っている。	【8】患者の在宅健康医療データ連携システムの研究開発	R1
16	神奈川県MY ME-BYOカルテAPP	43917	神奈川県	神奈川県未病指標アプリMY ME-BYOカルテにMIMOSYSが搭載	https://www.medical-pst.com/news/company/2398 【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
17	心の声	44069	三井情報	MKI社がMIMOSYSを活用したサービスを展開	https://www.mki.co.jp/knowledge/column82.html 【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
19	血圧高値の従業員を対象とした在宅健康データ共有システム(東急百貨店向けPLS)	44098	日本総合システム(株)	PLSを改修し東急百貨店健康保険組合の組合員を対象とした研究を行っている。約50人が利用しており健康管理に役立っている。	【8】患者の在宅健康医療データ連携システムの研究開発	R2

COIプログラム 終了報告書 別紙2 活動実績一覧

拠点名: V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核: 東京大学)

③ 事業化(製品・サービス等の提供)

No	製品・サービス等の名称	発売等時期	担当企業等	概要	備考 (課題番号等)	年度
1	MCDRS	42186	富士通	http://mcdrs.jp	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	H27
2	2型糖尿病リスク分析予防サービス		ハビタスケア	企業向け/自治体向け、マンツーマン指導用/教室用/臨床研究用とそれぞれのバージョンを構築、提供	【27】生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立	H27
3	beagle medica医療機関向けシステム	42370	株式会社キャピタルメディカ、株式会社ハビタスケア		【27】生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立	H27
4	Watson Genomicsクラウドサービス	42339	日本IBM	北米・日本で提供開始	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H27
5	MIMOSYS-SDK		PST		【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
6	原薬Aの工業的製造方法の確立		東京大学、東和薬品株式会社	高分解能走査電子顕微鏡による観察により、直径数十ナノメートルの粒子が時間経過と共に発生することを明らかにし、晶析プロセスの検討に応用した結果、計画よりも早く平成28年4月に医薬品製造が認可され製品化を達成、商用生産を実施した。	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H28
7	原子ビームを用いた3次元元素分析装置による受託分析		東京大学、株式会社バスカル	試験機を用いた受託分析の実施。装置の評価のため、有償、無償の受託分析評価を行った。評価サンプル数は官・民・学を含め約80件実施。	【35】原子ビームを用いた3次元元素分析装置のための技術開発	H28
8	2型糖尿病リスク分析予防サービス フォローサービス		東京大学、株式会社ハビタスケア	平成28年度構築～販売を実施し、三井化学(株)にサービスとして提供	【27】生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立	H28
9	開発したシステム(DialBeticsLite)を用いた特定保健指導の実施	H29年度	東京大学附属病院	東急百貨店健康保険組合員60名を対象とした保健指導を実施した 	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H29
10	世界初の3次元プリンターによる人工骨の製造販売承認取得	43207	ネクスト21(株) 星教授・高戸元教授の成果	別添1参照 	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H30
11	ララしあコネクト 心の健康度	43245	富士通コネクテッドテクノロジーズ(株)	ドコモ スマートフォン「arrows Be F-04K」にMIMOSYSが「心の健康度」としてプレイインストール	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
12	音声こころ分析サービス	42769	株式会社日立システムズ	PSTが開発したMIMOSYSを利用し、声から心の状態を分析し病の早期発見に寄与するクラウド型システムを展開	https://www.hitachi-systems.com/news/2017/20170203.html 【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
13	特定保健指導事業	2018.9.1	NTTドコモ	9月1日より特定保健指導事業を開始	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H30
14	らくらくスマートフォンF-01L	43512	富士通コネクテッドテクノロジーズ	富士通製らくらくスマートフォンシリーズにMIMOSYSがプリインストール	https://www.medical-pst.com/news/products/2383 【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1

15	マインドヘルス計測システム	43922	リスク計測テクノロジー株式会社	MIMOSYSにより利用者の心の健康度を声で計測・数値化・モニタリングすることでマインドヘルスの管理をサポートするウェブアプリケーション	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
16	マイME-BYOカルテ	43922	神奈川県	神奈川県民をはじめとした多くの方にMIMOSYSをご使用頂き、未病の段階での気づき、促しを提供し、健康管理に努めるアプリケーション	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
17	未病指標 (ME-BYO INDEX)	43922	神奈川県	メンタルヘルス・ストレス領域において、MIMOSYSを用いて、現在の未病の状態を数値等で「見える化」し、将来の病気を予防する	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
18	健康経営支援保険	43922	三井住友海上火災保険株式会社 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 MS&ADインターリスク総研株式会社	MIRAMEDが健康経営支援保険に採用され、2021年4月から契約企業の従業員に提供されている	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	R2
19	マインドヘルス計測システム	43928	リスク計測テクノロジー	RimTech社がMIMOSYSを活用したWEB APPサービスを展開	https://www.medical-pst.com/news/company/2399 【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
20	乳房用リング型超音波画像診断装置「COCOLY」	43961	株式会社Lily MedTech	受診者がベッド上でうつ伏せになり、ベッド中央の穴に乳房を片側ずつ挿入すると、穴の中に設置されたリング型振動子アレイが、散乱像再構成技術「リングエコー撮像法」により、乳房を1スライスずつ撮像し、乳房断面の画像を作成	【18】超音波CTによる検診技術の開発/組織内脂肪推定法の開発	R3
21	健康支援サービス(MIRAMED)	44136	株式会社日立システムズ	MIRAMEDを搭載した特定保健指導向けの業務支援サービス	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	R3
22	未定	2021年11月予定	ヘルスケアテクノロジー株式会社	オンライン健康医療相談サービス「HELPO」への特定保健指導機能追加	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	R3
23	ゲノム医療支援ソリューション	2021年度末予定	富士通Japan株式会社	臨床情報とゲノム情報を一元的に管理・参照・利活用するための要素技術の一つのパッケージに集約し、院内で電子カルテとも連携可能なクラウド(SaaS)基盤として、ゲノム医療に関連する部門向けに診断支援システムとしての展開を予定する	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	R3

COIプログラム 終了報告書 別紙2 活動実績一覧

拠点名: V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核: 東京大学)

④ 起業(ベンチャー企業等の設立)

No	法人名称	設立時期	シーズ	概要	備考 (課題番号等)	年度
1	ペプチドリーム社	2006	東京大学菅教授 の成果	2012年東証マザーズ上場、2015年12月に東証1部上場	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新	H27
2	株式会社ビーグル	2015/10/1		株式会社キャピタルメディカの100%子会社として設立	【27】生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立	H27
3	株式会社Lily Medtech	2016/5/1	東京大学東准教授 の成果	NEDO-STISの枠組みを活用。資本金: 約2000万円、社員: 7名	【18】超音波CTによる検診技術の開発/組織内脂肪推定法の開発	H28
4	Gellycle社	2018/7/26	J&J社と当COIの 包括連携の成果。鄭研究室の 酒井准教授の シーズ	分子設計に基づく目的に応じた物性のゲルを治療に用いる		H30
5	株式会社Liquid Mine	2019/11/7	東京大学井元教授、東條教授らの 成果	全ての血液がん、特に白血病を対象として、臨床シーケンスと、その結果に基づきテラーメイド式に液体生検のアッセイを作成し治療後の残存病変をモニタリングする事業を行う	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【H31W02】白血病における液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R1
6	株式会社メドミライ	2021/5/18	岸暁子助教、中村正浩助教、Thomas Svensson 講師の研究成果	東京大学が開発したMIRAMEDをベースにプログラム医療機器を開発し製造販売を目指す	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証、【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R3

COIプログラム 終了報告書 別紙2 活動実績一覧

拠点名: V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核: 東京大学)

⑤-2 知的財産権(登録) A特許 | Bその他の知的財産権

A 特許

No	知財の名称	登録年月	出願番号	登録番号	バイ・ドール 適用	出願人	国内/外国	備考	年度
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									

B その他の知的財産権 (実用新案権、意匠権、回路配置利用権、育成者権など)

No	知財の名称	登録年月	出願番号	登録番号	バイ・ドール 適用	出願人	国内/外国	備考	年度
1									
2									
3									
4									
5									

COIプログラム 終了報告書 別紙2 活動実績一覧

拠点名: V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核: 東京大学)

⑥-1 成果の発信(プレス発表) ※イベント告知は除く

No	発表年月日	発表タイトル	発表機関	主な研究者	URL	備考 (課題番号等)	年度
1	2018/3/28	SUCCESSでLilyMedTechに出資決定	JST	東隆(東京大学)	https://www.nikkei.com/article/DGXLRS475645_Y8A320C100000/	【18】超音波CTによる検診技術の開発/組織内脂肪推定法の開発	H29
2	2017/6/24	TBSテレビ 報道特集「AI(人工知能)と生きる未来」	東京大学	東條有伸(東京大学)、宮野悟(東京大学)		【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析、【24】ゲノム解析のためのシークエンサー技術の開発、【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
3	2017/11/24	NHK Eテレ【人間ってなんだ? 超AI入門】第8回「診断する」	東京大学	東條有伸(東京大学)、宮野悟(東京大学)		【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析、【24】ゲノム解析のためのシークエンサー技術の開発、【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
4	2017/6/27	音声こころ分析サービス	株式会社日立システムズ	徳野慎一(東京大学)	https://www.medical-pst.com/news/company/1641	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
5	2018/2/22	腹部放射線治療後に起こる腸線維症のメカニズムを解明—好酸球除去抗体による革新的治療法に期待—	千葉大学、東京大学、AMED	植松智(千葉大学、東京大学)、武村直紀(千葉大学、東京大学)	http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/files/180222.pdf 、 http://www.chiba-u.ac.jp/general/publicity/press/files/2017/20180222igaku.pdf 、 https://www.amed.go.jp/news/rel ease_20180222.html	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析、【24】ゲノム解析のためのシークエンサー技術の開発、【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
6	2019/1/27	「声」「血1滴」体調見抜く	東京大学	徳野慎一(東京大学)	2019年1月27日 読売新聞朝刊(31頁)	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
7	2019/3/11	東大COIとの提携による「健康経営支援型商品」の開発について	三井住友海上火災保険株式会社 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	岸暁子(東京大学)	https://www.ms-ins.com/news/fy2018/pdf/0311_1.pdf	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	H30
8	2019/4/18	ジョージア州とクライシスマネジメントシステムの研究を開始	PST株式会社	徳野慎一(東京大学)、大宮康宏(PST)	https://medical-pst.com/news/company/2387	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
9	2019/8/23	夢の肥満ワクチン、糖尿病ワクチンの開発へ	大阪市立大学、東京大学医科学研究所、AMED	植松智(東京大学)	https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/shizenmenekiseigyo/index.html	【5】全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	R1
10	2019/8/28	ヘルシーエイジングシステム構築のための産学共同研究開始	三菱UFJ信託銀行株、ソフトバンク株	岸暁子(東京大学)	https://www.nikkei.com/article/DGXLRS517697_Y9A820C100000/	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	R1
11	2019/12/10	次世代の生命保険・サービスに関する開発の産学連携の共同研究	ブルデンシャルホールディングス株	岸暁子(東京大学)	http://coi.tu-tokyo.ac.jp/file/2019/12/News-Release_COI_UTokyo_Prudential_1216.pdf#search=%27%E3%83%97%E3%83%AB%E3%83%87%E3%83%B3%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%83%AB+%E6%9D%B1%E5%A4%A7%27	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	R1
12	2019/12/13	MIMOSYSが女子ラグビートップ選手のメンタルコンディショニングツールとして導入されました	PST株式会社	大宮康宏(PST)	https://medical-pst.com/news/company/2393	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
13	2020/2/6	国際連携によるがん全ゲノムの大規模解析—次世代のがんゲノム医療の解析基盤構築に貢献—	東京大学、理化学研究所	井元清哉(東京大学) 中川英刀(理研)	https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/press/z020100115.html	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1

14	2020/7/11	大規模データから新規抗菌物質を 同定 腸内ウイルスのビッグデー タを使った新しい治療法を開発 ～ 腸内ファージのデータベースを構 築～	東京大学、大阪市立 大学	植松智(東大、大阪市 大)、井元清哉(東大)	https://www.ims.u- tokyo.ac.jp/imsut/jp/research/pap ers/post_135_00024.html	【5】全ゲノム・全メタゲ ノムシーケンス解析	R2
15	2020/11/18	ユーザー参加型のゲノム研究によ り宿主遺伝要因が日本人腸内細 菌叢に影響を与えることを確認 ～ “Community-derived science”実 現による成果～	東京大学	植松智(東大)、井元 清哉(東大)	https://www.ims.u- tokyo.ac.jp/imsut/jp/about/press/ page_00048.html	【5】全ゲノム・全メタゲ ノムシーケンス解析	R2
16	2021/2/10	糞便移植治療によって腸内細菌 叢が機能回復するメカニズムを解 明 ～抗菌薬投与によって起こる 再発性C. difficile関連腸炎の治療 に光～	東京大学、大阪市立 大学	植松智(東大、大阪市 大)、井元清哉(東大)	https://www.ims.u- tokyo.ac.jp/imsut/jp/about/press/ page_00068.html	【5】全ゲノム・全メタゲ ノムシーケンス解析	R2
17	2020/6/5	Genome Catalog Opens Up Future of Individualized Cancer Treatment	官邸	井元清哉(東大)	https://www.japan.go.jp/tomodach i/2020/earlysummer2020/genome .html	【4】全ゲノム解析と人 工知能技術を用いた 臨床シーケンスの社 会実装によるヒトの丸 ごと理解	R2
18	2020/6/25	エジンバラ大学の共同研究開始	エジンバラ大学	高野(PST)	https://www.medical- pst.com/news/company/2401	【6】音声病態分析によ る精神・神経疾患領域 における未病対策と発 病早期発見のシステ ムの構築	R2
19	2020/10	「声」をバイオマーカーに、うつ病 や認知症の診断補助ツールになる か	東京大学、PST株式会 社	徳野慎一(東京大 学)、大塚寛(PST)	https://project.nikkeibp.co.jp/behe alth/atcl/feature/00003/1002001 59/	Beyond Health(日経 BP) 【6】音声病態分析によ る精神・神経疾患領域 における未病対策と発 病早期発見のシステ ムの構築	R2
20	2020/09	話し声から認知症発見へ	東京大学	徳野慎一(東京大学)		松本市民タイムス 【6】音声病態分析によ る精神・神経疾患領域 における未病対策と発 病早期発見のシステ ムの構築	R2
21	2020/10	医療情報最前線	PST株式会社	大塚寛(PST)		RKBラジオ「櫻井浩二 インサイト」【6】音声 病態分析による精神・ 神経疾患領域におけ る未病対策と発病早 期発見のシステムの 構築	R2
22	2020/11	Report of Consortium meeting, WHO Clinical Consortium on Healthy Ageing 2019	東京大学、PST株式会 社	徳野慎一(東京大 学)、大塚寛(PST)	https://apps.who.int/iris/handle/1 0665/333913	Report of Consortium meeting, WHO Clinical Consortium on Healthy Ageing 2019 【6】音声病態分析によ る精神・神経疾患領域 における未病対策と発 病早期発見のシステ ムの構築	R2
23	2020/12/10	健康経営支援保険の発売につい て	三井住友海上火災保 険株式会社 あいおいニッセイ同和 損害保険株式会社 MS&ADインターリス ク総研株式会社	岸暁子(東京大学)	https://www.ms- ins.com/news/fy2020/pdf/1210_2 .pdf	【10】メタボリックシンド ロームのリスク予測モ デル可視化・予防教 育アプリケーション(カ ラダ予想図)の開発及 び効果検証	R2
24	2021/3	How Voice Analysis Technology Can Track the Psychological Impact of Covid	東京大学	徳野慎一(東京大学)	https://talk.crisisnow.com/how- voice-analysis-technology-can- track-the-psychological-impact- of-covid/	#Crisis Talk 【6】音声 病態分析による精神・ 神経疾患領域におけ る未病対策と発病早 期発見のシステムの 構築	R2
25	2021/4/1	免疫の個人差をつかさどる遺伝子 多型の機能カタログを作成	東京大学、理化学研 究所、JST、AMED	太田峰人(東京大 学)、藤尾圭志(東京 大学)、山本一彦(理 化学研究所)、角田浩 行(中外製薬)	https://www.h.u- tokyo.ac.jp/press/20210430.html	【9】ヒト免疫系の機能 ゲノム学による統合的 理解とこれを用いた免 疫疾患の発症予防の ためのインターベン ション戦略の構築	R3
26	2021/5/6	中外製薬、東京大学、理化学研 究所の共同研究の成果である免疫 疾患の機能ゲノムデータベースの 構築と関連解析結果がCellに掲載	中外製薬(株)	太田峰人(東京大 学)、藤尾圭志(東京 大学)、山本一彦(理 化学研究所)、角田浩 行(中外製薬)	https://www.chugai- pharm.co.jp/news/detail/2021050 6113000_1108.html	【9】ヒト免疫系の機能 ゲノム学による統合的 理解とこれを用いた免 疫疾患の発症予防の ためのインターベン ション戦略の構築	R3
27	2021/6/8	東大医科研とIBM、COVID-19の 国内感染拡大リスク軽減のため、 ウイルスゲノム変異解析・可視化 を迅速に実施するシステムを開発	東京大学、IBM	井元清哉(東京大学)	https://www.ims.u- tokyo.ac.jp/imsut/jp/about/press/ page_00095.html	【4】全ゲノム解析と人 工知能技術を用いた 臨床シーケンスの社 会実装によるヒトの丸 ごと理解	R3
28	2021/6/26	コメで作った飲むワクチン「ムコ ライ」の実現に向けて大きな一歩 ーヒトでの安全性と免疫原性が確 認されましたー	東京大学	清野宏、植松智、井元 清哉(東京大学)	https://www.ims.u- tokyo.ac.jp/imsut/jp/about/press/ page_00104.html	【5】全ゲノム・全メタゲ ノムシーケンス解析	R3

29	2021/4/27	東京大学COIとの共同研究契約を延長 医療政策・経済と新型コロナウイルスなど 疾病の予防施策への影響に関する探索研究を本格化	(株)ALBERT	岸暁子(東京大学) Thomas Svensson(東京大学)	https://www.albert2005.co.jp/release/5189.html	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証、【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R3
30	2021/4/27	東京大学COIとの共同研究結果をまとめた論文を発表 4カ国の「政策」と「新型コロナウイルスの拡散状況」の関連性を比較分析	(株)ALBERT	岸暁子(東京大学) Thomas Svensson(東京大学)	https://www.albert2005.co.jp/release/5193.html	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証、【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R3
31	2021/5/10	乳房用リング型超音波画像診断装置「COCOLY」販売開始のお知らせ	株式会社Lily MedTech	東 隆(元・東京大学)	https://www.lilymedtech.com/wp-content/uploads/2021/06/20210510.pdf	【18】超音波CTによる検診技術の開発/組織内脂肪推定法の開発	R3
32	2021/8/18	医薬・ヘルスケア領域における中期事業戦略を発表	株式会社日立システムズ	岸暁子(東京大学)	https://www.hitachi-systems.com/news/2021/20210818.html	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	R3
33	2021/11/1	東大COIが開発したAIエンジンを活用し、「医療DX」で生活習慣関連疾患対策 特定保健指導を支援する「健康支援サービス(MIRAMED)」を提供開始	株式会社日立システムズ	岸暁子(東京大学)	https://www.hitachi-systems.com/news/2021/20211101.html	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	R3
34	2021/11(予定)	オンライン健康医療相談サービス「HELPO」への特定保健指導機能追加	ヘルスケアテクノロジー株式会社	岸暁子(東京大学)	未定	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	R3

COIプログラム 終了報告書 別紙2 活動実績一覧

拠点名: V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核: 東京大学)

⑥-2 成果の発信(成果発信イベントの開催)

No	開催年月日	名称	開催地	参加人数 (人)	概要	備考 (主催、共催等)	年度
1	2017/8/29	2017 - SS-MIX普及推進コンソーシアム	東京大学		部門診断レポートの構造化の汎用手法	東京大学COI 自分で守る健康社会	H29
2	2018/1/15	自分で守る健康社会シンポジウム2018(東京)	文京区	400人	成果発表	主催: 東大COI拠点 後援: JST	H29
3	2019/10/25	東京大学COIシンポジウム(東京)	文京区	100	成果発表	主催: COI拠点	R1
4	2019/8/29	イノベーション・ジャパン	東京ビッグサイト		成果発表	主催: JST	R1
5	2019/10/9	ME-BYO JAPAN	パシフィコ横浜		成果発表	主催: 神奈川県	R1
6	2020/2/5	テクニカルショウヨコハマ2020	パシフィコ横浜		成果発表	主催: 公益財団法人 神奈川県産業振興センター、一般社団法人 横浜市工業会連合会、 神奈川県、横浜市	R1
7	2019/5/22, 23	第3回WHO総会時 Healthcare New Frontier Seminar of Kanagawa in Japan "ME-BYO: Building a Better Future through Behavior Change"	スイス ジュネーブ市	60	未病関係成果発表及び展示	主催: 神奈川県 共催: COI拠点	R1
8	2019/11/13	ME-BYOサミット神奈川2019 専門家シンポジウム	神奈川県箱根				R1
9	2019/11/14	ME-BYOサミット神奈川2019	横浜市				R1
10	2019/12/6-8	東京フォーラム	千代田区	30	成果発表	共催: 東京大学、Chey Institute for Advanced Studies	R1
11	2019/10/25	東京大学COI「自分で守る健康社会」シンポジウム2019(東京)	文京区	400	成果発表	主催: 東大COI拠点	R1
12	2021/2/1	マッチングカンファレンス デジタルヘルスの未来を語ろう! ~ ニーズ/シーズのベストマッチによる事業革新を目指して~	オンライン	200	シーズ・ニーズ探索	主催: 経済産業省関東経済産業局、公益財団法人 木原記念横浜生命科学振興財団 研究開発テーマ6	R2
13	2021/2/1	シンガポールミッション2021	オンライン	50	シーズ・ニーズ探索	主催: 神奈川県(運営支援: みずほ情報総研株式会社) 研究開発テーマ6	R2
14	2020/7/3	第3回COI学術交流会	オンライン	100	成果発表	東北大学COI拠点 /JST R2W11	R2
15	2021/11/6	サイエンスアゴラ2021	オンライン開催		シーズ・ニーズ探索	研究開発テーマ10.12、主催: 国立研究開発法人科学技術振興機構	R3
16	2021/11/17	神奈川県・スタンフォード大学	オンライン開催		成果発表	研究開発テーマ10.12、主催: 神奈川県	R3

COIプログラム 終了報告書 別紙2 活動実績一覧

拠点名: V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核: 東京大学)

⑥-3 成果の発信(展示会への出展)

No	開催年月日	名称	開催地	国内/外国	概要	備考	年度
1	2015/8/27-28	JSTフェア2015	東京ビッグサイト	国内	MIMOSYS紹介ブース	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
2	2015/9/30	未病サミット2015 in 箱根	千代田区フォーリンプレスセンター	国内	MIMOSYS展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
3	2015/10/14-16	ME-BYO Japana2015	パシフィコ横浜	国内	MIMOSYS展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
4	2015/11/28	脳卒中公開講座	アミュ厚木	国内	MIMOSYS展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
5	2016/2/16	さがみロボット産業特区	ユニコムプラザ相模原	国内	MIMOSYS展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
6	2016/8/25-26	JSTフェア2016	東京ビッグサイト	国内	MIMOSYS展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
7	2016/10/12-14	BioJapan2016	パシフィコ横浜	国内	MIMOSYS展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
8	2017/1/31	自分で守る健康社会	東京大学本郷キャンパス	国内	MIMOSYS展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
9	2017/3/7-10	リテールテックJAPAN2017	東京ビッグサイト	国内	音声こころ分析サービス	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
10	2017/6/28-30	ヒューマンキャピタル2017	東京国際フォーラム	国内	音声こころ分析サービス	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
11	2017/7/12-14	国際モダンホスピタルショウ	東京ビッグサイト	国内	音声こころ分析サービス	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
12	2017/7/26-28	HR EXPO	東京ビッグサイト	国内	音声こころ分析サービス	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
13	2017/8/31-9/1	JSTフェア2017	東京ビッグサイト	国内	音声こころ分析サービス	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
14	2017/10/11-13	BioJapan2017	パシフィコ横浜	国内	MIMOSYS展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
15	2018/3/24-25	日本乳腺甲状腺超音波学会	新宿区	国内	企業展示	【18】超音波CTによる検診技術の開発/組織内脂肪推定法の開発	H29

16	2017/8/31-9/1	JSTフェア2017	江東区	国内	COIゾーンへの成果展示	【21】電子カルテに含まれる医療データ分析、日本電信電話社	H29
17	2018/2/22-23	NTT R&Dフォーラム2018	武蔵野市	国内		【21】電子カルテに含まれる医療データ分析、日本電信電話社	H29
18	2018/1/27	日本救急医学会関東地方会学術集会	東京大学 本郷キャンパス	国内	VIPプロジェクトゾーンへの成果展示	【8】患者の在宅健康医療データ連携システムの研究開発、VIPプロジェクト：学術集会会場を仮想都市・被災地域に見立てた救急・災害医療情報プラットフォーム構築の試み (Virtual emergency/disaster medical Intelligence Platform:VIP)	H29
19	2018/2/1-3	日本集団災害医学会総会・学術集会	パシフィコ横浜	国内	VIPプロジェクトゾーンへの成果展示	【8】患者の在宅健康医療データ連携システムの研究開発、VIPプロジェクト：学術集会会場を仮想都市・被災地域に見立てた救急・災害医療情報プラットフォーム構築の試み (Virtual emergency/disaster medical Intelligence Platform:VIP)	H29
20	2017/10/11-13	ME-BYO Japan 2017	横浜市	国内	共同研究 (Glucote) の紹介	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発、日本調剤(株) 出展	H29
21	2017/7/11-13	国際モダンホスピタルショウ	東京	国内	NTTグループブースでの成果展示	【21】電子カルテに含まれる医療データ分析	H29
22	2018/1/15	自分で守る健康社会	東京大学本郷キャンパス	国内	MIMOSYS展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
23	2018/2/7-9	テクニカルショウ横浜	パシフィコ横浜	国内	MIMOSYS展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
24	2018/7/11-13	国際モダンホスピタルショウ	東京	国内		【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	H30
25	2018/6/28	Biotech2018	江東区	国内	ワクチン開発の成果発表	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	H30

26	2018/10/18	お薬相談会	埼玉県所沢市	国内	MIMOSYS展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
27	2018/11/11	所沢市健康まつり	埼玉県所沢市	国内	MIMOSYS展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
28	2018/7/30-31	JSTフェア2018	江東区	国内	COIゾーンへの成果展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
29	2018/10/10-12	ME-BYO Japan2018	パシフィコ横浜	国内	MIMOSYS展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
30	2019/2/6-8	テクニカルショウ横浜	パシフィコ横浜	国内	MIMOSYS展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
31	2019/8/29	イノベーション・ジャパン	東京ビッグサイト	国内	COIゾーンへの成果展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
32	2019/10/9	ME-BYO JAPAN	パシフィコ横浜	国内	COIゾーンへの成果展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
33	2020/2/5	テクニカルショウヨコハマ2020	パシフィコ横浜	国内	成果展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
34	2021/2/15-26	テクニカルショウヨコハマ2021	オンライン	国内	成果展示	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2

COIプログラム 終了報告書 別紙2 活動実績一覧

拠点名: V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核: 東京大学)

⑩-1 原著論文(発行済み)

No	論文表題	著者名	記載誌名	論文のDOI	発行年月	巻	号	掲載ページ(始)	掲載ページ(終)	査読有無	国際共著	発表機関 (参画機関のみ)	備考 (課題番号等)	年度
1	N. Terasaka, G. Hayashi, T. Katoh, H. Suga* "An engineered ribosome-tRNAs pair functions orthogonally to the wildtype under an artificially programmed genetic code", Nat Chem Biol. in press .				2014							東京大学	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新	H25
2	1. Nukina A, Kagoya Y, Watanabe-Okochi N, Arai S, Ueda K, Yoshimi A, Nannya Y, Kurokawa M. "Single-cell gene expression analysis reveals clonal architecture of blast-phase chronic myeloid leukaemia". Br J Haematol. 165, 414-6 .				2014							東京大学	【20】多能性幹細胞の次世代がん治療への応用法の開発【20】がん幹細胞を標的とした早期診断, 治療, 再発モニタリング手法の確立	H25
3	1. Okada Y, Wu D, Trynka G, Raj T, Terao C, Ikari K, Kochi Y, Ohmura K, Suzuki A, Yoshida S, Graham RR, Manoharan A, Ortman W, Bhargale T, Denny JC, Carroll RJ, Eyler AE, Greenberg JD, Kremer JM, Pappas DA, Jiang L, Yin J, Ye L, Su DF, Yang J, Xie G, Keystone E, Westra HJ, Esko T, Metspalu A, Zhou X, Gupta N, Mirel D, Stahl EA, Diogo D, Cui J, Liao K, Guo MH, Myouzen K, Kawaguchi T, Coenen MJ, van Riel PL, van de Laar MA, Guchelaar HJ, Huizinga TW, Dieudé P, Mariette X, Bridges SL Jr, Zernakova A, Toes RE, Tak PP, Miceli-Richard C, Bang SY, Lee HS, Martin				2014							東京大学	【37】統合疾患データベースの構築とその臨床応用	H25
4	1. Shibasaki K, Ogawa S, Yamada S, Iijima K, Eto M, Kozaki K, Toba K, Akishita M, Ouchi Y: "Association of decreased sympathetic nervous activity with mortality of elderly in long-term care", Geriatr. Gerontol. Int. 14:159-166				2014							東京大学		H25
5	J. Wang, E. Kobayashi, I. Sakuma, Coarse-to-fine dot array marker detection with accurate edge localization for stereo visual tracking, Biomedical Signal Processing and Control, 15, 49-59, 2015				2015							東京大学	【18】超音波CTIによる検診技術の開発/組織内脂肪推定法の開発	H26
6	Y. Ogasawara, M. Hibino, T. Kudo, and N. Mizuno, Electrochemical Reactions of Perovskite-Type SrCoO _{3-δ} via Topotactic Oxygen Extraction/Insertion in Aprotic Li ⁺ Electrolyte Solutions. J. Electrochem. Soc., 161, A792-A797, doi: 10.1149/2.063405jes.				2014							東京大学	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H26
7	S. Okuoka, Y. Ogasawara, Y. Suga, M. Hibino, T. Kudo, H. Ono, K. Yonehara, Y. Sumida, Y. Yamada, A. Yamada, M. Oshima, E. Tochigi, N. Shibata, Y. Ikuhara, and N. Mizuno, A New Sealed Lithium-Peroxide Battery with a Co-Doped Li ₂ O Cathode in a Superconcentrated Lithium Bis(fluorosulfonyl)amide Electrolyte. Sci. Rep., 4, 5684/1-5684/6, doi: 10.1038/srep05684.				2014							(株)日本触媒, 東京大学	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H26
8	日比野光宏, 小笠原義之, 水野哲孝, 高性能蓄電デバイス創製に向けた革新的研究, 化学工業, 65, 744-750 .				2014							東京大学	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H26
9	日比野光宏, 水野哲孝, ペロブスカイト型酸化物の酸素脱離・挿入反応を利用した新しい電池, セラミックス, 49, 968-973().				2014							東京大学	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H26
10	日比野光宏, 小笠原義之, 水野哲孝, 固体内酸素の酸化還元を利用した新しい電池, 工業材料, 2015年3月号, pp. 34-37.				2015/3/1							東京大学	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H26
11	Charge/discharge mechanism of a new Co-doped Li ₂ O cathode material for a rechargeable sealed lithium-peroxide battery analyzed by X-ray absorption spectroscopy. Y. Ogasawara, M. Hibino, H. Kobayashi; T. Kudo, D. Asakura, Y. Nanba, E. Hosono, N. Nagamura, Y. Kitada, I. Honma, M. Oshima, S. Okuoka, H. Ono, K. Yonehara, Y. Sumida, and N. Mizuno		10.1016/j.jpowsour.2015.04.050		2015/8/1							東京大学, (株)日本触媒	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H26
12	Takato, T., Y. Mori, Y. Fujiwara, Y. Asawa, S. Nishizawa, S. Kanazawa, T. Ogasawara, H. Saijo, T. Abe, M. Abe, H. Suenaga, Y. Kanino, S. Sugiyama, K. Hoshi, Preclinical and clinical research on bone and cartilage regenerative medicine in oral and maxillofacial region, Oral Sci. Int., 1(2), 45-51, doi:10.1016/S1348-8643(14)00008-1, .				2014							東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチド/ハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H26
13	Mori, Y., S. Kanazawa, Y. Asawa, T. Sakamoto, R. Inaki, K. Ohkubo, S. Nagata, M. Komura, T. Takato, and K. Hoshi, Regenerative cartilage made by fusion of cartilage elements derived from chondrocyte sheets prepared in temperature-responsive culture dishes, J. Hard Tissue Biology, 23, 101-110, doi.org/10.2485/jhtb.23.101.				2014							永田小耳症クリニック 埼玉医科大学	【16】高機能インジェクタブルペプチド/ハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H26

14	Fujiwara, Y., T. Takato, and K. Hoshi, Macrophage-inducing fasl on chondrocytes forms immune privilege in cartilage tissue engineering, enhancing in vivo regeneration, Stem Cells, 32(5), 1208-1219, doi:10.1002/stem.1636,	2014								東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H26
15	Kanke, K., H. Masaki, H. Saijo, Y. Komiyama, H. Hojo, H. Nakauchi, A.C. Lichtler, T. Takato, U.I. Chung, and S. Ohba, Stepwise differentiation of pluripotent stem cells into osteoblasts using four small molecules under serum-free and feeder-free conditions, Stem Cell Reports, 2(6), 751-760, doi.org/10.1016/j.stemcr.04.016,	2014								東京大学 University of Connecticut Health Center	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H26
16	Kitaura, Y., H. Hojo, Y. Komiyama, T. Takato, U.I. Chung, and S. Ohba, Gli1 haploinsufficiency leads to decreased bone mass with an uncoupling of bone metabolism in adult mice, PLoS One, 9(10), e109597, DOI: 10.1371/journal.pone.0109597,	2014								東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H26
17	Harano, K., Okada, S., Furukawa, S., Tanaka, H., Nakamura, E., Formation of a Polycrystalline Film of Donor Material on PEDOT:PSS Buffer Induced by Crystal Nucleation, J. Polym. Sci. Part B: Polym. Phys., 52, 833-841 .	2014								東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H26
18	Ilies, L., Yoshida, Y., Nakamura, E., Synthesis of Polysubstituted Enynes via Iron-Catalyzed Carbomagnesiation of Conjugated Diynes, Synlett, 25, 527-530 .	2014								東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H26
19	Asako, S., Norinder, J., Ilies, L., Yoshikai, N., Nakamura, E., ortho-Allylation of 1-Arylpyrazoles with Allyl Phenyl Ether via Iron-Catalyzed C-H Bond Activation under Mild Conditions, Adv. Synth. Catal. , 356, 1481-1485 .	2014								東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H26
20	Ilies, L., Matsubara, T., Ichikawa, Asako, S., Nakamura, E., Iron-Catalyzed Directed Alkylation of Aromatic and Olefinic Carboxamides with Primary and Secondary Alkyl Tosylates, Mesylates, and Halides, J. Am. Chem. Soc., 136, 13126-13129 .	2014								東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H26
21	Shang, R., Ilies, L., Asako, S., Nakamura, E., Iron-catalyzed C(sp ²)-H Bond Functionalization with Organoboron Compounds, J. Am. Chem. Soc., 136, 14349-14352 .	2014								東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H26
22	K. Ito; K. Sakai; Y. Suzuki; N. Ozawa; T. Hatta; T. Natsume; K. Matsumoto; H. Suga "Artificial human Met agonists based on macrocycle scaffolds" Nature Communications, 6, 6373	2015								東京大学	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新【30】重症薬疹治療薬の開発	H26
23	T. Morioka; N.D. Loik; C.J. Hipolito; Y. Goto; H. Suga "Selection-based discovery of macrocyclic peptides for the next generation therapeutics" Current Opinion in Chemical Biology, 26C, 34-41	2015								東京大学	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新【30】重症薬疹治療薬の開発	H26
24	T. Passioura; H. Suga* "Reprogramming the genetic code in vitro" Trends in Biochemical Sciences 39, 400-408 .	2014								東京大学	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新【30】重症薬疹治療薬の開発	H26
25	K. Torikai; H. Suga* "Ribosomal synthesis of an amphoterin-B inspired macrocycle" Journal of the American Chemical Society 136, 17359-17361 .	2014								東京大学	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新【30】重症薬疹治療薬の開発	H26
26	N.K. Bashiruddin; H. Suga "Construction and screening of vast libraries of natural product-like macrocyclic peptides using in vitro display technologies" Current Opinion in Chemical Biology 24C, 131-138 .	2014								東京大学	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新【30】重症薬疹治療薬の開発	H26
27	R. Sakamoto, K. Hoshiko, Q. Liu, T. Yagi, T. Nagayama, S. Kusaka, M. Tsuchiya, Y. Kitagawa, W.-Y. Wong, and H. Nishihara, A photofunctional bottom-up bis(dipyrinato)zinc(II) complex nanosheet, Nature Commun. 2015, 6, 6713, doi:10.1038/ncomms7713	2015								東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発、【36】軟X線顕微鏡による細胞画像測定、【36】超高速分光細胞識別技術	H26

28	北森武彦, 馬渡和真, 嘉副裕. 流体流路の階層サイズ構造とバイオデバイスへの応用. 応用物理, 84, 882-888, 2015.		2015							東京大学	研究開発テーマ	H27
29	Hisashi Shimizu, Mariko Kumagai, Emi Mori, Kazuma Mawatari, Takehiko Kitamori, Whole blood immunoassay using microfluidic plasma separation and integrated ELISA device, Proc. MicroTAS, 820-822, 2015.		2015							東京大学	研究開発テーマ	H27
30	Tatsuro Nakao, Kazuma Mawatari, Hisashi Shimizu, Takehiko Kitamori, Efficient and rapid capture of DNA utilizing 10-1000 nm scale channel with DNA patterning, Proc. MicroTAS, 858-860, 2015.		2015							東京大学	研究開発テーマ	H27
31	Ryoichi Ohta, Kazuma Mawatari, Kentaro Shirai, Hisashi Shimizu, Takehiko Kitamori, Single-molecule immunoassay by developing extended nano fluidic ELISA device, Proc. MicroTAS, 933-935, 2015		2015							東京大学	研究開発テーマ	H27
32	Koji Nagahashi, Yuji Teramura, Madoka Takai, Stable surface coating of silicone elastomer with phosphorylcholineand organosilane copolymer with cross-linking for repelling proteins, Colloids and Surfaces B: Biointerfaces 134, 384-391		2015							東京大学	研究開発テーマ	H27
33	高井 まどか、医用デバイスに用いる生体親和性材料の創成と評価、日本材料科学会誌 vol.52 No.1、14-17(2015)		2015							東京大学	研究開発テーマ	H27
34	高井まどか、マイクロ生化学チップの表面修飾・改質技術、クリーンテクノロジー、日本工業出版、38-42、2015年12月号		2015/12/1							東京大学	研究開発テーマ	H27
35	Y. Ogasawara, M. Hibino, H. Kobayashi, T. Kudo, D. Asakura, Y. Nanba, E. Hosono, N. Nagamura, Y. Kitada, I. Honma, M. Oshima, S. Okuoka, H. Ono, K. Yonehara, Y. Sumida, and N. Mizuno, Charge/discharge mechanism of a new Co-doped Li2O cathode material for a rechargeable sealed lithium-peroxide battery analyzed by X-ray absorption spectroscopy. Journal of. Power Sources, 287, 220-225		2015							東京大学、(株)日本触媒	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H27
36	H. Kobayashi, M. Hibino, Y. Ogasawara, K. Yamaguchi, T. Kudo, S. Okuoka, K. Yonehara, H. Ono, Y. Sumida, M. Oshima, and N. Mizuno, Improved Performance of Co-doped Li2O Cathodes for Lithium-peroxide Batteries using LiCoO2 as a Dopant Sourcey. Journal of. Power Sources, 306 567-572 (2016)		2016							東京大学、(株)日本触媒	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H27
37	Kawase-Koga, Y., Y. Mori, Y. Kanno, K. Hoshi, T. Takato, Short lingual osteotomy using a piezosurgery ultrasonic bone-cutting device during sagittal split ramus osteotomy. J. Craniofac. Surg. 26(7), e567-568, doi:10.1097/SCS.0000000000001590, 2015 Oct.	10.1097/SCS.0000000000001590	2015/10/1							東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H27
38	Hoshi, K., [Bone cell biology assessed by microscopic approach. Regenerative medicine of cartilage]. Clin. Calcium, 25(10), 1499-1504, , 2015 Oct. Japanese	CliCa151014991504	2015/10/1							東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H27
39	Saito, T., F. Yano, D. Mori, M. Kawata, K. Hoshi, T. Takato, H. Masaki, M. Otsu, K. Eto, H. Nakauchi, U.I. Chung, S. Tanaka, Hyaline cartilage formation and tumorigenesis of implanted tissue derived from human induced pluripotent stem cells, Biomed. Res. 36(3), 179-186, 2015	10.2220/biomedres.36/179.	2015							東京大学	【20】多能性幹細胞の次世代がん治療への応用法の開発【20】がん幹細胞を標的とした早期診断、治療、再発モニタリング手法の確立	H27
40	Arai S, Miyauchi M, Kurokawa M. Modeling of hematologic malignancies by iPS technology. Exp Hematol. 43:654-660, 2015.	10.1016/j.exphem.2015.06.006	2015							東京大学	【20】多能性幹細胞の次世代がん治療への応用法の開発【20】がん幹細胞を標的とした早期診断、治療、再発モニタリング手法の確立	H27
41	Iizuka H, Kagoya Y, Kataoka K, Yoshimi A, Miyauchi M, Taoka K, Kumano K, Yamamoto T, Hotta A, Arai S, Kurokawa M. Targeted gene correction of RUNX1 in induced pluripotent stem cells derived from familial platelet disorder with propensity to myeloid malignancy restores normal megakaryopoiesis. Exp Hematol. 43:849-857, 2015.	10.1016/j.exphem.2015.05.004	2015							東京大学、CREST/JST、広島大学、京都大学	【20】多能性幹細胞の次世代がん治療への応用法の開発【20】がん幹細胞を標的とした早期診断、治療、再発モニタリング手法の確立	H27
42	Wang, J., Kobayashi, E., and Sakuma, I., "Coarse-to-fine dot array marker detection with accurate edgelocalization for stereo visual tracking", Biomedical Signal Processing and Control , Vol. 15, No. 0, pp. 49 - 59		2015							東京大学	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合による Image-Guided Treatment (IGT)の実現	H27
43	R. M. Gorgoll, E. Yücelen, A. Kumamoto, N. Shibata, K. Harano, E. Nakamura, "Electron Microscopic Observation of Selective Excitation of Conformational Change of a Single Organic Molecule", J. Am. Chem. Soc., 137, 3474-3477 .		2015							東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H27

44	L. Ilies, S. Ichikawa, S. Asako, T. Matsubara, E. Nakamura, "Iron-Catalyzed Directed Alkylation of Alkenes and Arenes with Alkylzinc Halides", Adv. Synth. Catal., 357, 2175-2179 . (Very Important Publication, invited contribution to the special issue dedicated to Stephen L. Buchwald)		2015								東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H27
45	R. M. Gorgoll, T. Tsubota, K. Harano, E. Nakamura, "Cooperative Self-Assembly of Gold Nanoparticles on the Hydrophobic Surface of Vesicles in Water", J. Am. Chem. Soc., 137, 7568-7571 .		2015								東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H27
46	R. Shang, L. Ilies, E. Nakamura, "Iron-Catalyzed Directed C(sp ²)-H and C(sp ³)-H Functionalization with Trimethylaluminum", J. Am. Chem. Soc., 137, 7660-7663 . (Chosen as Synfact of the Month)		2015								東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H27
47	T. Matsubara, L. Ilies, and E. Nakamura, "Oxidative C-H Activation Approach to Pyridone and Isoquinolone via Iron-Catalyzed Coupling of Amide with Alkyne", Chem. Asian. J., 11 380-384 (2016). (invited contribution to "Catalysis and Transformation of Complex Molecules" special issue)		2016								東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H27
48	Multistep Continuous Flow Synthesis of (R)- and (S)- Rolipram Using Heterogeneous Catalysts, T. Tsubogo, H. Oyamada, S. Kobayashi, Nature, 520, 329-332 .		2015									Nature 2015年4月16日掲載	H27
49	K. Takada, R. Sakamoto, S.-T. Yi, S. Katagiri, T. Kambe, and H. Nishihara, An Electrochromic Bis(terpyridine)/metal Complex Nanosheet, J. Am. Chem. Soc. 2015, 137, 6448, doi: 10.1021/ja510788b		2015								東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発、【36】軟X線顕微鏡による細胞画像測定、【36】超高速分光細胞識別技術	H27
50	Hisashi Kurasawa, Katsuyoshi Hayashi, Akinori Fujino, Koichi Takasugi, Tsuneyuki Haga, Kayo Waki, Takashi Noguchi, and Kazuhiko Ohe. Machine-Learning-Based Prediction of a Missed Scheduled Clinical Appointment by Patients With Diabetes. J Diabetes Sci Technol, first published on November 10, 2015.	10.1177/1932296815614866	2015								東京大学、日本電信電話(株)	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H27
51	Nukina A, Kagoya Y, Watanabe-Okochi N, Arai S, Ueda K, Yoshimi A, Nannya Y, Kurokawa M. Single-cell gene expression analysis reveals clonal architecture of blast-phase chronic myeloid leukaemia. Br J Haematol. ;165:414-6.	10.1111/bjh.12726	2014								東京大学	研究開発テーマ	H27
52	Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kanjia D, Mayakonda A, Yoshida K, Haridas Keloth S, Zang ZJ, Okuno Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ding LW, Alpermann T, Sun QY, Lin DC, Chien W, Madan V, Liu LZ, Tan KT, Sampath A, Venkatesan S, Inokuchi K, Wakita S, Yamaguchi H, Chng WJ, Kham SK, Yeoh AE, Sanada M, Schiller J, Kreuzer KA, Kornblau SM, Kantarjian HM, Haeflrich T, Lili M, Kuo MC, Shih LY, Blau IW, Blau OY, Hsu H, Garg M, Nagata Y, Kan												

58	Nakata A, Yoshida R, Yamaguchi R, Yamauchi M, Tamada Y, Fujita A, Shimamura T, Imoto S, Higuchi T, Nomura M, Kimura T, Nokiara H, Higashiyama M, Kondoh K, Nishihara H, Tojo A, Yano S, Miyano S, Gotoh N. Elevated β -catenin pathway as a novel target for patients with resistance to EGF receptor targeting drugs. Sci Rep. 5:13076, 2015.			2015									東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H27
59	Park H, Niida A, Miyano S, Imoto S. Sparse overlapping group lasso for integrative multi-omics analysis. J Comput Biol. 22(2):73-84, 2015.			2015									東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H27
60	神里彩子, 岩江荘介, 飯島祥彦, 會澤久仁子, 鈴木美香, 武藤香織. 「研究倫理支援」に関する実態調査—現状把握と概念整理に向けて」生命倫理. 2015; 26/25(1):12332.			2015									東京大学	研究開発テーマ	H27
61	Stress Evaluation by Voice: From Prevention to Treatment in Mental Health Care, S Tokuno, ESMSJ (Econophysics, Sociophysics & other Multidisciplinary Sciences Journal) 5 (1) 2015; 30-35			2015									東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
62	NK. Bashiruddin; M. Nagano; H. Suga*. "Synthesis of fused tricyclic peptides using a reprogrammed translation system and chemical modification", Bioorganic chemistry, 61, 45-50			2015									東京大学大学院理学系研究科	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新【30】重症薬疹治療薬の開発	H27
63	N. Terasaka; Y. Iwane; A.S. Geiermann; Y. Goto; H. Suga*. "Recent developments of engineered translational machineries for the incorporation of non-canonical amino acids into polypeptides", International Journal of Molecular Sciences, 16, 6513-6531			2015									東京大学大学院理学系研究科	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新【30】重症薬疹治療薬の開発	H27
64	S.A.K. Jongkees; C.J. Hipolito; J.M. Rogers; H. Suga*. "Model foldamers: applications and structures of stable macrocyclic peptides identified using in vitro selection" New Journal of Chemistry, 39, 3197			2015									東京大学大学院理学系研究科	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新【30】重症薬疹治療薬の開発	H27
65	K. Ito; K. Sakai; Y. Suzuki; N. Ozawa; T. Hatta; T. Natsume; K. Matsumoto; H. Suga*. "Artificial human Met agonists based on macrocycle scaffolds" Nature Communications, 6, 6373			2015									東京大学大学院理学系研究科	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新【30】重症薬疹治療薬の開発	H27
66	T. Morioka; N.D. Loik; C.J. Hipolito; Y. Goto; H. Suga*. "Selection-based discovery of macrocyclic peptides for the next generation therapeutics" Current Opinion in Chemical Biology, 26, 34-41 (June 2015)			2015/6/1									東京大学大学院理学系研究科	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新【30】重症薬疹治療薬の開発	H27
67	Validity of a voice-based evaluation method for effectiveness of behavioural therapy	Shinohara S, Mitsuoyoshi S, Nakamura M, Omiya Y, Tsumatori G, Tokuno S	Pervasive Computing Paradigms for Mental Health		2015/12			45	51		有		東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
68	Correlation between self-administered psychological test and emotion measured by voice analysis	Nakamura M, Shinohara S, Omiya Y, Mitsuoyoshi S, Takagi H, Ushiwatari A, Tokuno S	International Conference on Information Science and Management Engineering1 (ICISME2015)		2015/12			290	294		有		東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
69	Stress Evaluation by Voice: From Prevention to Treatment in Mental Health Care	Tokuno S	ESMSJ (Econophysics, Sociophysics & other Multidisciplinary Sciences Journal)		2015/10	5	1	30	35		無		東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
70	Development of Verbal Analysis Pathophysiology	Mitsuoyoshi S	ESMSJ (Econophysics, Sociophysics & other Multidisciplinary Sciences Journal)		2015/10	5	1	11	16		無		東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27

71	Yabunaka K, Nakagami G, Komagata K, Sanada H. Ultrasonographic follow-up of functional chronic constipation in adults: A report of two cases. SAGE Open Medical Case Reports. 5: 1-4. 2017. DOI: 10.1177/2050313X17694234.	2017						有り		東京大学	【18】超音波CTによる 検診技術の開発/組 織内脂肪推定法の開 発	H28
72	数中幸一, 四谷淳子, 仲上豪二郎, 真田弘美. 膀胱内容量測定における携帯型超音波診断装置の有用性—超音波診断装置および3次元超音波装置との比較—. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌. 20: 420-425. 2016.	2016						有り		東京大学	【18】超音波CTによる 検診技術の開発/組 織内脂肪推定法の開 発	H28
73	Pocock, K. J., Gao, X., Wang, C., Priest, C., Prestidge, C. A., Mawatari, K., Kitamori, T. and Thierry, B., Low-temperature bonding process for the fabrication of hybrid glass-membrane organ-on-a-chip devices, Journal of Micro/Nanolithography, MEMS, and MOEMS, 15, 044502, , 2016.	2016	10.1117/1.JMM.15.4.044502					有り		東京大学	【19】統合した携帯型 分析システムの開発	H28
74	Shimizu, H., Kumagai, M., Mori, E., Mawatari, K., Kitamori, T., Whole blood analysis using microfluidic plasma separation and enzyme-linked immunosorbent assay devices, Analytical Methods, 42, 7597-7602, doi: , 2016	2016	10.1039/C6AY01779G					有り		東京大学	【19】統合した携帯型 分析システムの開発	H28
75	富樫盛典, 竹中啓, 内田憲孝, 入江隆史, 坂詰卓, 三宅亮, 指先からの自動採血装置の開発, 細胞. Vol.48, No.14, pp.681-684, 2016	2016						無し		日立製作所	【19】統合した携帯型 分析システムの開発	H28
76	Formation of reversed nanoscale phase-separated structures using poly (2-methacryloyloxyethyl phosphorylcholine)-based amphiphilic block copolymers, Yukari Hiraguchi, Keiichiro Kushiro, Madoka Takai, Polymer, 99, 166-172, (2 September, 2016)	2016/9/1	10.1016/j.polymer.2016.06.06					有り		東京大学	【19】統合した携帯型 分析システムの開発	H28
77	Significant Heterogeneity and Slow Dynamics of the Unfolded Ubiquitin Detected by the Line Confocal Method of Single-Molecule Fluorescence Spectroscopy, Masataka Saito, Supawich Kamonprasertsuk, Satomi Suzuki, Kei Nanatani, Hiroyuki Oikawa, Keiichiro Kushiro, Madoka Takai, Po-ting Chen, Eric H.-L. Chen, Rita P.-Y. Chen, and Satoshi Takahashi, The Journal of Physical Chemistry, 120, 8818-8829, (29 July, 2016)	2016/7/1	10.1021/acs.jpcc.6b05481					有り		東京大学	【19】統合した携帯型 分析システムの開発	H28
78	Analysis of the Changes in Expression Levels of Sialic Acid on Influenza-Virus-Infected Cells Using Lectin-Tagged Polymeric Nanoparticles, Jaebum Cho, Yukari Miyake, Ayae Honda, Keiichiro Kushiro, and Madoka Takai, Frontiers in Microbiology, Vol.7 1147 (21 July, 2016)	2016/7/1	10.3389/fmicb.2016.01147					有り		東京大学	【19】統合した携帯型 分析システムの開発	H28
79	Simultaneous characterization of protein-material and cell-protein interactions using dynamic QCM-D analysis on SAM surfaces, Keiichiro Kushiro, Chih-Hao Lee and Madoka Takai, Biomaterials Science, 4, 989-997, (29 April, 2016),	2016/4/1	10.1039/c5bm00613a					有り		東京大学	【19】統合した携帯型 分析システムの開発	H28
80	Cellular Response to Non-contacting Nanoscale Sublayer: Cells Sense Several Nanometer Mechanical Property, Tomoyuki Azuma, Yuji Teramura, and Madoka Takai, ACS Appl. Mater. Interfaces, 8, 10710-10716(11 April, 2016).	2016/4/1	10.1021/acsami.6b01213					有り		東京大学	【19】統合した携帯型 分析システムの開発	H28
81	両親媒性ブロックポリマーによるナノ相分離構造表面上でのタンパク質吸着と細胞接着挙動解析, 平口脩智里, 久代京一郎, 高井まどか, 表面科学, vol.37, No.5, 207-212 (2016)	2016						有り		東京大学	【19】統合した携帯型 分析システムの開発	H28
82	ヘルスケアを支えるバイオ計測, 第4章 技術開発 3 在宅診断用ヘルスケアチップの開発, 植田充美監修, 高井まどか シーエムシー出版, P72-78 (2016)	2016						無し		東京大学	【19】統合した携帯型 分析システムの開発	H28
83	バイオマテリアル: その基礎と先端研究への展開, 3 マテリアル生体組織との反応 3・2材料側要素 §3・2・3疎水性相互作用と静電的相互作用, 高井まどか, 岡野光夫監修, 田畑泰彦, 塩隆夫編著, 東京化学同人, P155-158 (2016)	2016						無し		東京大学	【19】統合した携帯型 分析システムの開発	H28
84	Saijp, H., M. Sugiyama, Y. Kanno, K. Ohkubo, K. Hoshi, and T. Takato, A2-stage reconstruction of the jaw using vascularized bone and secondary alveolar ridge augmentation with particulate cancellous bone and marrow, Implant Dent, 25(2), 302-306, doi:10.1097/ID.00000000000000394, 2016 Apr.	2016/4/1						有り		東京大学	【16】高機能インジェク タブルペプチドハイド ロゲルによる、口腔・ 顎顔面領域用骨・軟 骨再生デバイスの開 発	H28
85	Fujiwara, Y., N. Nitta, M. Misawa, K. Hyodo, Y. Shirasaki, K. Hayashi, R. Kosaka, K. Homma, T. Numano, S. Kuribayashi, Y. Watanabe, J. Sato, K. Ohtomo, T. Takato, K. Hoshi, T2 and apparent diffusion coefficient of MRI reflect maturation of tissue-engineered auricular cartilage subcutaneously transplanted in rats, Tissue Eng Part C Methods, 22(5) , 429-438, doi:10.1089/en.TEC.2015.0291, 2016 May.	2015/5/1						有り		東京大学	【16】高機能インジェク タブルペプチドハイド ロゲルによる、口腔・ 顎顔面領域用骨・軟 骨再生デバイスの開 発	H28
86	Hoshi, K., Y. Fujiwara, Y. Mori, Y. Asawa, S. Kanazawa, S. Nishizawa, M. Misawa, T. Numano, H. Inoue, T. Sakamoto, M. Watanabe, M. Komura, and T. Takato, Production of three-dimensional tissue-engineered cartilage through mutual fusion of chondrocyte pellets, Int J Oral Maxillofac Surg, 45(9), 1177-1185, doi:org/10.1016/j.ijom.2016.03.002, 2016 Sep.	2016/9/1						有り		東京大学	【16】高機能インジェク タブルペプチドハイド ロゲルによる、口腔・ 顎顔面領域用骨・軟 骨再生デバイスの開 発	H28

87	Suenaga, H., A. Taniguchi, K. Yonenaga, K. Hoshi, and T. Takato. Computer-assisted preoperative simulation for positioning and fixation of plate in 2-stage procedure combining maxillary advancement by distraction technique and mandibular setback surgery. <i>Int J Surg Case Rep.</i> 28, 246–250, doi:10.1016/j.ijscr.2016.10.004, 2016 Oct.		2016/10/1						有り		東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H28
88	Saijo, H., Y. Fujihara, Y. Kannno, K. Hoshi, A. Hikita, U-I Chung, and T. Takato, Clinical experience of fullcustom-made artificial bones for the maxillofacial region, <i>Regenerative Therapy</i> , 5, 72–78, doi: doi.org/10.1016/j.reth.2016.05.002, 2016 Dec		2016/12/1						有り		東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H28
89	Kanazawa, S., S. Nishizawa, T. Takato, and K. Hoshi, Biological roles of glial fibrillary acidic protein as a biomarker in cartilage regenerative medicine, <i>J Cell Physiol.</i>	10.1002/jcp.25771	2017/3/1						有り		東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H28
90	R. Shang, L. Ilies, E. Nakamura, Iron-catalyzed ortho C-H Methylation of Aromatics Bearing a Simple Carbonyl Group with Methylaluminum and Tridentate Phosphine Ligand, <i>J. Am. Chem. Soc.</i> , 138, 10132–10135 (2016). DOI: 10.1021/jacs.6b06908.		2016						有り		東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H28
91	L. Ilies, Y. Itabashi, R. Shang, E. Nakamura, Iron/Zinc-Cocatalyzed Directed Arylation and Alkenylation of C(sp ³)-H Bonds with Organoborates, <i>ACS Catal.</i> , 7, 89–92 (2017). DOI: 10.1021/acscatal.6b02927.		2017						有り		東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H28
92	L. Ilies, M. Isomura, S. Yamauchi, T. Nakamura, E. Nakamura, Indole Synthesis via Cyclative Formation of 2,3-Dizincindoles and Regioselective Electrophilic Trapping, <i>J. Am. Chem. Soc.</i> , 139, 23–26 (2017). DOI: 10.1021/jacs.6b10061.		2017						有り		東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H28
93	The coordination nanosheet (CONASH), Ryota Sakamoto, Kenji Takada, Xinsen Sun, Tigmansu Pal, Takamasa Tsukamoto, Eunice Jia Han Phua, Amalia Rapakousiou, Ken Hoshiko, Hiroshi Nishihara, <i>Coord. Chem. Rev.</i> 2016, 320–321, 118–128.		2016						有り		東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
94	Photofunctionality in Porphyrin-Hybridized Bis(dipyrinato)zinc(II) Complex Micro- and Nanosheets, " Ryota Sakamoto, Toshiki Yagi, Ken Hoshiko, Shinpei Kusaka, Ryota Matsuoka, Hiroaki Maeda, Zheng Liu, Qian Liu, Wai-Yeung Wong, Hiroshi Nishihara, <i>Angew. Chem. Int. Ed.</i> 2017	10.1002/anie.201611785.	2017/2/1						有り		東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
95	Interfacial synthesis of electrofunctional coordination nanowires and nanosheets of bis(terpyridine) complexes," Hiroaki Maeda, Ryota Sakamoto, Hiroshi Nishihara, <i>Coord. Chem. Rev.</i> 2017.	10.1016/j.cccr.2017.02.013	2017/2/1						有り		東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
96	Coordination Nanosheets Based on Terpyridine-Zinc(II) Complexes: As Photoactive Host Materials, Takamasa Tsukamoto, Kenji Takada, Ryota Sakamoto, Ryota Matsuoka, Ryojun Toyoda, Hiroaki Maeda, Toshiki Yagi, Michihiro Nishikawa, Naoaki Shinjo, Shuntaro Amano, Tadashi Iokawa, Narutaka Ishibashi, Tsugumi Oji, Koshiro Kanayama, Rina Kinugawa, Yoichiro Koda, Toshiyuki Komura, Shuhei Nakajima, Ryota Fukuyama, Nobuyuki Fuse, Makoto Mizui, Masashi Miyasaki, Yutaro Yamashita, Kuni Yamada, Wenxuan Zhang, Ruocheng Han, Wenyu Liu, Taro Tsubomura, Hiroshi Nishihara	10.1021/jacs.6b12810	2017/3/1						有り		東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
97	医療情報データベースの基盤整備, 大江和彦, 情報管理. 2016, vol. 59, no. 5, p. 277–283.		2016						無し		東京大学	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	H28
98	Kurasawa H, Hayashi K, Fujino A, Takasugi K, Haga T, Waki K, Noguchi T, Ohe K. <i>J Diabetes Sci Technol.</i> 2016 May 3;10(3):730–6		2016/5/1						有り		東京大学、日本電信電話株式会社	【21】電子カルデに含まれる医療データ分析	H28
99	Voice disability index using pitch rate	Shinohara S, Nakamura M, Mitsuyoshi S, Tokuno S, Omiya Y, Hagiwara N	Biomedical Engineering and Sciences (IECBES), 2016 IEEE EMBS Conference on, IEEE	2016/12		557		560	有		東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
100	Validity of the Mind Monitoring System as a Mental Health Indicator	Hagiwara N, Omiya Y, Shinohara S, Nakamura M, Yasunaga H, Mitsuyoshi S, Tokuno S	16th International Conference on Bioinformatics and BioEngineering (IEEE BIBE2016)	2016/10		262		265				【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
101	音声感情認識STと音声病態分析技術 PST	光吉俊二	心と社会	2016/9	47	3	10	15	無		東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28

102	音声病態分析技術の医学的検証	徳野慎一	心と社会		2016/9	47	3	22	25	無		東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
103	スマートフォンを用いた音声による健康状態のモニタリングシステム(MIMOSYS)の開発	大宮康宏	心と社会		2016/9	47	3	16	21	無		PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
104	医療と人工知能の未来	光吉俊二	心と社会		2016/9	47	3	70	75	無		東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
105	心を持った機械	光吉俊二	建築雑誌		2016/4	116	6	18	19	無		東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
106	Ono S, Ono Y, Matsui H, Yasunaga H. Factors associated with hospitalization for seasonal influenza in a Japanese nonelderly cohort. BMC Public Health 2016;16:922.				2016					有り		東京大学	【7】予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	H28
107	Ono S, Ono Y, Matsui H, Yasunaga H. Impact of clinic follow-up visits on body weight control in people with prediabetes or diabetes mellitus: Japanese nonelderly cohort study. Family Practice 2017 doi: 10.1093/fampra/cmx016. [Epub ahead of print]				2017					有り		東京大学	【7】予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	H28
108	Emi Mori, Toshinori Oohashi, Hisashi Imai, Kazuma Mawatari, and Takehiko Kitamori, "Sensitive and rapid assay of BNP in patient blood by micro-ELISA", Analytical method, 92830-2834(2017)			10.1039/C7AY00479F	2017						国際	The University of Tokyo	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H29
109	Emi Mori, Takemichi Fukazawa, Ayumi Yoshizaki, Kazuma Mawatari, and Takehiko Kitamori, "DEVELOPMENT OF NEW ANALYSIS METHOD BASED ON MICROFLUIDIC ELISA", FOR DETECTION OF LOW-ABUNDANT PROTEIN", Proceedings of MicroTAS 2017, 1281-1282 (2017)				2017						国際	The University of Tokyo, The University of Tokyo Hospital	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H29
110	Carlton Fune Ogasawara Hoy, Keiichiro Kushiro and Madoka Takai, Fabrication and Comparative Assessment of Electrospun Polymeric Microfiber-based Platform under Bulk Flow Conditions with Rapid and Efficient Antigen Capture, Analyst, 143, 865-873, 2018			10.1039/C7AN01366C	2018						国際	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H29
111	Kazumichi Yonenaga, Satoru Nishizawa, Takumi Nakagawa Yuko Fujiyama, Yukiyo Asawa, Atsuhiko Hikita, Tsuyoshi Takato and Kazuto Hoshi, "Protocol for collagenase digestion of articular and auricular cartilage", Regenerative Therapy, vol. 6, pp.9-14, 2017			org/10.1016/j.reti.2016.08.001	2017						国際	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H29
112	Makiko Ishibashi, Atsuhiko Hikita, Yuko Fujiyama, Tsuyoshi Takato and Kazuto Hoshi, "Human auricular chondrocytes with high proliferation rate show high production of cartilage matrix", Regenerative Therapy, vol. 6, pp.21-28, 2017			org/10.1016/j.reth.2016.11.001	2017						国際	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H29
113	Makoto Komura, Hiroko Komura, Hiroaki Komuro, Kenichi Ikebukuro, Atsuhiko Hikita, Kazuto Hoshi and Tsuyoshi Takato, "Tracheal cartilage growth by intratracheal injection of basic fibroblast growth factor", Journal of Pediatr Surg, vol. 52, pp. 235-238, 2017			org/10.1016/j.jpedsurg.2016.11.011	2017						国際	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H29
114	Kazuto Hoshi, Yuko Fujiyama, Hideto Saijo, Yukiyo Asawa, Satoru Nishizawa, Sakura Uto, Ryoko Inaki, Mariko Matsuyama, Tomoaki Sakamoto, Makoto Watanabe, Madoka Sugiyama, Kazumichi Yonenaga, Atsuhiko Hikita and Tsuyoshi Takato, "Implant-type tissue-engineered cartilage for secondary correction of cleft lip-nose patients: an exploratory first-in-human trial" Journal of Clinical Trials, vol. 7, No. 3, pp.1000315, 2017			10.4172/2167-0870.1000315	2017						国際	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H29
115	Sanshiro Kanazawa, Satoru Nishizawa, Tsuyoshi Takato and Kazuto Hoshi, "Biological roles of glial fibrillary acidic protein as a biomarker in cartilage regenerative medicine", Journal of Cell Physiology, vol. 232, No. 11, pp. 3182-3193, 2017			10.1002/jcp.25771 . Epub. 2017 Jun 1.	2017						国際	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H29

116	Mikako Harata, Makoto Watanabe, Satoru Nagata, Edward Chan Ko, Shinsuke Ohba, Tsuyoshi Takato, Atsuhiko Hikita and Kazuto Hoshi, "Improving chondrocyte harvests with poly (2-hydroxyethyl methacrylate) coated materials in the preparation for cartilage tissue engineering", Regenerative Therapy, vol. 7, pp. 61-67, 2017	org/10.1016/j.ireth.2017.08.002	2017							国際	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H29
117	Kazuto Hoshi, Yuko Fujiwara, Hideto Saijo, Kumiko Kurabayashi, Hideyuki Suenaga, Yukiyo Asawa, Satoru Nishizawa, Sanshiro Kanazawa, Sakura Uto, Ryoko Inaki, Mariko Matsuyama, Tomoaki Sakamoto, Makoto Watanabe, Madoka Sugiyama, Kazumichi Yonenaga, Atsuhiko Hikita and Tsuyoshi Takato, "Three-dimensional changes of noses after transplantation of implant-type tissue-engineered cartilage for secondary correction of cleft lip-nose patients", Regenerative Therapy, vol. 7, pp. 72-79, 2017	org/10.1016/j.ireth.2017.09.001	2017							国際	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H29
118	Yuko Fujiwara, Atsuhiko Hikita, Tsuyoshi Takato and Kazuto Hoshi, "Roles of macrophage migration inhibitory factor in cartilage tissue engineering", Journal of Cell Physiology, vol. 233, No. 2, pp. 1490-1499, 2018	10.1002/jcp.26036 . Epub. 2017 Jul 4.	2018							国際	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H29
119	Bingwei Zhou, Hiroki Sato, Laurean Ilies, and Eiichi Nakamura, "Iron-Catalyzed Remote Arylation of Aliphatic C-H Bond via 1,5-Hydrogen Shift", ACS Catal., vol.8, No.1, pp.8-11, 2018	10.1021/acscatal.7b03458	2018							国際	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
120	Takenari Sato, Takumi Yoshida, Hamad H. Al Mamari, Laurean Ilies, and Eiichi Nakamura, "Manganese-Catalyzed Directed Methylation of C(sp ²)-H Bonds at 25 °C with High Catalytic Turnover", Org. Lett., vol.19, No.19, pp.5458-5461, 2017	10.1021/acs.orglett.7b02778	2017							国際	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
121	Takumi Yoshida, Laurean Ilies, and Eiichi Nakamura, "Iron-catalyzed Borylation of Aryl Chlorides in the Presence of Potassium t-Butoxide", ACS Catal., vol.7, No.5, pp.3199-3203, 2017	10.1021/acscatal.7b00310	2017							国際	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
122	Hisashi Kurasawa, Akinori Fujino, and Katsuyoshi Hayashi "Predicting Patients' Treatment Behavior by Medical Data Analysis Using Machine Learning Technique" NTT Technical Reviews 15(8) 2017年8月		2017/8/1							国際	NTT	【21】電子カルテに含まれる医療データ分析	H29
123	倉沢 央, 藤野 昭典, 林 勝義 機械学習を用いた糖尿病患者の治療行動予測 機械学習を用いた糖尿病患者の治療行動予測 NTT技術ジャーナル 29(6) 32-36 2017年6月		2017/6/1							国内	NTT	【21】電子カルテに含まれる医療データ分析	H29
124	Kobayashi M, Yokoyama K, Shimizu E, Yusa N, Ito M, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, and Tojo A, "Phenotype-Based Gene Analysis Allowed Successful Diagnosis of X-Linked Neutropenia Associated with a Novel Wasp Mutation," Ann Hematol 2018;97(2): 367-69.	10.1007/s00277-017-3134-3 .	2018							国際	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
125	Ogawa M, Yokoyama K, Hirano M, Jimbo K, Ochi K, Kawamata T, Ohno N, Shimizu E, Yokoyama N, Yamaguchi R, Imoto S, Uchimar K, Takahashi N, Miyano S, Imai Y, and Tojo A. "Different Clonal Dynamics of Chronic Myeloid Leukaemia between Bone Marrow and the Central Nervous System." Br J Haematol 2017.	10.1111/bjh.15065.	2017							国際	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
126	神保光児、横山和明、小川弥穂、平野光人、越智清純、小林真之、遊佐 希、清水英悟、川俣豊隆、大野伸広、山口 類、井元清哉、古川洋一、宮野 悟、今井陽一、東條有伸、自家末梢血幹細胞移植が奏効したK-RAS/N-RAS変異陽性double-refractory myeloma. 臨床血液58(12):2380-5, 2017	10.11406/rinketsu.58.2380.	2017							国内	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
127	Takahashi H, Okayama N, Yamaguchi N, Miyahara Y, Morishima Y, Suehiro Y, Yamasaki T, Tamada K, Takahashi S, Tojo A, Asano S, Tanabe T. Associations of interactions between NLRP3 SNPs and HLA mismatch with acute and extensive chronic graft-versus-host diseases. Sci Rep. Oct 12;7(1):13097, 2017	10.1038/s41598-017-13506-w.	2017							国際	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
128	Ohsugi T, *Yamaguchi K, Zhu C, Ikenoue T, Furukawa Y. Decreased expression of Interferon-induced protein 2 (IFIT2) by Wnt/ β -catenin signaling confers anti-apoptotic properties to colorectal cancer cells. Oncotarget 8(59):100176-100186, 2017.	doi: 10.18632	2017							国際	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
129	Sato R, Shibata T, Tanaka Yu, Keto C, Yamaguchi K, Furukawa Y, Shimizu E, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, *Miyake K. Requirement of glycosylation machinery in Toll-like receptor responses revealed by CRISPR/Cas9 screening. Int Immunol. 29(8):347-355, 2017.	doi: 10.1093	2017							国際	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29

130	Noguchi R, Yamaguchi K, Ikenoue T, Terakado Y, Ohta Y, Yamashita N, Kainuma O, Yokoi S, Maru Y, Nagase H, Furukawa Y. Genetic alterations in Japanese extrahepatic biliary tract cancer. <i>Oncol Lett.</i> 14:877–884, 2017.	doi: 10.3892	2017							国際	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
131	Zhu C, *Yamaguchi K, Osugi T, Terakado Y, Noguchi R, Ikenoue T, Furukawa Y. Identification of FERM domain-containing protein 5 (FRMD5) as a novel target of β -catenin/TCF7L2 complex. <i>Cancer Sci.</i> 108(4): 612–619, 2017.	doi: 10.1111	2017							国際	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
132	Kato I, Nishinaka Y, Nakamura M, Akarca AU, Niwa A, Ozawa H, Yoshida K, Mori M, Wang D, Morita M, Ueno H, Shiozawa Y, Shiraishi Y, Miyano S, Gupta R, Umeda K, Watanabe K, Koh K, Adachi S, Heike T, Saito MK, Sanada M, Ogawa S, Marafioti T, Watanabe A, Nakahata T, Enver T. Hypoxic adaptation of leukemic cells infiltrating the CNS affords a therapeutic strategy targeting VEGFA. <i>Blood.</i> 129(23):3126–3129, 2017.	10.1182/blood-2016-06-721712.	2017							国際	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
133	Makishima H, Yoshizato T, Yoshida K, Sekeres MA, Radvovitch T, Suzuki H, Przychodzen B, Nagata Y, Megendorfer M, Sanada M, Okuno Y, Hirsch C, Kuzmanovic T, Sato Y, Sato-Otsubo A, LaFramboise T, Hosono N, Shiraishi Y, Chiba K, Haferlach C, Kern W, Tanaka H, Shiozawa Y, Gómez-Seguí I, Husseinazadeh HD, Thota S, Guinta KM, Dienes B, Nakamaki T, Miyawaki S, Sauntharajah Y, Chiba S, Miyano S, Shih LY, Haferlach T, Ogawa S, Maciejewski JP. Dynamics of clonal evolution in myelodysplastic syndromes. <i>Nature Genetics.</i> 49(2):204–212, 2017.	10.1038/ng.3742.	2017							国際	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
134	Moriyama T, Shiraishi Y, Chiba K, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S. OVarCall: Bayesian mutation calling method utilizing overlapping paired-end reads. <i>IEEE Trans Nanobioscience.</i> 16(2): 116–122, 2017.	doi: 10.1109/TNB.2017.2670601.	2017							国際	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
135	Park H, Niida A, Imoto S, Miyano S. Interaction-Based Feature Selection for Uncovering Cancer Driver Genes Through Copy Number-Driven Expression Level. <i>J Comput Biol.</i> 24(2):138–152, 2017.	doi: 10.1089/cmb.2016.0140.	2017							国際	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
136	Seki M, Kimura S, Isobe T, Yoshida K, Ueno H, Nakajima-Takagi Y, Wang C, Lin L, Kon A, Suzuki H, Shiozawa Y, Kataoka K, Fujii Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Shimamura T, Masuda K, Kawamoto H, Ohki K, Kato M, Arakawa Y, Koh K, Hanada R, Moritake H, Akiyama M, Kobayashi R, Deguchi T, Hashii Y, Imamura T, Sato A, Kiyokawa N, Oka A, Hayashi Y, Takagi M, Manabe A, Ohara A, Horibe K, Sanada M, Iwama A, Mano H, Miyano S, Ogawa S, Takita J. Recurrent SPI1 (PU.1) fusions in high-risk pediatric T cell acute lymphoblastic leukemia. <i>Nature Genetics.</i> 2017 Aug;49(8):1274–1281.	doi: 10.1038/ng.3900.	2017/8/1							国際	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
137	Tanikawa C, Zhang YZ, Yamamoto R, Tsuda Y, Tanaka M, Funauchi Y, Mori J, Imoto S, Yamaguchi R, Nakamura Y, Miyano S, Nakagawa H, Matsuda K. The Transcriptional Landscape of p53 Signalling Pathway. <i>EBioMedicine.</i> 20:109–119, 2017.	doi: 10.1016/j.ebiom.2017.05.017.	2017							国際	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
138	Case Studies of Utilization of the Mind Monitoring System (MIMOSYS) Using Voice and Its Future Prospects	Shinohara S, Omiya Y, Hagiwara N, Nakamura M, Higuchi M, Kirita T, Takano T, Mitsuoyoshi S, Tokuno S	ESMSJ (Econophysics, Sociophysics & other Multidisciplinary Sciences Journal)							無	東京大学、PST株式会社	[6]音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
139	Measurement of Stress Level to Prevent Post-Traumatic Stress Disorder Developed by Identifying Dead Bodies	Higuchi M, Yamamoto I, Omiya Y, Shinohara S, Nakamura M, Hagiwara H, Takano T, Mitsuoyoshi S, Tokuno S	ESMSJ (Econophysics, Sociophysics & other Multidisciplinary Sciences Journal)							無	東京大学、PST株式会社	[6]音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
140	Difference in Voice Analysis Result by Pre and Post Processing of Telephone Line	Hagiwara N, Omiya Y, Shinohara S, Nakamura M, Higuchi M, Mitsuoyoshi S, Tokuno S	Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc.							有	東京大学、PST株式会社	[6]音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
141	Multilingual evaluation of voice disability index using pitch rate	Shinohara S, Omiya Y, Nakamura M, Hagiwara N, Higuchi M, Mitsuoyoshi S, Tokuno S	Advances in Science Technology and Engineering Systems Journal (ASTESJ)	10.25046/aj020397						有	東京大学、PST株式会社	[6]音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29

142	Validity of Mind Monitoring System as a Mental Health Indicator using Voice	Hagiwara N, Omiya Y, Shinohara S, Nakamura M, Higuchi M, Mitsuoyoshi S, Yasunaga H, Tokuno S	Advances in Science Technology and Engineering Systems Journal (ASTESJ)	10.25046/aj020343	2017/5	2	3	338	344	有		東京大学、PST株式会社	{6}音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
143	Mental status assessment of disaster relief personnel by vocal affect display based on voice emotion recognition	Mitsuoyoshi S, Nakamura M, Omiya Y, Shinohara S, Hagiwara N, Tokuno S	Disaster and Military Medicine	10.1186/s40696-017-0032-0	2017/4	3	1	4		有		東京大学、PST株式会社	{6}音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
144	Study on Depression Evaluation Indicator in the Elderly using Sensibility Technology	Higuchi, M., Shinohara, S., Nakamura, M., Omiya, Y., Hagiwara, N., Mitsuoyoshi, S. and Tokuno, S	3rd International Conference on Information and Communication Technologies for Ageing Well and e-Health		2017/4			70	77	有		東京大学、PST株式会社	{6}音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
145	Komine O, Yamashita H, Fujimori-Tonou N, Koike M, Jin S, Moriwaki Y, Endo F, Watanabe S, Uematsu S, Akira S, Uchiyama Y, Takahashi R, Misawa H, Yamanaka K. Cell Death Differ. 2018 Mar 22.			doi: 10.1038/s41418-018-0098-3.	2018/3/1						国際	東京大学	{25}ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
146	Takemura N, Kurashima Y, Mori Y, Okada K, Ogino T, Osawa H, Matsuno H, Aayam L, Kaneto S, Park EJ, Sato S, Matsunaga K, Tamura Y, Ouchi Y, Kumagai Y, Kobayashi D, Suzuki Y, Yoshioka Y, Nishimura J, Mori M, Ishii KJ, Rothenberg ME, Kiyono H, Akira S, Uematsu S. Eosinophil depletion suppresses radiation-induced small intestinal fibrosis. Sci Transl Med. 2018 Feb 21;10(429). pii: ean0333.			doi: 10.1126/scitranslmed.aan0333.	2018/2/1						国際	東京大学	{25}ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
147	Nishizawa N, Ito Y, Eshima K, Ohkubo H, Kojo K, Inoue T, Raouf J, Jakobsson PJ, Uematsu S, Akira S, Narumiya S, Watanabe M, Majima M. Inhibition of microsomal prostaglandin E synthase-1 facilitates liver repair after hepatic injury in mice. J Hepatol. 2018 Feb 16. pii: S0168-8278(18)30126-0.			doi: 10.1016/j.jhep.2018.02.009	2018/2/1						国際	東京大学	{25}ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
148	Takahashi Y, Sato S, Kurashima Y, Yamamoto T, Kurokawa S, Yuki Y, Takemura N, Uematsu S, Lai CY, Otsu M, Matsuno H, Osawa H, Mizushima T, Nishimura J, Hayashi M, Yamaguchi T, Kiyono HA Refined Culture System for Human Induced Pluripotent Stem Cell-Derived Intestinal Epithelial Organoids. Stem Cell Reports.2018 Jan 9;10(1):314-328.			doi: 10.1016/j.stemcr.2017.11.004.	2018/1/1						国際	東京大学	{25}ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
149	Koyanagi N, Imai T, Shindo K, Sato A, Fujii W, Ichinohe T, Takemura N, Kakuta S, Uematsu S, Kiyono H, Maruzuru Y, Arie J, Kato A, Kawaguchi Y. Herpes simplex virus-1 evasion of CD8+ T cell accumulation contributes to viral encephalitis. J Clin Invest. 2017 Oct 2;127(10):3784-3795.			doi: 10.1172/JCI92931.	2017/8/1						国際	東京大学	{25}ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
150	Eri T, Kawahata K, Kanzaki T, Imamura M, Michishita K, Akahira L, Bannai E, Yoshikawa N, Kimura Y, Satoh T, Uematsu S, Tanaka H, Yamamoto K. Intestinal microbiota link lymphopenia to murine autoimmunity via PD-1+CXCR5-/dim B-helper T cell induction.Sci Rep. 2017 Apr 26;7:46037.			doi: 10.1038/srep46037.	2017/4/1						国際	東京大学	{25}ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
151	Ono S, Ono Y, Matsui H, Yasunaga H. Impact of clinic follow-up visits on body weight control in people with prediabetes or diabetes mellitus: Japanese nonelderly cohort study. Family Practice 2017;34(5):552-557			10.1093/fampra/cmx016.	2017						国際	東京大学	{7}予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	H29
152	Okubo Y, Michihata N, Morisaki N, Kinoshita N, Miyairi I, Urayama KY, Yasunaga H. Recent patterns in antibiotic use for children with group A streptococcal infections. Journal of Global Antimicrobial Resistance 2017 Nov 13. pii: S2213-7165(17)30215-1.			10.1016/j.jgar.2017.11.004.	2017/11/1						国際	東京大学	{7}予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	H29
153	Tomio J, Yamana H, Matsui H, Yamashita H, Yoshiyama T, Yasunaga H. Tuberculosis screening prior to anti-tumor necrosis factor therapy among patients with immune-mediated inflammatory diseases in Japan: a study using a large-scale health insurance claims database. International Journal of Rheumatic Diseases 2017;20(11):1674-1683			10.1111/1756-185X.13190.	2017						国際	東京大学	{7}予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	H29
154	Association measures of claims-based algorithms for common chronic conditions were assessed using regularly collected data in Japan. Hara K, Tomio J, Svensson T, Ohkuma R, Svensson AK, Yamazaki T. J Clin Epidemiol. 2018 Mar 13. pii: S0895-4356(17)31004-1. doi: 10.1016/j.jclinepi.2018.03.004. [Epub ahead of print]				2018/3/1						国際	東京大学	{10}メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	H29
155	Incident diabetes mellitus may explain the association between sleep duration and incident coronary heart disease. Svensson AK, Svensson T, Kitlinski M, Almgren P, Engström G, Nilsson PM, Melander O. Diabetologia. 2018 Feb;61(2):331-341. doi: 10.1007/s00125-017-4464-3. Epub 2017 Nov 4.				2017/11/1						国際	東京大学	{10}メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	H29

156	Plasma concentration of Caspase-8 is associated with short sleep duration and the risk of incident diabetes mellitus. Svensson T, Svensson AK, Kitlinski M, Almgren P, Engström G, Nilsson J, Orho-Melander M, Nilsson PM, Melander O. J Clin Endocrinol Metab. 2018 Feb 1. doi: 10.1210/jc.2017-02374. [Epub ahead of print]		2017						国際	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	H29
157	Kazuto Hoshi, Yuko Fujiwara, Takanori Yamawaki, Motohiro Harai, Yukiyo Asawa and Atsuhiko Hikita, "Biological Aspects of Tissue-engineered Cartilage", Histochem Cell Biol, vol. 149, No. 4, pp.375-378, 2018	org/10.1007/s00418-018-1652-2	2018						国際	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H30
158	Takanori Yamawaki, Yuko Fujiwara, Mikako Harata, Tsuyoshi Takato, Atsuhiko Hikita and Kazuto Hoshi, "Electron Microscopic Observation of Human Auricular Chondrocytes Transplanted into Peritoneal Cavity of Nude Mice for Cartilage Regeneration", Regenerative Therapy, No. 8, pp.1-8, 2018	org/10.116/j.reth.2017.11.002	2018						国際	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H30
159	Ryoko Inaki, Yuko Fujiwara, Akira Kudo, Masaki Misawa, Atsuhiko Hikita, Tsuyoshi Takato, and Kazuto Hoshi, "Periostin Contributes to the Maturation and Shape Retention of Tissue-Engineered Cartilage", Science Report, Vol.8, No.1, pp. 11210, 2018	10.1038/s41598-018-29228-6	2018						国際	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H30
160	Takanobu Mashiko, Hitomi Takada, Szu-Hsien Wu, Koji Kanayama, Jingwei Feng, Kensuke Tashiro, Rintaro Asahi, Ataru Sunaga, Kazuto Hoshi, Akira Kurisaki, Tsuyoshi Takato, Kotaro Yoshimura, "Therapeutic effects of a recombinant human collagen peptide bioscaffold with human adipose-derived stem cells on impaired wound healing after radiotherapy", Journal of Tissue Engineering and Regenerative Medicine, vol. 12, No. 5, pp.1186-1194, 2018	org/10.1002/term.2647	2018						国際	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H30
161	Makoto Komura, Hiroko Komura, Hiroaki Komuro, Kenichiro Konishi, Kazuko Obana, Kenichi Ikebukuro, Atsuyuki Hikita, Kazuto Hoshi, Tsuyoshi Takato, "Long-term follow-up of tracheal cartilage growth promotion by intratracheal injection of basic fibroblast growth factor", Journal of Pediatric Surgery, vol 53, No. 12, pp. 2394-2398, 2018	org/10.1016/j.jpedsurg.2018.08.021	2018						国際	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H30
162	H. K. Lei Ma, Keiichi Nakagawa, Junchen Wang, Etsuko Kobayashi, Ichiro Sakuma, "Accurate vessel segmentation in ultrasound images using alocal-phase-based snake," Biomedical Signal Processing and Control, vol. 43, pp. 236-243, 2018.	10.1016/j.bspc.2018.03.002	2018						国際	東京大学	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合によるImage-Guided Treatment (IGT)の実現・骨盤腔がん治療支援ソリューション	H30
163	Kotani S, Yoda A, Kon A, Kataoka K, Ochi Y, Shiozawa Y, Hirsch C, Takeda J, Ueno H, Yoshizato T, Yoshida K, Nakagawa MM, Nannya Y, Kakiuchi N, Yamauchi T, Aoki K, Shiraishi Y, Miyano S, Maeda T, Maciejewski JP, Takaori-Kondo A, Ogawa S, Makishima H. Molecular pathogenesis of disease progression in MLL-rearranged AML. Leukemia. 2019 Mar;33(3):612-624.		2019/3/1						国際	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解【5】全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	H30
164	Hayashi S, Yamaguchi R, Mizuno S, Komura M, Miyano S, Nakagawa H, Imoto S. ALPHLARD: a Bayesian method for analyzing HLA genes from whole genome sequence data. BMC Genomics. 19(1):790, 2018.		2018						国際	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解【5】全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	H30
165	Ouchi Y, Patil A, Tamura Y, Nishimasu H, Negishi A, Paul SK, Takemura N, Satoh T, Kimura Y, Kurachi M, Nureki O, Nakai K, Kiyono H, Uematsu S. Generation of tumor antigen-specific murine CD8+ T cells with enhanced anti-tumor activity via highly efficient CRISPR/Cas9 genome editing. Int Immunol. 2018 Apr 3;30(4):141-154.	doi: 10.1093/intimm/dxy006.	2018/4/1						国際	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解【5】全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	H30
166	Usui Y, Kimura Y, Satoh T, Takemura N, Ouchi Y, Ohmiya H, Kobayashi K, Suzuki H, Koyama S, Hagiwara S, Tanaka H, Imoto S, Eberl G, Asami Y, Fujimoto K, Uematsu S. Effects of long-term intake of a yogurt fermented with Lactobacillus delbrueckii subsp. bulgaricus 2038 and Streptococcus thermophilus 1131 on mice. Int Immunol. 2018 Jun 26;30(7):319-331.	doi: 10.1093/intimm/dxy035.	2018/6/1						国際	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解【5】全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	H30
167	Nakamura S, Yokoyama K, Yusa N, Ogawa M, Takei T, Kobayashi A, Ito M, Shimizu E, Kasajima R, Wada Y, Yamaguchi R, Imoto S, Nagamura-Inoue T, Miyano S, Tojo A. "Circulating tumor DNA dynamically predicts response and/or relapse in patients with hematological malignancies." Int J Hematol. 2018.	doi: 10.1007/s12185-018-2487-2	2018						国際	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解【5】全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	H30

168	Takei T, Yokoyama K, Shimizu E, Konuma T, Takahashi S, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, Tojo A. Azacitidine effectively reduces "TP53-mutant leukemic cell burden in secondary acute myeloid leukemia after cord blood transplantation." Leukemia & lymphoma. 2018;1-2.	doi: 10.1080/10428194.2018.1443335.	2018							国際	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H30
169	神保光児, 小沼貴晶, 横山和明, 東條有伸. Picture in Clinical Hematology No. 115. 臨床血液. 2018;59(7):843	https://doi.org/10.11406/rinketsu.59.843	2018							国内	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H30
170	Inoue D, Fujino T, Sheridan P, Zhang Y-Z, Nagase R, Horikawa S, Li Z, Matsui H, Kanai A, Saika M, Yamaguchi R, Kozuka-Hata H, Kawabata K, Yokoyama A, Goyama S, Inaba T, Imoto S, Miyano S, Xu M, Yang F-C, Oyama M, and Kitamura T. A novel ASXL1-OGT axis plays roles in H3K4 methylation and tumor suppression in myeloid malignancies, Leukemia, 32, 1327-1337 (2018)	10.1038/s41375-018-0083-3	2018							国際	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解[5]全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	H30
171	Shiozawa Y, Malcovati L, Galli A, Sato-Otsubo A, Kataoka K, Sato Y, Watatani Y, Suzuki H, Yoshizato T, Yoshida K, Sanada M, Makishima H, Shiraishi Y, Chiba K, Hellström-Lindberg E, Miyano S, Ogawa S, Cazzola M. Aberrant splicing and defective mRNA production induced by somatic spliceosome mutations in myelodysplasia. Nat Commun. 2018 Sep 7;9(1):3649.	10.1038/s41467-018-06063-x.	2018/9/1							国際	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解[5]全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	H30
172	Murakami N, Okuno Y, Yoshida K, Shiraishi Y, Nagae G, Suzuki K, Narita A, Sakaguchi H, Kawashima N, Wang X, Xu Y, Chiba K, Tanaka H, Hama A, Sanada M, Ito M, Hirayama M, Watanabe A, Ueno T, Kojima S, Aburatani H, Mano H, Miyano S, Ogawa S, Takahashi Y, Muramatsu H. Integrated molecular profiling of juvenile myelomonocytic leukemia. Blood. 131(14):1576-1586, 2018.		2018							国際	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解[5]全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	H30
173	Yokoyama K, Shimizu E, Yokoyama N, Nakamura S, Kasajima R, Miho Ogawa, Takei T, Ito M, Kobayashi K, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, Tojo A. "Cell lineage level-targeted sequencing to identify acute myeloid leukemia with myelodysplasia related changes" Blood Advances, 2(19), 2513(2018).	10.1182/bloodadvances.2017010744	2018							国際	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解[5]全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	H30
174	Kotani S, Yoda A, Kon A, Kataoka K, Ochi Y, Shiozawa Y, Hirsch C, Takeda J, Ueno H, Yoshizato T, Yoshida K, Nakagawa MM, Nannya Y, Kakiuchi N, Yamauchi T, Aoki K, Shiraishi Y, Miyano S, Maeda T, Maciejewski JP, Takaori-Kondo A, Ogawa S, Makishima H. Molecular pathogenesis of disease progression in MLL-rearranged AML. Leukemia, 2019 Mar; 33(3): 612-624.	10.1038/s41375-018-0253-3	2019/3/1							国際	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解[5]全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	H30
175	Difference in Speech Analysis Results by Coding	Omiya Y, Hagiwara N, Takano T, Shinohara S, Nakamura M, Higuchi M, Mitsuoyoshi S, Toda H, Tokuno S	Advances in Science, Technology and Engineering Systems Journal (ASTESJ)	10.25046/aj030555	2018/10	3	5	488	491	有	東京大学、PST株式会社	[6]音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
176	Study on Indicators for Depression in the Elderly Using Voice and Attribute Information	Higuchi M, Shinohara S, Nakamura M, Omiya Y, Hagiwara N, Takano T, Mitsuoyoshi S, Tokuno S	Communications in Computer and Information Science	10.1007/978-3-319-93644-4_7	2018/6	869		127	146	有	東京大学、PST株式会社	[6]音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
177	The influence of the voice acquisition method to the mental health state estimation based on vocal analysis	Omiya Y, Hagiwara N, Shinohara S, Nakamura M, Higuchi M, Mitsuoyoshi S, Takayama E, Tokuno S	IFMBE Proceedings IJUPESM World Congress on Medical Physics and Biomedical Engineering 2018	10.1007/978-981-10-9035-6_59	2018/6	68	2	897	900	有	東京大学、PST株式会社	[6]音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
178	Feasibility study of evaluation of therapeutic effect for sleep apnea syndrome using mental healthiness evaluated from voice	Nakamura M, Shinohara S, Omiya Y, Mitsuoyoshi S, Higuchi M, Hagiwara N, Takano T, Danno H, Tanaka S, Tokuno S	IFMBE Proceedings IJUPESM World Congress on Medical Physics and Biomedical Engineering 2018	10.1007/978-981-10-9038-7_165	2018/6	68	2	327	330	有	東京大学、PST株式会社	[6]音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30

179	Accuracy Evaluation for Mental Health Indicator Based on Vocal Analysis in Noisy Environments	Higuchi M, Shinohara S, Nakamura M, Omiya Y, Hagiwara N, Takano T, Mitsuyoshi S, Tokuno S	Journal of Information and Communication Engineering (JICE)		2018/4	4	1	217	222	有		東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
180	Classification of Bipolar Disorder, Major Depressive Disorder and Healthy State Using Voice	Higuchi M, Tokuno S, Nakamura M, Shinohara S, Mitsuyoshi S, Omiya Y, Hagiwara N, Takano T, Toda H, Saito T, Terashi H, Mitoma H	Proc. 8th International Conference on Biomedical Engineering and Technology (ICBET 2018)		2018/4			T0017		有		東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
181	Classification of Bipolar Disorder, Major Depressive Disorder and Healthy State Using Voice	Higuchi M, Tokuno S, Nakamura M, Shinohara S, Mitsuyoshi S, Omiya Y, Hagiwara N, Takano T, Toda H, Saito T, Terashi H, Mitoma H	Asian J Pharm Clin Res	10.22159/ajpcr.2018.v11s3.30042	2018/2	11		Special issue 3	89	93	有	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
182	Okubo Y, Miyairi I, Michihata N, Morisaki N, Kinoshita N, Urayama KY, Yasunaga H. Recent prescription patterns for children with acute infectious diarrhea. J Pediatr Gastroenterol Nutr. 2019 Jan;68(1):13-16.			doi: 10.1097/MPG.0000000000002115	2019/1/1						国際	東京大学	【7】予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	H30
183	中村正裕「第1回 Precision Health(プレシジョン・ヘルス、精密保健)の実現に向けて」 Journal of Internet of Medical Things Vol.1 No.1, 46-49, 2018				2018						国内	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	H30
184	Svensson AK, Svensson T, Kitlinski M, Almgren P, Engström G, Nilsson P, Melander O. Incident diabetes mellitus may explain the association between sleep duration and incident coronary heart disease. Diabetologia. 2018;61(2):331-41.				2018						国際	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	H30
185	Svensson T, Inoue M, Sawada N, Mimura M, Tsugane S. High serum total cholesterol is associated with suicide mortality in Japanese women independently of menopause. Acta Psychiatr Scand. 2018;137(1):80-1.				2018						国際	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	H30
186	大江和彦: AI と医療 概論:病理と臨床.Vol.35(4), 370-374, 2018.04.				2018/4/1						国内	東京大学	【11】対話型患者問診ロボットの開発	H30
187	Svensson T, Sawada N, Mimura M, Nozaki S, Shikimoto R, Tsugane S. The association between midlife serum high-density lipoprotein and mild cognitive impairment and dementia after 19 years of follow-up. Translational psychiatry. 2019;9(1):26.				2019						国際	東京大学	【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	H30
188	Daukantaite D, Tellhed U, Maddux RE, Svensson T, Melander O. Five-week yin yoga-based interventions decreased plasma adrenomedullin and increased psychological health in stressed adults: A randomized controlled trial. PLoS One. 2018;13(7):e0200518.				2018						国際	東京大学	【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	H30
189	Tracheal cartilage growth promotion by intra-tracheal administration of basic FGF	Makoto Komura, Hiroko Komura, Tetsuya Ishimaru, Kenichiro Konishi, Hiroaki Komuro, Kazuto Hoshi, Tsuyoshi Takato	Pediatric Surgery International	10.1007/s00383-019-04576-0	2020/01	36	1	33	41	有		東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハンドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	R1

190	Fabrication of an anatomy-mimicking BIO-AIR-TUBE with engineered cartilage	Makoto Komura, Hiroko Komura, Rysuke Satake, Keisuke Suzuki, Hironobu Yonekawa, Kenichi Ikebukuro, Hiroaki Komuro, Kazuto Hoshi, Tsuyoshi Takato, Takeshi Moriwaki, Yasuhide Nakayama	Regenerative Therapy	10/1016/j.reth.2019.07.004	2019/12	11		176	181	有		東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	R1
191	The period circadian clock 2 gene responds to glucocorticoids and regulates osteogenic capacity	Takahiro Abe, Tomoya Sato, Tetsuya Yoda, Kazuto Hoshi	Regenerative Therapy	10.1016/j.reth.2019.07.006	2019/12	11		199	206	有		東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	R1
192	Proliferation medium in three-dimensional culture of auricular chondrocytes promotes effective cartilage regeneration in vivo	Ryuji Oubo, Yukiyo Asawa, Makoto Watanabe, Satoru Nagata, Masaki Nio, Tsuyoshi Takato, Atsuhiko Hikita, Kazuto Hoshi	Regenerative Therapy	10.1016/j.reth.2019.10.002	2019/12	11		306	311	有			【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	R1
193	Clinical significance of buccal branches of the facial nerve and their relationship with the emergence of Stensen's duct: An anatomical study on adult Taiwanese cadavers	Chen-His Tsai, Chun-Chan Ting, Szu-Yuan Wu, Jih-Yu Chiu, Hansheng Chen, Kazuyo Igawa, Ting-Hsun Lan, Chun-Ming Chen, Tsuyoshi Takato, Kazuto Hoshi, Edward Chengchuan Ko	Journal of Craniomaxillofacial Surgery	10.1016/j.jjoms.2018.12.018	2019/11	47	11	1809	1818	有	有	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	R1
194	Investigating the efficacy of intraoral wet sheets	Kazumichi Yonenaga, Kazuto Hoshi, Yoshiyuki Miyamoto, Yukari Kitahara, Makoto Komatsuka, Yuko Fujihara, Hideyuki Suenaga, Tsuyoshi Takato	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine		2019/04	44	1	15	19	有		東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	R1
195	Influence of damage-associated molecular patterns from chondrocytes in tissue-engineering cartilage	Yuko Fujihara, Takahiro Abe, Yukiyo Asawa, Satoru Nishizawa, Hideto Saijo, Atsuhiko Hikita, Kazuto Hoshi	Tissue Engineering Part A	10.1089/ten.tea.2019.0185	Published Online: 19 Feb 2020					有		東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	R1
196	Attention-Guided Decoder in Dilated Residual Network for Accurate Aortic Valve Segmentation in 3D CT Scans	Fan, Bowen, Tomii, Naoki, Tsukihara, Hiroyuki, Maeda, Eriko, Yamachi, Haruo, Nawata, Kan, Hatano, Asuka, Takagi, Shu, Sakuma, Ichiro, Ono, Minoru	Machine Learning and Medical Engineering for Cardiovascular Health and Intravascular Imaging and Computer Assisted Stenting	https://doi.org/10.1007/978-3-030-33327-0_15	2019/10			121	129	有		東京大学	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合による Image-Guided Treatment (IGT)の実現、国際会議論文であるが、査読ならびに国際的なデータベースにも登録されるものであることから原著論文と分類した	R1
197	An Unusually Short Latent Period of Therapy-Related Myeloid Neoplasm Harboring a Rare MLL-EP300 Rearrangement	Takeda R, Yokoyama K, Kobayashi S, Kawamata T, S Nakamura, Tomofusa F, Ito M, Yusa N, Shimizu E, Ohno N, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, Uchimaru K, and Tojo A.	Case Reports in Hematology	10.1155/2019/4532434	2019/10			1	6	有		東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【H31W12】装着感と拘束感のないスマートテキスタイルで取得する全生活時間ビッグデータによる医療デバイス開発への挑戦	R1

198	The first case of elderly TCF3-HLF-positive B-cell acute lymphoblastic leukemia.	Takeda R, Yokoyama K (corresponding author), Ogawa M, Kawamata T, Tomofusa F, Kondoh K, Tomomi T, Nakamura S, Ito M, Yusa N, Shimizu E, Ohno N, Uchimar K, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, and Tojo A.	Leukemia and Lymphoma	10.1080/10428194.2019.1602267.	2019/11	60	11	2821	2824	有		東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解。 【H31W12】装着感と拘束感のないスマートテキスタイルで取得する全生活時間ビッグデータによる医療デバイス開発への挑戦	R1
199	Prognostic impact of circulating tumor DNA status post-allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in AML and MDS.	Nakamura S, Yokoyama K, Yusa N, Ogawa M, Takei T, Kobayashi A, Ito M, Jimbo K, Tanoue S, Isobe M, Konuma T, Kato S, Shimizu E, Kasajima R, Wada Y, Yamaguchi R, Imoto S, Nagamura-Inoue T, Takahashi S, Miyano S, Tojo A	Blood	10.1182/blood-2018-10-880690	2019/6	133	25	2682	2695	有		東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解。 【H31W12】装着感と拘束感のないスマートテキスタイルで取得する全生活時間ビッグデータによる医療デバイス開発への挑戦	R1
200	Development of an MSI-positive colon tumor with aberrant DNA methylation in a PPAP patient	Yamaguchi K, Shimizu E, Yamaguchi R, Imoto S, Komura M, Hatakeyama S, Noguchi R, Takane K, Ikenoue T, Gohda Y, Yano H, Miyano S, Furukawa Y.	J Hum Genet	10.1038/s10038-019-0611-7	2019/8	64	8	729	740	有		東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
201	ALPHLARD-NT: Bayesian method for HLA genotyping and mutation calling through simultaneous analysis of normal and tumor whole-genome sequence data	Hayashi S, Moriyama T, Yamaguchi R, Mizuno S, Komura M, Miyano S, Nakagawa H, Imoto S.	Journal of Computational Biology	10.1089/cmb.2018.0224	2019/4	26	9	923	937	有		東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
202	Bayesian model integration for mutation calling through data partitioning	Moriyama T, Imoto S, Hayashi S, Shiraishi Y, Miyano S, Yamaguchi R.	Bioinformatics	10.1093/bioinformatics/btz233	2019/3/1	35	21	4247	4254	有		東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
203	Massively parallel sequencing of tenosynovial giant cell tumors reveals novel CSF1 fusion transcripts and novel somatic CBL mutations	Tsuda Y, Hirata M, Katayama K, Motoi T, Matsubara D, Oda Y, Fujita M, Kobayashi H, Kawano H, Nishida Y, Sakai T, Okuma T, Goto T, Ogura K, Kawai A, Ae K, Anazawa U, Suehara Y, Iwata S, Miyano S, Imoto S, Shibata T, Nakagawa H, Yamaguchi R.	International Journal of Cancer	10.1002/ijc.32421	2019/12	145	12	3276	3284	有		東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
204	Capturing the differences between humoral immunity in the normal and tumor environments from repertoire-seq of B-cell receptors using supervised machine learning	Konishi H, Komura D, Katoh H, Atsumi S, Koda H, Yamamoto A, Seto Y, Fukayama M, Yamaguchi R, Imoto S, Ishikawa S.	BMC Bioinformatics	10.1186/s12859-019-2853-y	2019/5	20	1	267		有		東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
205	Quantifying immune-based counterselection of somatic mutations	Yang F, Kim D-K, Nakagawa H, Hayashi S, Imoto S, Stein L, Roth FP.	PLoS Genetics	10.1371/journal.pgen.1008227	2019/7	15	7	e1008227		有	有	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1

206	Integrated exome and RNA sequencing of dedifferentiated liposarcoma	Hirata M, Asano N, Katayama K, Yoshida A, Tsuda Y, Sekimizu M, Mitani S, Kobayashi E, Komiyama M, Fujimoto H, Goto T, Iwamoto Y, Naka N, Iwata S, Nishida Y, Hiruma T, Hiraga H, Kawano H, Motoi T, Oda Y, Matsubara D, Fujita M, Shibata T, Nakagawa H, Nakayama R, Kondo T, Imoto S, Miyano S, Kawai A, Yamaguchi R.	Nature Communications	10.1038/s41467-019-13286-z	2019/12	10	1	5683		有		東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
207	Frequent mutations that converge on the NFKBIZ pathway in ulcerative colitis	Kakiuchi N, Yoshida K, Uchino M, Kihara T, Akaki K, Inoue Y, Kawada K, Nagayama S, Yokoyama A, Yamamoto S, Matsuura M, Horimatsu T, Hirano T, Goto N, Takeuchi Y, Ochi Y, Shiozawa Y, Kogure Y, Watatani Y, Fujii Y, Kim SK, Kon A, Kataoka K, Yoshizato T, Nakagawa MM, Yoda A, Nanya Y, Makishima H, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Sanada M, Sugihara E, Sato TA, Maruyama T, Miyoshi H, Taketo MM, Oishi J, Inagaki R, Ueda Y, Okamoto S, Okajima H, Sakai Y, Sakurai T.	Nature	10.1038/s41586-019-1856-1	2019/12	577	7789	260	265	有		東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
208	Pan-cancer analysis of whole genomes	The ICGC/TCGA Pan-Cancer Analysis of Whole Genomes Consortium	Nature	10.1038/s41586-020-1969-6	2020/2	578		82	93	有	有	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
209	Variant analysis of prostate cancer in Japanese patients and a new attempt to predict related biological pathways	Kasajima R, Yamaguchi R, Shimizu E, Tamada Y, Niida A, Tremmel G, Kishida T, Aoki I, Imoto S, Miyano S, Uemura H, Miyagi Y.	Oncol Rep	10.3892/or.2020.7481	2020/3	43	3			有		東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
210	Classification of primary liver cancer with immunosuppression mechanisms and correlation with genomic alterations	Fujita M, Yamaguchi R, Hasegawa T, Shimada S, Arihiro K, Hayashi S, Maejima K, Nakano K, Fujimoto A, Ono A, Aikata H, Ueno M, Hayami S, Tanaka H, Miyano S, Yamaue H, Chayama K, Kakimi K, Tanaka S, Imoto S, Nakagawa H.	EBioMedicine	10.1016/j.ebiom.2020.102659	2020/3					有		東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
211	Butler enables rapid cloud-based analysis of thousands of human genomes	Yakneen S, Waszak SM, PCAWG Technical Working Group, Gertz M, Korbel JO, PCAWG Consortium.	Nature Biotechnology	10.1038/s41587-019-0360-3	2020/3					有	有	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
212	Microsomal prostaglandin E synthase-1 is a critical factor in dopaminergic neurodegeneration in Parkinson's disease	Ikeda-Matsuo Y, Miyata H, Mizoguchi T, Ohama E, Naito Y, Uematsu S, Akira S, Sasaki Y, Tanabe M.	Neurobiol Dis.	10.1016/j.nbd.2018.11.004.	2019/4	124		81	92	有		東京大学	【5】全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	R1

213	Antigen-specific Mucosal Immunity Regulates Development of Intestinal Bacteria-mediated Diseases.	Kosuke Fujimoto, Yunosuke Kawaguchi, Masaki Shimohigoshi, Yoshiyuki Gotoh, Yoshiko Nakano, Yuki Usui, Tetsuya Hayashi, Yasumasa Kimura, Miho Uematsu, Takuya Yamamoto, Yukihiro Akeda, Joon Haeng Rhee, Yoshikazu Yuki, Ken J Ishii, Sheila E. Crowe, Peter B. Ernst, Hiroshi Kiyono,	Gastroenterology.	10.1053/j.gastro.2019.08.021.	2019/12	157	6	1530	1543	有	有	東京大学	【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R1
214	Diet-Induced Obese Mice and Leptin-Deficient Lepob/ob Mice Exhibit Increased Circulating GIP Levels Produced by Different Mechanisms.	Lee E, Miedzybrodzka EL, Zhang X, Hatano R, Miyamoto J, Kimura I, Fujimoto K, Uematsu S, Rodriguez-Cuenca S, Vidal-Puig A, Gribble FM, Reimann F, Miki T.	Int J Mol Sci.	10.3390/ijms20184448.	2019/9	20	18	pii: E4448.		有	有	東京大学	【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R1
215	Microsomal prostaglandin E synthase-1 promotes lung metastasis via SDF-1/CXCR4-mediated recruitment of CD11b+Gr1+MDSCs from bone marrow.	Takahashi R, Amano H, Ito Y, Eshima K, Satoh T, Iwamura M, Nakamura M, Kitasato H, Uematsu S, Raouf J, Jakobsson PJ, Akira S, Majima M.	Biomed Pharmacother.	10.1016/j.biopha.2019.109581	2020/1	121		109581		有		東京大学	【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R1
216	High-fat diet-mediated dysbiosis exacerbates NSAID-induced small intestinal damage through the induction of interleukin-17A.	Sugimura N, Otani K, Watanabe T, Nakatsu G, Shimada S, Fujimoto K, Nadatani Y, Hosomi S, Tanaka F, Kamata N, Taira K, Nagami Y, Tanigawa T, Uematsu S, Fujiwara Y.	Sci Rep	10.1038/s41598-019-52980-2.	2019/11	9	1	16796		有		東京大学	【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R1
217	Discrimination of Bipolar Disorders Using Voice	Higuchi M, Nakamura M, Shinohara S, Omiya Y, Takano T, Toda H, Saito T, Yoshino A, Mitsuyoshi S, Tokuno S	Lecture Notes of the Institute for Computer Sciences, Social Informatics and Telecommunications Engineering	10.1007/978-3-030-25872-6_16	2019/7	288		199	207	有		東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
218	An attempt to estimate depressive status from voice	Omiya Y, Takano T, Uruguchi T, Nakamura M, Higuchi M, Shinohara S, Mitsuyoshi S, So M, Tokuno S	Lecture Notes of the Institute for Computer Sciences, Social Informatics and Telecommunications Engineering	10.1007/978-3-030-25872-6_13	2019/7	288		168	175	有		東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
219	Yogic Breathing and Mindfulness as Stress Coping Mediate Positive Health Outcomes of Yoga. Mindfulness	Thomas Svensson	Mindfulness	10.1007/s12671-019-01225-4	2019/11	10	12	2703	2715	有	有	東京大学	【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R1
220	A validation study of a consumer wearable sleep tracker compared to a portable EEG system in naturalistic conditions	Thomas Svensson, Akiko Kishi Svensson	Journal of Psychosomatic Research	10.1016/j.jpsychores.2019.109822	2019/11	126		109822		有		東京大学	【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R1

221	Characteristics and Risk Factors Associated With Diagnosed and Undiagnosed Symptomatic Dry Eye Using a Smartphone Application.	Inomata T, Iwagami M, Nakamura M, Shiang T, Yoshimura Y, Fujimoto K, Okumura Y, Eguchi A, Iwata N, Miura M, Hori S, Hiratsuka Y, Uchino M, Tsubota K, Dana R, Murakami A.	JAMA Ophthalmology	doi: 10.1001/jamaophthalmol.2019.4815.	2019/11					有	有	東京大学	R1
222	Reliability and validity of the Japanese version of the Ocular Surface Disease Index for dry eye disease.	Midorikawa-Inomata A, Inomata T, Nojiri S, Nakamura M, Iwagami M, Fujimoto K, Okumura Y, Iwata N, Eguchi A, Hasegawa H, Kinouchi H, Murakami A, Kobayashi H.	BMJ Open	10.1136/bmjopen-2019-033940.	2019/11	9	11			有		東京大学	R1
223	Risk Factors for Severe Dry Eye Disease: Crowdsourced Research Using DryEyeRhythm.	Inomata T, Nakamura M, Iwagami M, Shiang T, Yoshimura Y, Fujimoto K, Okumura Y, Eguchi A, Iwata N, Miura M, Hori S, Hiratsuka Y, Uchino M, Tsubota K, Dana R, Murakami A.	Ophthalmology	10.1016/j.ophtha.2018.12.013.	2019/5	126	5			有	有	東京大学	R1
224	百寿への運動器維持管理-フレイル、サルコペニア、ロコモへの対応- フレイル、サルコペニア、ロコモの疫学 ROADスタディより	吉村典子	日本整形外科学会雑誌		2019/04	93	1	214	216	有		東京大学	R1
225	Physical performance decreases in the early stage of cervical myelopathy before the myelopathic signs appear: the Wakayama Spine Study.	Nagata K, Yoshimura N, Hashizume H, Yamada H, Ishimoto Y, Muraki S, Nakagawa Y, Minamide A, Oka H, Kawaguchi H, Tanaka S, Nakamura K, Yoshida M	Eur Spine J	10.1007/s00586-019-05907-4	2019/05	28	5	1217	1224	有		東京大学	R1
226	Differences in prevalence and associated factors between mild and severe vertebral fractures in Japanese men and women: the third survey of the ROAD study.	Horie C, Asai Y, Iidaka T, Muraki S, Oka H, Tsutsui S, Hashizume H, Yamada H, Yoshida M, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T, Tanaka S, Yoshimura N	J Bone Miner Metab.	10.1007/s00774-018-0981-5	2019/09	37	5	844	853	有		東京大学	R1
227	Factory and construction work is associated with an increased risk of severe lumbar spinal stenosis on MRI: A case control analysis within the wakayama spine study.	Ishimoto Y, Cooper C, Ntani G, Yamada, Hashizume H, Nagata K, Muraki S, Tanaka S, Yoshimura N, Yoshida M, Walker-Bone K	Am J Ind Med	10.1002/ajim.22957	2019/05	62	5	430	438	有	有	東京大学	R1
228	Is radiographic lumbar spondylolisthesis associated with occupational exposures? Findings from a nested case control study within the Wakayama spine study.	Ishimoto Y, Cooper C, Ntani G, Yamada H, Hashizume H, Nagata K, Muraki S, Tanaka S, Yoshida M, Yoshimura N, Walker-Bone K	BMC Musculoskelet Disord.	10.1186/s12891-019-2994-1	2019/12	20	1	618	-	有	有	東京大学	R1

229	Prevalence and co-existence of locomotive syndrome, sarcopenia, and frailty: the third survey of Research on Osteoarthritis/Osteoporosis Against Disability (ROAD) study.	Yoshimura N, Muraki S, Iidaka T, Oka H, Horii C, Kawaguchi H, Akune T, Nakamura K, Tanaka S	J Bone Miner Metab	10.1007/s00774-019-01012-0. Epub 2019 Jun 20.	2019/11	37	6	1058	1066	有		東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
230	Incidence rate and risk factors for radiographic hip osteoarthritis in Japanese men and women: a 10-year follow-up of the ROAD study.	Iidaka T, Muraki S, Oka H, Horii C, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T, Tanaka S, Yoshimura N	Osteoarthritis Cartilage	10.1016/j.joca.2019.09.006.	2020/02	28	2	182	188	有		東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
231	Prevalence of Facet Effusion and Its Relationship with Lumbar Spondylolisthesis and Low Back Pain: The Wakayama Spine Study.	Shinto K, Minamide A, Hashizume H, Oka H, Matsudaira K, Iwahashi H, Ishimoto Y, Teraguchi M, Kagotani R, Asai Y, Muraki S, Akune T, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Yoshida M, Yoshimura N, Yamada H	J Pain Res	10.2147/JPR.S227153. eCollection 2019.	2019/12	31		3521	3528	有		東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
232	Executive summary of the Japan Osteoporosis Society Guide for the Use of Bone Turnover Markers in the Diagnosis and Treatment of Osteoporosis (2018 Edition).	Nishizawa Y, Miura M, Ichimura S, Inaba M, Imanishi Y, Shiraki M, Takada J, Chaki O, Hagino H, Fukunaga M, Fujiwara S, Miki T, Yoshimura N, Ohta H, from the Japan Osteoporosis Society Bone Turnover Marker Investigation Committee	Clin Chim Acta	10.1016/j.cca.2019.08.012	2019/11	498		101	107	有		東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
233	A population-based study identifies an association of THBS2 with intervertebral disc degeneration.	Deguchi T, Hashizume H, Nakajima M, Teraguchi M, Akune T, Yamada H, Tanaka S, Yoshimura N, Nojima M, Yoshida M, Ikegawa S	Osteoarthritis Cartilage	10.1016/j.joca.2019.06.001	2019/10	27	10	1501	1507	有		東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
234	Surgical navigation system for laparoscopic lateral pelvic lymph node dissection in rectal cancer surgery using laparoscopic-vision-tracked ultrasonic imaging	Lei Ma, Junchen Wang, Hidemichi Kiyomatsu, Hiroyuki Tsukihara, Ichiro Sakuma, Etsuko Kobayashi	Surgical Endoscopy	10.1007/s00464-020-08153-8	2020/11					有	有	東京大学, 北京航空航大大学	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合による Image-Guided Treatment (IGT)の実現	R2
235	Deformation of the Pelvic Arteries Caused by Pneumoperitoneum and Postural Changes in an Animal Model. In Vivo.	Kiyomatsu H, Ma L, Wang J, Kiyomatsu T, Tsukihara H, Kobayashi E, Sakuma I and Ishihara S.	In Vivo.	10.21873/invivo.12256	2021	35		275	281	有		東京大学	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合による Image-Guided Treatment (IGT)の実現	R2
236	臨床ゲノム情報を活用した診断支援システムの要素技術の検討	高野良治、宮本青、石井雅通、石浦浩之、辻省次、大江和彦	医療情報学		2020/10/9	40	2	83	95			国立国際医療研究センター、東京大学、国際医療福祉大学	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	R2
237	Proton Pump Inhibitors Enhance Intestinal Permeability via Dysbiosis of Gut Microbiota Under Stressed Conditions in Mice.	Takashima S, Tanaka F, Kawaguchi Y, Usui Y, Fujimoto K, Nadatani Y, Otani K, Hosomi S, Nagami Y, Kamata N, Taira K, Tanigawa T, Watanabe T, Imoto S, Uematsu S, Fujiwara Y.	Neurogastroenterol Motil.	doi: 10.1111/nmo.13841.	2020/4/21	e13841	e13841	e13841		有		東京大学	【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R2

238	Vaccine therapy for dysbiosis-related diseases.	Fujimoto K, Uematsu S.	World J Gastroenterol.	doi: 10.7883/yoken.JJID.2020.469	2020/6/7	26	21	2757	2767	有		東京大学	{5}全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R2
239	Metagenome Data on Intestinal Phage-Bacteria Associations Aids the Development of Phage Therapy Against Pathobionts.	Fujimoto K, Kimura Y, Shimohigoshi M, Satoh T, Sato S, Tremmel G, Uematsu M, Kawaguchi Y, Usui Y, Nakano Y, Hayashi T, Kashima K, Yuki Y, Yamaguchi K, Furukawa Y, Kakuta M, Akiyama Y, Yamaguchi R, Crowe SE, Ernst PB, Miyano S, Kiyono H, Imoto	Cell Host Microbe	doi: 10.1016/j.chom.2020.06.005.	2020/7/3	S193 1- 3128	20	30344	30349	有	有	東京大学	{5}全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R2
240	Alcohol abrogates human norovirus infectivity in a pH-dependent manner.	Sato S, Matsumoto N, Hise K, Uematsu S.	Scientific Reports	doi: 10.1038/s41598-020-72609-z.	2020/9/28	10	1	15878		有		東京大学	{5}全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R2
241	Genome-wide association studies and heritability analysis reveal the involvement of host genetics in the Japanese gut microbiota.	Ishida S, Kato K, Tanaka M, Odamaki T, Kubo R, Mitsuyama E, Xiao JZ, Yamaguchi R, Uematsu S, Imoto S, Miyano S.	Communications Biology	doi: 10.1038/s42003-020-01416-z.	2020/11/18	3	1	686		有		東京大学	{5}全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R2
242	Successful clinical sequencing in an elderly patient with refractory Sézary syndrome: a case report.	Hijikata Y, Yokoyama K, Tani K, Matsubara Y, Lim LA, Shimizu E, Yamaguchi R, Yotusuyanagi H, Imoto S, Miyano S, Tojo A.	JCO Precision Oncology	doi.org/10.1200/PO.19.00254	2020/5/15	4		534	560	有		東京大学	{4}全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【R2W11】白血病における第三世代液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R2
243	Pathophysiology and treatment of adult Langerhans cell histiocytosis.	Tojo A, Kobayashi M.	Rinsho Ketsueki	DOI: 10.11406/rinketsu.61.1028	2020/11/06	61	9	1028	1034	有		東京大学	{4}全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
244	MCM10 compensates for Myc-induced DNA replication stress in breast cancer stem-like cells.	Murayama T, Yamawaki K, Natsume T, Nishimura T, Kogure Y, Nakata A, Tominaga, K, Sasahara A, Yano M, Ishikawa S, Ohta T, Ikeda K, Horie-Inoue K, Inoue S, Seki M, Suzuki Y, Sugano S, Tanabe M, Tada KI, Kanemaki M, Okamoto K, Tojo A, Goto N	Cancer Science	2020 Dec 19. doi: 10.1111/cas.14776.	2020/12	00		1	16	有		東京大学	{4}全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【R2W11】白血病における第三世代液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R2
245	Artificial intelligence-guided precision medicine in hematological disorders	Kazuaki Yokoyama	Rinsho Ketsueki	doi.org/10.11406/rinketsu.61.554	2020/6/5	61	5	554	563	有		東京大学	{4}全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【R2W11】白血病における第三世代液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R2
246	Senolysis by glutaminolysis inhibition ameliorates various age-associated disorders.	Johmura Y, Amanaka T, Omori S, Wang TW, Sugiura Y, Matsumoto M, Suzuki N, Kumamoto S, Yamaguchi K, Hatakeyama S, Takami T, Yamaguchi R, Shimizu E, Ikeda K, Okahashi N, Mikawa R, Suematsu M, Arita M, Sugimoto M, Nakayama KI, Furukawa Y.	Science	10.1126/science.abb5916	2021/1	15	371	265	270	有	有	東京大学	{4}全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2

247	Efficacy of the novel tubulin polymerization inhibitor PTC-028 for myelodysplastic syndrome.	Zhong C, Kayamori K, Koide S, Shinoda D, Oshima M, Nakajima-Takagi Y, Nagai Y, Mimura N, Sakaida E, Yamazaki S, Iwano S, Miyawaki A, Ito R, Tohyama K, Yamaguchi K, Furukawa Y, Lennox W, Sheedy J, Weetall M, Iwama A.	Cancer Science	10.1111/cas.14684	2020/12	111	12	4336	4347	有	有	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
248	Generation of a p16 Reporter Mouse and Its Use to Characterize and Target p16high Cells In Vivo.	Omori S, Wang TW, Johmura Y, Kanai T, Nakano Y, Kido T, Susaki EA, Nakajima T, Shichino S, Ueha S, Ozawa M, Yokote K, Kumamoto S, Nishiyama A, Sakamoto T, Yamaguchi K, Hatakeyama S, Shimizu E, Katayama K, Yamada Y, Yamazaki S, Iwasaki K, Miyoshi C, Funato H, Yanagisawa M, Ueno H, Imoto S, Furukawa Y, Yoshida N, Matsushima K.	Cell Metabism	10.1016/j.cmet.2020.09.006	2020/11	32	5	814	828	有		東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
249	Fecal microbiome composition in healthy adults in Ghana	Parbie PK, Mizutani T, Ishizaka A, Kawana-Tachikawa A, Runtuwene LR, Seki S, Abana CZ, Kushitor D, Bonney EY, Ofori SB, Uematsu S, Imoto S, Kimura Y, Kiyono H, Ishikawa K, Ampofo WK, Matano T.	Jpn J Infect Dis	10.7883/yoken.JJID.2020.469	2021/1	74	1	42	47	有	有	東京大学	[5]全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	R2
250	Nanopore basecalling from a perspective of instance segmentation	Zhang Y-Z, Akdemir A, Tremmel G, Imoto S, Miyano S, Shibuya T, Yamaguchi R.	BMC Bioinformatics	10.1186/s12859-020-3459-0	2020/4	21		136		有			[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
251	Sex differences in oncogenic mutational processes	Li CH, Prokopc SD, Sun RX, Yousif F, Schmitz N, PCAWG Tumour Subtypes and Clinical Translation, Boutros PC, PCAWG Consortium	Nature Communications	10.1038/s41467-020-17359-2	2020/8					有	有		[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
252	Retrospective evaluation of whole exome and genome mutation calls in 746 cancer samples	Bailey MH, Meyerson WU, Dursi LJ, Wang LB, Dong G, Liang WW, Weerasinghe A, Li S, Li Y, Kelso S, MC3 Working Group, PCAWG novel somatic mutation calling methods working group, Saksena G, Ellrott K, Wendl MC, Wheeler DA, Getz G, Simpson JT, Gerstein MB.	Nature Communications	10.1038/s41467-020-18151-y	2020/9					有	有		[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
253	Neoantimon: a multifunctional R package for identification of tumor-specific neoantigens	Hasegawa T, Hayashi S, Shimizu E, Mizuno S, Niida A, Yamaguchi R, Miyano S, Nakagawa H, Imoto S	Bioinformatics	10.1093/bioinformatics/btaa616	2020/9					有			[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2

254	Theoretical foundation of the performance of phylogeny-based somatic variant detection	Moriyama T, Imoto S, Miyano S, Yamaguchi R	Springer LNBI		2020/8	####	87	101	有			[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
255	Global gene network explorer based on explainable artificial intelligence approach	Park H, Maruhashi K, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S	PLoS ONE	10.1371/journal.pone.0241508	2020/11				有			[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
256	Functional restoration of bacteriomes and viromes by fecal microbiota transplantation	Fujimoto K, Kimura Y, Allegritti JR, Yamamoto M, Zhang Y-Z, Katayama K, Tremmel G, Kawaguchi Y, Shimohigoshi M, Hayashi T, Uematsu M, Yamaguchi K, Furukawa Y, Akiyama Y, Yamaguchi R, Crowe SE, Ernst PB, Miyano S, Kiyono H, *Imoto S, *Uematsu S.	Gastroenterology	10.1053/j.gastro.2021.02.013	2021/2				有	有		[5]全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R2
257	Comprehensive molecular analysis of genomic profiles and PD-L1 expression in lung adenocarcinoma with a high-grade fetal adenocarcinoma component	Suzuki M, Kasajima R, Yokose T, Ito H, Shimizu E, Hatakeyama S, Yokoyama K, Yamaguchi R, Furukawa Y, Miyano S, Imoto S, Yoshioka E, Washimi K, Okubo Y, Kawachi K, Sato S, Miyagi Y.	Translational Lung Cancer Research	10.21037/tlcr-20-1158	2021/3				有	有		[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
258	Orally desensitized mast cells form a regulatory network with Treg cells for the control of food allergy.	Takasato Y, Kurashima Y, Kiuchi M, Hirahara K, Murasaki S, Arai F, Izawa K, Kaitani A, Shimada K, Saito Y, Toyoshima S, Nakamura M, Fujisawa K, Okuyama Y, Kunisawa J, Kubo M, Takemura N, Uematsu S, Akira S, Kitaura J, Takahashi T.	Mucosal Immunol.	doi: 10.1038/s41385-020-00358-3.	2020/12/10	14	640	651	有	有	東京大学	[5]全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R2
259	The 82th JSH symposium: Prognostic impact of circulating tumor DNA status post-allogeneic HSCT in AML and MDS	Kazuaki Yokoyama	Rinsho Ketsueki	10.11406/rinketsu.62.486	2021	62	5	486	495	有	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解。 [R2W11]白血病における第三世代液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R2
260	Robust parameter design of human induced pluripotent stem cell differentiation protocols defines lineage-specific induction of anterior-posterior gut tube endodermal cells.	Yasui R, Sekine K, Yamaguchi K, Furukawa Y, Taniguchi H.	Stem Cells	10.1002/stem.3326	2021/1/5	39	4	429	442	有	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
261	Halcyon: An Accurate Basecaller Exploiting An Encoder-Decoder Model With Monotonic Attention.	Konishi H, Yamaguchi R, Yamaguchi K, Furukawa Y, Imoto S.	Bioinformatics	10.1093/bioinformatics/btaa953	2021/5/1	37	9	1211	1217	有	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
262	Automatic sparse principal component analysis	Park H, Imoto S, Miyano S	The Canadian Journal of Statistics	doi.org/10.1002/cjs.11579	2020/12/20	49	3	678	697	有	東京大学	[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2

263	Social Impact Analysis by Smart Phone Voice.	Tokuno S, Omiya Y, Takano T, Higuchi M, Nakamura M, Shinohara S, Mitsuoyoshi S, Chung UT/Tei U	ESMSJ (Econophysics, Sociophysics & other Multidisciplinary Sciences Journal)		2020/10	9	1	23	28	無		東京大学、P'ST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
264	How much of an impact did COVID-19 self-isolation measures have on mental health?	Omiya, Y., Tokuno, S.	Asian Journal of Psychiatry	10.1016/j.ajp.2020.102445	2020/10	54		102445		有		東京大学、P'ST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
265	Evaluation of the severity of major depression using a voice index for emotional arousal	Shinohara S, Toda H, Nakamura M, Omiya Y, Higuchi M, Takano T, Saito T, Tanichi M, Boku S, Mitsuoyoshi S, So M, Yoshino, A., Tokuno, S	Sensors	10.3390/s20185041	2020/9	20	18	1	14	有		東京大学、P'ST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
266	Effectiveness of a Voice-Based Mental Health Evaluation System for Mobile Devices: Prospective Study	Higuchi M, Nakamura M, Shinohara S, Omiya Y, Takano T, Mitsuoyoshi S, Tokuno S	JMIR Form Res	10.2196/16455	2020/7	4	7		e16455	有		東京大学、P'ST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
267	Effects of long- and short-term experiences on stress during identification works of dead bodies: Rapid stress level measurement using voice	Higuchi M, Yamamoto I, Omiya Y, Nakamura M, Shinohara S, Takano T, Nakagawa K, Ohira H, Yamada Y, Tokuno S.	Am J Disaster Med	10.5055/ajdm.2020.0374.	2020/10	15	4	251	259	有		東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
268	Association Between Electroencephalogram-Derived Sleep Measures and the Change of Emotional Status Analyzed Using Voice Patterns: Observational Pilot Study.	Miyashita, H., Nakamura, M., Svensson, A. K., Nakamura, M., Tokuno, S., Chung, U. I., & Svensson, T	JMIR Form Res	10.2196/16880	2020/6	4	6		e16880	有		東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
269	Association Between Electroencephalogram-Derived Sleep Measures and the Change of Emotional Status Analyzed Using Voice Patterns: Observational Pilot Study	Miyashita, H., Nakamura, M., Svensson, A. K., Nakamura, M., Tokuno, S., Chung, U. I., & Svensson, T	JMIR Form Res	10.2196/16880	2020/6	4	6		e16880	有		東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築、【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証、【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R2
270	Pregabalin and injury: a nested case-control and case-crossover study.	Miyamoto Y, Iwagami M, Aso S, Matsui H, Doi K, Yasunaga H.	Pharmacoepidemiology and Drug Safety	doi: 10.1002/pds.4976	2020/5	29	5	558	564			東京大学	【7】予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	R1
271	Epinephrine autoinjector prescription patterns for severe anaphylactic patients in Japan: A retrospective analysis of health insurance claims data.	Nakajima M, Ono S, Michihata N, Kaszynski RH, Matsui H, Yamaguchi Y, Yasunaga H.	Allergology International	10.1016/j.alit.2020.02.008	2020/6	69	3	424	428			東京大学	【7】予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	R2
272	Association of Cardiovascular Health Metrics with Subsequent Cardiovascular Disease in Young Adults	Kaneko H, Itoh H, Yotsumoto H, Kiriama H, Kamon T, Fujiu K, Morita K, Michihata N, Jo T, Takeda N, Morita H, Yasunaga H, Komuro I.	J Am Coll Cardiol	doi: 10.1016/j.jacc.2020.09.545.	2020/11	76	20	2414	2416	有		東京大学	【7】予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	R2

273	Restfulness from sleep and subsequent cardiovascular disease in the general population.	Kaneko H, Itoh H, Kamon T, Fujiu K, Morita K, Michihata N, Jo T, Morita H, Yasunaga H, Komuro I.	Sci Rep.	doi: 10.1038/s41598-020-76669-z.	2020/11	10	1	19674		有			[7]予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	R2
274	Association of Isolated Diastolic Hypertension Based on the Cutoff Value in the 2017 American College of Cardiology/American Heart Association Blood Pressure Guidelines With Subsequent Cardiovascular Events in the General Population.	Kaneko H, Itoh H, Kiriyaama H, Kamon T, Fujiu K, Morita K, Michihata N, Jo T, Takeda N, Morita H, Yasunaga H, Komuro I.	J Am Heart Assoc	doi: 10.1161/JAHA.120.017963.	2020/10	9	19	e017963		有			[7]予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	R2
275	Association of Body Weight Gain with Subsequent Cardiovascular Event in Non-Obese General Population without Overt Cardiovascular Disease.	Kaneko H, Itoh H, Yotsumoto H, Kiriyaama H, Kamon T, Fujiu K, Morita K, Michihata N, Jo T, Morita H, Yasunaga H, Komuro I.	Atherosclerosis.	doi: 10.1016/j.atherosclerosis.2020.05.015. Epub 2020 Jul 7.	2020/9	308		39	44	有		東京大学	[7]予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	R2
276	Cardiovascular Health Metrics of 87,160 Couples: Analysis of a Nationwide Epidemiological Database.	Kaneko H, Itoh H, Yotsumoto H, Kiriyaama H, Kamon T, Fujiu K, Morita K, Kashiwabara K, Michihata N, Jo T, Morita H, Yasunaga H, Komuro I.	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis.	doi: 10.5551/jat.55939	2021/3	28	5	535	543	有		東京大学	[7]予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	R2
277	Reverse J-shaped relationship between body mass index and in-hospital mortality of patients hospitalized for heart failure in Japan	Itoh H, Kaneko H, Kiriyaama H, Kamon T, Fujiu K, Morita K, Yotsumoto H, Michihata N, Jo T, Takeda N, Morita H, Yasunaga H, Komuro I.	Heart Vessels	doi: 10.1007/s00380-020-01699-6.	2021/3	36	3	383	392	有		東京大学	[7]予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	R2
278	Lipid Profile and Subsequent Cardiovascular Disease among Adults Aged < 50 Years.	Kaneko H, Itoh H, Kiriyaama H, Kamon T, Fujiu K, Morita K, Michihata N, Jo T, Takeda N, Morita H, Yasunaga H, Komuro I.	American Journal of Cardiology	doi: 10.1016/j.amjcard.2020.11.038.	2021/3	142		59	65	有		東京大学	[7]予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	R2
279	Fasting plasma glucose and subsequent cardiovascular disease among young adults: Analysis of a nationwide epidemiological database.	Kaneko H, Itoh H, Kiriyaama H, Kamon T, Fujiu K, Morita K, Michihata N, Jo T, Takeda N, Morita H, Yasunaga H, Komuro I.	Atherosclerosis	doi: 10.1016/j.atherosclerosis.2020.12.024.	2021/2	319		35	41	有		東京大学	[7]予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	R2
280	Possible association between eating behaviors and cardiovascular disease in the general population: Analysis of a nationwide epidemiological database.	Kaneko H, Itoh H, Kiriyaama H, Kamon T, Fujiu K, Morita K, Michihata N, Jo T, Takeda N, Morita H, Yasunaga H, Komuro I.	Atherosclerosis	doi: 10.1016/j.atherosclerosis.2021.01.022.	2021/2	320		79	85	有		東京大学	[7]予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	R2
281	Integrated bulk and single-cell RNA-sequencing identified disease-relevant monocytes and a gene network module underlying systemic sclerosis	Satomi Kobayashi	J Autoimmun.	https://doi.org/10.1016/j.jaut.2020.102547	2021/1	116		102547				東京大学	[9]ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2

282	The Association Between Hemoglobin Upswing in the Reference Range and Sleep Apnea Syndrome	Hirota Miyashita, Thomas Svensson, Masahiro Nakamura, Akiko Kishi Svensson	Sleep and Vigilance	https://doi.org/10.1007/s41782-020-00093-6	2020	4	2	205	212	有	有	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R2
283	eHealth Delivery of Educational Content Using Selected Visual Methods to Improve Health Literacy on Lifestyle-Related Diseases: Literature Review	Aida A, Svensson T, Svensson AK, Ung-il Chung, Toshimasa Yamauchi	JMIR Mhealth Uhealth	10.2196/18316	2020/8	8	12	e18316		有		東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R2
284	Using mHealth to Provide Mobile App Users With Visualization of Health Checkup Data and Educational Videos on Lifestyle-Related Diseases: Methodological Framework for Content Development	Azusa Aida, Thomas Svensson, Akiko Kishi Svensson, Hirokazu Urushiyama, Kazuya Okushin, Gaku Oguri, Naoto Kubota, Kazuhiko Koike, Masaomi Nangaku, Takashi Kadowaki, Toshimasa Yamauchi, Ung-il Chung	JMIR Mhealth Uhealth	10.2196/20982	2020/8	8	10	e20982		有		東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R2
285	The association between habitual sleep duration and mortality according to sex and age: the Japan Public Health Center-based Prospective Study	Thomas Svensson, Manami Inoue, Eiko Saito, Norie Sawada, Hiroyasu Iso, Tetsuya Mizoue, Atsushi Goto, Taiki Yamaji, Taichi Shimazu, Motoki Iwasaki, and Shoichiro Tsubane	Journal of Epidemiology	https://doi.org/10.2188/jea.E20190210	2021	31	2	109	118	有	有	国立がん研究センター(東京大学)	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R2
286	Could automated machine-learning MRI grading and epidemiological studies of lumbar spinal stenosis? Validation within the Wakayama Spine Study.	Ishimoto Y, Jamaludin A, Cooper C, Walker-Bone K, Yamada H, Hashizume H, Oka H, Tanaka S, Yoshimura N, Yoshida M, Urban J, Kadir T, Fairbank J	BMC Musculoskelet Disord	10.1186/s12891-020-3164-1	2020/03	21	1	158	158	有	有		【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R2
287	The incidence and risk factors for adjacent vertebral fractures in community-dwelling people with prevalent vertebral fracture: the 3rd and 4th survey of the ROAD study.	Horii C, Asai Y, Iidaka T, Muraki S, Oka H, Tsutsui S, Hashizume H, Yamada H, Yoshida M, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T, Oshima Y, Tanaka S, Yoshimura N	Arch Osteoporos	10.1007/s11657-020-00747-y.	2020/05	15	1	74	74	有	有		【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R2
288	Incidence rate and risk factors for radiographic osteoarthritis in Japanese men and women. A 10-year follow-up of the ROAD study.	Iidaka T, Muraki S, Oka H, Horii C, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T, Tanaka S, Yoshimura N	Osteoarthritis Cartilage	10.1016/j.joca.2019.09.006	2020/02	28	2	182	188	有	有		【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R2
289	Cervical muscle diseases are associated with indefinite and various symptoms in the whole body.	Matsui T, Hara K, Kayama T, Iwata M, Shitara N, Hojo S, Endo Y, Fukuoka H, Yoshimura N, Kawaguchi H	Eur Spine J	10.1007/s00586-019-06233-5	2020/05	29	5	1013	1021	有	有		【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R2

290	Are Japanese older adults rejuvenating? Changes in health-related measures among older community dwellers in the last decade.	Suzuki T, Nishita Y, Jeong S, Shimada H, Otsuka R, Kondo K, Kim H, Fujiwara Y, Awata S, Kitamura A, Obuchi S, Iijima K, Yoshimura N, Watanabe S, Yamada M, Toba K, Makizako H	Rejuvenation Res	10.1089/vej.2019.2291	2020/07	24	1	37	48	有	有		【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2
291	Prevalence of cervical anterior and posterior spondylolisthesis and its association with degenerative cervical myelopathy in a general population.	Murakami K, Nagata K, Hashizume H, Oka H, Muraki S, Ishimoto Y, Yoshida M, Tanaka S, Minamide A, Nakagawa Y, Yoshimura N, Yamada H	Sci Rep	10.1038/s41598-020-67239-4	2020/06	10	1	10455	10455	有	有		【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2
292	Trends in the prevalence of frailty in Japan: A meta-analysis from the ILSA-J.	Makizako H, Nishita Y, Seungwon J, Otsuka R, Shimada H, Iijima K, Obuchi S, Kim H, Kitamura A, Ohara Y, Awata S, Yoshimura N, Yamada M, Toba K, Suzuki T	The Journal of Frailty & Aging	org/10.14283/jfa.2020.68	2020/12					有	有		【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2
293	Prevalence and associated factors of pistol grip deformity in a Japanese population: The ROAD Study.	Taniguchi T, Harada T, Iidaka T, Hashizume H, Taniguchi W, Oka H, Asai Y, Muraki S, Akune T, Nakamura K, Kawaguchi H, Yoshida M, Tanaka S, Yamada H, Yoshimura N	Scientific Reports		2021/3/16	11	6025						【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2
294	Similarity in Linear Viscoelastic Behaviors of Network Formation and Degradation Processes	Takuya Katashima, Ryo Kagami, Ung-il Chung, Takamasa Sakai	Nihon Reoroji Gakkaishi	10.1678/rheology.48.191	2020/12	48	4	191	198	有		東京大学	【R2W06】日帰りでの社会復帰が可能な網膜剥離治療を目指した親水性眼内充填材の開発と手術応用に向けた基盤研究	R2
295	Mixing and Elastic Contributions to the Diffusion Coefficient of Polymer Networks	Junhyuk Kim, Takeshi Fujiyabu, Naoyuki Sakumichi, Takuya Katashima, Yuki Yoshikawa, Ung-il Chung, Takamasa Sakai	Macromolecules	10.1021/acs.macromol.0c01427	2020/9	53	18	7717	7725	有		東京大学	【R2W06】日帰りでの社会復帰が可能な網膜剥離治療を目指した親水性眼内充填材の開発と手術応用に向けた基盤研究	R2
296	Swelling Behaviors of Hydrogels with Alternating Neutral/Highly Charged Sequences	Jian Tang, Takuya Katashima, Xiang Li, Yoshiro Mitsuami, Yuki Yokoyama, Naoyuki Sakumichi, Ung-il Chung, Mitsuhiro Shibayama, Takamasa Sakai	Macromolecules	10.1021/acs.macromol.0c01221	2020/10	53	19	8244	8254	有		東京大学、日本触媒、CROSS中性子科学センター	【R2W06】日帰りでの社会復帰が可能な網膜剥離治療を目指した親水性眼内充填材の開発と手術応用に向けた基盤研究	R2
297	Effect of Nonlinear Elasticity on the Swelling Behaviors of Highly Swollen Polyelectrolyte Gels	Jian Tang, Takuya Katashima, Xiang Li, Yoshiro Mitsuami, Yuki Yokoyama, Naoyuki Sakumichi, Ung-il Chung, Mitsuhiro Shibayama, Takamasa Sakai	Gels	10.3390/gels7010025	2021/3	7	1	25	38	有		東京大学、日本触媒、CROSS中性子科学センター	【R2W06】日帰りでの社会復帰が可能な網膜剥離治療を目指した親水性眼内充填材の開発と手術応用に向けた基盤研究	R2

298	Stereotactic Navigation System for Laparoscopic Lateral Pelvic Lymph Node Dissection	Kentarō Ochiai, Etsuko Kobayashi, Hiroyuki Tsukihara, Hiroaki Nozawa, Kazushige Kawai, Kazuhito Sasaki, Koji Muroono, Soichiro Ishihara, Ichiro Sakuma	Diseases of the Colon & Rectum	10.1097/DCR.0000000000002049	2021/3	64	6	e372	e377	有	有	東京大学, 北京航空航天大学	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合による Image-Guided Treatment (IGT)の実現	R2
299	Adipose-derived stem cells improve tendon repair and prevent ectopic ossification in tendinopathy by inhibiting inflammation and inducing neovascularization in the early stage of tendon healing	Saeko Kokubu, Ryoko Inaki, Kazuto Hoshi, Atsuhiko Hikita	Regenerative Therapy	10.1016/j.jreth.2019.12.003	2020/06	14		103	110	有		東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチド/ハイドロゲルによる、口腔・顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	R2
300	Unique gut microbiome in HIV patients on ART suggests association with chronic inflammation	Ishizaka A, Koga M, Mizutani T, Parbie P, Prawisuda D, Yusa N, Sedohara A, Kikuchi T, Ikeuchi K, Adachi E, Koibuchi T, Furukawa Y, Tojo A, Imoto S, Suzuki Y, Tsutsumi T, Kiyono H, Matano T, Yotsuyanagi H.	Microbiology Spectrum	10.1128/Spectrum.00708-21	2021/8					有		東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R3
301	Immunogenomic pan-cancer landscape reveals immune escape mechanisms and immunoediting histories	Mizuno S, Yamaguchi R, Hasegawa T, Hayashi S, Fujita M, Zhang F, Koh Y, Lee S-Y, Yoon S-S, Shimizu E, Komura M, Fujimoto A, Nagai M, Kato M, Liang H, Miyano S, Zhang Z, Nakagawa H, Imoto S.	Scientific Reports	10.1038/s41598-021-95287-x	2021/7								【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R3
302	Circulating cell-free DNA in the peripheral blood plasma of patients is an informative biomarker for multiple myeloma relapse	Yasui H, Kobayashi M, Sato K, Kondoh K, Ishida T, Kaito Y, Tamura H, Honda H, Tsukune Y, Sasaki M, Komatsu N, Tanaka N, Tanaka J, Kizaki M, Kawamata T, Makiyama J, Yokoyama K, Imoto S, Tojo A, Imai Y.	International Journal of Clinical Oncology	10.1007/s10147-021-01991-z									【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R3
303	Combined landscape of single-nucleotide variants and copy number alterations in clonal hematopoiesis	Saiki R, Momozawa Y, Nannya Y, Nakagawa M, Ochi Y, Yoshizato T, Terao C, Kuroda Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Niida A, Imoto S, Matsuda K, Morisaki T, Murakami Y, Kamatani Y, Matsuda S, Kubo M, Miyano S, Makishima H, Ogawa S	Nature Medicine	10.1038/s41591-021-01411-9									【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R3
304	Mapping the human genetic architecture of COVID-19	COVID-19 Host Genetics Initiative	Nature	10.1038/s41586-021-03767-x									【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R3

305	Assessment of Oral Mucosa-CTB vaccine for the safety and microbiota-dependent immunogenicity in humans: A Randomized Trial.	Yuki Y, Nojima M, Hosono O, Tanaka H, Kimura Y, Satoh T, Imoto S, Uematsu S, Kurokawa S, Kashima S, Mejima M, Nakahashi-Ouchida R, Uchida Y, Marui T, Yoshikawa N, Nagamura F, Fujihashi K, Kiyono H.	The Lancet Microbe	10.1016/S2666-5247(20)30196-8														[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解[5]全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	R3
306	HEAL: an automated deep learning framework for cancer histopathology image analysis.	Wang Y, Coudray N, Zhao Y, Li F, Hu C, Zhang YZ, Imoto S, Tsurigao A, Webb GL, Daly RJ, Song J.	Bioinformatics	10.1093/bioinformatics/btab380														[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解[5]全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	R3
307	Application of targeted nanopore sequencing for the screening and determination of structural variants in patients with Lynch syndrome	Yamaguchi K, Kasajima R, Takane K, Hatakeyama S, Shimizu E, Yamaguchi R, Katayama K, Arai M, Ishioka C, Iwama T, Kaneko S, Matsubara N, Moriya Y, Nomizu T, Sugano K, Tamura K, Tomita N, Yoshida T, Sugihara K, Nakamura Y, Miyano S, Imoto	J Hum Genet	10.1038/s10038-021-00927-9														[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解[5]全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	R3
308	Dysbiotic fecal microbiome in HIV-1 infected individuals in Ghana	Parbie PK, Mizutani T, Ishizaka A, Kawana-Tachikawa A, Runtuwene LR, Seki S, Abana C Z-Y, Kushitor D, Bonney EY, Ofori SB, Uematsu S, Imoto S, Kimura Y, Kiyono H, Ishikawa K, Kwabena W, Matano T.	Frontiers in Cellular and Infection Microbiology	10.3389/fcimb.2021.646467														[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解[5]全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	R3
309	Role of Circulating Tumor DNA in Hematological Malignancy	Miho Ogawa, Kazuaki Yokoyama, Seiya Imoto, Arinobu Tojo	Cancers	doi.org/10.3390/cancers13092078	2021/4/25	13	9				有					東京大学		[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解 [R2W11]白血病における第三世代液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R3
310	Enhancing breakpoint resolution with deep segmentation model: a general refinement method for read-depth based structural variant callers.	Zhang Y-Z, Imoto S, Miyano S, Yamaguchi R.	PLoS Computational Biology	10.1371/journal.pcbi.1009186	2021/10/11						有							[4]全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R3
311	Evaluation of emotional arousal level and depression severity using voice-derived sound pressure change acceleration.	Shinohara S, Toda H, Nakamura M, Omiya Y, Higuchi M, Takano T, Saito T, Tanichi M, Boku S, Mitsuyoshi S, So M, Yoshino A, Tokuno S.	Sci Rep	10.1038/s41598-021-92982-7	2021/11	11					有					東京大学、PST		[6]音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R3
312	Depressive Mood Assessment Method Based on Emotion Level Derived from Voice: Comparison of Voice Features of Individuals with Major Depressive Disorders and Healthy Controls.	Shinohara S, Nakamura M, Omiya Y, Higuchi M, Hagiwara N, Mitsuyoshi S, Toda H, Saito T, Tanichi M, Yoshino A, Tokuno S	Int. J. Environ. Res. Public Health	10.3390/ijerph18105435	2021/11	18	10				有					東京大学、PST		[6]音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R3

313	Computational identification of variables in neonatal vocalizations predictive for postpubertal social behaviors in a mouse model of 16p11.2 deletion	Nakamura M, Ye K, Silva BM, Yamauchi T, Hoepfner DJ, Fayyazuddin A, Kang G, Yuda AE, Nagashima M, Enomoto S, Hiramoto T, Sharp R, Kaneko I, Tajinda K, Adachi M, Mihara T, Tokuno S, Geyer AM, Broin OP, Matsumoto M, Hiroi N	Mol Psychiatry	10.1038/s41380-021-01089-y	2021/4					有	有	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R3
314	Association of Blood Pressure Classification Using the 2017 American College of Cardiology/American Heart Association Blood Pressure Guideline With Risk of Heart Failure and Atrial Fibrillation.	Kaneko H, Yano Y, Itoh H, Morita K, Kiriya H, Kamon T, Fujiu K, Michihata N, Jo T, Takeda N, Morita H, Node K, Carey RM, Lima JAC, Oparil S, Yasunaga H, Komuro I.	Circulation	doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.120.052624.	2021/6	143	23	2244	2253	有		東京大学	【7】予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	R3
315	Risk Factors and Lifestyles in the Development of Atrial Fibrillation Among Individuals Aged 20–39 Years	Itoh H, Kaneko H, Kiriya H, Kamon T, Fujiu K, Morita K, Yotsumoto H, Michihata N, Jo T, Takeda N, Morita H, Yasunaga H, Komuro I.	Am J Cardiol	doi: 10.1016/j.amjcard.2021.06.010.	2021/9	155		40	44	有		東京大学	【7】予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	R3
316	Identifying the most influential gene expression profile in distinguishing ANCA-associated vasculitis from healthy controls	Haruyuki Yanaoka, Yasuo Nagafuchi, Norio Hanata, Yusuke Takeshima, Mineto Ota, Yuichi Suwa, Harumi Shirai, Yusuke Sugimori, Mai Okubo, Satomi Kobayashi, Hiroaki Hatano, Saeko Yamada, Yumi Tsuchida, Yukiko Iwasaki, Shuji Sumitomo, Hirofumi Shoda, Masato Okada, Tomohisa Okamura, Kazuhiko	J Autoimmun	10.1016/j.jaut.2021.102617	2021/5	119		102617		有		東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R3
317	Dynamic landscape of immune cell-specific gene regulation in immune-mediated diseases	Mineto Ota, Yasuo Nagafuchi, Hiroaki Hatano, Kazuyoshi Ishigaki, Chikashi Terao, Yusuke Takeshima, Haruyuki Yanaoka, Satomi Kobayashi, Mai Okubo, Harumi Shirai, Yusuke Sugimori, Junko Maeda, Masahiro Nakano, Saeko Yamada, Ryochi Yoshida, Haruka Tsuchiya, Yumi Tsuchida, Shuji Akizuki, Hajime Yoshifuji, Koichiro Ohmura, Tsuneyo Mimori, Ken Yoshida, Daitaro Kurosaka, Masato Okada, Keigo Setoguchi, Hiroshi Kaneko, Nobuhiro Ban, Nami Yabuki, Kosuke Matsuki, Hiroyuki Mutoh.	Cell	10.1016/j.cell.2021.03.056	2021/5	184	11	3006	3021	有		東京大学、中外製薬	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R3
318	Associations of Work-related Stress and Total Sleep Time with Cholesterol Levels in an Occupational Cohort of Japanese Office Workers	Meguro K, Svensson T, ChungChung UL, Svensson AK.	Journal of Occupational Health	Accepted on 2021.08.10						有	有	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R3

319	Claims-based algorithms for common chronic conditions were efficiently constructed using machine learning methods.	Hara K, Kobayashi Y, Tomio J, Ito Y, Svensson T, Ikesu R, Chung UI, Svensson AK.	PLoS One	https://doi.org/10.1371/journal.pone.0254394	2021/9	16	9			有	有	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R3
320	Association of Sleep Duration With All- and Major-Cause Mortality Among Adults in Japan, China, Singapore, and Korea.	Svensson T, Saito E, Svensson AK, Melander O, Orho-Melander M, Mimura M, Rahman S, Sawada N, Koh WP, Shu XO, Tsuji I, Kanemura S, Park SK, Nagata C, Tsugane S, Cai H, Yuan JM, Matsuyama S, Sugawara Y, Wada K, Yoo KY, Chia KS, Boffetta P.	JAMA Netw Open	10.1001/jamanetworkopen.2021.22837	2021/9	4	9			有	有	国立がんセンター(東京大学)	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R3
321	Association of managerial position with cardiovascular risk factors: A fixed-effects analysis for Japanese employees	Ikesu R, Miyawaki A, Svensson AK, Svensson T, Kobayashi Y, Chung UI.	Scandinavian journal of work, environment & health	10.5271/sjweh.3966	2021/9	47	6	425	434	有	有	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R3
322	An Agent-Based Model of the Local Spread of SARS-CoV-2: Modeling Study.	Staffini A, Svensson AK, Chung U-I, Svensson T.	JMIR Med Inform.	10.2196/24192	2021/4	9	4			有	有	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R3
323	Knee osteoarthritis and time-to-all-cause mortality in six community-based cohorts: an international meta-analysis of individual participant-level data	Leyland KM, Gates LS, Nevitt M, Felson D, Jones G, Jordan JM, Judge A, Sanchez-Santos MT, Sheard S, Yoshimura N, Newton J, Cooper C, Lin J, Liu Q, Collins G, Altman D, Arden NK, and the PCCOA steering committee	Aging Clin Exp Res	10.1007/s40520-020-01762-2.	2021/03	33	3	529	545	有	有		【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3
324	A Metabolomic profile predictive of new osteoporosis or sarcopenia development.	Miyamoto K, Hirayama A, Sato Y, Ikeda S, Maruyama M, Soga T, Tomita M, Yoshimura N, Miyamoto T	Metabolites	10.3390/metabo11050278.	2021/04	11	5	278		有	有		【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3
325	Dietary Intake of Vitamin E and Fats Associated with Sarcopenia in Community-Dwelling Older Japanese People: A Cross-Sectional Study from the Fifth Survey of the ROAD Study.	Otsuka Y, Iidaka T, Horii C, Muraki S, Oka H, Nakamura K, Izumo T, Rogi T, Shibata H, Tanaka S, Yoshimura N	Nutrients	10.3390/nu13051730.	2021/05	13	5	1730		有	有		【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3

COIプログラム 終了報告書 別紙2 活動実績一覧

拠点名: V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核: 東京大学)

⑪-3 その他著作物(総説、書籍など)

No	著作物の 種別	論文表題	著者名	記載誌名	DOI	発行年月	巻	号	掲載ページ (始)	掲載ページ (終)	査読有無	国際共著	発表機関 (参画機関のみ)	備考 (課題番号等)	年度
1	書籍	神里彩子・武藤香織編「医学・生命科学の研究倫理ハンドブック」, 東京大学出版会, 2015.													H27
2	総説	【医工学の進歩の最前線】音声病態分析学	徳野慎一	細胞		2016/11	48	14	673	376		国内	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
3	書籍	高井まどか、堀池靖浩、在宅医療市場に向けたマーケティングと製品開発 第10章 在宅で使用される診断・検査機器の開発と課題 第5節 在宅診断を目指した血液分析・ヘルスケアチップの開発、技術情報協会、p.420-426, 2017年			なし							国内	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H29
4	総説	Atsuhiko Hikita, Ung-il Chung, Kazuto Hoshi and Tsuyoshi Takato, "Bone regenerative medicine in oral and maxillofacial region using a three-dimensional printer, Tissue Engineering Part A, vol.23, No. 11-12, pp. 515-521, 2017			org/10.1089/tentea.2016.0543							国際	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H29
5	総説	Eiichi Nakamura, "Atomic-Resolution Transmission Electron Microscopic Movies for Study of Organic Molecules, Assemblies, and Reactions: The First 10 Years of Development", Acc. Chem. Res., vol.50, No.6, pp.1281-1292, 2017			10.1021/acs.accounts.7b00076							国際	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
6	総説	Rui Shang, Laurean Ilies, and Eiichi Nakamura, "Iron-Catalyzed C-H Bond Activation", Chem. Rev., vol.117, No.13, pp.9086-9139, 2017			10.1021/acs.chemrev.6b00772							国際	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
7	総説	Hiroaki Maeda, Ryota Sakamoto, Hiroshi Nishihara, "Interfacial synthesis of electrofunctional coordination nanowires and nanosheets of bis(terpyridine) complexes", Coord. Chem. Rev., vol. 346, No. 1, pp.139-149, 2017.			10.1016/j.ccr.2017.02.013							国際	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H29
8	総説	大江和彦、倉沢 央 糖尿病診療マスター2017年										国内	東京大学 NTT	【21】電子カルテに含まれる医療データ分析	H29
9	総説	脇 嘉代、倉沢 央 医学のあゆみ 264巻2号										国内	東京大学 NTT	【21】電子カルテに含まれる医療データ分析	H29
10	総説	医療白書2017-2018年度版										国内	東京大学 NTT	【21】電子カルテに含まれる医療データ分析	H29
11	総説	小川弥穂、横山和明、東條有伸 人工知能の臨床応用-血液疾患-日本病院薬剤師会雑誌,2018,54(2):151-155.										国内	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
12	総説	横山和明、東條有伸 血液がんの臨床シークエンスにおける人工知能Watsonの活用. 医学のあゆみ 2017; 263巻8号,pp.647-651.										国内	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
13	総説	横山和明、東條有伸 人口知能を用いた臨床シークエンス. 腫瘍内科 2017; 19巻4号,pp.467-472.										国内	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
14	総説	中村聡介、横山和明 人工知能Watsonを用いた疾患診断. 感染症免疫 2017 47巻4号; pp.324-326.										国内	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29

15	総説	東條有伸:がんを中心とする疾患ゲノム研究における人工知能の可能性と課題. BIO CLINICA 32(6):29-32, 2017												国内	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
16	総説	東條有伸:人工知能を応用した造血器腫瘍の臨床シークエンス. 血液内科 75(1):93-7, 2017												国内	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
17	総説	小林真之、東條有伸:人工知能(AI)と臨床シークエンス. 血液フロンティア 27(8):80-3, 2017												国内	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
18	総説	宮野悟「人工知能の臨床活用」-「Watson」による診断支援、今日の治療方針2018、医学書院												国内	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
19	総説	古川洋一「遺伝性腫瘍への取り組み」ドクターサロン vol 61:56-59, 2017				なし								国内	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
20	書籍	Tokuno, S. "Pathophysiological Voice Analysis for Diagnosis and Monitoring of Depression. Understanding Depression" (pp. 83-95). Springer, Singapore. (2018).				10.1007/978-981-10-6577-4_6								国際	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
21	書籍	Kosuke Fujimoto and Satoshi Uematsu. Mucosal Vaccines: Innovation for Preventing Infectious Diseases, 2nd edition. Chapter 2: Innate immunity at mucosal surfaces												国際	千葉大学、東京大学	【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
22	総説	Kurashima Y, Yamamoto D, Nelson S, Uematsu S, Ernst PB, Nakayama T, Kiyono H. Mucosal Mesenchymal Cells: Secondary Barrier and Peripheral Educator for the Gut Immune System. Front Immunol. 2017 Dec 13:8:1787.				doi: 10.3389/fimmu.2017.01787.								国際	千葉大学、東京大学	【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
23	総説	武村直紀、植松智、「放射線による腸上皮バリア破壊における自然免疫の役割」、実験医学増刊号、35p.121-126、2017												国内	千葉大学、東京大学	【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
24	総説	藤本康介、植松智、「腸内真菌叢の解析」、『医学のあゆみ』、医歯薬出版株式会社、264巻2号、2018												国内	千葉大学、東京大学	【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
25	総説	藤本康介、植松智、「ワクチンアジュバントと粘膜ワクチンの基盤となる自然免疫細胞解析」、『医学のあゆみ』、医歯薬出版株式会社、264巻5号、2018												国内	千葉大学、東京大学	【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
26	総説	藤本康介、植松智、「6.腸内細菌からみて」、『糖尿病の最新治療』、フジメディカル出版、Vol.9 No.3、2018												国内	千葉大学、東京大学	【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
27	解説	脇嘉代「ICT(情報通信技術)と糖尿病の管理」、さかえ:月刊糖尿病ライフ、57(12):44-48, 2017												国内	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H29
28	解説	脇嘉代「糖尿病診療 今後の展望-next decade、ICTを活用した糖尿病自己管理支援システム 今後の展望」、糖尿病診療マスター、15(12):1048-1053, 2017.												国内	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H29

29	解説	木村滋子、臨嘉代”生活習慣病における食事管理とヘルスケアアプリの活用”、医学のあゆみ、263(10):869-874、2017													国内	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H29
30	解説	臨嘉代”2型糖尿病・糖尿病予備群対象自己管理支援システム” GlucoNote(グルコノート)””、地域ケアリング、2017年12月号、北陸館													国内	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H29
31	解説	臨嘉代”腎泌尿器治療における医工学連携、情報通信技術を用いた患者管理システム スマートフォンを活用した自己管理支援システム”、腎臓内科・泌尿器科、(2188-9147)5巻5号:443-448、2017.													国内	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H29
32	総説	声で気持ちを計測する	徳野慎一	CLINICAL NEUROSCIENCE		2018/10	36	10	1238	1239					東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30	
33	書籍	Pathophysiological Voice Analysis for Diagnosis and Monitoring of Depression	Tokuno S	Understanding Depression		2018/5			83	95					東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30	
34	その他	緊急事態におけるストレスの把握方法: 音声によるストレスモニタリング	徳野慎一	Global vision= グローバルヴィジョン		2018/5	198		10	13					東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30	
35	その他	ナースにとってのストレスチェックの最新技術	徳野慎一	月刊ナーシング		2015/7	35	9	67	76					東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30	
36	書籍	感情の認識 ～音声による感情と病態の分析(「音声病態分析学」からの視点)～	光吉俊二	進化するヒトと機械の音声コミュニケーション		2015/5									東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30	
37	総説	小川弥穂、横山和明、”臨床シークエンス” 医薬ジャーナル vol.54, No.5, pp123～126、2018													国内	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	H30
38	総説	東條有伸、”プレシジョン・メディシンに及ぼす人工知能のインパクト” 臨床病理 vol. 66. No.8, pp876-881、2018													国内	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	H30
39	総説	東條有伸、”AIがもたらすがんのプレシジョン・メディシン” ファルマシア vol. 54, No. 9, pp879-881、2018													国内	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	H30
40	書籍	Pathophysiological Voice Analysis for Diagnosis and Monitoring of Depression. Tokuno, S. Understanding Depression (pp. 83-95). Springer, Singapore. (2018).			10.1007/978-981-10-6577-4_6										国際	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
41	書籍	康永秀生、健康の経済学—医療費を節約するために知っておきたいこと、中央経済社、2018													国内	東京大学	【7】予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	H30

42	書籍	康永秀生、すべての医療は「不確実」である、NHK出版新書567、2018年													国内	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H30
43	書籍	「研究開発俯瞰報告書 ライフサイエンス・臨床医学分野(2019年)」第2章 俯瞰区分と研究開発領域」の一部。													国内	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H30
44	総説	血液がんのプレジジョン・メディシンにおけるAI活用の試み	横山 和明	臨床血形	in press	2453/1/23								有		東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
45	総説	人工知能を用いた臨床ゲノム解析	井元 清哉	実験医学		2452/10/21	37	16	2678	2683			無			東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
46	その他	A mind monitoring system: Voice analysis technology	Tokuno S	Open Access Government		2453/1/20			196	197			無			東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
47	その他	Further developing voice analysis technology capable of detecting changes in vocal patterns which signal changes in stress levels and depressive symptoms	Tokuno S	Impact		2019/6	2019	6	43	45						東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
48	その他	2Healthcare early detection technology: Voice analysis technology	Tokuno S	Open Access Government		2019/10			58	59			無			東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
49	書籍	超人門! スラスラわかるリアルワールドデータで臨床研究	康永 秀生, 田上	金芳堂	ISBN-13: 978-4765317894	2019/08										東京大学	【7】予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	R1
50	書籍	超絶解説 医学論文の難解な統計手法が手に取るようにわかる本	康永 秀生, 山名	金原出版	ISBN-13: 978-4307004879	2019/11										東京大学	【7】予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	R1
51	総説	医療ビッグデータ研究の最前線	康永秀生	社会保険旬報		2019/04			2743	14	23					東京大学	【7】予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	R1
52	総説	これからのIoT動向、Precision Healthのゆくえ	中村正裕	Journal of Internet of Medical Things		2019/07	2	1	52	54			無			東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証。 【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R1
53	総説	アカデミア発の疾患発症予防分野でのICT化と開発背景	岸 暁子	Journal of Internet of Medical Things		2019/07	2	1	24	28			無			東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証。 【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R1
54	総説	わが国における運動器疾患の疫学研究 大規模コホートROAD STUDYより	吉村典子	化学と生物		2019/11	57	11	692	696						東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
55	総説	高齢者の健康 ロコモティブシンドロームを中心に	吉村典子	医学のあゆみ		2019/12	271	10	1067	1070						東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1

56	総説	要介護原因疾患の疫学 住民コホートROADスタディより	吉村典子	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine		2019/11	56	11	888	891				東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
57	総説	サルコペニア・フレイルの疫学	吉村典子	日本医師会雑誌		2019/11	148	8	1479	1482				東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
58	総説	変形性膝関節症の疫学 ROADスタディより	吉村典子	関節外科		2019/06	38	6	550	554				東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
59	総説	骨粗鬆症とサルコペニア	吉村典子	医学のあゆみ		2019/10	271	3	271	274				東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
60	総説	骨粗鬆症の疫学 地域住民コホートROADスタディより	吉村典子	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine		2019/05	56	5	344	348				東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
61	総説	(第3章)傍脊柱筋の病態 加齢に伴う傍脊柱筋質性と脊柱アライメント変化の疫学 大規模住民調査の結果より	吉村典子	脊椎脊髄ジャーナル		2019/04	32	4	407	412				東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
62	総説	腫瘍由来循環DNAによる同種造血幹細胞移植後微小残存病変の評価	横山和明	EBM 血液疾患の治療 2021-2022	ISBN978-4-498-22524-4	2021/01			591	602	無			東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
63	総説	Data science and precision healthcare	moto S, Hasegawa	Nutrition Reviews	10.1093/nutrit/nuaa110	2020/11/26	78	3	175	53	有			東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシークエンス解析	R2
64	総説	AI技術を用いたゲノム医療へ	井元清哉	医学のあゆみ(医歯薬出版)		2020/8/1					無			東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
65	総説	次世代のゲノム医療に向けた新次元ゲノミクス	井元清哉	Precision Medicine		2020/11/1					無			東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シークエンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
66	その他	Technology focus: Social impact analysis using voice biomarkers	Tokuno S	Open Access Government		2453/1/29			184	185	無			東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
67	その他	Life events and voice biomarkers: Voice analysis technology	Tokuno S	Open Access Government		2453/1/26			266	267	無			東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
68	その他	Ageing: Detection of cognitive impairment using voice analysis technology	Tokuno S	Open Access Government		2453/1/23			256	257	無			東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
69	その他	A mind monitoring system: Voice analysis technology	Tokuno S	Open Access Government		2453/1/20			196	197	無			東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
70	書籍	経済学を知らずに医療ができるか? 医療従事者のための医療経済学入門	康永秀生	金芳堂	ISBN-13 : 978-4765318341	2453/1/27					無			東京大学	【7】予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	R2

71	総説	【腰痛とロコモ】PI-LL(PIマイナスLL)と腰痛	橋爪洋、浅井宣博	Loco Cure		1905/7/12	6	2	127	131				東京大学	【13】地域住民長期 追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの 開発	R2
72	総説	フレイル、サルコペニアとロコモティブシ ンドローム 住民コホートROADスタ ディより	吉村典子	糖尿病・代謝内科		1905/7/12	50	6	469	475				東京大学	【13】地域住民長期 追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの 開発	R2
73	総説	【骨粗鬆症のすべて】(第12章)関節疾患 と骨粗鬆症 変形性関節症と骨粗鬆症	吉村典子	糖尿病・代謝内科		1905/7/12	51	suppl. 5	255	259				東京大学	【13】地域住民長期 追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの 開発	R2
74	総説	高齢者の健康:ロコモティブシンドローム を中心に	吉村典子	別冊医学のあゆみ		1905/7/12			43	48				東京大学	【13】地域住民長期 追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの 開発	R2
75	総説	【ロコモティブシンドロームと痛み】運動器 の痛みの疫学	吉村典子	ペインクリニック		1905/7/12	41	7	862	871				東京大学	【13】地域住民長期 追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの 開発	R2
76	総説	【運動器の健康「ロコモ新判断基準」】ロ コモ度3策定 ロコモとフレイル、サルコ ペニア	吉村典子	クリンシアン		1905/7/12	67	8-9	822	830				東京大学	【13】地域住民長期 追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの 開発	R2
77	総説	ロコモティブシンドローム、フレイル、サル コペニアの性差	吉村典子	Geriatric Medicine		2021.01	59	1	49	54				東京大学	【13】地域住民長期 追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの 開発	R2
78	総説	腫瘍由来循環DNAによる同種造血幹細胞 移植後微小残存病変の評価	横山和明	EBM 血液疾患の治療 2021-2022	ISBN978-4-498-22524-4	2453/4/30			591	602	無			東京大学	【R2W11】白血病にお ける第三世代液体生 検の社会実装に向け た基盤研究	R2
79	総説	音声からみたストレスの指標	徳野慎一	CLINICAL NEUROSCIENCE		2021/6	39	6	714	717				東京大学	【6】音声病態分析に よる精神・神経疾患 領域における未病対 策と発病早期発見の システムの構築	R3
80	書籍	そろそろ医療の費用対効果を考えてみ ませんか？ 医療関係者のための医療 経済評価入門	康永秀生	中外医学社	ISBN-13 : 978-4498148024	2453/5/7					無			東京大学	【7】予防ビジネスに おける医療経済性評 価研究	R3
81	総説	ロコモアップデート:フレイル、サルコペ ニアとの関連性:住民コホートROADスタ ディより	吉村典子	臨床雑誌整形外科		2021.05	72	6	508	512				東京大学	【13】地域住民長期 追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの 開発	R3
82	総説	住民コホートによる評価: ROADスタ ディ	吉村典子	臨床雑誌整形外科		2021.05	72	6	614	618				東京大学	【13】地域住民長期 追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの 開発	R3
83	総説	早期変形性膝関節症の疫学	吉村典子	関節外科		2021.07	40	7	741	744				東京大学	【13】地域住民長期 追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの 開発	R3
84	総説	日本人高齢者における骨・筋・関節疾患 の疫学	吉村典子	老年病科		2021.05	3	5	632	638				東京大学	【13】地域住民長期 追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの 開発	R3
85	総説	疾患とロコモ 骨粗鬆症と脊椎椎体骨折 日本の疫学と身体機能との関連(ROAD スタディより)	堀井干彬、田中	整形外科		2021.05	72	6	704	707				東京大学	【13】地域住民長期 追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの 開発	R3
86	総説	Rheological studies on polymer networks with static and dynamic crosslinks	Takuya Katashim y	Polymer Journal	10.1038/s41428-021-00505- y	2021/06	53		1073	1082	有		The University of Tokyo	【R03W05】新規親水 性眼内充填材による 日帰り網膜剥離手術 への応用と病態理解 に基づく予防に向け た学際的基盤研究	R3	

COIプログラム 終了報告書 別紙2 活動実績一覧

拠点名: V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核: 東京大学)

⑫-1 発表(口頭発表)

No	発表者	タイトル	学会名等	場所	年月日	発表機関 (参画機関のみ)	備考 (課題番号等)	年度
1	吉野 正紀、金 太一、斉藤 季、中川 大地、中富 いた	手術シミュレーションと術中支援」第37回CI学会	浩文、小山 博史、斉藤 延人 2014年 2月28日～3月1日	「融合3次元画像を用		東京大学	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合によるImage-Guided Treatment (IGT) の実現	H25
2	3. Kataoka K, Taoka K, Miyauchi M, Hosoi M, Kumano K, Arai S, Toyama K, Nagae G, Wei Q, Morishita S, Aburatani H, Kurokawa M. Modeling chronic myelomonocytic leukemia through patient-derived induced pluripotent stem cells. 55th ASH Annual Meeting and Exposition. New Orleans, LA, December 7-10, 2013.					東京大学	【20】多能性幹細胞の次世代がん治療への応用法の開発【20】多能性幹細胞の次世代がん治療への応用法の開発	H25
3	高田 健司、片桐 俊介、Yi Shi Ting, 神戸 徹也、坂本 良太、西原 寛、「ビステルピリジン金属錯体ナノシートの合成とエレクトロクロミズム」、錯体化学会第63回討論会、2Ab-17, 2013年11月3日(西原町(沖縄県中頭郡), 琉球大学 千原キャンパス)					東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H25
4	Peptide Therapeutics Symposium, La-Jolla, USA, 10/24, 2013						【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新【30】重症薬疹治療薬の開発	H25
5	Gordon Research Conference, Peptides, Chemistry & Biology of: Peptide Science in the Era of Synthetic Biology, San Buenaventura, USA, 2/23, 2014						【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新【30】重症薬疹治療薬の開発	H25
6	光吉俊二	音声から病気の早期発見を可能にする技術 音声病態分析	電子情報通信学会2015年総合大会	滋賀	42075	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H26
7	徳野慎一	防衛医学研究の過去・現在・未来	第60回 防衛衛生学会	東京	42041	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H26
8	Tokuno S, Mitsuyoshi S, Suzuki G, Tsumatori G	STRESS EVALUATION BY VOICE: a novel stress evaluation technology	9th International Conference on Early Psychosis	Tokyo	41960	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H26

9	Tokuno S, Mitsuyoshi S, Suzuki G, Tsumatori G	Stress Evaluation Using Voice Emotion Recognition Technology: A Novel Stress Evaluation Technology for Disaster Responders	XVI World Congress of Psychiatry	Madrid	41896	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H26
10	銭昆、王君臣、安藤岳洋、清松英充、小林英津子、佐久間一郎	直腸がん側方郭清のためのナビゲーションシステムの開発	日本コンピュータ外科学会誌 第23回日本コンピュータ外科学会大会特集号16(3):pp180-181			東京大学	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合によるImage-Guided Treatment (IGT) の実現	H26
11	ハント・クリストファー、王君臣、小林英津子、佐久間一郎	Tracking-Learning-DetectionフレームワークにおけるFernsに基づく多クラス事後確率を用いた複数目標リアルタイムトラッキング	日本コンピュータ外科学会誌 第23回日本コンピュータ外科学会大会特集号、pp266-267				【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合によるImage-Guided Treatment (IGT) の実現	H26
12	奥岡 晋一、小笠原義之、須賀 陽介、日比野光宏、工藤 徹一、小野 博信、米原 宏司、住田 康隆、山田 裕貴、山田 淳夫、尾嶋 正治、栃木 栄太、柴田 直哉、幾原 雄一、水野 哲孝、酸素のレドックスで作動するCo添加Li20正極を用いた完全密閉型高エネルギー密度リチウム二次電池、第55回電池討論会、国際会館、京都、2014年11月21日					東京大学、(株)日本触媒	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H26
13	小笠原義之、奥岡晋一、須賀陽介、日比野光宏、工藤徹一、小野博信、米原宏司、住田康隆、山田裕貴、山田淳夫、尾嶋正治、栃木栄太、柴田直哉、幾原雄一、水野哲孝、Co添加Li20正極における充放電過程での過酸化物の生成・消滅と酸素発生反応、第55回電池討論会、国際会館、京都、2014年11月21日					東京大学、(株)日本触媒	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H26
14	高戸 毅、メッシュトレーを用いた頭蓋顎顔面再建と今後の展望、ウルトラフレックスメッシュを用いたインプラント植立のための顎骨再建、第68回NP0法人日本口腔科学会学術大会（ランチョンセミナー）、京王プラザホテル、東京、May 8, 2014.					東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H26
15	高戸 毅、硬組織再建とインプラント、NP0法人日本口腔科学会サテライトセミナー、第17回顎顔面手術手技研究会、京王プラザホテル、東京、May 8, 2014.					東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H26
16	高戸 毅、骨軟骨再生医療による顎顔面形態の再建、第31回日本顎顔面補綴学会総会学術大会（シンポジウム）、仙台市民会館、宮城、June 21, 2014					東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H26
17	高戸 毅、歯槽骨・顎骨および軟骨再生、第42回教育研修会2014年（口腔四学会合同研修会）、大阪大学 楠葉学舎講堂、大阪、July 27, 2014					東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H26

18	高戸 毅, インプラント埋入を目指した顎骨再建, 日本先進インプラント医療学会, 一橋大学 一橋講堂, 東京, August 23, 2014	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H26
19	原野幸治, 劉超, 中村栄一, 疎水性有機化合物を用いた水分散性サブマイクロ粒子形成と粒径制御, 第23回有機結晶シンポジウム, 東邦大学, 船橋, Sep. 16, 2014.	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H26
20	宮本青、大江和彦 口演・チュートリアル 医療情報システムにおける臨床パーソナルゲノム情報の取扱い 第34回 医療情報学連合大会（第15回日本医療情報学会学術大会）、千葉 2014. 11. 5	東京大学	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築、全国COI拠点の cohorts 調査形式共通化案作成に関する調査	H26
21	貴田武実、ポスター展示 「電子カルテと患者ゲノム情報の統合利用のための情報基盤の試験開発」 東京大学 COI 拠点主催シンポジウム～自分で守る健康社会～、東京2015. 3. 12	富士通株式会社	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築、全国COI拠点の cohorts 調査形式共通化案作成に関する調査	H26
22	大江和彦：研究進捗報告 「健康医療ICTオールジャパン標準化」 東京大学 COI 拠点主催シンポジウム～自分で守る健康社会～、東京2015. 3. 12	東京大学	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築、全国COI拠点の cohorts 調査形式共通化案作成に関する調査	H26
23	大江和彦：「ICTがこれからの医療にもたらすもの」 第2回健康長寿ループの会（東京大学COI拠点）（東京大学小柴ホール, 2014. 12. 11）	東京大学	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築、全国COI拠点の cohorts 調査形式共通化案作成に関する調査	H26
24	大江和彦：医療データベースから医療を知る。「多目的コホートに基づくがん予防など健康の維持・増進に役立つエビデンスの構築に関する研究」 JPHC-Study研究班主催（教育講演、がん研究振興財団国際研究交流会館国際会議場, 2014. 10. 16）	東京大学	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築、全国COI拠点の cohorts 調査形式共通化案作成に関する調査	H26
25	機械学習を用いた糖尿病外来の受診中断予測 倉沢 央、林 勝義、藤野昭典、高杉耕一、芳賀恒之、脇 嘉代、野口貴史、大江和彦 第19回 日本医療情報学会春季学術大会	東京大学・日本電信電話会社	【21】電子カルテに含まれる医療データ分析	H26
26	A quantitative alteration of human CD4+CD25-LAG3+ Tregs in patients with rheumatoid arthritis. Shinichiro Nakachi, Shuji Sumitomo, Norio Hanata, Toshihiko Komai, Yumi Tsuchida, Keiichi Sakurai, Haruka Tsuchiya, Hirofumi Shoda, Tomohisa Okamura, Keishi Fujio, Kazuhiko Yamamoto. The 43rd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology. Workshop Dec 12, 2014.	東京大学、理化学研究所	【37】統合疾患データベースの構築とその臨床応用	H26

27	小林弘明, 日比野光宏, 小笠原義之, 工藤徹一, 奥岡晋一, 米原宏司, 小野博信, 住田康隆, 水野哲孝, 酸素レドックスを利用する過酸化リチウム電池の性能向上に向けたコバルトドーパ酸化リチウム正極の開発, 第56回電池討論会, 愛知県産業労働センター, 2015年11月13日	東京大学, (株)日本触媒	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H27
28	原田耕佑, 日比野光宏, 小笠原義之, 工藤徹一, 奥岡晋一, 米原宏司, 小野博信, 住田康隆, 水野哲孝, 鉄ドーパ酸化リチウム中の酸素レドックス利用型過酸化リチウム電池正極特性, 第56回電池討論会, 愛知県産業労働センター, 2015年11月13日	東京大学, (株)日本触媒	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H27
29	小林弘明, 日比野光宏, 小笠原義之, 工藤徹一, 奥岡晋一, 米原宏司, 小野博信, 住田康隆, 水野哲孝, メカノケミカル反応で合成したリチウム銅酸化物中の酸素レドックス反応を利用したリチウム電池正極特性, 第41回 固体イオニクス討論会, 北海道大学, 2015年11月27日	東京大学, (株)日本触媒	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H27
30	原田耕佑, 日比野光宏, 小笠原義之, 工藤徹一, 奥岡晋一, 米原宏司, 小野博信, 住田康隆, 水野哲孝, 鉄ドーパ酸化リチウム中の酸素レドックスを利用したリチウム電池正極の反応解析, 第41回 固体イオニクス討論会, 北海道大学, 2015年11月27日	東京大学, (株)日本触媒	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H27
31	機械学習を用いた糖尿病外来患者の受診中断リスク予測 倉沢 央, 林 勝義, 藤野 昭典, 芳賀 恒之, 脇 嘉代, 野口 貴史, 門脇 孝, 大江 和彦	東京大学, 日本電信電話(株)		H27
32	CXCR4 links the shared epitope to anti-CCP antibody production in rheumatoid arthritis Yasuo Nagafuchi, Hirofumi Shoda, Shuji Sumitomo, Shinichiro Nakachi, Rika Kato, Yumi Tsuchida, Haruka Tsuchiya, Keiichi Sakurai, Norio Hanata, Shoko Tateishi, Hiroko Kanda, Keishi Fujio, Kazuhiko Yamamoto. International Concurrent Workshop The 59th Annual General Assembly and Scientific Meeting of the Japan College of Rheumatology. April 25th, 2015.	東京大学, 理化学研究所		H27
33	The regulatory function of the CD4+CD25+LAG3+ T cells in vitro and the characteristics in patients with rheumatoid arthritis in the presence of Abatacept. Shinichiro Nakachi, Shuji Sumitomo, Yumi Tsuchida, Rika Kato, Keiichi Sakurai, Norio Hanata, Haruka Tsuchiya, Yasuo Nagafuchi, Hirofumi Shoda, Kazuyoshi Ishigaki, Kensuke Yamaguchi, Tomohisa Okamura, Keishi Fujio, Kazuhiko Yamamoto. International Concurrent Workshop The 59th Annual General Assembly and Scientific Meeting of the Japan College of Rheumatology. April 25th, 2015.	東京大学, 理化学研究所		H27
34	Correlation between self-administered psychological test and emotion measured by voice analysis, M Nakamura, S Shinohara, Y Omiya, S Mitsuyoshi, H Takagi, A Ushiwatari, S Tokuno, International Conference on Information Science and Management Engineering1 (ICISME2015) (Phuket), 2015.12.20	東京大学 株式会社PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
35	音声による心の健康度測定の妥当性について, 篠原修二, 中村光晃, 大宮康宏, 高木宏昌, 牛渡 智, 光吉俊二, 徳野慎一, HCGシンポジウム2015 (富山), 2015.12.17	東京大学 株式会社PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
36	Snoring-based screening for sleep apnea syndrome, M Nakamura, S Shinohara, Y Omiya, S Mitsuyoshi, Y Oshima, H Danno, T Yamakawa, S Tanaka, S Tokuno, 生体医工学シンポジウム2015 (岡山), 2015.9.24-25	東京大学 株式会社PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27

37	Validity of a voice-based evaluation method for effectiveness of behavioural therapy, S Shinohara, S Mitsuyoshi, M Nakamura, Y Omiya, Y Tsumatori, S Tokuno. 5th International Symposium on Pervasive Computing Paradigms for Mental Health: MINDCARE 2015 (Milan), 2015.9.23-25					東京大学 株式会社PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
38	Stress Evaluation by Voice: a novel stress evaluation technology, S Tokuno. Annual Bilateral Behavioral Health Conference (Kanagawa), 2015.6.23					東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
39	大宮康宏, 山本伊佐夫, 中村光晃, 篠原修二, 光吉俊二, 徳野慎一, 中川貴美子, 福地芳子, 向井 将	CGL前後の乳幼児啼泣音声の分析	第27回日本舌癒着症学会	横浜	42302	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
40	Mitsuyoshi S	Development of Verbal Analysis Pathophysiology	International Workshop EDEN (Exploratory Domains of Econophysics News) – VII	Pitesity	42161	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
41	Implantation of artificial heart with MPC polymer-coated silicone surface, Yeh ShuYun, 寺村裕治、高井まどか、坂本晃海、原伸太郎、磯山隆、阿部裕輔、日本バイオマテリアル学会シンポジウム2016、福岡国際会議場、福岡市、2016/11/21					東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
42	Fujihara, Y., A. Hikita, T. Takato and K. Hoshi, Roles of macrophages in transplantation of tissue engineered cartilage in mice, International Congress of Immunology 2016, Melbourne, Australia, Aug. 21-26, 2016.					東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H28
43	L. Ma, K. Qian, J. Wang, Y. Tomioka, H. Kiyomatsu, E. Kobayashi, I. Sakuma: A surgical navigation system for laparoscopic pelvic lymph node dissection: registration and evaluation on a patient-specific phantom, Int J CARS2016 11 suppl 1, pp:S100, 2016, 発, 開催国: ドイツ、ハイデルベルク, 発表日: 2016年06月24日					東京大学	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合によるImage-Guided Treatment (IGT) の実現	H28
44	清松 英充, 清松 知充, 佐々木 和人, 安田 幸嗣, 大谷 研介, 西川 武司, 田中 敏明, 畑 啓介, 川合 一茂, 野澤 宏彰, 石原 聡一郎, 小林 英津子, 佐久間 一郎, 渡邊 聡明 骨盤内血管の術中リアルタイムナビゲーションシステム開発に向けた医工連携での取り組み 第29回日本内視鏡外科学会総会 2016年12月9日					東京大学	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合によるImage-Guided Treatment (IGT) の実現	H28
45	E. Nakamura, Atomic Resolution Electron Microscopy: A New Tool for Organic Chemists, Organic Chemistry Seminar at UCLA, USA, May 11, 2016. (招待講演)					東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H28

46	L. Ilies, Development of High-Valent Iron Catalysis for C-H Bond Activation, The 27th International Conference on Organometallic Chemistry (ICOMC 2016), Melbourne Convention and Exhibition Centre, Australia, July 19, 2016.	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H28
47	L. Ilies, Iron-Catalyzed Hydro- and Carbometalation of Triple Bonds, Base Metal Catalysis Symposium, Princeton University, USA, Sep. 02, 2016. (招待講演)	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H28
48	L. Ilies, Iron-Catalyzed C-H Bond Activation, The 33rd Seminar on Organic Synthetic Chemistry, Hilton Niseko Village, Japan, Sep. 07, 2016. (招待講演)	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H28
49	E. Nakamura, Iron catalysis for organic synthesis, ACS Publications Symposium, Innovation in Molecular Science, Beijing, China, Oct. 24, 2016. (招待講演)	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H28
50	中村栄一, 化学-分子と社会を結ぶ架け橋, 山形大学講演会, 山形, Nov. 11, 2016. (招待講演)	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H28
51	原野幸治, 結晶が生まれる様子が見える! 分子の動画撮影, 第6回CSJ化学フェスタ, タワーホール船堀, 東京, Nov. 15, 2016. (招待講演)	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H28
52	L. Ilies, Taming Iron for Catalytic C-H Bond Activation, 第27回 神奈川大学平塚シンポジウム, 神奈川大学, 平塚, March 04, 2017. (招待講演)	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H28
53	L. Ilies, Y. Arslanoglu, T. Matsubara, E. Nakamura, Iron-Catalyzed Synthesis of Indenones through Cyclization of Carboxamides with Alkynes, 日本化学会第97春季年会, 慶應義塾大学日吉キャンパス, 横浜, March 16, 2017.	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H28
54	宮本 青, 医療におけるパーソナルゲノム情報の処理と課題, 第63回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸国際会議場, Sep. 4, 2016.	富士通株式会社	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	H28
55	機械学習を用いた糖尿病外来患者の受診中断リスク予測 倉沢 央, 林 勝義, 藤野 昭典, 芳賀 恒之, 脇 嘉代, 野口 貴史, 門脇 孝, 大江 和彦 糖尿病 59(1) 2016年4月	東京大学、日本電信電話株式会社	【21】電子カルテに含まれる医療データ分析	H28
56	大江 和彦, 臨床医学連結知識データベースを用いた問診と診断想起システムの考察, 第2回第2回 医用人工知能研究会 (SIG-AIMED) 人工知能学会「医用人工知能研究会」合同研究会, 2016. 11. 9, 神奈川県横浜市, 慶応義塾大学 日吉キャンパス 来往舎	東京大学	全国COI拠点のコホート調査形式共通化案作成に関する調査	H28

57	大野幸子. 季節性インフルエンザ入院の関連因子の検討. 第27回日本疫学会学術総会 平成29年1月27日					東京大学	【7】予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	H28
58	山本伊佐夫、大宮康宏、徳野慎一、光吉俊二、中川貴美子、大平寛、鎌倉尚史、山口里恵、山田良広、長谷川巖、向井將	舌喉頭矯正術前後の音声分析ソフトを用いた乳児啼泣評価	国際生命情報科学会シンポジウム	東京	42812	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
59	Shinohara S, Omiya Y, Nakamura M, Hagiwara N, Mitsuyoshi S, Tokuno S	Voice Disability Index Using Pitch Rate	IEEE EMBS Conference of Biomedical, Engineering and Sciences (IECBES 2016)	Kuala Lumpur	42708	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
60	大宮康宏、山本伊佐夫、中村光晃、篠原修二、光吉俊二、徳野慎一、中川貴美子、福地芳子、向井將	CGL前後の乳幼児啼泣音声の分析(続報)	第28回日本舌嚥着症学会	横浜	42677	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
61	Hagiwara N, Omiya Y, Shinohara S, Nakamura M, Yasunaga H, Mitsuyoshi S, Tokuno S	Validity of the Mind Monitoring System as a Mental Health Indicator	Bioinformatics and Bioengineering (BIBE), 2016 IEEE 16th International Conference	Taitung	42674	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
62	山本伊佐夫、大宮康宏、徳野慎一、光吉俊二、鎌倉尚史、中川貴美子、大平寛、山口里恵、宮川康一、山田良広	舌喉頭矯正術前後の乳児啼泣音声分析	第8回日本子ども虐待医学会学術集会	福岡	42574	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
63	山本伊佐夫、大宮康宏、徳野慎一、光吉俊二、中川貴美子、大平寛、鎌倉尚史、山口里恵、宮川康一、山田良広	舌喉頭矯正術前後の乳児啼泣音声の解析	第100次 日本法医学会学術全国集会	東京	42536	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
64	Mitsuyoshi S	Development of voice pathophysiology analysis technology: Joint Symposium with IT Companies	7th Asia Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide Prevention	Tokyo	42508	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28

65	Tokuno S	Medical evidence of voice pathophysiology analysis technology: Joint Symposium with IT Companies	7th Asia Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide Prevention	Tokyo	42508	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
66	Omiya Y	Development of the Mind Monitoring System (MIMOSYS) which can be able to monitor mental health status using call voice with a smartphone: Joint Symposium with IT Companies	7th Asia Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide Prevention	Tokyo	42508	PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
67	内田憲孝	手指採血の自動化装置の開発	東京大学COI 自分で守る健康社会シンポジウム2018	東京大学	43115	(株)日立ハイテクノロジーズ	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H29
68	森絵美、深沢 穀倫、吉崎 歩、馬渡和 真、北森武彦	マイクロ流体デバイスを用いたタンパク質の新しい検出方法の開発	日本分析化学会 第66年会	東京理科大学葛飾キャンパス	42987	東京大学、東京大学医学部付属病院	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H29
69	星 和人	生体内で自立的に成熟する臓器再生デバイス(生分解性中空糸モジュールを使用した変形性関節症治療用再生デバイス-膝軟骨対応)「NeoJoint」	Regenerative Medicine Crossroad in Tokyo #3	日本橋ライフサイエンスビル6F, 東京	42767	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H29
70	星 和人	足場素材を用いた再生関節軟骨の研究開発(シンポジウム33:実用化を目指す関節軟骨再生医療)	第16回日本再生医療学会総会	仙台国際センター, 仙台, 宮城	42803	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H29
71	L. Ma, K. Nakamae, J. Wang, H. Kiyomatsu, H. Tsukihara, E. Kobayashi, I. Sakuma	Image-guided laparoscopic pelvic lymph node dissection using stereo visual tracking free-hand laparoscopic ultrasound	Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC), 2017 39th Annual International Conference of the IEEE	Jeju Iskand, Korea	2017・7・14	東京大学	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合によるImage-Guided Treatment (IGT) の実現	H29
72	原野幸治	原子分解能顕微鏡動画撮影による 高次配位構造の形成機序研究	新学術領域研究「配位アシンメトリ」第1回領域会議	東京大学	42882	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
73	倉沢 央	機械学習を用いた 糖尿病外来患者の血糖管理不良予測	第37回医療情報学連合大会	大阪	43062	東京大学 NTT	【21】電子カルテに含まれる医療データ分析	H29

74	中村聡介、横山和明、遊佐希、小林麻子、伊藤美香、小林真之、神保光児、小川弥穂、平野光人、武井智美、田上 晋、越智清純、磯部優理、川俣豊隆、小沼貴晶、加藤せい子、清水英悟、大野伸広、高橋 聡、山口 類、井元清哉、古川洋一、宮野悟、今井陽一、東條有伸。	血中循環腫瘍DNAは造血管腫瘍の個別化バイオマーカーとなり得るか？	第79回日本血液学会学術集会	東京	43028	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析【24】ゲノム解析のためのシーケンサー技術の開発【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
75	高橋秀和、岡山直子、山口奈津、宮原悠太、MH Mahbub、長谷亮祐、森島泰雄、末廣 寛、山崎隆弘、玉田康治、高橋聡、東條有伸、浅野茂隆、田邊 剛。	非血縁骨髓移植の予後とインフラマソーム遺伝子多型との関連。	第40回日本造血細胞移植学会総会	札幌	43133	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析【24】ゲノム解析のためのシーケンサー技術の開発【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
76	安藤匠平、横山和明、水澤舞、近藤幹也、牧山純也、川俣豊隆、安井 寛、今井陽一、高橋 聡、東條有伸。	湿疹続発性紅皮症を伴った低悪性度B細胞性リンパ腫。	第8回日本血液学会関東甲信越地方会	東京	43162	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析【24】ゲノム解析のためのシーケンサー技術の開発【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
77	近藤幹也、牧山純也、安藤匠平、水澤舞、川俣豊隆、横山和明、安井 寛、今井陽一、東條有伸。	イマチニブ単剤で速やかに細胞遺伝学的寛解を得たFIP1L1-PDGFRα陽性AMLの一例	第8回日本血液学会関東甲信越地方会	東京	43162	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
78	山口 貴世志、清水 英悟、上村 光弘、長山聡、山口 類、井元 清哉、池上 恒雄、宮野悟、古川 洋一	全ゲノム解析により見つかったFAP患者におけるAPC遺伝子の転写調節異常	第5回日本家族性大腸腺腫症研究会学術集会	国立がん研究センター	42986	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
79	古川洋一	人工知能を用いた臨床シーケンスの取り組み	第15回日本臨床腫瘍学会学術集会シンポジウム「ビッグデータ・AI・ゲノム・創薬」	神戸	42944	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29

80	古川 洋一	ゲノム情報を用いた治療薬開発・治療法選択	第26回日本癌病態治療研究会	横浜	42887	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
81	古川 洋一	臨床シーケンスにおける人工知能を用いた精密医療開発	第59回日本小児血液・がん学会学術集会	松山	43049	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
82	大杉 友之、山口 貴世志、朱 赤、池上 恒雄、古川 洋一	WNTシグナル経路は大腸がんにおいてインターフェロン誘導タンパク質を抑制する	第76回日本癌学会学術総会	横浜	43007	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
83	池上 恒雄、寺門 侑美、松原大祐、山口 貴世志、古川 洋一	Kras変異とPten欠損に起因する肝内胆管癌発生進展におけるHes1の役割	第76回日本癌学会学術総会	横浜	43006	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
84	朱 赤、大杉 友之、寺門 侑美、野口 玲、池上 恒雄、山口 貴世志、古川 洋一	Wntシグナルで制御される分子FRMD5の大腸がんでの発現と役割	第76回日本癌学会学術総会	横浜	43007	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
85	野口 玲、合田良政、秀野 泰隆、山口 貴世志、池上 恒雄、猪 狩亨、大田 泰徳、矢野 秀朗、古川 洋一	病態メカニズム解明のための腹膜偽粘液腫の遺伝子発現解析	第76回日本癌学会学術総会	横浜	43007	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
86	平田 真、井元清哉、古川 洋一、村上 善則、松田 浩一	臨床情報データベースに基づくバイオバンク・ジャパン試料検索システムの構築	第77回日本癌学会学術総会	横浜	43007	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
87	高野 毅、大宮康宏、萩原直樹、篠原修二、中村光晃、樋口政和、光吉俊二、徳野 慎一	走行中の自動車騒音が感情やストレス状態の推定に有用な音声構造解析に与える影響	HCGシンポジウム2017	金沢	2017.12.13-15.	PST株式会社 東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29

88	Shinohara S, Omiya Y, Hagiwara N, Nakamura M, Higuchi M, Kirita T, Takano T, Mitsuyoshi S, Tokuno S.	Case Studies of Utilization of the Mind Monitoring System (MIMOSYS) Using Voice and Its Future Prospects.	International Workshop EDEN (Exploratory Domains of Econophysics News) – IX	Pitesity	2017.10.14	PST株式会社 東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
89	Higuchi M, Yamamoto I, Omiya Y, Shinohara S, Nakamura M, Hagiwara H, Takano T, Mitsuyoshi S, Tokuno S.	Measurement of Stress Level to Prevent Post-Traumatic Stress Disorder Developed by Identifying Dead Bodies.	International Workshop EDEN (Exploratory Domains of Econophysics News) – IX	Pitesity	2017.10.14	PST株式会社 東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
90	Tokuno S, Mitsuyoshi S	Introduction of Pathophysiological Voice Analysis for Disease.	39th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC' 17)	Jeju	2017.7.11-15	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
91	Hagiwara N, Omiya Y, Shinohara S, Nakamura M, Higuchi M, Mitsuyoshi S, Tokuno S.	Difference in Voice Analysis Result by Pre- and Post- Processing of Telephone Line.	39th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC' 17)	Jeju	2017.7.11-15	PST株式会社 東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
92	Shinohara S, Tokuno S.	Novel voice indicator for distinguishing Parkinson's disease.	39th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC' 17)	Jeju	2017.7.11-15	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
93	Omiya Y, Hagiwara N.	Algorithm to distinguish between articulatory disorder, depression and Parkinson's disease by voice.	39th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC' 17)	Jeju	2017.7.11-15	PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
94	山本伊佐夫、大宮康宏、徳野慎一、光吉俊二、中川貴美子、大平寛、鎌倉尚史、山口里恵、山田良広、長谷川巖、向井将、	舌喉頭矯正術前後の音声分析ソフトを用いた乳児啼泣評価、	国際生命情報科学会シンポジウム	東京	2017.3.18	PST株式会社 東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
95	Higuchi M, Shinohara S, Nakamura M, Omiya Y, Hagiwara N, Mitsuyoshi S, Tokuno S	Study on Depression Evaluation Indicator in the Elderly Using Sensibility Technology,	3rd The International Conference on Information and Communication Technologies for Ageing Well and e-Health (ICT4AWE 2017)	Porto	2017.04.29	PST株式会社 東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29

96	Naoki Takemura	A new prime-boost vaccine method to strongly induce both systemic and mucosal immunity.	Korea-Japan joint meeting on mucosal immunology.	Seoul, Korea	42870	東京大学	【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
97	Kosuke Fujimoto	Gut microorganisms in healthy Japanese subjects	第46回日本免疫学会総会・学術集会	宮城県仙台市	43081	東京大学	【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
98	Svensson T, Inoue M, Sawada N, Svensson-Kishi A, Melander O, Orho-Melander M, Mimura M, Tsugane S.	Sleep duration and mortality risk in an Asian population.	The Asia Cohort Consortium General Membership Meeting	Tokyo, Japan	2017/9	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	H29
99	児玉和代	2型糖尿病患者および予備群向け自己管理支援アプリGlucoteNoteの利用状況.	第37回医療情報学連合大会	大阪国際会議場	43060	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H29
100	豊岡継泰	特定保健指導対象者への健康管理支援ICTシステムDialBeticsLiteの有効性の検討	第17回日本糖尿病情報学会年次学術集会	ホテルマリタール創世	42980	(株)NTTドコモ	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H29
101	村崎和彦	食事管理支援高度化のための画像による健康度自動認識システムの開発	第60回日本糖尿病学会年次学術集会	名古屋国際会議場	42874	日本電信電話(株)メディアインテリジェンス研究所	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H29
102	富澤修子	受診中断歴のある糖尿病患者に対するスマートフォンアプリケーションを使用した自己管理(mHealth)の適正に関する検討	第60回日本糖尿病学会年次学術集会	名古屋国際会議場	42874	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H29
103	児玉和代	2型糖尿病患者および予備群向け自己管理支援アプリGlucoteNoteの利用状況	第60回日本糖尿病学会年次学術集会	名古屋国際会議場	42875	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H29

104	Omiya Y, Hagiwara N	Algorithm to distinguish between articulatory disorder, depression and Parkinson's disease by voice	39th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC' 17)	Jeju	42927	PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
105	星 和人	ティッシュ・エンジニアリングが拓く新しい骨・軟骨再生	先端医療シーズ開発フォーラム 2018	伊藤国際学術研究センター	43132	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H30
106	星 和人	インプラント型再生軟骨の治療から見えたティッシュ・エンジニアリングの新しい可能性	第17回日本再生医療学会総会ランチョンセミナー	パシフィコ横浜	43180	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H30
107	星 和人	インプラント型再生軟骨の製造販売承認に向けたこれまでの動きと今後の展開	第18回日本再生医療学会総会共催学術セミナー	神戸国際会議場	43547	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H30
108	星 和人	3次元組織構築を基盤とした骨・軟骨再生医療技術	第18回日本再生医療学会 シンポジウム32-3	神戸国際会議場	43547	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H30
109	星 和人	インプラント型再生軟骨を用いた顎顔面治療	第18回日本再生医療学会 シンポジウム43-3	神戸国際会議場	43547	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H30
110	Kazuto Hoshi	Tissue-Engineered Autologous Cartilage for Cleft Lip-Nose Patients	5th Termis World Congress - 2018	Kyoto, Japan	43349	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H30
111	Kazuto Hoshi	Three-dimensional tissue-engineered cartilage for the secondary repair of cleft lip-nose deformity	13th Asian Congress of Oral & Maxillofacial Surgery	Taipei, Taiwan	43413	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H30
112	高野良治	ゲノム医療を支えるICT基盤の要素技術の確立を目指して	自分で守る健康社会拠点シンポジウム2019	伊藤謝恩ホール	43473	富士通株式会社	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	H30

113	倉沢 央	腎臓研究・医療へのAI・ICT技術の展開 機械学習を用いた糖尿病患者の腎機能のRapid Declineリスク予測	第60回日本腎臓学会学術大会	新潟	43261	東京大学、NTT	【21】電子カルテに含まれる医療データ分析	H30
114	植松 智	日本人と欧米人の腸内細菌叢比較とプロバイオティクス効果の解析	第6回理想の追求シンポジウム	Canon Global Management Institute (CGM)	43343	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
115	松浦基樹, 玉手雅人, 郷久晴朗, 寺本瑞絵, 幸保莉香, 畠山晴良, 山口貴世志, 杉田真太郎, 池上恒雄, 岩雅宏, 長谷川匡, 古川洋一, 齋藤豪	子宮内膜液状化細胞診検体による遺伝子解析研究	第59回 日本臨床細胞学会春季大会	ホテルロイトン, 札幌	43253	東京大学 札幌医科大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
116	西塚哲, 有末篤弘, 高根希世子, 山口貴世志, 朝倉賀子, 平井大士, 遠藤幹也, 水野大, 石田和之, 菅井有, 宮野悟, 古川洋一	FAP家系に発症した二卵性双胎肝芽腫	第6回 日本家族性大腸腺腫症研究会学術集会	国立がん研究センター, 東京	43357	東京大学 岩手医科大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
117	山口貴世志, 清水英悟, 池上恒雄, 高根希世子, 山口類, 井元清哉, 宮野悟, 古川洋一	ポリメラーゼ校正関連ポリポーシス患者由来の大腸腫瘍の遺伝子およびエピゲノム解析	第77回 日本癌学会学術総会	大阪国際会議場, 大阪	43372	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
118	中村聡介	腫瘍由来循環DNAを用いたAMLおよびMDSの移植後微小残存病変の検出に関する後方視的解析	第77回日本癌学会学術総会, English Oral Sessions	大阪国際会議場	43371	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、3 E-2061	H30
119	横山和明	AI等のICTを用いた診療支援に関する研究	厚生労働科学研究による行政効果報告ヒアリング	厚生労働省 厚生科学課	43238	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
120	大宮康宏, 萩原直樹, 篠原修二, 中村光晃, 樋口政和, 高野毅, 光古俊二, 徳野慎一	音声分析に基づくマインドモニタリングシステム(MIMOSYS)の概要	第57回日本生体医工学会大会	札幌	2018.6.19-21	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30

121	徳野慎一, 篠原修二, 中村光晃, 樋口政和, 大宮康宏, 萩原直樹, 高野毅, 光吉俊二	音声による疾患鑑別の可能性	第57回日本生体医工学会大会	札幌	2018.6.19-21	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
122	Omiya Y, Hagiwara N, Shinohara S, Nakamura M, Higuchi M, Mitsuyoshi S, Takayama E, Tokuno S	The influence of the voice acquisition method to the mental health state estimation based on vocal analysis	IUPESM World Congress on Medical Physics and Biomedical Engineering 2018 (IUPESM 2018)	Prach	2018.6.3-8	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
123	Nakamura M, Shinohara S, Omiya Y, Mitsuyoshi S, Higuchi M, Hagiwara N, Takano T, Danno H, Tanaka S, Tokuno S	Feasibility study of evaluation of therapeutic effect for sleep apnea syndrome using mental healthiness evaluated from voice	IUPESM World Congress on Medical Physics and Biomedical Engineering 2018 (IUPESM 2018)	Prach	2018.6.3-8	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
124	Tokuno S	Future Innovation of Voice Analysis of Pathophysiology	Kanagawa Prefecture Seminar on Healthcare New Frontier in Japan “ME-BYO: Building a Better Future through Behavior Change”, WHA70 Evening Seminar	Genova	2018.5.22	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
125	徳野慎一	音声によるアスリートのマインドケアおよび強化	東京大学社会連携本部・東京大学スポーツ先端科学研究拠点特別シンポジウム「大学スポーツの未来」	東京	2018.5.10	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
126	Higuchi M, Tokuno S, Nakamura M, Shinohara S, Mitsuyoshi S, Omiya Y, Hagiwara N, Takano T, Toda H, Saito T, Terashi H, Mitoma H	Classification of Bipolar Disorder, Major Depressive Disorder And Healthy State Using Voice	8th International Conference on Biomedical Engineering and Technology (ICBET 2018)	Bali	2018.4.23-25	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
127	道端伸明, 重見大介, 笹淵裕介, 松居宏樹, 城大祐, 康永秀生	妊娠悪阻に対する漢方薬治療の安全性と有効性	日本臨床疫学会第2回年次学術大会	京都	43371	東京大学	【7】予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	H30

128	岸 暁子	Precision Health: Towards the new era of Preventive Medicine	東京大学COI-ジョンソンエンドジョンソン-ヤンセンファーマ	東京	43404	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	H30
129	久保 晴輝,井田 有亮,大江 和彦	頭痛問診情報の対話型収集システムのプロタイプ開発	第38回医療情報学連合大会	鹿児島	43428	東京大学	【11】対話型患者問診ロボットの開発	H30
130	大江 和彦	AI時代の医療の可能性と課題	第149回山口県医師会生涯研修セミナー	山口	43345	東京大学	【11】対話型患者問診ロボットの開発	H30
131	脇 嘉代	ICTを用いた糖尿病自己管理支援	第55回臨床生理学会総会	福岡	43407	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H30
132	Thomas Svensson	Precision Health; the New Frontier of Preventive Medicine ”-Sleep- the next step in precision health and disease prevention	71st session of the WHO World Health Assembly (WHA71) Evening Seminar, Kanagawa Prefecture Seminar on Healthcare New Frontier in Japan“ME-BYO: Building a Better Future through Behavior Change	Geneva	43242	東京大学	【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	H30
133	長川真治, 徳野慎一	陸上自衛隊における新隊員教育での離職予防—音声分析を用いたメンタルヘルスクリーニングの可能性—	第57回日本生体医工学会大会	札幌	43270	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
134	Nakamura M, Shinohara S, Omiya Y, Mitsuyoshi S, Higuchi M, Hagiwara N, Takano T, Danno H, Tanaka S	Feasibility study of evaluation of therapeutic effect for sleep apnea syndrome using mental healthiness evaluated from voice	IUPESM World Congress on Medical Physics and Biomedical Engineering 2018 (IUPESM 2018)	Praha	43254	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
135	星 和人	Ips細胞を用いた耳介再建の試み	第28回日本形成外科学会基礎学術集会	仙台国際センター、仙台市、宮城県	43783	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	R1

136	落合健太郎、山岡大輝、月原弘之、小林英津子、佐久間一郎、石原聡	直腸癌の骨盤腹腔鏡下側方郭清における術中リアルタイムナビゲーションシステムの開発	第28回日本コンピュータ外科学会大会	日本コンピュータ外科学会	43792	東京大学	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合によるImage-Guided Treatment (IGT) の実現	R1
137	落合健太郎、清松英充、野澤宏彰、川合一茂、畑啓介、田中敏明、佐々木和人、秀野泰隆、西川武司、金子学、江本成伸、室野浩司、石井博章、園田洋史、石原聡一郎	直腸癌側方郭清における術中リアルタイムナビゲーションシステムの開発	第32回日本内視鏡外科学会総会	日本内視鏡外科学会	43805	東京大学	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合によるImage-Guided Treatment (IGT) の実現	R1
138	高野良治	部門診断レポートの SS-MIX2 拡張ストレージへの汎用変換	SS-MIX2 シンポジウム 2017	伊藤謝恩ホール	42976	富士通株式会社	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	R1
139	高野良治	ゲノム医療を支えるICT基盤の要素技術の確立を目指して	自分で守る健康社会拠点シンポジウム2019	伊藤謝恩ホール	43473	富士通株式会社	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	R1
140	高野良治	臨床ゲノム情報を活用した診断支援システムの要素技術の検討	23回日本医療情報学会春季学術大会	熊本市民会館シアーズホーム夢ホール	43624	富士通株式会社	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	R1
141	小林俊範	ヘルスケア分野における富士通の果たす役割	自分で守る健康社会拠点シンポジウム2019 フェーズ3	安田講堂	43763	富士通株式会社	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	R1
142	近藤 幹也、横山 和明、遊佐希、伊藤 美香、清水 英悟、中村 聡介、小川 弥穂、武井 智美、小林 麻子、笠島 理加、和田 結花、山口 類、井元 清哉、長村 登紀子、内丸 薫、宮野 悟、東條 有伸	治療関連骨髄系腫瘍15例のゲノム解析と液体生検によるファウンダークロンの後方視的追跡	第81回日本血液学会学術集会	東京国際Forum	43751	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
143	中村聡介	Prognostic impact of circulating tumor DNA status post-allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in AML and MDS	第15回麒麟塾	品川シーズテラスカンファレンス	43652	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1

144	小川 弥穂, 横山 和明, 塚田 信弘, 余語 孝夫, 近藤 幹也, 武井 智美, 中村 聡介, 伊藤 美香, 小林 麻子, 遊佐 希, 山本 茉莉, 笠島 理加, 清水 英悟, 山口 類, 井元 清哉, 宮野 悟, 東條 有伸	臨床シーケンスにて確定診断に至った慢性好中球性白血病の2例	第81回日本血液学会学術集会	東京国際Forum	43751	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
145	山口 貴世志, 笠島 理加, 清水 英悟, 高根 希世子, 池上 恒雄, 山口 類, 井元 清哉, 宮野 悟, 古川 洋一	ロングリードシーケンスによるリンチ症候群患者のミスマッチ修復遺伝子の構造異常の解析	第78回 日本癌学会学術総会	京都	43735	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
146	古川 洋一	遺伝性大腸癌の未発症者サーベイランス	レアバリエーション研究会	順天堂大学	43612	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
147	大杉友之, 山口 貴世志, 池上 恒雄, 高根 希世子, 篠崎 大, 矢野秀朗, 釣田義一郎, 古川 洋一	大腸癌においてWnt /b-カテニンシグナルはインターフェロン制御因子1 (IRF1) を制御する	第78回 日本癌学会学術総会	京都	43736	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
148	植松 智	Dysbiosis関連疾患の制御法の開発	微生物ウィーク2019	東京大学伊藤国際ホール	43668	東京大学	【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R1
149	植松 智	革新的な粘膜免疫誘導型アジュバントの実用化研究	令和元年度 創薬基盤推進研究事業 公開シンポジウム-革新的医薬品創出の新機軸 ～基盤技術と臨床アプローチ～	御茶ノ水ソラシティソラシティホール	43864	東京大学	【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R1
150	Tokuno S	Voice recognition system to detect cognitive decline	WHO Clinical Consortium on Healthy Ageing (CCHA) 2019 annual meeting	Genova	43790	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
151	徳野 慎一	Indication of me-byo using voice - MIMOSYS (Mind Monitoring System) & Its Application	未病サミット	箱根	43782	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1

152	徳野慎一	音声病態分析の進捗状況	COIシンポジウム2019	東京	43763	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
153	徳野慎一	音声感情認識技術を用いたこころのモニタリングについて	Natureフォーラム: こころの健康とデータサイエンス	東京	43762	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
154	Uraguchi T, Omiya Y, Takano T, Amemiya Y, Nakamura M, Takayama E, Tokuno S, Deguchi H	Evaluation of smart devices in IoT segment by using medical healthcare technology "MIMOSYS"	The12th Asian Control Conference (ASCC2019)	北九州	2019/6/9-12	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
155	Tokuno S	Current Status and Future Prospects of Voice Biomarkers	Kanagawa Prefecture Seminar on Healthcare New Frontier in Japan "ME-BYO: Building a Better Future through Behavior Change", WHA72 Evening Seminar	Genova	43607	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
156	Higuchi M, Nakamura M, Shinohara S, Omiya Y, Takano T, Toda H, Saito T, Yoshino A, Mitsuyoshi S, Tokuno S	Discrimination of Bipolar Disorders Using Voice	9th EAI International Conference on Pervasive Computing Paradigms for Mental Health (MindCare 2019)	Buenos Aires	2019/4/23-24	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
157	Omiya Y, Takano T, Uraguchi T, Nakamura M, Higuchi M, Shinohara S, Mitsuyoshi S, So M, Tokuno S	An attempt to estimate depressive status from voice	9th EAI International Conference on Pervasive Computing Paradigms for Mental Health (MindCare 2019)	Buenos Aires	2019/4/23-24	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
158	Keishi Fujio	Functional genomics reveal cell metabolism alteration of B cells in systemic lupus erythematosus	日本免疫学会総会	アクティシティ浜松	43812	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R1
159	Masahiro Nakano	Immune cell profiling of systemic lupus erythematosus reveals a key regulator of its pathogenesis and contributes to patient stratification	日本免疫学会総会	アクティシティ浜松	43811	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R1

160	Mai Okubo	Investigation of immune cell subsets involved in Behcet's syndrome by immunophenotyping and gene expression analysis	日本免疫学会総会	アクトシティ浜松	43811	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R1
161	Thomas Svensson	Prevention of cardiometabolic diseases at a nationwide level: the Japanese experience	Ettore Majorana Foundation and Centre for Scientific Culture	International School of Pharmacology "Giampaolo Velo", Erice, Italy	43717	東京大学	【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R1
162	Akiko Kishi, Thomas Svensson	Monitoring of physical and mental health: Towards the new era of preventive medicine	Great Italy VIII International Meeting	Cilento, Italy	43741	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証。【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R1
163	Thomas Svensson	Sleep – a lifestyle factor for healthy ageing	World Health Organization Clinical Consortium on Health Ageing	Geneva, Switzerland	43791	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証。【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R1
164	Masahiro Nakamura	Leveraging Data Science to Identify Health Trajectories from a Smart Device App	The 2nd CMU-UT Joint Symposium	China Medical University Hospital, Taiwan	43720	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証。【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R1
165	岸 暁子	健康リスクの可視化のためのシステム構築	東大COI 自分で守る健康社会シンポジウム2019 健康の考え方改革	東京大学	43763	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証。【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R1

166	堀井千彬、飯高世子、村木重之、岡敬之、中村耕三、阿久根徹、大島寧、田中栄、吉村典子	全脊椎X線画像からみたついた医骨折の発生率と増悪率:ROAD study 縦断調査より	第92回日本整形外科学会学術総会	横浜市	2019/5/9-12	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R1
167	飯高世子、村木重之、岡敬之、堀井千彬、田中栄、中村耕三、阿久根徹、吉村典子	変形性股関節症と大腿骨頸部骨粗鬆症の相互関係 -The ROAD study-	第21回日本骨粗鬆症学会	神戸市	2019/10/11-13	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R1
168	飯高世子、村木重之、岡敬之、堀井千彬、田中栄、中村耕三、阿久根徹、吉村典子	血清ベントシジンと骨密度変化との関連 3年間の地域追跡コホートより	第37回日本骨代謝学会学術集会	神戸市	2019/10/12-14	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R1
169	飯高世子、田中栄、吉村典子	本邦における変形性股関節症と大腿骨頸部骨粗鬆症の相互関係:10年間の地域追跡コホートより	第46回日本股関節学会学術集会	宮崎市	2019/10/25-26	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R1
170	飯高世子、村木重之、岡敬之、堀井千彬、田中栄、中村耕三、阿久根徹、吉村典子	変形性股関節症と大腿骨頸部骨粗鬆症の関連:10年間の地域追跡コホートより	第31回日本運動器科学会	岡山県	2019/7/6-7	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R1
171	吉村典子、村木重之	牛乳乳製品による高齢者のサルコペニアの予防効果の解明:地域住民の7年間の追跡調査より	ジャパンミルクコンGRESS2019	東京	43617	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R1
172	近藤 幹也、横山 和明、遊佐希、伊藤 美香、清水 英悟、中村 聡介、小川 弥穂、武井 智美、小林 麻子、笠島 理加、和田 結花、山口 類、井元 清哉、長村 登紀子、内丸 薫、宮野 悟、東條 有伸	治療関連骨髄系腫瘍15例のゲノム解析と液体生検によるファウンダークロンの後方視的追跡	第81回日本血液学会学術集会	東京国際Forum	43751	東京大学	【H31W02】白血病における液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R1
173	中村聡介	Prognostic impact of circulating tumor DNA status post-allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in AML and MDS	第15回麒麟塾	品川シーゾントラスカンファレンス	43652	東京大学	【H31W02】白血病における液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R1

174	小川 弥穂、横山 和明、塚田信弘、余語 孝夫3、近藤 幹也、武井 智美、中村 聡介、伊藤 美香、小林麻子、遊佐 希、山本 茉莉、笠島 理加、清水英悟、山口 類、井元 清哉、宮野 悟、東條 有伸	臨床シーケンスにて確定診断に至った慢性好中球性白血病の2例	第81回日本血液学会学術集会	東京国際Forum	43751	東京大学	【H31W02】白血病における液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R1
175	奥谷智裕	電界紡糸法でのファイバー化に向けた新規アクリル酸ポリマーの開発	第80回応用物理学会秋季学術講演会	北海道大学	43726	東京大学	【H31W12】装着感と拘束感のないスマートテキスタイルで取得する全生活時間ビッグデータによる医療デバイス開発への挑戦	R1
176	松川遼太郎	ナノメッシュ電極による皮膚インピーダンス測定と皮膚水分量計測への応用	第80回応用物理学会秋季学術講演会	北海道大学	43726	東京大学	【H31W12】装着感と拘束感のないスマートテキスタイルで取得する全生活時間ビッグデータによる医療デバイス開発への挑戦	R1
177	大宮康宏、中村光晃、篠原修二、樋口政和、高野毅、浦口智貴、光吉俊二、三條信夫、徳野慎一	音声分析に基づくアルツハイマー型認知症の検出のための検討	第58回日本生体医工学会大会	沖縄	43622	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
178	樋口政和、中村光晃、篠原修二、大宮康宏、高野毅、赫寛雄、三苫博、光吉俊二、徳野慎一	音声によるパーキンソン病患者の重症度判別	第58回日本生体医工学会大会	沖縄	43622	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
179	中村光晃、大宮康宏、篠原修二、樋口政和、高野毅、光吉俊二、淡野宏輔、田中俊一、徳野慎一	体位に依存した音声特徴量の変化に基づく閉塞性睡眠時無呼吸リスク推測手法の高精度化に関する検討	第58回日本生体医工学会大会	沖縄	43622	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
180	篠原修二、戸田裕之、中村光晃、大宮康宏、樋口政和、高野毅、斎藤拓、谷知正章、光吉俊二、吉野相英、徳野慎一	ハースト指数とゼロ交差率に基づく音声指標によるうつ重症度測定	第58回日本生体医工学会大会	沖縄	43622	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
181	吉岡健太郎	尿中リゾリン脂質は糖尿病性腎臓病における急速な腎機能低下と関連する	腎と脂質研究会	リモート開催	44268	協和キリン株式会社、東京大学	【3】糖尿病性腎症関連因子の研究	R2

182	池上 恒雄、山口 貴世志、野島 正寛、古川 洋一	日本人のリンチ症候群の診断及びサーベイランスにおける胃癌の重要性	第79回 日本癌学会学術総会	Online開催	44105	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
183	土方 康基、横山 和明、山口 貴世志、池上 恒雄、山口 類、井元 清哉、内丸 薫、宮野 悟、四柳 宏、東條 有伸、古川 洋一	当院における標準治療不応進行がん患者を対象としたクリニカルシーケンスの検討	第79回 日本癌学会学術総会	Online開催	44105	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
184	古川 洋一、山口 貴世志、笠島 理加、清水 英悟、高根 希世子、山口 類、井元 清哉、宮野 悟、池上 恒雄	消化管遺伝性腫瘍の最前線	第79回 日本癌学会学術総会	Online開催	44107	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
185	松浦 基樹、西村 庸子、玉手 雅人、磯山 響子、寺田 倫子、岩崎 雅宏、磯部 友見子、畠山 晴良、高根 希世子、山口 貴世志、池上 恒雄、古川 洋一、齋藤 豪	進行卵巣癌における腹水細胞診の意義	第62回 日本婦人科腫瘍学会学術講演会	Online開催	44225	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
186	山口 貴世志	Evaluation of MinION, a nanopore-based DNA sequencing device, for the screening and determination of structural variants in patients with Lynch syndrome.	「学術研究支援基盤形成」コホート・生体試料支援プラットフォーム令和2年度若手支援研究成果発表会	Online開催	44236	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
187	Tokuno S, Omiya Y, Takano T, Higuchi M, Nakamura M, Shinohara S, Mitsuyoshi S, Tei U/Chung U	Social Impact Analysis by Smart Phone Voice	International Workshop EDEN (Exploratory Domains of Econophysics News) - XI	Virtual	44114	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
188	大宮康宏、高野毅、樋口政和、篠原修二、中村光晃、光吉俊二、徳野慎一	MIMOSYS ver.2の検討	第59回日本生体医工学会大会	バーチャル	43976	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
189	高野毅、篠原修二、光吉俊二、大宮康宏、樋口政和、中村光晃、斉藤拓、吉野相英、戸田裕之、徳野慎一	ベイズ推定を用いたMIMOSYSの精度改善の検討	第59回日本生体医工学会大会	バーチャル	43976	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2

190	樋口政和, 中村光晃, 篠原修二, 大宮康宏, 高野毅, 光吉俊二, 徳野慎一	高圧環境下での音声によるストレス評価手法の検討	第59回日本生体医工学会大会	バーチャル	43976	東京大学, PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
191	藤尾圭志	免疫介在性疾患における機能ゲノム解析	第64回日本リウマチ学会総会	WEB開催	2020/8/17-9/15	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
192	藤尾圭志	東京大学での取り組み: 東京大学COIにおける機能ゲノム情報の活用	第64回日本リウマチ学会総会	WEB開催	2020/8/17-9/15	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
193	永淵泰雄	ANCA関連血管炎のトランスクリプトーム解析	第3回本郷免疫ネットワークカンファレンス		44034	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
194	藤尾圭志	AI/機械学習を用いたリウマチ学研究	第64回日本リウマチ学会総会	WEB開催	2020/8/17-9/15	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
195	太田峰人	機能ゲノム学による多彩な膠原病へのアプローチ	第64回日本リウマチ学会総会	WEB開催	2020/8/17-9/15	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
196	Masahiro Nakano	Comprehensive transcriptome approach of immune cells reveals pathways for systemic lupus erythematosus patient stratification with insights into the mechanisms underlying its pathogenesis	第64回日本リウマチ学会総会	WEB開催	2020/8/17-9/15	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
197	大久保麻衣	一次性シェーグレン症候群における末梢血免疫細胞サブセットの遺伝子発現プロファイルの検討	第64回日本リウマチ学会総会	WEB開催	2020/8/17-9/15	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2

198	杉森祐介	RNA-Seq of immune cell subsets in PBMC identifies the importance of specific monocyte gene signatures for idiopathic inflammatory myopathy pathogenesis	第64回日本リウマチ学会総会	WEB開催	2020/8/17-9/15	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
199	Saeko Yamada	Immune cell profiling of rheumatoid arthritis identified plasmablast pathways as key correlates with treatment resistance	第64回日本リウマチ学会総会	WEB開催	2020/10/24-10/29	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
200	西脇彩	Immunophenotypic analysis of peripheral blood mononuclear cells in IgG4-Related Disease	22nd Asia-Pacific League of Associations for Rheumatology Congress	WEB開催	2020/10/24-10/29	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
201	太田峰人	機能ゲノム解析による全身性免疫疾患へのアプローチ	第48回日本臨床免疫学会	WEB開催	2020/10/15-2020/11/30	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
202	中野正博	全身性エリテマトーデスの免疫細胞種網羅的トランスクリプトーム解析に基づく患者層別化アプローチ	第48回日本臨床免疫学会	WEB開催	2020/10/15-2020/11/30	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
203	松本卓己、樋口淳也、前之原悠司、笠井太郎、張成虎、堀井千彬、飯高世子、吉村典子、田中栄	外反母趾の有病率とその認知度—大規模住民コホートROAD studyより—	第93回日本整形外科学会学術総会	オンライン	2020.6.11-8.31	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2
204	飯高世子、村木重之、岡敬之、堀井千彬、田中栄、川口浩、中村耕三、阿久根徹、吉村典子	変形性股関節症の有病率の推移—ROAD study 10年間の追跡—	第93回日本整形外科学会学術総会	オンライン	2020.6.11-8.31	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2
205	曾根勝真弓、飯高世子、谷口亘、谷口隆哉、田中栄、橋爪洋、山田宏、吉村典子	一般住民における骨盤傾斜角の性年齢別変化—ROADスタディ10年縦断調査より—	第93回日本整形外科学会学術総会	オンライン	2020.6.11-8.31	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2

206	原田徳志、谷口隆哉、橋爪洋、飯高世子、谷口亘、西山大介、吉村典子、山田宏	寛骨臼形成不全による脊椎骨盤アライメントの変化は、幼小児期の骨盤形態の形成過程において生じている—The ROAD study—	第93回日本整形外科学会学術総会	オンライン	2020.6.11-8.31	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの開 発	R2
207	樋口淳也、松本卓己、前之原悠司、笠井太郎、張成虎、堀井千彬、飯高世子、吉村典子、田中栄	母子二分種子骨と外反母趾の関係—大規模住民コホートROAD Studyより—	第93回日本整形外科学会学術総会	オンライン	2020.6.11-8.31	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの開 発	R2
208	平一裕、長田圭司、橋爪洋、浅井宣樹、寺口真年、籠谷良平、吉田宗人、吉村典子、山田宏	地域大規模住民コホートにおける脊柱バランスと腰痛・身体運動機能との関連—The ROAD Study—	第93回日本整形外科学会学術総会	オンライン	2020.6.11-8.31	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの開 発	R2
209	堀井千彬、浅井宣樹、飯高世子、村木重之、岡敬之、筒井俊二、橋爪洋、山田宏、中村耕三、大島寧、田中栄、吉村典子	脊柱骨盤矢状面アライメントと変形性膝関節症の関連—ROADスタディ第3回調査より—	第93回日本整形外科学会学術総会	オンライン	2020.6.11-8.31	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの開 発	R2
210	Iidaka T, Muraki S, Oka H, Horii C, Nakamura K, Akune T, Tanaka S, Yoshimura N	Mutual association between hip osteoarthritis and osteoporosis at the femoral neck: The Research on Osteoarthritis/osteoporosis Against Disability (ROAD) study	International Osteoporosis Foundation-European Society for Clinical and Economic Aspects of Osteoporosis and Osteoarthritis (WCO-IOF-ESCEO 2020)	Spain, and Online	2020.8.20-23	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの開 発	R2
211	橋爪洋、吉村典子、岡敬之、寺口真年、長田圭司、石元優々、岡田基宏、高見正成、筒井俊二、岩崎博、南出晃人、湯川泰紹、松平浩、田中栄、吉田宗人、山田宏	一般住民コホートにおけるOswestry Disability Index 7年間の変化と予後予測因子 The Wakayama Spine Study	第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会	オンライン	2020.9.7-23	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの開 発	R2
212	堀井千彬、浅井宣樹、飯高世子、村木重之、岡敬之、筒井俊二、橋爪洋、山田宏、吉田宗人、川口浩、中村耕三、阿久根徹、大島寧、田中栄、吉村典子	矢状面アライメントと変形性膝関節症の関連 ROADスタディ第3回調査より	第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会	オンライン	2020.9.7-23	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを 用いた要介護予 測システムの開 発	R2

213	平一裕、長田圭司、橋爪洋、浅井宣樹、寺口真年、籠谷良平、吉田宗人、吉村典子、山田宏	大規模住民コホートにおける脊柱アライメント不良と腰痛・身体運動機能との関連 The Wakayama Spine Study	第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会	オンライン	2020.9.7-23	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R2
214	長田圭司、橋爪洋、吉村典子、石元優々、延與良夫、吉田宗人、村木重之、田中栄、中村耕三、山田宏	後縦靱帯骨化症の骨化伸展と終末糖化産物(AGEs)との関連 3年の縦断調査における後縦靱帯骨化症の自然経過	第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会	オンライン	2020.9.7-23	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R2
215	飯高世子、村木重之、岡敬之、堀井千彬、田中栄、中村耕三、阿久根徹、吉村典子	本邦における変形性股関節症の有病率とその推移:10年間の地域追跡コホートより	第22回日本骨粗鬆症学会	神戸市、オンライン	2020.10.9-11	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R2
216	吉村典子	高齢者の自立度を測定する効果的調査票の開発	第79回日本公衆衛生学会総会	オンライン	2020.10.20-22	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R2
217	飯高世子、田中栄、吉村典子	変形性股関節症の有病率と10年間における推移 -The ROAD study-10-year trend of the prevalence of radiographic hip osteoarthritis in Japanese men and women: The ROAD study	第47回日本股関節学会学術総集会	四日市市、オンライン	2020.10.23-24	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R2
218	Takuya Katashima	Viscoelasticity of Transient Networks Composed of Mutually Reactive Branched Polymers	International Congress on Rheology (ICR2020)	オンライン	44178	東京大学	【R2W06】日帰りで社会復帰が可能な網膜剥離治療を目指した親水性眼内充填材の開発と手術応用に向けた基盤研究	R2
219	落合健太郎、佐久間一郎、石原聡一郎	ナビゲーション手術の臨床応用	第18回 日本消化器外科学会大会	ポートピアホテル 南館, 神戸	44142	東京大学	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合によるImage-Guided Treatment (IGT) の実現	R2
220	永瀬泰雄	ANCA関連血管炎のトランスクリプトーム解析	第3回本郷免疫ネットワークカンファレンス		44034	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2

221	太田峰人	機能ゲノム学による多彩な膠原病へのアプローチ	第64回日本リウマチ学会総会	WEB開催	2020/8/17-9/15	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
222	Masahiro Nakano	Comprehensive transcriptome approach of immune cells reveals pathways for systemic lupus erythematosus patient stratification with insights into the mechanisms underlying its pathogenesis	第64回日本リウマチ学会総会	WEB開催	2020/8/17-9/15	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
223	大久保麻衣	一次性シェーグレン症候群における末梢血免疫細胞サブセットの遺伝子発現プロファイルの検討	第64回日本リウマチ学会総会	WEB開催	2020/8/17-9/15	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
224	杉森祐介	RNA-Seq of immune cell subsets in PBMC identifies the importance of specific monocyte gene signatures for idiopathic inflammatory myopathy pathogenesis	第64回日本リウマチ学会総会	WEB開催	2020/8/17-9/15	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
225	Saeko Yamada	Immune cell profiling of rheumatoid arthritis identified plasmablast pathways as key correlates with treatment resistance	第64回日本リウマチ学会総会	WEB開催	2020/10/24-10/29	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
226	西脇彩	Immunophenotypic analysis of peripheral blood mononuclear cells in IgG4-Related Disease	22nd Asia-Pacific League of Associations for Rheumatology Congress	WEB開催	2020/10/24-10/29	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
227	太田峰人	機能ゲノム解析による全身性免疫疾患へのアプローチ	第48回日本臨床免疫学会	WEB開催	2020/10/15-2020/11/30	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
228	中野正博	全身性エリテマトーデスの免疫細胞種網羅的トランスクリプトーム解析に基づく患者層別化アプローチ	第48回日本臨床免疫学会	WEB開催	2020/10/15-2020/11/30	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2

229	吉岡健太郎	尿中リポリン脂質は糖尿病性腎臓病における急速な腎機能低下と関連する	第11回腎不全研究会	御茶ノ水(予定)	44520	東京大学、協和キリン株式会社	【3】糖尿病性腎症関連因子の研究	R3
230	樋口政和, 中村光晃, 岡崎俊実, 竹村潤, 高野毅, 大宮康宏, 篠原修二, 光吉俊二, 徳野慎一	音声による軽度認知症の検出	第60回日本生体医工学会大会	オンライン	44362	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R3
231	中村光晃, 樋口政和, 飯高世子, 大宮康宏, 高野毅, 篠原修二, 光吉俊二, 吉村典子, 徳野慎一	音声特徴量によるQuality of Life 指標推定手法に関する検討	第60回日本生体医工学会大会	オンライン	44362	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R3
232	大宮康宏, 高野毅, 中村光晃, 樋口政和, 篠原修二, 光吉俊二, 徳野慎一, 第60回日本生体医工学会大会	スマートフォンを用いた音声によるストレス計測の妥当性の検討	第60回日本生体医工学会大会	オンライン	44362	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R3
233	角田浩行	免疫疾患における機能ゲノム解析と創薬への展開	Bio Japan 2021	会場／WEB開催	2021/10/13-14	中外製薬(株)	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R3
234	堀井千彬, 飯高世子, 村木重之, 岡敬之, 浅井宣樹, 筒井俊二, 橋爪洋, 山田宏, 吉田宗人, 川口浩, 中村耕三, 阿久根徹, 大島寧, 田中栄, 吉村典子	既存椎体骨折と要介護移行および死亡との関連 ROADスタディ第3～5回調査より	第50回日本脊椎脊髄病学会学術集会	京都市、オンライン	2021/4/22-24(現地開催)、2021/4/28-5/11(Web開催)	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3
235	飯高世子, 村木重之, 田中栄, 中村耕三, 阿久根徹, 吉村典子	変形性股関節症の有病率とその10年間における変化 -The ROAD study-	第32回日本運動器科学学会	久留米市、オンデマンド	2021/5/8-9(現地開催)、2021/5/8-6/25(オンデマンド)	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3
236	飯高世子, 村木重之, 岡敬之, 堀井千彬, 田中栄, 中村耕三, 阿久根徹, 吉村典子	ロコモティブシンドロームの発生率と危険因子 - The ROAD study- Incidence and risk factor of locomotive syndrome in Japanese men and women: The ROAD study	第94回日本整形外科学会学術総会	東京。オンデマンド	2021/5/20-21(現地開催)、2021/6/10-7/12(オンデマンド開催)	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3

237	堀井千彬、飯高世子、村木重之、岡敬之、浅井宣樹、筒井俊二、橋爪洋、山田宏、中村耕三、大島寧、田中栄、吉村典子	全脊椎X線画像から見た椎体骨折の発生率と増悪率 ROAD study第3～5回調査より	第94回日本整形外科学会学術総会	東京。オンデマンド	2021/5/20-21(現地開催)、2021/6/10-7/12(オンデマンド開催)	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3
238	飯高世子、村木重之、田中栄、中村耕三、阿久根徹、吉村典子	ロコモティブシンドロームの発生率とそのリスクの解明 -The ROAD study- Incidence and risk factor of locomotive syndrome in Japanese men and women: The ROAD study	第58回日本リハビリテーション医学会学術集会	京都市、オンライン、オンデマンド	2021/6/19-13(現地開催)、2021/6/14-7/30(オンデマンド)	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3
239	飯高世子、村木重之、田中栄、中村耕三、阿久根徹、吉村典子	本邦における変形性股関節症の有病率と10年間の推移 -The ROAD study- 10-year trend of the prevalence of radiographic hip osteoarthritis in Japanese men and women	第58回日本リハビリテーション医学会学術集会	京都市、オンライン、オンデマンド	2021/6/19-13(現地開催)、2021/6/14-7/30(オンデマンド)	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3
240	飯高世子、村木重之、岡敬之、堀井千彬、田中栄、中村耕三、阿久根徹、吉村典子	ロコモティブシンドロームの発生率 -6年間の地域追跡コホートより-	第23回日本骨粗鬆症学会	神戸市、オンデマンド	2021/10/8-10(現地開催)、2021/10/8-11/30(オンデマンド)	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3
241	飯高世子、村木重之、岡敬之、堀井千彬、田中栄、中村耕三、阿久根徹、吉村典子	ロコモティブシンドロームの疫学:発生率と危険因子 -The ROAD study-	第8回日本サルコペニア・フレイル学会	豊中市、オンデマンド	2021/11/6-7(現地開催)、2021/11/6-19(オンデマンド)	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3
242	吉村典子、飯高世子	ロコモティブシンドロームの予後:ROADスタディ6年の追跡	第80回日本公衆衛生学会	東京	2021/12/21-23	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3
243	Iidaka T, Muraki S, Oka H, Horii C, Nakamura K, Akune T, Tanaka S, Yoshimura N:	10-year trends in prevalence of radiographic hip osteoarthritis in Japanese men and women: Comparison of baseline and 4th survey of Research on Osteoarthritis/osteoporosis Against Disability study.	International Osteoporosis Foundation-European Society for Clinical and Economic Aspects of Osteoporosis and Osteoarthritis (WCO-IOF-ESCEO 2021)	London, United Kingdom, and Online,	2021/8.26-29	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3

COIプログラム 終了報告書 別紙2 活動実績一覧

拠点名: V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核: 東京大学)

⑫-2 発表(ポスター発表)

No	発表者	タイトル	学会名等	場所	年月日	発表機関 (参画機関のみ)	備考 (課題番号等)	年度
1	貴田 武実	「若者と共存共栄する持続可能な健康長寿社会を支える時空間を超越する健康管理と医療のための情報システム基盤開発」	若者と共存共栄する持続可能な健康長寿社会を目指す～Sustainable Life Care, Ageless Society COI拠点に関するシンポジウム～		2014/3/28	富士通株式会社	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	H25
2	Shunya Arai, Hiromitsu Iiduka, Naoya Takayama, Miyauchi Masashi, Kazuki Taoka, Keisuke Kataoka, Masataka Hosoi, Keiki Kumano, Koji Eto, and Mineo Kurokawa	Disease-Specific Induced Pluripotent Stem Cells Recapitulate The Pathophysiology Of Familial Platelet Disorder With Predisposition To Acute Myelogenous Leukemia.	55th ASH Annual Meeting and Exposition	New Orleans, LA.	2013/12/7	東京大学	【20】多能性幹細胞の次世代がん治療への応用法の開発	H26
3	岡田賢, 古川俊輔, 田中秀幸, 原野幸治, 中村栄一	低着地電圧 SEM による有機分子半導体の結晶形状観察	日本顕微鏡学会第70回記念学術講演会	幕張メッセ, 千葉	2014/3/11	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H26
4	Harano, K., Hommma, T., Niimi, Y., Koshino M., Suenaga, K., Leibler, L., Nakamura. E.,	Understanding mechanisms of heterogeneous nucleation at a molecular level,	Gordon Research Conference:	Crystal Engineering, Waterville Valley Resort, Waterville Valley, NH, USA,	2014/6/1	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H26
5	岡田賢, 原野幸治, 古川俊輔, 田中秀幸, 中村栄一,	基板表面の化学修飾による有機ナノ結晶の核形成および結晶形態制御,	第25回基礎有機化学討論会,	東北大学, 仙台,	2014/9/7	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H26
6	永淵泰雄、庄田宏文、住友秀次、仲地真一郎、加藤里佳、土田優美、駒井俊彦、立石晶子、神田浩子、山口健介、石垣和慶、鈴木亜香里、高地雄太、藤尾圭志、山本一彦	関節リウマチ患者における包括的臨床免疫解析の試み	第42回 日本臨床免疫学会総会			東京大学、理化学	【37】統合疾患データベースの構築とその臨床応用	H26
7	篠原修二, 中村光晃, 大宮康宏, 高木宏昌, 牛渡智, 光吉俊二, 徳野慎一	音声による心の健康度測定の妥当性について	HCGシンポジウム2015	富山	2015/12/17	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27

8	大宮康宏, 萩原直樹, 桐田賢, 篠原修二, 中村光晃, 光吉俊二, 徳野慎一	スマートフォンを用いた音声による健康状態のモニタリングシステムの開発	HCGシンポジウム2015	富山	2015/12/17	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
9	Nakamura M, Shinohara S, Omiya Y, Mitsuyoshi S, Oshima Y, Danno H, Yamakawa T, Tanaka S, Tokuno S	Snoring-based screening for sleep apnea syndrome	生体医工学シンポジウム2015	岡山	2015/9/24	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
10	Tokuno S, Omiya Y, Shinohara S, Nakamura M, Hagiwara N, Mitsuyoshi S	Psychological impact of Kumamoto earthquake by voice analysis using a smart phone application	Neuroscience 2016	San Diego	2016/11/12	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
11	Nakamura M, Tanichi M, Toda H, Mitsuyoshi S, Shinohara S, Omiya Y, Shimizu K, Yoshino A, Tokuno S	Alternation of fundamental frequency of ultrasonic vocalizations by neonatal rats in response to distance from their mother	Neuroscience 2016	San Diego	2016/11/12	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
12	Omiya Y, Hagiwara N, Shinohara S, Nakamura M, Mitsuyoshi S, Tokuno S	Development of Mind Monitoring System using Call Voice	Neuroscience 2016	San Diego	2016/11/12	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
13	萩原直樹, 大宮康宏, 篠原修二, 中村光晃, 木暮祐一, 光吉俊二, 徳野慎一	スマートフォンを用いた音声による心の健康状態のモニタリングシステムにおける録音方式の違いによる有効性検証	生体医工学シンポジウム2016	旭川	2016/9/17	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
14	Koichi Yabunaka.	Ultrasonographic follow-up of functional chronic constipation in adults: Report of two cases.	Australasian Society for Ultrasound in Medicine 2016,	Queensland, Australia,	2016/10/28	東京大学	【18】超音波CTによる検診技術の開発/組織内脂肪推定法の開発	H28
15	Carlton Hoy, Keiichiro Kushi, Madoka Takai,	Rapid antigen detection through electrospun microfiber vacuum pump technology	JSPS-DST Asian Academic Seminar 2016,	The University of Tokyo, Tokyo,	2016/12/17	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
16	Aya Noguchi, Norifumi Isu, Madoka Takai,	Fabrication of hydrophilic surfaces by amphipathic block polymer coating for antifouling properties on ceramic surfaces	The 11th SPSJ International Polymer Conference (IPC 2016),	Fukuoka International Congress Center, Fukuoka,	2016/12/15	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28

17	Olofsson K, Carannante V, Frisk T, Kushiro K, Takai M, Önfelt B, Wiklund M	Unanchored Micro-Tumors in an Ultrasonic Actuated Multi-Well Microplate with Protein Repellent Coating.	The 20th International Conference on Miniaturized Systems for Chemistry and Life Sciences (MicroTAS 2016),	Convention Center Dublin, Dublin, IRELAND.	2016/10/9-10/13	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
18	Yukari Hiraguchi, Kushiro Keiichiro, Yuji Teramura, Madoka Takai,	Control of cell adhesion by nano-patterned fibronectins on dot-like domains using amphiphilic block copolymers	2nd International Symposium on Nanoarchitectonics for Mechanobiology.	Tsukuba, Auditorium WPI-MANA building, Namiki NIMS, Tsukuba,	2016/7/27-28	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
19	Yukari Hiraguchi, Kushiro Keiichiro, Yuji Teramura, Madoka Takai,	Control of cell adhesion by nano-patterned fibronectins on dot-like domains using amphiphilic block copolymers	2nd International Symposium on Nanoarchitectonics for Mechanobiology.	Tsukuba, Auditorium WPI-MANA building, Namiki NIMS, Tsukuba,	2016/7/27-28	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
20	Carlton F. Hoy, Keiichiro Kushiro, Madoka Takai,	Rapid Antigen Detection through Electrospun Microfibers with Vacuum Pump Technology	Royal Society of Chemistry Tokyo International Conference 2016,	Makuhari Messe, Chiba, Japan,	2016/9/7-9/9	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
21	東倫之、寺村裕治、高井まどか、	ブロックポリマーブラシの非接触層が細胞接着に与える影響	第65回高分子学会年次大会、	神戸国際会議場・展示場、神戸市、	2016/5/25-27	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
22	平口侑香里、久代京一郎、寺村裕治、高井まどか、	両親媒性ブロックコポリマーによるナノ相分離構造のパターンによる吸着タンパク質解析	第65回高分子学会年次大会、	神戸国際会議場・展示場、神戸市、	2016/5/25-27	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
23	Uen-Tinn Lea, Keiichiro Kushiro, Madoka Takai,	Modification of Carbon-Based Materials with MPC Polymer Brush for Applications in Intracellular Nanosensors	第16回生命科学シンポジウム、	東京大学駒場 I キャンパス 21 Komcee、目黒区、	2016/4/23	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
24	Hidemichi Kiyomatsu, Junchen Wang, Ma Lei, Tomomichi Kiyomatsu, Etsuko Kobayashi, Ichiro Sakuma, and Toshiaki Watanabe、	Evaluation of pelvic arteries displacement by postural changes、	ACCAS2016, Poster presentation,		2016/10/14-15	東京大学	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合によるImage-Guided Treatment (IGT) の実現	H28
25	L. Ilies, B. Zhou, H. Sato, E. Nakamura,	Iron-Catalyzed Remote Functionalization of Aliphatic C-H Bond,	第63回有機金属化学討論会、	早稲田大学、東京、	2016/9/15	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H28

26	高野 良治, 北島 正人, 近藤 裕治, 宮本 青, 安藝 理彦, 石浦 浩之, 辻 省次, 石井 雅通, 大江 和彦,	Efficient management system of variant annotation for clinical sequencing	第5回生命医薬情報学連合大会 (IIBMP 2016),	東京国際交流館 プラザ平成、	2016/9/29	富士通株式会社 東京大学	【2】臨床・ゲノム 統合データベース 構築	H28
27	高野 良治, 近藤 裕治, 北島 正人, 宮本 青, 安藝 理彦, 石浦 浩之, 辻 省次, 石井 雅通, 大江 和彦,	ゲノム情報の臨床活用に向けたゲノム変異とその意味情報の効率的な管理手法の提案	第36回医療情報学会連合大会 会場(JCMI 2016),	横浜 パシフィコ 横浜、	2016/11/29	富士通株式会社 東京大学	【2】臨床・ゲノム 統合データベース 構築	H28
28	Atsushi Iwata, MD, PhD (1), Mamoru Yanagimachi (2), Hitomi Sunaga R.Ph.(3), Toji Miyagawa MD, PhD (1), Tatsuo Mano, MD, PhD (1), Kazushi Suzuki MD, PhD (1), Yasuhiko Nakamoto R.Ph.(3), Takafumi Watanabe, Rami Suzuki PhD (2), Shoji Tsuji MD, PhD (1) (1) Department of Neurology, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, (2) Eisai Co, Ltd, Tokyo, Japan, (3)	WASURE-NAVI-TO FOR A BETTER DEMENTIA AND MCI PATIENT CARE	Clinical Trials on Alzheimer's Disease			東京大学、エーザイ(株)	【23】Preclinicalな状態像の検出指標把握と受診勧奨に導く仕組みの構築→産学連携プロジェクト"THE"	H28
29	升田 紫,他.	ゲノム多型解析に基づく2型糖尿病リスク分析・予防サービスによる健康指導効果の検証	第59回日本糖尿病学会年次学術集会	京都	2016/5/1	東京大学、株式会社ハビタスケア	【27】生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立	H28
30	Ohsugi T, Zhu C, Ohsugi T, Terakado Y, Noguchi R, Ikenoue T, Yamaguchi K, Furukawa Y.	Wnt Signaling Induces Anti-Apoptotic Effect in Colorectal Cancer Cells Through the Suppression of IFITs	AACR Annual Meeting 2017	Washington DC, 米国	2017/4/2/	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
31	朔 あかり, 山口 貴世志, 池上 恒雄, 藤幸知子, 米田 美佐子, 秦 裕子, 尾山 大明, 甲斐 知恵子, 古川 洋一	腫瘍溶解性麻疹ウイルスレセプターPVRL4の発現調節機構の解明	第76回日本癌学会学術総会	横浜	2017/9/30	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29

32	山本伊佐夫, 樋口政和, 徳野慎一, 大平寛, 山田良広, 木本一成, 二瓶智太郎, 浜田信城, 李昌一, 槻木恵一	歯科身元確認研修におけるメンタルケアのためのストレス測定の検討,	第23回日本集団災害医学会総会・学術集会	横浜	2018/2/1	東京大学 PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
33	大宮康宏, 萩原直樹, 高野毅, 篠原修二, 中村光晃, 樋口政和, 光吉俊二, 徳野慎一	電話回線におけるコーデックが通話音声による健康状態推定に及ぼす影響. HCGシンポジウム2017 (金沢), 2017.12.13-15.	HCGシンポジウム2017	金沢	2017/12/13	PST株式会社 東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
34	篠原修二, 大宮康宏, 中村光晃, 樋口政和, 萩原直樹, 高野毅, 光吉俊二, 徳野慎一	音声指標によるパーキンソン病患者とうつ病患者と健常者の鑑別.	HCGシンポジウム2017	金沢	2017/12/13	東京大学 PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
35	Higuchi M, Shinohara S, Nakamura M, Mitsuyoshi M, Omiya Y, Hagiwara N, Takano T, Tokuno S	An Effect of Noise on Mental Health Indicator using Voice	International Conference on Intelligent Informatics and BioMedical Sciences (ICIIBMS) 2017	Okinawa	2017/11/24	東京大学 PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
36	Omiya Y, Hagiwara N, Takano T, Shinohara S, Nakamura M, Higuchi M, Mitsuyoshi S, Tokuno S.	Difference in Speech Analysis Results by Compression.	International Conference on Intelligent Informatics and BioMedical Sciences (ICIIBMS) 2017	Okinawa	2017/11/24	PST株式会社 東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
37	Shinohara S, Omiya Y, Nakamura M, Higuchi M, Hagiwara N, Takano T, Toda H, Saito T, Tanichi M, Yoshino A, Mitsuyoshi S, Tokuno S	Major depression index derived from the relationship between hurst exponent and zero crossing rate in voice.	Neuroscience 2017	Washington	2017/11/11	東京大学 PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
38	Omiya Y, Shinohara S, Higuchi M, Nakamura M, Mitsuyoshi S, Yamamoto I, Tokuno S	Stress evaluation using voice in dental identification work of dead body	Neuroscience 2017	Washington	2017/11/11	PST株式会社 東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29

39	M Nakamura, Y Omiya, S Shinohara, S Mitsuyoshi, M Higuchi, N Hagiwara, T Takano, H Toda, T Saito, M Tanichi, A Yoshino, S Tokuno,	Feasibility study of classifying major depressive disorder and bipolar disorders using voice features	XVII World Congress of Psychiatry	Berlin	2017/10/8	東京大学 PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
40	大宮康宏, 萩原直樹, 高野毅, 桐田賢, 篠原修二, 中村光晃, 樋口政和, 光吉俊二, 徳野慎一	音声によるマインドモニタリングシステムにおける録音方式の違いによる有効性検証	生体医工学シンポジウム2017.	上田	2017/9/15	PST株式会社 東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
41	篠原修二, 萩原直樹, 大宮康宏, 中村光晃, 樋口政和, 萩原直樹, 高野毅, 光吉俊二, 徳野慎一	パーキンソン病患者スクリーニングのための音声障害指標の提案	生体医工学シンポジウム2017.	上田	2017/9/15	東京大学 PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
42	樋口政和, 山本伊佐夫, 篠原修二, 中村光晃, 大宮康宏, 萩原直樹, 高野毅, 光吉俊二, 徳野慎一	遺体の身元確認作業におけるメンタルケアのための音声によるストレス度測定	生体医工学シンポジウム2017.	上田	2017/9/15	東京大学 PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
43	Nakamura M, Shinohara S, Omiya Y, Hagiwara N, Higuchi M, Mitsuyoshi S, Danno H, Tanaka S, Tokuno S	Relation between Severity of Sleep Apnea Syndrome and Mental Healthiness Evaluated from Voice.	39th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC' 17)	Jeju	2017/7/11	東京大学 PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
44	大宮康宏, 萩原直樹, 中村光晃, 篠原修二, 樋口政和, 光吉俊二, 戸田裕之, 長川真治, 徳野慎一	陸上自衛隊における新入隊員の音声によるストレス計測の試み	第90回日本産業衛生学会	東京	2017/5/12	PST株式会社 東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
45	高野毅, 大宮康宏, 萩原直樹, 篠原修二, 中村光晃, 樋口政和, 光吉俊二, 徳野慎一	走行中の自動車騒音が感情やストレス状態の推定に有用な音声構造解析に与える影響	HCGシンポジウム2017	金沢	2017/12/13	東大, PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
46	Kosuke Fujimoto, Naoki Takemura, Satoshi Uematsu	Innovative prime-boost vaccine method strongly induces both systemic and mucosal immunity	The 5th Annual Meeting of the International Cytokine and Interferon Society	Kanazawa, Japan	2017/10/31	東京大学	【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29

47	Naoki Takemura, Satoshi Uematsu.	Blockade of TLR3 protects mice from lethal radiation-induced gastrointestinal syndrome.	The 5th Annual Meeting of the International Cytokine and Interferon Society	Kanazawa, Japan	2017/10/31	東京大学	【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
48	Naoki Takemura, Satoshi Uematsu.	Prime-boost vaccination with CpG ODN and curdlan strongly induces both systemic and mucosal immunity.	第46回日本免疫学会総会・学術集会	宮城県仙台市	2017/12/14	東京大学	【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
49	Naoki Takemura, Satoshi Uematsu.	Prime-boost vaccination with CpG ODN and curdlan strongly induces both systemic and mucosal immunity	第11回次世代アジュバント研究会	大阪府豊中市	2018/1/23	東京大学	【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
50	岸 暁子	IoTを活用した健診データと日常生活パターンを用いたメタボリックシンドローム対策	第76回日本公衆衛生学会総会	鹿児島	2017/11/1	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	H29
51	高野暁乃	2型糖尿病患者および予備群向け自己管理支援アプリGlucoNoteの利用を継続した5症例	第37回医療情報学連合大会	大阪国際会議場	2017/11/21	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを	H29
52	高野暁乃	2型糖尿病患者および予備群向け自己管理支援アプリGlucoNoteの利用を継続した3症例	第60回日本糖尿病学会年次学術集会	名古屋国際会議場	2017/5/18	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを	H29
53	Fumi Nakamura	Investigation of an effective method for the production of neutrophils derived from induced pluripotent stem cells	日本血液学会	大阪国際会議場	2018/9/28	東京大学、協和発酵キリン	【20】多能性幹細胞の次世代がん治療への応用法の開発	H30
54	高野良治	全ゲノム検査結果の患者バリエーション情報を臨床診断に活用するためのシステム検討	日本人類遺伝学会 第63回大会	パシフィコ横浜	2018/10/12	富士通株式会社、東京大学、国際医療福祉大学、株式会社富士通九州システムズ	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	H30
55	高野良治	ゲノム医療の実装に向けた診断支援ユーザーインターフェースと情報基盤の検討	第38回 医療情報学連合大会	福岡サンパレス	2018/11/24	富士通株式会社、東京大学、国際医療福祉大学、株式会社富士通九州システムズ	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	H30

56	土方康基、横山和明、谷憲三郎、山口類、清水英悟、井元清哉、宮野悟、東條有伸	難治性皮膚T細胞リンパ腫に対してゲノム解析と人工知能を用いた情報解析による個別化医療にて寛解した症例	第77回日本癌学会学術総会、English Oral Sessions	大阪国際会議場	2018/9/27	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
57	中村 聡介、横山 和明、遊佐 希、近藤 幹也、小川 弥穂、武井 智美、小林 麻子、伊藤 美香、神保 光児、田上 晋、磯部 優理、小沼 貴晶、加藤 せい子、清水 英悟、笠島 理加、和田 結花、山口 類、井元 清哉、長村 登紀子、高橋 聡、宮野 悟、東條 有伸	Residual circulating tumor DNA status in relapse prediction post allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	第18回東京大学生命科学ネットワークシンポジウム	東京大学	2018/6/9	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
58	Sousuke Nakamura, Kazuaki Yokoyama, Nozomi Yusa, Miho Ogawa, Tomomi Takei, Asako Kobayashi, Mika Ito, Koji Jimbo, Masamichi Isobe, Takaaki Konuma, Seiko Kato, Eigo Shimizu, Rika Kasajima, Yuka Wada, Rui Yamaguchi, Seiya Imoto, Tokiko Nagamura-Inoue, Satoshi Takahashi,	Impact of residual circulating tumor DNA status post allogeneic hematopoietic stem cell transplantation on outcome in acute myeloid leukemia and myelodysplastic syndrome	45th IMSUT Founding Commemorative Symposium	東京大学医科学研究所	2018/5/31	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
59	Tomomi Takei, Kazuaki Yokoyama, Sousuke Nakamura, Nozomi Yusa, Miho Ogawa, Asako Kobayashi, Mika Ito, Koji Jimbo, Susumu Tanoue, Masamichi Isobe, Takaaki Konuma, Seiko Kato, Eigo Shimizu, Rika Kasajima, Yuka Wada, Rui Yamaguchi, Seiya Imoto, Tokiko Nagamura-Inoue, Satoshi Takahashi,	AI-guided Precision Medicine Approach to Blood Cancers	45th IMSUT Founding Commemorative Symposium	東京大学医科学研究所	2018/5/31	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30

60	Omiya Y, Takano T, Uraguchi T, Higuchi M, Shinohara S, Nakamura M, Mitsuyoshi S, So M, Tokuno S	Estimating depressive status from voice	The 2018 IEEE International Conference on Bioinformatics and Biomedicine	Madrid	2018/12/3	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
61	Nakamura M, Shinohara S, Omiya Y, Higuchi M, Mitsuyoshi S, Takano T, Toda H, Saito T, Tanichi M, Yoshino A, Tokuno S	Feasibility Study for Estimation of Depression Severity using Voice Analysis	The 2018 IEEE International Conference on Bioinformatics and Biomedicine	Madrid	2018/12/3	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
62	Nakamura M, Tanichi M, Toda H, Saito T, Mitsuyoshi S, Shinohara S, Omiya Y, Higuchi M, Shimizu K, Yoshino A, Tokuno S	Change in sound features of ultrasonic vocalizations by neonatal rats separated from their mother depending on condition of the neonatal rats	Neuroscience 2018	SanDiego	2018/11/3	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
63	Omiya Y, Takano T, Uraguchi T, Nakamura M, Shinohara S, Higuchi M, Mitsuyoshi S, Tokuno S	Pilot study to detect Dementia based on vocal analysis	Neuroscience 2018	SanDiego	2018/11/3	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
64	戸田 裕之、齊藤拓、篠原修二、大宮康弘、中村光晃、樋口政和、萩原直樹、高野毅、光吉俊二、吉野相英、徳野慎一	音声による大うつ病の重症度評価の試み	第15回日本うつ病学会総会	東京	2018/7/28	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
65	Nakamura M, Tanichi M, Toda H, Saito T, Mitsuyoshi S, Shinohara S, Omiya Y, Higuchi M, Shimizu K, Yoshino A, Tokuno S,	Difference in sound features of Ultrasonic Vocalizations by neonatal rats separated from their mother in response to surrounding environment	第41回日本神経科学大会	神戸	2018/7/26	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30

66	Higuchi M, Shinohara S, Nakamura M, Omiya Y, Hagiwara N, Takano T, Toda H, Saito T, Terashi H, Mitoma H, Mitsuyoshi S, Tokuno S,	Voice-Based Emotion Model for Identifying Major Depression	EMBC2018	Hawaii	2018/7/17	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
67	Uraguchi T, Shinohara S, Negrea D, Ōta M, Saito Y, Nakamura M, Higuchi M, Takano T, Hagiwara N, Mitsuyoshi S, Tokuno S	Evaluation of Mind Monitoring System (MIMOSYS) by Subjects with Romanian and Russian As Their Native Language	EMBC2018	Hawaii	2018/7/17	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
68	Omiya Y, Hagiwara N, Takano T, Shinohara S, Nakamura M, Higuchi M, Mitsuyoshi S, Takayama E, Terashi H, Mitoma H, Toda H, Saito T, Tokuno S	An experiment to distinguish between Parkinson's disease and major depression using voice	EMBC2018	Hawaii	2018/7/17	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
69	Nakamura M, Shinohara S, Omiya Y, Hagiwara N, Takano T, Mitsuyoshi S, Nozaki Y, Yoshitake M, Sanjo N, Tokuno S	Feasibility Study on Screening for Dementia Using Voice Analysis	EMBC2018	Hawaii	2018/7/17	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
70	Shinohara S, Negrea D, Ōta M, Saito Y, Nakamura M, Higuchi M, Takano T, Hagiwara N, Mitsuyoshi S, Tokuno S,	Evaluation of Suicidal Ideation Based on the Pitch Detection Rate	EMBC2018	Hawaii	2018/7/17	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
71	中村光晃, 大宮康宏, 篠原修二, 樋口政和, 萩原直樹, 高野毅, 光吉俊二, 淡野宏輔, 田中俊一, 徳野慎一	体位に依存した音声特徴量の変化に基づく閉塞性睡眠時無呼吸リスク推測手法の実現可能性の検討	日本睡眠学会 第43回定期学術集会	札幌	2018/7/11	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30

72	樋口政和, 三浦勇太, 篠原修二, 中村光晃, 大宮康宏, 萩原直樹, 高野毅, 光吉俊二, 徳野慎一	産業現場におけるメンタルヘルスケアのための音声を用いた心の健康状態測定の検証	第91回日本産業衛生学会	熊本	2018/5/16	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
73	大宮康宏, 萩原直樹, 中村光晃, 篠原修二, 樋口政和, 高野毅, 光吉俊二, 高山英次, 徳野慎一	音声を用いたメンタルヘルス状態計測における年齢及び性別の影響の検証	第91回日本産業衛生学会	熊本	2018/5/16	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
74	Shinohara S, Terashi H, Omiya Y, Nakamura M, Higuchi M, Takano T, Uruguchi T, Mitsuyoshi S, Tokuno S	Proposal of a voice disorder index for screening patients with Parkinson's disease (PWPD)	The 14th International Conference on Alzheimer's and Parkinson's Diseases (AD/PD2019)	Lisbon	2019/3/26	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
75	Nakamura M, Shinohara S, Higuchi M, Omiya Y, Takano T, Mitsuyoshi S, Terashi H, Mitoma H, Tokuno S	Feasibility Study for Estimation of Score of The Movement Disorder Society Unified Parkinson's Disease Rating Scale Part III Using Voice	The 14th International Conference on Alzheimer's and Parkinson's Diseases (AD/PD2019)	Lisbon	2019/3/26	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
76	Omiya Y, Nakamura M, Shinohara S, Higuchi M, Takano T, Uruguchi T, Mitsuyoshi S, Ishida M, Sanjo S, Tokuno S	Pilot study to detect Alzheimer's disease based on vocal analysis	The 14th International Conference on Alzheimer's and Parkinson's Diseases (AD/PD2019)	Lisbon	2019/3/26	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
77	高野毅, 大宮康宏, 浦口智貴, 樋口政和, 中村光晃, 篠原修二, 光吉俊二, 斎藤拓, 吉野相英, 戸田裕之, 徳野慎一	ベイズ推定を用いた音声メンタルヘルス指標の精度向上の検討	HCGシンポジウム2018	上田	2018/12/12	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
78	樋口政和, 中村光晃, 篠原修二, 大宮康宏, 萩原直樹, 高野毅, 戸田裕之, 斎藤拓, 吉野相英, 光吉俊二, 徳野慎一	うつ病推定における音声メンタルヘルス評価指標の有効性	HCGシンポジウム2018	上田	2018/12/12	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30

79	大宮康宏, 黒田真弥, 高野毅, 浦口智貴, 篠原修二, 中村光晃, 樋口政和, 光吉俊二, 斉藤拓, 戸田裕之, 吉野相英, 徳野慎一	音声による大うつ病と双極性障害患者の鑑別の試み	HCGシンポジウム2018	上田	2018/12/12	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
80	中村光晃, 篠原修二, 樋口政和, 大宮康宏, 高野毅, 光吉俊二, 赫寛雄, 三苦博, 徳野慎一	音声のみによるパーキンソン病重症度指標の推測手法の開発可能性検証	HCGシンポジウム2018	上田	2018/12/12	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
81	三宅加奈	自己管理支援ICTシステム(DialBeticsLite)の特定保健指導における医学的効果の検証	第61回日本糖尿病学会年次学術集会	東京フォーラム	2018/5/1	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを	H30
82	三宅加奈	モバイルICT医療応用の開発と実証	先端医療シーズ開発フォーラム	東京	2019/2/18	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを	H30
83	三宅加奈	2型糖尿病患者自己管理支援システム DialBetics	JSTフェア2018(2018年8月、東京)東大COIブース展	東京	2018/8/1	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを	H30
84	Fan Bowen, Tomii Naoki, Tsukihara Hiroyuki, Maeda Eriko, Yamauchi Haruo, Nawata Kan, Hatano Asuka, Takagi Shu, Sakuma Ichiro, Ono Minoru	3D Fully Convolutional Network for Accurate Aortic Valve Segmentation in Cardiac CT Scan	第58回日本生体医工学会大会	沖縄コンベンションセンター	2019/6/7	東京大学	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合によるImage-Guided Treatment (IGT) の実現	R1
85	高野良治	Efficient management system of variant annotation for clinical sequencing	第5回生命医薬情報学連合大会	東京国際交流館プラザ平成	2016/9/29	富士通株式会社、東京大学、株式会社富士通九州システムズ	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	R1
86	高野良治	ゲノム情報の臨床活用に向けたゲノム変異とその意味情報の効率的な管理手法の提案	第36回 医療情報学連合大会	パシフィコ横浜	2016/11/21	富士通株式会社、東京大学、株式会社富士通九州システムズ	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	R1
87	高野良治	全ゲノム検査結果の患者バリエーション情報を臨床診断に活用するためのシステム検討	日本人類遺伝学会 第63回大会	パシフィコ横浜	2018/10/12	富士通株式会社、東京大学、国際医療福祉大学、株式会社富士通九州システムズ	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	R1

88	高野良治	ゲノム医療の実装に向けた診断支援ユーザーインターフェースと情報基盤の検討	第38回 医療情報学連合大会	福岡サンパレス	2018/11/24	富士通株式会社、 東京大学、国際医 療福祉大学、株式 会社富士通九州 システムズ	【2】臨床・ゲノム 統合データベー ス構築	R1
89	高野良治	ゲノム医療の実装に向けた診断支援ユーザーインターフェースと情報基盤の検討	自分で守る健康社会拠点シンポジウム2019 フェーズ3	安田講堂	2019/10/25	富士通株式会社	【2】臨床・ゲノム 統合データベー ス構築	R1
90	Kazuaki Yokoyama, Nozomi Yusa, Mika Ito, Miho Ogawa, Kanya Kondoh, Eigo Shimizu, Seiya Imoto, Arinobu Tojo, Satoshi Takahashi	Cell free-DNA based detection of minimal residual disease post allogenic-stem cell transplantation in acute myeloid leukemia and myelodysplastic syndromes	7th US-Japan Workshop on Biomarkers for Cancer Early Detection (AMED-NCI)	東京大学 伊藤 謝恩ホール	2020/1/27	東京大学	【4】全ゲノム解析 と人工知能技術 を用いた臨床 シーケンスの 社会実装による ヒトの丸ごと理解	R1
91	近藤幹也	治療関連骨髄系腫瘍15例のゲノム解析と液体生検によるファウンダークロンの後方視的追跡	第2回COI学会	JST	2019/9/20	東京大学	【4】全ゲノム解析 と人工知能技術 を用いた臨床 シーケンスの 社会実装による ヒトの丸ごと理解	R1
92	Miho Ogawa et al	IMPACT OF RESIDUAL CIRCULATING TUMOR DNA STATUS POST ALLOGENEIC SCT IN PATIENTS WITH ACUTE MYELOID LEUKEMIA AND MYELODYSPLASTIC SYNDROMES: INTERIM RESULTS OF A PROSPECTIVE STUDY	the 46th Annual Meeting of the European Society for Blood and Marrow Transplantation (EBMT 2020)	Madrid (Spain)	2020/3/24	東京大学	【4】全ゲノム解析 と人工知能技術 を用いた臨床 シーケンスの 社会実装による ヒトの丸ごと理解	R1
93	Tomomi Takei, Kazuaki Yokoyama, Sousuke Nakamura, Miho Ogawa, Kanya Kondoh, Eigo Shimizu, Rika Kasajima, Rui Yamaguchi, Seiya Imoto, Satoru Miyano, Arinobu Tojo	The utility of exome sequence of circulating tumor DNA in drug-resistant and/or advanced phase chronic myeloid leukemia	The 78th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association	京都国際会館	2019/9/28	東京大学	【4】全ゲノム解析 と人工知能技術 を用いた臨床 シーケンスの 社会実装による ヒトの丸ごと理解	R1
94	山本瑞生, 山口貴世志, 古川洋一, 井上純一郎	CRISPR/Casシステムを用いたトリプルネガティブ乳癌におけるEMT/MET可塑性制御機構の解析	第42回 日本分子生物学会年会	福岡国際会議場	2019/12/6	東京大学	【4】全ゲノム解析 と人工知能技術 を用いた臨床 シーケンスの 社会実装による ヒトの丸ごと理解	R1
95	土方 康基, 横山 和明, 松原康朗, 林 阿英, 谷 憲三朗, 四柳 宏, 東條 有伸, 古川 洋一	当科における標準治療不応性進行がん患者を対象としたクリニカルシーケンスの検討	第19回 日本再生医療学会	東京	2020/5/1	東京大学	【4】全ゲノム解析 と人工知能技術 を用いた臨床 シーケンスの 社会実装による ヒトの丸ごと理解	R1

96	堀江千晶, 山口貴世志, 高根希世子, 池上恒雄, 古川洋一	Wntシグナル経路の新規標的遺伝子 odontogenic ameloblast associated (ODAM)の同定	第78回 日本癌学会学術総会	京都	2019/9/26	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
97	山本瑞生, 山口貴世志, 古川洋一, 井上純一郎	CRISPR/Casシステムを用いたトリプルネガティブ乳癌におけるEMT/MET可塑性制御機構の解析	第78回 日本癌学会学術総会	京都	2019/9/26	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
98	池上恒雄, 松浦基樹, 高根希世子, 山口貴世志, 齋藤豪, 古川洋一	子宮体がんスクリーニングにおける子宮内膜液状化細胞診検体を用いた遺伝子解析の有用性	第78回 日本癌学会学術総会	京都	2019/9/26	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
99	劉 洵, 池上恒雄, 寺門侑美, 高根希世子, 山口貴世志, 古川洋一	Kras活性化とPten欠損に起因するマウス肝内胆管癌における細胞内シグナルの検討	第78回 日本癌学会学術総会	京都	2019/9/26	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
100	高根希世子, 山口貴世志, 池上恒雄, 藤幸知子, 米田美佐子, 甲斐知恵子, 古川洋一	麻疹ウイルス受容体PVRL4はがん細胞においてBACH1により調節される	第78回 日本癌学会学術総会	京都	2019/9/27	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
101	Omiya Y, Uraguchi T, Takano T, Nakamura M, Shinohara S, Higuchi M, Suzuki K, Manome N, Ishida M, Kumamoto Y, Mitsuyoshi S, Tokuno S	Pilot study of distinguish between dementia with Lewy bodies and healthy subjects using voice	Neuroscience 2019	Chicago	2019/10/19	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
102	Manome N, Shinohara S, Suzuki K, Omiya Y, Higuchi M, Mitsuyoshi S	Identification of Parkinson's Disease from Scarce Data Using Learning Vector Quantization	The 41st International Engineering in Medicine and Biology Conference, (EMBC 2019)	Berlin	2019/7/23-27	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
103	Suzuki K, Shinohara S, Higuchi M, Manome N, Omiya Y, Mitsuyoshi S	Parkinson's Disease Detection Based on LightGBM	The 41st International Engineering in Medicine and Biology Conference, (EMBC 2019)	Berlin	2019/7/23-27	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1

104	Higuchi M, Nakamura M, Shinohara S, Omiya Y, Takano T, Suzuki K, Manome N, Toda H, Saito T, Yoshino A, Mitsuyoshi S, Tokuno S	Effectiveness of Voice Biomarker in Detecting Bipolar Disorder	The 41st International Engineering in Medicine and Biology Conference, (EMBC 2019)	Berlin	2019/7/23	東京大学、PST株 式会社	【6】音声病態分 析による精神・神 経疾患領域にお ける未病対策と 発病早期発見の システムの構築	R1
105	Nakamura M, Suzuki G, Shinohara S, Omiya Y, Higuchi M, Takano T, Mitsuyoshi S, Kobayashi N, Tokuno S	Relation between Stress Estimated by Voice Analysis and Blood Interleukin-1 Receptor Antagonist in High-Intensity Training	The 41st International Engineering in Medicine and Biology Conference, (EMBC 2019)	Berlin	2019/7/23	東京大学、PST株 式会社	【6】音声病態分 析による精神・神 経疾患領域にお ける未病対策と 発病早期発見の システムの構築	R1
106	Uraguchi T, Omiya Y, Shinohara S, Suzuki K, Manome M, Kumamoto Y, Tokuno S	An experiment to distinguish Major Depression and Dementia with Lewy Bodies from healthy participants using voice	The 41st International Engineering in Medicine and Biology Conference, (EMBC 2019)	Berlin	2019/7/23	東京大学、PST株 式会社	【6】音声病態分 析による精神・神 経疾患領域にお ける未病対策と 発病早期発見の システムの構築	R1
107	Shinohara S, Toda H, Nakamura M, Omiya Y, Higuchi M, Takano T, Manome N, Suzuki K, Uraguchi T, Saito T, Tanichi M, Mitsuyoshi S, Yoshino A, Tokuno S	Detecting persons with major depression by a voice index based on the relationship between Hurst exponent and zero crossing rate	The 41st International Engineering in Medicine and Biology Conference, (EMBC 2019)	Berlin	2019/7/23	東京大学、PST株 式会社	【6】音声病態分 析による精神・神 経疾患領域にお ける未病対策と 発病早期発見の システムの構築	R1
108	Omiya Y, Nakamura S, Shinohara S, Higuchi M, Suzuki K, Manome N, Mitsuyoshi S, Yamamoto I, Mukai S, Tokuno S	An experiment to detect Laryngomalacia using baby's crying voice	The 41st International Engineering in Medicine and Biology Conference, (EMBC 2019)	Berlin	2019/7/23	東京大学、PST株 式会社	【6】音声病態分 析による精神・神 経疾患領域にお ける未病対策と 発病早期発見の システムの構築	R1
109	Popa D, Nechita F, Coman C, Barbu S, Shinohara S, Tokuno S, Nakamura M, Takano T	Mind monitoring system (MIMOSYS) for mental and wellbeing of young students	X Simpósio Nacional de Investiga ção em Psicologia	Madeira	2019/6/27	東京大学、PST株 式会社	【6】音声病態分 析による精神・神 経疾患領域にお ける未病対策と 発病早期発見の システムの構築	R1

110	大宮康宏、中村光晃、篠原修二、樋口政和、高野毅、浦口智貴、光吉俊二、三條信夫、徳野慎一	音声分析に基づくアルツハイマー型認知症の検出	第58回日本生体医工学会大会	沖縄	2019/6/6-8	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
111	樋口政和、中村光晃、篠原修二、大宮康宏、高野毅、赫寛雄、三苫博、光吉俊二、徳野慎一	音声によるパーキンソン病患者の重症度判別	第58回日本生体医工学会大会	沖縄	2019/6/6-8	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
112	中村光晃、大宮康宏、篠原修二、樋口政和、高野毅、光吉俊二、淡野宏輔、田中俊一、徳野慎一	体位に依存した音声特徴量の変化に基づく閉塞性睡眠時無呼吸リスク推測手法の高精度化に関する検討	第58回日本生体医工学会大会	沖縄	2019/6/6-8	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
113	篠原修二、戸田裕之、中村光晃、大宮康宏、樋口政和、高野毅、斎藤拓、谷知正章、光吉俊二、吉野相英、徳野慎一	ハースト指数とゼロ交差率に基づく音声指標によるうつ重症度測定	第58回日本生体医工学会大会	沖縄	2019/6/6-8	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
114	Nakamura M, Higuchi M, Shinohara S, Omiya Y, Takano T, Mitsuyoshi S, Tokuno S	Voice Analysis Opens the Door to the Future Health Society	Nature創刊150周年記念シンポジウム 日本の科学の未来 持続可能な開発目標の達成に向けたビジョン	東京	2019/4/23	東京大学、PST株式会社	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
115	Shinohara S, Toda H, Nakamura M, Omiya Y, Higuchi M, Takano T, Manome N, Suzuki K, Uraguchi T, Saito T, Tanichi M, Mitsuyoshi S, Yoshino A, Tokuno S	Detecting persons with major depression by a voice index based on the relationship between Hurst exponent and zero crossing rate	The 41st International Engineering in Medicine and Biology Conference, (EMBC 2019)	Berlin	2019/7/23	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
116	Omiya Y, Nakamura S, Shinohara S, Higuchi M, Suzuki K, Manome N, Mitsuyoshi S, Yamamoto I, Mukai S, Tokuno S	An experiment to detect Laryngomalacia using baby's crying voice	The 41st International Engineering in Medicine and Biology Conference, (EMBC 2019)	Berlin	2019/7/23	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1

117	Popa D, Nechita F, Coman C, Barbu S, Shinohara S, Tokuno S, Nakamura M, Takano T	Mind monitoring system (MIMOSYS) for mental and wellbeing of young students	X Simpósio Nacional de Investiga ção em Psicologia	Madeira	2019/6/27	東大、PST	【6】音声病態分 析による精神・神 経疾患領域にお ける未病対策と 発病早期発見の システムの構築	R1
118	Higuchi M, Yamamoto I, Omiya Y, Nakamura M, Shinohara S, Takano T, Nakagawa K, Ohira H, Yamada Y, Hasegawa I, Mitsuyoshi S, Tokuno S	Voice-Based Evaluation of Stress by Body Identification	26th International "Stress and Behavior" Neuroscience and Biopsychiatry Conference (ISBS 2019)	St. Petersburg	2019/5/16	東京大学、PST株 式会社	【6】音声病態分 析による精神・神 経疾患領域にお ける未病対策と 発病早期発見の システムの構築	R1
119	Nakamura M, Ikeuchi M, Oroguchi T, Yamanaka K, Amagi H, Shinohara S, Omiya Y, Higuchi M, Takano T, Mitsuyoshi S, Tokuno S	Evaluation of Effect of Light Labor on Retired people Using Voice Analysis	26th International "Stress and Behavior" Neuroscience and Biopsychiatry Conference (ISBS 2019)	St. Petersburg	2019/5/16	東京大学、PST株 式会社	【6】音声病態分 析による精神・神 経疾患領域にお ける未病対策と 発病早期発見の システムの構築	R1
120	Omiya Y, Nakamura M, Shinohara S, Higuchi M, Takano T, Mitsuyoshi S, Terashi H, Tokuno S	Pilot study to detect Parkinson's disease based on vocal analysis	26th International "Stress and Behavior" Neuroscience and Biopsychiatry Conference (ISBS 2019)	St. Petersburg	2019/5/16	東京大学、PST株 式会社	【6】音声病態分 析による精神・神 経疾患領域にお ける未病対策と 発病早期発見の システムの構築	R1
121	會田 梓、 Thomas Svensson 岸 暁子	IoT(Internet of things)を活かした特定保健指導 自分ゴト化を目指した教育動画「カラダ予想図 プロジェクト MEDFIE」	日本糖尿病学会	仙台、日本	2019/5/13	東京大学	【10】メタボリック シンドロームのリ スク予測モデル 可視化・予防教 育アプリケーション (カラダ予想 図)の開発及び 効果検証	R1
122	會田 梓、岸 暁子	遠隔面談を用いた特定保健指導「カラダ予想図 プロジェクト」	日本公衆衛生学会	高知、日本	2019/10/23	東京大学	【10】メタボリック シンドロームのリ スク予測モデル 可視化・予防教 育アプリケーション (カラダ予想 図)の開発及び 効果検証	R1
123	個別化保健医 療講座	健康リスクの見える化 「カラダ予想図」～自ら選ぶ未来のカラダ～	イノベーションJapan2019	東京ビッグサイト	2019/8/29- 30	東京大学	【10】メタボリック シンドロームのリ スク予測モデル 可視化・予防教 育アプリケーション (カラダ予想 図)の開発及び 効果検証、【12】 日常生活におけ る睡眠およびスト レスの科学的な 評価方法と個別 化対応への研究 開発	R1

124	陳 惠一、木村 慶彦	一 東京大学大学院医学系研究科と共同研究 二 2型糖尿病を対象としたアプリ連携と薬剤師による介入効果に関する共同研究	自分で守る健康社会拠点シンポジウム2019 フェーズ3	東京大学 安田講堂	2019/10/25	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを	R1
125	三宅加奈	企業労働者におけるクロスオーバーランダム化比較試験: 自己管理支援ICTシステム (DialBeticsLite)の医学的効果の検証	日本糖尿病学会	仙台	2019/5/23-25	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを	R1
126	三宅加奈	A Crossover Randomized Controlled Trial Using DialBetics: Smartphone-Based Self-Management System for Lifestyle-Related Disease Management	79th Diabetes Association Scientific Sessions	米国、サンフランシスコ	2019/6/7-11	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを	R1
127	Yoshimura N, Horii C, Iidaka T, Tanaka S	Prevalence of vertebral fractures using the whole spine X-ray photographs: the third survey of the ROAD study.	International Osteoporosis Foundation-European Society for Clinical and Economic Aspects of Osteoporosis and Osteoarthritis (WCO-IOF-ESCEO 2019)	Paris, France	2019/4/4-7	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R1
128	近藤幹也	治療関連骨髄系腫瘍15例のゲノム解析と液体生検によるファウンダークロンの後方視的追跡	第2回COI学会	JST	2019/9/20	東京大学	【H31W02】白血病における液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R1
129	Miho Ogawa et al	IMPACT OF RESIDUAL CIRCULATING TUMOR DNA STATUS POST ALLOGENEIC SCT IN PATIENTS WITH ACUTE MYELOID LEUKEMIA AND MYELODYSPLASTIC SYNDROMES: INTERIM RESULTS OF A PROSPECTIVE STUDY	the 46th Annual Meeting of the European Society for Blood and Marrow Transplantation (EBMT 2020)	Madrid (Spain)	2020/3/24	東京大学	【H31W02】白血病における液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R1
130	Tomomi Takei, Kazuaki Yokoyama, Sousuke Nakamura, Miho Ogawa, Kanya Kondoh, Eigo Shimizu, Rika Kasajima, Rui Yamaguchi, Seiya Imoto, Satoru Miyano, Arinobu Tojo	The utility of exome sequence of circulating tumor DNA in drug-resistant and/or advanced phase chronic myeloid leukemia	The 78th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association	京都国際会館	2019/9/28	東京大学	【H31W02】白血病における液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R1
131	Masaya Nishinaka	High Transconductance Organic Electrochemical Transistor with Thick PEDOT:PSS Membrane Deposited by Spray Coating	2019 ICFPE	Taipei Nangang Exhibition Center	2019/10/24	東京大学	【H31W12】装着感と拘束感のないスマートテキストタイルで取得する全生活時間ビッグデータによる医療デバイス開発への挑戦	R1
132	吉岡健太郎	Lysophospholipids Predict Fast Decliners of Diabetic Kidney Disease	Kidney Week 2020 (American Society of Nephrology)	リモート開催	2020/10/22	協和キリン株式会社、東京大学	【3】糖尿病性腎症関連因子の研究	R2

133	Miho Ogawa	IMPACT OF RESIDUAL CIRCULATING TUMOR DNA STATUS POST ALLOGENEIC SCT IN PATIENTS WITH ACUTE MYELOID LEUKEMIA AND MYELODYSPLASTIC SYNDROMES: INTERIM RESULTS OF A PROSPECTIVE STUDY	the 46th Annual Meeting of the European Society for Blood and Marrow Transplantation	オンライン	2020/9/1	東京大学	【3】糖尿病性腎症関連因子の研究	R2
134	Omiya Y, Takano T, Uraguchi T, Nakamura M, Higuchi M, Shinohara S, Mitsuyoshi S, Ishida M, Kumamoto Y, Tokuno S	A Pilot Study to Distinguish Between Healthy Participant and Patient with Alzheimer's Disease and Parkinson's Disease Based on Vocal Analysis	Advances in Alzheimer's and Parkinson's Therapies (AAT-AD/PD2020)	Virtual	2020/4/2	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
135	Takano T, Omiya Y, Nakamura M, Higuchi M, Shinohara S, Mitsuyoshi S, Takemura J, Okazaki T, Tokuno S	Correlation Between Driving Skills, Cognitive Function, and Speech Speed in Elderly Drivers	Advances in Alzheimer's and Parkinson's Therapies (AAT-AD/PD2020)	Virtual	2020/4/2	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
136	Higuchi M, Nakamura M, Takano T, Okazaki T, Takemura J, Omiya Y, Shinohara S, Mitsuyoshi S, Tokuno S	A Study and Evaluation Using Voice to Gauge the Driving Ability of the Elderly	Advances in Alzheimer's and Parkinson's Therapies (AAT-AD/PD2020)	Virtual	2020/4/2	東京大学、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
137	Omiya Y, Takano T, Higuchi M, Nakamura M, Shinohara S, Mitsuyoshi S, Sanjo N, Terashi H, Tokuno S	A Pilot Study to Distinguish Between Healthy Participant and Patient with Alzheimer's Disease and Parkinson's Disease Based on Vocal Analysis: Follow-up report.	The 15th International Conference on Alzheimer's and Parkinson's Diseases (AD/PD 2021)	オンライン	2021/3/9	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
138	徳野慎一, 中村光晃, 樋口政和, 大宮康宏, 高野毅, 篠原修二, 光吉俊二, 鄭雄一	音声による障がい労働者の体調把握の試み	第93回日本産業衛生学会	誌上	2020/5/13	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R2
139	Yukiko Iwasaki	Integrative plasma metabolome and transcriptome analysis revealed the importance of histidine homeostasis in SLE pathogenesis with potential for improved SLE patients stratification	EULAR 2020	WEB開催	2020/6/3-9/1	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2

140	中野正博	全身性エリテマトーデスのトランスクリプトーム解析によるKey driver geneの同定	第41回日本炎症再生医学会	WEB開催	2020/7/8-8/16	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
141	波多野裕明	Distinguishing autoimmune diseases using transcriptome and splicing data	第64回日本リウマチ学会総会	WEB開催	2020/8/17-9/15	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
142	山田紗依子	関節リウマチの免疫細胞プロファイリングによる治療予後関連遺伝子ネットワークの探索	第48回日本臨床免疫学会	WEB開催	2020/10/15-2020/11/30	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
143	西脇彩	IgG4関連疾患における末梢血免疫担当細胞のサブセットの検討	第48回日本臨床免疫学会	WEB開催	2020/10/15-2020/11/30	東京大学	【9】ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	R2
144	Miho Ogawa	IMPACT OF RESIDUAL CIRCULATING TUMOR DNA STATUS POST ALLOGENEIC SCT IN PATIENTS WITH ACUTE MYELOID LEUKEMIA AND MYELODYSPLASTIC SYNDROMES: INTERIM RESULTS OF A PROSPECTIVE STUDY	the 46th Annual Meeting of the European Society for Blood and Marrow Transplantation	オンライン	2020/9/1	東京大学	【R2W11】白血病における第三世代液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R2
145	大宮康宏, 高野毅, 遠藤弘司, 中村光晃, 樋口政和, 篠原修二, 光吉俊二, 徳野慎一	COVID-19の流行が音声によるストレス計測に与えた影響の分析	第94回日本産業衛生学会	オンライン	2021/5/24	東大、PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R3

COIプログラム 終了報告書 別紙2 活動実績一覧

拠点名: V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核: 東京大学)

⑫-3 発表(招待講演)

No	発表者	タイトル	学会名等	場所	年月日	発表機関 (参画機関のみ)	備考 (課題番号等)	年度
1	大江和彦、招待講演「医療を変えるICTと医療情報データベース」	STARCシンポジウム2014、横浜2014.1.29				東京大学	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	H25
2	Noritaka Mizuno, Innovative Basic Research Toward Creation of High-performance Battery, Evonik Meets Science Japan 2014, 2014/4/10, Tokyo, Japan					東京大学	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H26
3	Noritaka Mizuno, Innovative Basic Research Toward Creation of High-performance Battery, France-Japan Symposium on Advanced Materials for Energy Future Towards reliable, durable and safe materials for energy production and storage: 2014/7/1, Tokyo, Japan					東京大学	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H26
4	水野 哲孝, 日比野 光宏, 革新的蓄電デバイスの創製, 高分子同友会講演会, 高分子学会会議室, 東京, 2014年12月11日					東京大学	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H26
5	日比野光宏, 水野哲孝, 正極反応に固体内酸素を利用した新しい二次電池, キャパシタフォーラム講演会, サンピアンかわさき, 神奈川, 2014年12月12日					東京大学	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H26
6	日比野光宏, 水野哲孝, 固体の酸素脱挿入反応を利用した新しい電池, 化学電池材料研究会第35回講演会, 日本化学会会館, 東京, 2014年12月17日					東京大学	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H26
7	日比野光宏, 小笠原義之, 水野 哲孝, リチウム過酸化物電池ー 高エネルギー密度に向けた固体内酸素のレドックス反応利用ー, 第6回国際二次電池展(バッテリージャパン), 国際展示場, 東京, 2015年2月27日					東京大学	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H26
8	日比野光宏, 小笠原義之, 水野哲孝, 固体内酸素を利用した電極反応の設計と新しい電池, 触媒・電池元素戦略研究拠点第6回公開シンポジウム, 東京大学武田ホール, 東京, 2015年3月18日					東京大学	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H26

9	日比野光宏, 水野哲孝, 高エネルギー密度二次電池に向けた新しいリチウム過酸化物電池の反応と基本特性, 日本化学会第 95 春季年会, 日本大学船橋キャンパス, 千葉, 2015年3月27日	東京大学	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H26
10	Harano, K., Heterogeneous Nucleation of Organic Crystals: Mechanism and Morphology Control, Joint Congress of Asian Crystallization Technology Symposium-2014 (ACTS-2014) and 11th International Workshop on Crystal Growth of Organic Materials CGOM (CGOM11), Nara Prefectural New Public Hall, Nara, June 20, 2014.	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H26
11	Joint International Symposium on TGF-beta and Cancer, Japan, 1/11, 2015. 菅裕明	東京大学	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新、【30】重症薬疹治療薬の開発	H26
12	International Conference on Medicinal Chemistry 2014, Rouen, France, 7/1, 2014	東京大学	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新、【30】重症薬疹治療薬の開発	H26
13	Chemical Biology meets Drug Discovery meeting, Royal Society of Chemistry, Surrey, UK, 6/12, 2014.	東京大学	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新、【30】重症薬疹治療薬の開発	H26
14	Next Generation Protein Therapeutics Summit, San Francisco, USA, 6/5, 2014.	東京大学	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新、【30】重症薬疹治療薬の開発	H26
15	Japanese Peptide Society Symposium, Akabori Memorial Award 2014 Lecture, Tokushima, Japan, 10/22, 2014	東京大学	【30】高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新、【30】重症薬疹治療薬の開発	H26
16	H. Nishihara, "Interfacial Synthesis of Redox-active Metal Complex Nanosheets", International Symposium on Synthetic Two-Dimensional Polymers (Zurich, Switzerland), Jun. 2, 2014	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発、【36】軟X線顕微鏡による細胞画像測定、【36】超高速分光細胞識別技術	H26

17	H. Nishihara, "Redox Chemistry and Electronic Conductivity of Metal Complex π -Nanowires and Nanosheets", The 7th German-Italian-Japanese Meeting of Electrochemists (Padova, Italy), Jun. 15, 2014	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発、【36】軟X線顕微鏡による細胞画像測定、【36】超高速分光細胞識別技術	H26
18	H. Nishihara, "Interfacial Synthesis of Electro-functional Metal Complex Nanosheets", Collaborative Conference on 3D & Materials Research 2014 (Incheon/Seoul, South Korea), Jun. 24, 2014	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発、【36】軟X線顕微鏡による細胞画像測定、【36】超高速分光細胞識別技術	H26
19	H. Nishihara, "Synthesis of Multinuclear Metalladithiolene Complexes and Nanosheets and Their Electronic Properties", The XXVI International Conference on Organometallic Chemistry (Royton Sapporo, Sapporo), Jul. 15, 2014	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発、【36】軟X線顕微鏡による細胞画像測定、【36】超高速分光細胞識別技術	H26
20	H. Nishihara, "Interfacial Coordination Programming of Functional Molecular Networks", 41st International Conference on Coordination Chemistry (Singapore), Jul. 21, 2014	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発、【36】軟X線顕微鏡による細胞画像測定、【36】超高速分光細胞識別技術	H26
21	H. Nishihara, "Synthesis of metal complex π -nanosheets and their redox and electronic properties", ACS National Fall Meeting San Francisco (San Francisco, United States), Aug. 14, 2014	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発、【36】軟X線顕微鏡による細胞画像測定、【36】超高速分光細胞識別技術	H26
22	H. Nishihara, "Coordination Programming of Metal Complex Nanosheets", 2nd Japan-UK Joint Symposium on Coordination Chemistry (Korakuen Campus, Chuo University, Tokyo), Sep. 18, 201	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発、【36】軟X線顕微鏡による細胞画像測定、【36】超高速分光細胞識別技術	H26
23	H. Nishihara, "Coordination Programming of Metal Complex p -Nanowires and p -Nanosheets", Eurasia-13 (Bangalore, India), Dec. 16, 2014	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発、【36】軟X線顕微鏡による細胞画像測定、【36】超高速分光細胞識別技術	H26

24	西原 寛、「金属錯体πナノシートの界面合成と物性・機能」、ミニシンポジウム「二次元物質の科学」、2015年1月7日(東京)	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発、【36】軟X線顕微鏡による細胞画像測定、【36】超高速分光細胞識別技術	H26
25	西原 寛、「配位プログラミングの科学 一次元・二次元金属錯体」、181委員会「トポロジカル材料と有機金属錯体の電子物性」2015年2月4日(東京)	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発、【36】軟X線顕微鏡による細胞画像測定、【36】超高速分光細胞識別技術	H26
26	大江和彦:「ICTにより変わるこれからの医療」大阪労災病院コンピューター委員会講演会(招待講演、大阪労災病院,2015.2.6)	東京大学	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築、全国COI拠点のコホート調査形式共通化案作成に関する調査	H26
27	大江和彦:「Standardization of Electronic Medical and Health Records for Large Cohort Study」BioJapan2014 in Yokohama(招待講演、パシフィコ横浜,2014.10.17)	東京大学	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築、全国COI拠点のコホート調査形式共通化案作成に関する調査	H26
28	大江和彦:「ICTが溶け込む近未来の医療ー夢と課題ー」OZAK研究会(医療法人大坪会)(招待講演、幕張研修センタ,2014.10.05)	東京大学	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築、全国COI拠点のコホート調査形式共通化案作成に関する調査	H26
29	大江和彦:「臨床データの二次利用推進のための標準化と課題」富士通ライフサイエンスフォーラム 2014 in TOKYO(招待講演、東京国際フォーラム,2014.07.11)	東京大学	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築、全国COI拠点のコホート調査形式共通化案作成に関する調査	H26
30	Takehiko Kitamori, Separation techniques in extended-nano fluidics, ITP2015, Helsinki (Finland), Aug. 30, 2015.	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H27
31	Takehiko Kitamori, Extended-nano fluidics – technology, science and application, Microfluidics: from laboratory tools to process development, Paris (France), Nov. 4, 2015.	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H27

32	Takehiko Kitamori, Micro and extended-nano ELISA: Practical application and future, Pacificchem 2015, Honolulu (USA), Dec. 15, 2015.	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H27
33	高井まどか、医用デバイスに用いる生体親和性材料の創製と評価、第2回メソスコピック研究会、東京電機大学、2015/3/2	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H27
34	高井まどか、小さな面を大きく活かす…表面修飾・改質技術、KAST教育講座 手のひらに化学工場 マイクロ化学チップコース座学コース、2015/11/30、神奈川科学技術アカデミー、川崎	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H27
35	Koji Nagahashi, Yuji Teramura and Madoka Takai, Stable surface coating of silicone elastomer with phosphorylcholine and organosilane copolymer with cross-linking for medical devices, The 4th International Symposium on Materials Science and Surface Technology 2015, August 5-6, 2015, KGU Kannai Media Center, Yokohama, Japan	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H27
36	奥岡晋一、小野博信、米原宏司、住田康隆、水野哲孝、日比野光宏、小笠原義之、工藤徹一、酸素レドックスで動作する酸化リチウム系正極を用いた完全密閉型高エネルギー密度リチウム二次電池、第91回新電池構想部会、ホテル日航福岡、2015年5月11日	(株)日本触媒、東京	【28】新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化	H27
37	高戸 毅、再生医療が拓く未来の医療、第103回日本美容外科学会、東京ビッグサイト、東京、June 7, 2015.	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H27
38	高戸 毅、インプラント医療について考慮すべき再生医療の最新情報について、第18回日本先進インプラント医療学会学術大会・総会、一ツ橋記念講堂、東京、Sep. 7, 2015.	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H27
39	高戸 毅、再生医療の新たな展開とインプラント医療における再生医療施行の注意について、口腔医科学会第19回学術講演会、東京大学医学部教育研究棟 鉄門記念講堂、東京、Oct. 18, 2015	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H27
40	高戸 毅、再生医療が拓く新しい医療、第101回日本消化器内視鏡学会関東地方会、シェーンバッハ・サボー、東京、Dec. 12, 2015.	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H27

41	高戸 毅, 再生医療の普及に向けて, 第200回日本口腔外科学会関東学術集会, 東京大学医学部教育研究棟 鉄門記念講堂, 東京, Dec. 19, 2015	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H27
42	Kouji Harano., Single-Molecule and Real-Time Transmission Electron Microscopy (SMART-TEM) for Imaging of Organic Molecules and Self-Assembled Nanostructures, The third China-Japan Joint Symposium on Inorganic and Nanomaterial Science, Jul. 6, 2015 (Invited lecture).	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H27
43	原野幸治, 電子顕微鏡で解き明かす有機化学・分子集合体科学, 第16回大つくば物理化学セミナー, 2015年11月7日(招待講演)	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H27
44	Laurean Ilies, Eiichi Nakamura, "Directed C-H Bond Activation using Iron Catalysis", Japan-China Young Chemists Forum at The 95th Annual Meeting of the Chemical Society of Japan, Nihon University, Funabashi, March 27, 2015. (招待講演)	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H27
45	Laurean Ilies, Eiichi Nakamura, "Iron-Catalyzed C-H Activation", The 13th Ibn Sina International Conference on Pure and Applied Heterocyclic Chemistry, Hurghada, Egypt, February 14-17, 2015. (招待講演)	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H27
46	Laurean Ilies, "Iron-Catalyzed C-H Activation", NTU-SNU-UT Chemistry Symposium, National Taiwan University, Taipei, January 16, 2015. (招待講演)	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H27
47	西原 寛、「界面配位プログラミングによる一次元・二次元錯体の創製」、電気化学および境界領域の深化ー谷口功学長退任記念講演会ー、2015年4月30日(熊本)	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H27
48	西原 寛、「新しい二次元物質、金属錯体ナノシート CONASHの創製と応用」、「時代を刷新する会」新エネルギー委員会、2015年7月7日	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H27
49	西原 寛、「界面配位プログラミングによる錯体ワイヤ・ナノシートの創製」、早稲田大学講演会。2015年7月10日(東京)	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H27
50	西原 寛、「低次元金属錯体分子ネットワークの配位プログラミングと電子・光機能」、福井大学講演会、2015年7月30日(福井)	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H27

51	西原 寛、「配位プログラミングによる電子・光機能分子システムの創製」、錯体化学会第65回討論会、2015年9月23日(奈良)	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H27
52	西原 寛、「界面配位プログラミングによる一次元・二次元錯体の創製」、宮野プロジェクト2015年度シンポジウム、2015年9月26日	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H27
53	西原 寛、「界面配位プログラミングによる一次元・二次元錯体の創製」、錯体化学若手の会、2015年11月28日(東京)	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H27
54	Satoru Miyano, Analyzing Cancer Gene Networks with Supercomputers, 第34回札幌国際がんセミナー、2015年6月27日	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H27
55	Satoru Miyano, Boosting Systems Understanding of Cancer into Another Dimension, QBIC Symposium, 2015年8月25日	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H27
56	井元清哉、ゲノム解析による個別化医療確立と臨床試験、日本癌治療学会、2015年10月29日	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H27
57	宮野悟、分子標的薬によるがん治療の個別化が医療制度に及ぼす影響、日本癌治療学会、2015年10月30日	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H27
58	溝上敏文、Watsonの医療応用、第19回バイオメディカル研究会「人工知能のバイオメディカル応用」、2015年10月30日	日本アイ・ビー・エ	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H27

59	武藤香織、医学・生命科学研究とわたしたち、朝日講座 知の調和(第8回)、2015年11月2日	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H27
60	Satoru Miyano, Boosting Systems Understanding of Cancer in New Dimension by Supercomputers, CSHA/AACR Joint Meeting, 2015年12月3日	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H27
61	井元清哉、がん多様性の理解を目指したゲノムビッグデータ解析、日本分子生物学会・日本生化学会合同年会ワークショップ、2015年12月4日	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H27
62	宮野悟、東大医科研の臨床シーケンス体制とWatsonの必要性について、未病社会の診断技術研究会、2015年12月9日	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H27
63	古川洋一、Watson Genomic Analyticsを用いた臨床シーケンスと家族性腫瘍診断の新時代、未病社会の診断技術研究会、2015年12月9日	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H27
64	井元清哉、がんゲノムビッグデータ解析から生命科学・医療へ、第9回スーパーコンピュータ「京」と創薬・医療の産学連携セミナー「ビッグデータ解析の最前線」、2015年12月19日	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H27
65	溝上敏文、IBM Watson～ Cognitive Businessへの挑戦、第9回スーパーコンピュータ「京」と創薬・医療の産学連携セミナー「ビッグデータ解析の最前線」、2015年12月19日	日本アイ・ビー・エ	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H27
66	神里彩子、先端医療開発に必要な研究倫理、医師等研究者養成カリキュラムの標準化に関する研究―第1回 ベーシック・コース研修会、2016年2月27日	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H27

67	武藤香織、家族性腫瘍に関する倫理問題、第 18 回後期家族性腫瘍セミナー、2016年3月4日	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H27
68	音声分析による感情推定とその応用, 光吉俊二, 第23回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ(WISS2015)(別府), 2015.12.4	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
69	音声から病気の早期発見を可能にする技術 音声病態分析, 光吉俊二, 2015最先端実装技術シンポジウム(東京), 2015.6.13	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
70	Stress Evaluation by Voice: From Prevention to Treatment in Mental Health Care, S. Tokuno, International Workshop EDEN (Exploratory Domains of Econophysics News) – VII (Pitesity), 2015.6.6	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
71	Development of Verbal Analysis Pathophysiology, S Mitsuyoshi, International Workshop EDEN (Exploratory Domains of Econophysics News) – VII (Pitesity), 2015.6.6	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
72	Takehiko Kitamori, Extended-nano fluidics–Technology, Scienc, and Applications–, 2nd Microfluidics Congress LONDON, London, England, 2016/10/20–21.	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
73	Takehiko Kitamori, Innovating microfluidics and pioneering nanofluidics, MicroTAS2016, Dublin, Ireland, 2016/10/9–13.	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
74	Takehiko Kitamori, Solar–self–recharging fuel cell device: integrated micro and extended–nano fluidics, 14th IMRET, Beijing, China, 2016/9/12–14.	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
75	北森武彦, マイクロ流体チップを利用した微量診断装置の開発, 第14回医療機器フォーラム, 国立がん研究センター, 東京, 2016/9/5.	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28

76	北森武彦, Innovating microfluidics and pioneering nanofluidics バイオメディカルデバイスの場合, わかもと先進眼科医療研究会, ロイヤルパークホテル, 東京, 2016/8/19.	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
77	北森武彦, 拡張ナノ流体工学, 応用物理学会 極限ナノ造形構造物物性研究会, 東京工業大学, 東京, 2016/8/1.	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
78	北森武彦, マイクロ/拡張ナノ流体デバイスの現状と展望, 次世代センサテクノスクール, 化学会館, 東京, 2016/6/24.	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
79	Takehiko Kitamori, Extended-nano fluidics-Technology, Science, and Applications-, International Conference of Microfluidics, Nanofluidics and Lab-on-a-Chip, Dalian, China, 2016/6/10-12.	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
80	Takehiko Kitamori, Extended-nano fluidics for analytical chemistry: Femto-liter Sampling and Analysis, Analytical Chemistry Workshop, Xiamen, China, 2016/6/3-5.	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
81	北森武彦, 外から見た日本の分析化学, 日本分析化学会第76回分析化学討論会, 岐阜薬科大学, 2016/5/28-29.	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
82	プラズマを応用したポリマー表面処理技術とバイオデバイス創成、日本真空学会 スパッタリングおよびプラズマプロセス技術部会 (SP部会) 第150回定例研究会・ISSP2017プレセッション～テーマ: Diversity of Sputtering and Plasma Technologies～、高井まどか、2016/10/21、成蹊大学、東京都武蔵野市	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
83	Takato, T., and A. Hikita, The novel methods of creating three-dimensional tissues and organs, 2016 International Symposium on Innovative 3D Printing, Taipei, Taiwan, Oct. 14, 2016.	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H28
84	Hoshi, K., Tissue-engineered cartilage using biodegradable polymers, 10th World Cleft Lip & Palate Congress, Chennai, India, Oct. 24-28, 2016.	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H28

85	Takato, T., A. Hikita, and Y. Fujihara, The novel methods of creating three-dimensional tissues and organs, EPFL-UTOKYO Symposium, Lausanne, Switzerland, Dec. 5-6, 2016.	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H28
86	高戸 毅, 立体造形技術が拓く新たな軟骨・骨再生医療, 臨床研究情報センター, 神戸, 兵庫県, 2016年6月14日	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H28
87	高戸 毅, iPS骨細胞応用の最前線, (社)日本先進インプラント医療学会 第19回総会・学術大会, 一ツ橋大学 一ツ橋講堂, 東京, 2016年9月3日	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H28
88	高戸 毅, 創傷治癒において期待される細胞療法の新たな展開, 第46回日本創傷治癒学会, 東京大学 安田講堂, 東京, 2016年12月10日	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H28
89	西原 寛, 低次元配位ネットワークの界面合成と物理・化学機能, 日本化学会第92春季年会, 慶應義塾大学日吉キャンパス, 横浜市, 神奈川, Mar. 17, 2017	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
90	西原 寛, 配位プログラミングと界面, 分子研研究会「金属錯体の情報制御と機能運動」, 分子科学研究所, 岡崎市, 愛知, Mar. 16, 2017	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
91	Hiroshi Nishihara, Coordination Nanosheet (CONASH) – Synthesis, Structure and Functions, NTU-SNU-Utokyo Chemistry Symposium, 東京大学, 文京区, 東京, Jan. 16, 2017	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
92	Hiroshi Nishihara, Coordination Nanosheet (CONASH) – Synthesis, Structure and Functions, UK-Japan Workshop on Chemistry, Physics, and Applications of Coordination Nanosheets, University of Cambridge, Cambridge, UK, Dec. 9, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
93	Hiroshi Nishihara, Interfacial Coordination Programming of 1D and 2D Materials, Department Seminar, University of Cambridge, Cambridge, UK, Dec. 8, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28

94	Hiroshi Nishihara, Coordination Nanosheets – Synthesis, Structure and Functions, 8th Ge-It-Jp Meeting of Electrochemists, Kazusa Arc, 木更津, 千葉, Dec. 4, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
95	Hiroshi Nishihara, Interfacial Coordination Programming of 1D and 2D Materials, NIMS Seminar, NIMS, 筑波, 茨城, Nov. 1, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
96	Hiroshi Nishihara, Interfacial Synthesis of Coordination Nanosheets and Their Functions, RSC Inorganic Chemistry Symposium, 東京工業大学, 目黒区, 東京, Oct. 28, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
97	Hiroshi Nishihara, Coordination Nanosheet (CONASH) – Synthesis, Structure and Functions, RPGR2016, Seoul, South Korea, Sep. 27, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
98	西原 寛, 配位プログラミングの科学, 新学術領域研究 配位アシンメトリー全体会議, 東京大学, 文京区, 東京, Sep. 24, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
99	Hiroshi Nishihara, Coordination Nanosheet (CONASH) – Synthesis, Structure and Functions, IWPC2016, Altay, Russia, Sep. 19, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
100	Hiroshi Nishihara, Coordination Nanosheet (CONASH) – Synthesis, Structure and Functions, The 1st Japan-Australia Joint Symposium on Coordination Chemistry, 福岡大学, 福岡市, 福岡, Sep. 9, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
101	Hiroshi Nishihara, Interfacial Coordination Programming of 1D and 2D Materials, ICMM Satellite Meeting on Molecular Technology for Functionalities, Tokyo International Forum, 千代田区, 東京, Sep. 3, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
102	西原 寛, 配位プログラミングと電気化学, 錯体化学若手の会夏の学校2016, 火の国ハイツ, 熊本市, 熊本, Aug. 7, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
103	Hiroshi Nishihara, Interfacial Coordination Programming of 1D and 2D Molecular Networks, The 3rd Japan-Taiwan-Singapore-Hong Kong Quadrilateral Symposium on Coordination Chemistry, Academia Sinica, Taiwan, Aug. 5, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28

104	Hiroshi Nishihara, Interfacial Coordination Programming of 1D and 2D Molecular Networks, Department Seminar, National Tsinghua University, Taiwan, Aug. 2, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
105	Hiroshi Nishihara, Interfacial Coordination Programming of 1D and 2D Materials, ICC2016, Brest, France, Jul. 8, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
106	Hiroshi Nishihara, Interfacial Coordination Programming of 1D and 2D Molecular Networks, Department Seminar, Nanjing University, Nanjing, China, Jun. 6, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
107	Hiroshi Nishihara, Coordination Nanosheets – Synthesis, Structure and Functions, S2DP2, 東大寺総合文化センター, 奈良市, 奈良, Jun. 2, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
108	Hiroshi Nishihara, Interfacial Coordination Programming of 1D and 2D Molecular Networks, Department Seminar, Freie Universität Berlin, Berlin, Germany, Mar. 3, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
109	Hiroshi Nishihara, Interfacial Coordination Programming of 1D and 2D Molecular Networks, Department Seminar, Université de Strasbourg, Strasbourg, France, Apr. 29, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
110	Hiroshi Nishihara, Interfacial Coordination Programming of 1D and 2D Molecular Networks, INT-Colloquium, KIT, Karlsruhe, Germany, Apr. 27, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
111	Hiroshi Nishihara, Photo- and Electro-functional Molecular Systems Based on Coordination Programming, Department Seminar, KIT, Karlsruhe, Germany, Apr. 26, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
112	Hiroaki Maeda, Bis(terpyridine)metal complex oligomer wires on electrodes: Constructions and their electron, Polymer Chemistry 2016, Hilton Atlanta Airport, Atlanta, USA, Nov. 14, 2016	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H28
113	大江和彦, 医療ビッグデータとこれからの医療, 第48回日本臨床検査自動化学会大会, (パシフィコ横浜, 2016.9.23)	東京大学	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	H28

114	人工知能がもたらす医療の未来とは, 東京工科大学創立30周年記念公開講座「AI(人工知能)によって変わる未来」(東京工科大学, 八王子市, 東京, 2016.10.22)					東京大学	全国COI拠点の コホート調査形 式共通化案作成 に関する調査	H28
115	メディカルAIを視野にいれた医療情報システムの展望, 国立がん研究センター研究所長中央病院長セミナー(国際研究交流会館国際会議場, 2016.11.16)					東京大学	全国COI拠点の コホート調査形 式共通化案作成 に関する調査	H28
116	Madoka Takai	Development of Stable Biocompatible Polymer Coating on Biodevices Made of Silicone,	International Conference on Advances in Polymer Science & Technology	New Delhi, India,	43063	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H29
117	Madoka Takai	Surface functionalization of blood contacting devices by biocompatible polymers,	Workshop on Bioengineering	NUS University Hall Auditorium, Singapore,	42867	東京大学	【19】統合した携帯型分析システムの開発	H29
118	Kazuro Hoshi	Tissue-engineering cartilage for the secondary repair of cleft lip-nose deformity.	58th Congress of KAOMS (Korean Association of Oral & Maxillofacial Surgeons)	Lotte Resort Buyeo, Buyeo, South Korea	42847	東京大学	【16】高機能インジェクタブルベプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H29
119	Eiichi Nakamura	Atomic Resolution Electron microscopy for organic chemists	IRCCS international symposium and the 2nd base metal catalysis symposium	Kyushu University, Fukuoka, Japan	43125	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
120	Eiichi Nakamura	Atomic Resolution Electron Microscopy for Organic Chemistry	International Symposium on Organic Chemistry in Western China	Sichuan Normal University in Chengdu, China	43015	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
121	Eiichi Nakamura	Atomic Resolution Electron Microscopy for Organic Chemistry	The 2nd International Symposium on Nano Carbons	HUST, Wuhan, China	42910	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
122	Eiichi Nakamura	Atomic Resolution Electron Microscopy for Organic Chemistry	Nankai-Asymchem lecture	Nankai University, Tianjin, China	43024	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29

123	Eiichi Nakamura	Chemistry: A bridge between molecular and real worlds – Atomic Resolution Electron Microscopy for Organic Chemistry –	Zhejiang University Global Lecture Series	Hangzho, China	42874	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
124	Eiichi Nakamura	Atomic Resolution Electron Microscopy for Organic Chemistry	Würzburg Siegfried Huenig Lecture	Würzburg, Germany	42852	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
125	Eiichi Nakamura	Element strategy initiative – Iron catalysis for organic synthesis –	MIT Büchi lecture #2	Boston, USA	42832	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
126	中村栄一	1分子1分子みながら進める有機化学研究	九州工業大学講演会	九州工業大学	42948	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
127	中村栄一	電子顕微鏡で拓く新しい化学の世界	早稲田大学講演会	早稲田大学	42887	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
128	Laurean Ilies	C–H Activation Catalyzed by Earth Abundant Metals	The 9th OCARINA International Symposium	Osaka City University, Japan	43166	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
129	Laurean Ilies	Iron–Catalyzed C–H Bond Activation of Simple Substrates	International Symposium on Pure & Applied Chemistry 2017	Hotel Continental Saigon, Ho Chi Minh, Vietnam	42895	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
130	Laurean Ilies	Iron–Catalyzed Activation of Simple Substrates	The 2nd International Symposium of “Precisely Design Catalysts with Customized Scaffolding”	Osaka University, Japan	42867	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
131	Koji Harano	The New Frontiers of Organic and Supramolecular Chemistry Explored by High–resolution Electron Microscopy	Intergroup Seminar	ETH Zurich, Switzerland	42871	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29

132	原野幸治	分子科学研究ツールとしての原子分解能電子顕微鏡	第5回錯体化学若手の会九州・沖縄支部勉強会	熊本大学	43078	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
133	原野幸治	高分解能電子顕微鏡を駆使した分子集合体科学の探求	2017年度中国四国支部高分子講演会	鳥取大学	43073	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
134	原野幸治	有機分子の結晶化を観察できるメガネ!—電子顕微鏡の最前線—	第7回CSJ化学フェスタ	タワーホール船堀	43027	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
135	原野幸治	原子分解能電子顕微鏡で分子が動く、集まる、反応する様子をとらえる	統合物質創製化学研究推進機構 第1回若手の会	サンパーク犬山	42944	東京大学	【14】結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発	H29
136	Hiroshi Nishihara	Synthesis, structure and functions of coordination nanosheet (CONASH)	Molecular Electronics and Bioelectronics	Kanazawa, Japan	42913	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H29
137	西原 寛	界面配位プログラミング	H29春の領域会議(第10回)	妙義グリーンホテル、群馬	42917	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H29
138	Hiroshi Nishihara	Coordination nanosheet (CONASH) – Synthesis, structure and functions	6th Asian Conference on Coordination Chemistry (ACCC6)	Melbourne, Australia	42943	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H29
139	Hiroshi Nishihara	Coordination Nanosheets –Synthesis, Structure and Functions	11th Japan–China Joint Symposium on Metal Cluster Compounds	Nagoya University, Aichi	43018	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H29
140	Naoya Fukui, Kazuo Nakazato, Sono Sasaki, Hiroshi Nishihara	Electronic properties and charge transport of coordination nanosheet (CONASH)	WINDS17	Hawaii, USA	43067	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H29
141	Hiroshi Nishihara	Functional Coordination Nanosheets	The 4th Japan–Canada Joint Symposium on Coordination Chemistry	Seagaia Convention Center, Miyazaki	43068	東京大学	【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H29

142	Hiroshi Nishihara	Coordination Nanosheet (CONASH) –Synthesis, Structure and Functions	MANA International Symposium 2018	Tsukuba International Congress Center EPOCHAL TSUKUBA, Ibaraki	43165	東京大学	【22】エレクトロニック眼鏡のための技術開発	H29
143	Hiroshi Nishihara	Functional Coordination Nanosheets	International Conference on Low-dimensional Quantum Materials	Snowbird, Utah USA	43170	東京大学	【22】エレクトロニック眼鏡のための技術開発	H29
144	東條 有伸	人工知能(AI)を利用した血液がんのPrecision Medicine.	第24回HAB研究機構学術年会	Tokyo, Japan	42888	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
145	東條 有伸	血液がん領域における人工知能のゲノム医療への応用	SS4-2. 特別企画4: より深くAI(愛)ある医療へ. 第116回日本皮膚科学会総会	Sendai, Japan	42889	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
146	東條 有伸	人工知能(AI)を利用した血液がんの臨床シーケンス.	「第二世代のゲノム医療実現に向けて～医療におけるビッグデータ最前線～」. 日本オミックス医療学会シンポジウム	Tokyo, Japan	42907	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
147	東條 有伸	人工知能のゲノム医療への応用: その有用性と課題.	特別講演4. 第82回日本泌尿器科学会東部総会	Tokyo, Japan	42995	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
148	東條 有伸	がんゲノム医療における人工知能(AI)の応用.	第12回企業シンポジウム特別講演. 第57回日本臨床化学会	Sapporo, Japan	43015	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
149	東條 有伸	がんゲノム医療における人工知能(AI)の応用.	特別企画シンポジウム「人工知能(AI)が変える医療と創薬の未来」. 第27回日本医療薬学会年会	Chiba, Japan	43044	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29

150	東條 有伸	人工知能(AI)を応用した白血病の臨床シーケンス. 特別教育講演SEL2-4	第79回日本血液学会学術集会	Tokyo, Japan	43029	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
151	東條 有伸	AIが未来の医療と臨床検査に及ぼすインパクト	特別講演II、第14回合同地方会(第63回日本臨床検査医学会中国・四国支部総会、日本臨床化学会／第158回中国支部例会・総会、第28回四国支部例会・総会)	Okayama, Jpan	43148	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
152	古川洋一	人工知能を用いた臨床シーケンスの取り組み	第15回日本臨床腫瘍学会学術集会シンポジウム「ビッグデータ・AI・ゲノム・創薬」	神戸	42944	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
153	古川洋一	ゲノム情報を用いた治療薬開発・治療法選択	第26回日本癌病態治療研究会シンポジウム「トランスレーショなるリサーチの現状と今後の展開」	横浜	42887	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
154	古川洋一	臨床シーケンスにおける人工知能を用いた精密医療開発	第59回日本小児血液・がん学会学術集会(松山) シンポジウム「固形腫瘍のゲノム医療」	松山	43049	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
155	井元清哉	ヘルスインテリジェンスの未来	日本臨床腫瘍学会	神戸ポートピアホテル	42944	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
156	Seiya Imoto	Supercomputing Tackles Cancer Big Data Analysis and Clinical Sequencing	日本癌学会総会	パシフィコ横浜	43007	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
157	井元清哉	がん免疫ゲノムの計算科学的解析	日本人類遺伝学会	神戸国際会議場	43056	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29

158	井元清哉	医療ビッグデータサイエンティスト養成の現状と将来展望	京都大学 高度医療専門職大学院シンポジウム	京都大学百周年時計台記念館	43133	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
159	井元清哉	ゲノム、スパコン、統計学	応用統計学会	統計数理研究所	43187	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
160	井元清哉	人工知能によるがん臨床シーケンス	日本臨床検査自動化学会	東京大学医科学研究所講堂	43076	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	H29
161	光吉俊二	音声感情認識・音声病態分析学から人工自我システムまで	(特別講演), 日本感情心理学会第25回大会	京都	2017.06.23	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
162	Satoshi Uematsu	Role of innate immunity in acute and chronic small intestinal radiation injury.	The 1st International Workshop on Radiation-induced Stem Cell Injury and Regeneration.	Tianjin, China.	42998	東京大学	【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
163	植松智	腸管樹状細胞と粘膜ワクチンの開発	第41回日本リンパ学会学術集会	鹿児島県鹿児島市	42888	東京大学	【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
164	植松智	腸管微生物叢解析の最前線	第24回日本遺伝子診療学会大会	千葉県千葉市	42929	東京大学	【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
165	植松智	Intestinal dendritic cell and mucosal vaccine development.	第16回淡路島感染症免疫フォーラム	兵庫県洲本市	42986	東京大学	【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
166	Naoki Takemura	Intestinal dendritic cell and mucosal vaccine development.	第11回次世代アジュバント研究会	大阪府豊中市	43123	東京大学	【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29

167	Akiko Kishi Svensson, Rika Ohkuma	Future if – Visualization of Future Health Risk	70th session of the WHO World Health Assembly (WHA70) Evening Seminar	Geneva,Switzerland	42877	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	H29
168	山崎力	ME-BYO の可視化と科学的エビデンス	神奈川県未病サミット	神奈川県、箱根	43028	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	H29
169	脇嘉代	ICTを用いた自己管理支援	第3回デジタルヘルスシンポジウム	京都大学吉田キャンパス	43119	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発、シンポジウム	H29
170	Kayo Waki	Glucote ResearchKit-Based Clinical Study for Type 2 Diabetes and IGT Patients	14th DIA Japan Annual Meeting 2017	東京ビッグサイト	43053	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H29
171	脇嘉代	ICTを活用したDiabetic Kidney Diseaseの成因分類と糖尿病腎症重症化抑制法の構築	第37回医療情報学連合大会	大阪国際会議場	43062	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発、共同企画	H29
172	脇嘉代	2型糖尿病患者自己管理支援システム DialBetics.	第2回糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ研究会	国立国際医療研究センター	43042	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発、シンポジウム	H29

173	脇嘉代	ICTと食の関係 美味しい健康と病院を離れた食環境での活用 生活習慣のICT自己管理支援システム DialBetic	第38回日本臨床栄養協会総会 (第15回大連合大会)	幕張メッセ	43022	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発、シンポジウム	H29
174	脇嘉代	ICTを用いた生活習慣病の自己管理支援	第38回日本臨床栄養協会総会 (第15回大連合大会)	幕張メッセ	43022	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発、サプリメントフォーラム	H29
175	脇嘉代	ICTを用いた生活習慣病管理	第40回日本高血圧学会総会	ひめぎんホール	43028	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発、会長特別企画	H29
176	脇嘉代	情報通信技術を活用した疾病管理	第114回日本内科学会総会	東京国際フォーラム	42839	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発、シンポジウム	H29
177	Kazuto Hoshi	Tissue-Engineered Autologous Cartilage for Cleft Lip-Nose Patients	5th Termis World Congress - 2018 Kyoto, Japan	Kyoto International Conference Center (ICC Kyoto)	43349	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H30
178	Kazuto Hoshi	Three-dimensional tissue-engineered cartilage for the secondary repair of cleft lip-nose deformity	Oral, Kazuto Hoshi, 13th Asian Congress of Oral & Maxillofacial Surgery TAIPEI 2018	Taipei Marriot Hotel	43413	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H30
179	植松 智	好酸球と筋線維芽細胞の相互作用は、放射線誘導性腸線維症に必須の役割を果たす	第42回日本リンパ学会	アートホテル弘前シティ	43273	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30

180	植松 智	腸管における粘膜免疫と腸内ウイルス叢の解析	第83回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会	秋葉原コンベンションホール	43307	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
181	Yoichi Furukawa	Genetic analysis of pseudomyxoma peritonei	The 9th Asian Pacific Topic Conference	Keio Plaza Hotel, Tokyo	43210	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
182	古川洋一	次世代シーケンサと人工知能が可能にするゲノム医療時代に向けて	第59回日本臨床細胞学会春季大会	ホテルロイトン、札幌	43253	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
183	古川洋一	がんゲノム解析とプレジジョン・メディシン	第1回MGC臨床ゲノムセミナー	国立精神神経センター、東京	43298	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
184	東條有伸	血液がん診療へのAIの活用	D2Kサイエンティスト緊急養成研究集会	東京大学医科学研究所	43259	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
185	東條有伸	人工知(AI)を利用した血液疾患のプレジジョンメディスン	日本薬剤学会・第43回製剤・創剤セミナー	湘南国際村センター	43335	東京大学	【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
186	東條有伸	人工知能(AI)を用いたがんプレジジョンメディスンへのアプローチ	第7回エビデンスに基づく統合医療研究会	大阪大学医学部学友会館 銀杏会館	43337	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30

187	Arinobu Tojo	AI-guided precision medicine approach to blood cancers	The 17th Annual Meeting of The Japanese Society of Digital Pathology	Kure City Kizuna Hall	43344	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
188	Seiya Imoto	Clinical Sequence with Artificial Intelligence to Interpret Whole Genome Sequence and Multi Omics Data	The 77th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association	Osaka International Convention Center	43370	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
189	Seiya Imoto	Cancer Immunogenomics Analysis of ICGC/PCAWG	The 77th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association	Osaka International Convention Center	43371	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
190	Seiya Imoto	Immuno-genomic PanCancer Landscape Reveals Diverse Immune Escape Mechanisms and Immuno-Editing Histories	Medicina de Precisión en el Siglo XXI	El Colegio Nacional, Mexico City	43272	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
191	Seiya Imoto	Computational Prediction of Gene Networks for Drug Target Discovery	Bioinformatics Workshop	El Colegio Nacional, Mexico City	43274	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
192	宮野 悟	ゲノム解析の最前線と次世代のゲノム診療	第28回がん臨床研究フォーラム	国立がん研究センター	43279	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	H30
193	康永 秀生	JMDCデータを用いた臨床疫学研究	日本臨床疫学会第2回年次学術大会	京都	43371	東京大学	【7】予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	H30

194	脇嘉代	ICTを用いた糖尿病自己管理支援	第63回日本透析医学会学術集会	神戸	43280	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H30
195	脇嘉代	ICTを用いた糖尿病自己管理支援	第55回臨床生理学会総会	福岡	43407	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H30
196	脇嘉代	ICTを用いた糖尿病重症化予防	CDK-Conference	横浜、ホテルモントレー横浜	43292	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H30
197	脇嘉代	データ関連人材育成プログラム		医科歯科大学	43300	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H30
198	脇嘉代	医療とICT, ～かかりつけ薬剤師・薬局の役割～	日本調剤グループ、学術会議	東京フォーラム	43352	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H30
199	脇嘉代	ICTを用いた糖尿病自己管理支援	AI医療・遠隔診療研究会	MSD本社ビル	43393	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H30
200	脇嘉代	IoT/ICTと医療 ～研究から社会実装に向けて～	保険業界におけるデジタ変革	日本マイクロソフト本社	43432	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H30

201	三宅加奈	ICTを用いた食事管理と生活習慣病予防について	第22回日本病態栄養学会年次学術集会	パシフィコ横浜	43477	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H30
202	脇嘉代	IoT活用で糖尿病合併症の発症・進展阻止はなるか？	第26回TAMA生活習慣病フォーラム	調布市文化会館 たづくり	43540	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	H30
203	星 和人	硬組織生物学の再生医療への応用と展開	第9回バイオインテグレーション学会学術大会・総会	武蔵野大学、武蔵野市、東京	43575	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	R1
204	星 和人	足場素材を用いた骨・軟骨再生医療の最前線	KISTEC教育講座(神奈川県・再生医療セミナー)	川崎コンベンションホール、川崎市、神奈川県	43651	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	R1
205	Kazuto Hoshi	Challenge for treatment of congenital maxillofacial anomalies using tissue engineering-	第12回口唇口蓋裂外科に関する中国国家会議	貴州斑点、貴州、中国	43714	東京大学	【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	R1
206	Ichiro Sakuma	Integration of Robotics ,Biomedical Instrumentation, and Bioscience for Minimally Invasive Therapies	2019 Amgen Scholars Asia Symposium	National University of Singapore	43680	東京大学	【1】医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合によるImage-Guided Treatment (IGT)の実現	R1
207	横山和明	血液疾患のプレジジョンメディスンにおけるAI活用の試み	日本血液学会総会 Presidential Symposium 1	東京国際Forum	43749	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1

208	横山和明	腫瘍由来循環DNAを用いたAML・およびMDSの移植後微小残存病変検出に関する後方視的解析	神奈川移植Forum	中外製薬 神奈川支店	43799	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
209	Arinobu Tojo	AI-guided precision medicine approach to blood cancers	Hotel Inter-Burgo Daegue, Korea	Hotel Inter-Burgo Daegue, Korea	43566	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
210	東條有伸	未来医療へ向けて:免疫療法の進歩とAIの導入	骨髓バンクを支援する東京の会定期総会	全労済東京会館	43645	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
211	Arinobu Tojo	AI-guided precision medicine approach to blood cancers	5th Southern Vietnam Open Blood Transfusion and Hematology Conference	Sherato Saigon Hotel & Towers	43770	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
212	東條有伸	人知とAIの融合によるがんのプレジジョンメディスン	第47回和歌山県悪性腫瘍研究会	和歌山県立医科大学 高度医療人材育成センター	43813	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
213	井元清哉	スーパーコンピューティングと人工知能が拓く次世代のゲノム医療	第63回日本リウマチ学会総会・学術集会	国立京都国際会館	43572	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
214	Seiya Imoto	Analysis of Cancer Genome Big Data	Symposium on Toward the Development of Healthy Society in Collaboration with China and Japan	Shanghai Medical College of Fudan University	43609	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
215	井元清哉	東大医科研ビッグデータ解析	第2回COI学会	日本科学未来館	43728	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1

216	Seiya Imoto	Data Science and Precision Healthcare	The 8th International Conference on Nutrition and Aging	United Nations University	43740	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
217	Seiya Imoto	Computational Prediction of Gene Networks for Drug Target Discovery	II WORKSHOP “PRACTICES IN BIOINFORMATICS AND SYSTEMS BIOLOGY”	Mexico city	43746	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
218	井元清哉	バイオインフォマティクスと・ベイズモデリング	統計数理研究所 樋口前所長退任記念シンポジウム	一橋講堂	43774	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
219	植松智、井元清哉	Metagenome: Paradigm shift in health/medical care	Tokyo Forum 2019	University of Tokyo	43806	東京大学	【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R1
220	宮野悟	人工知能パワースーツを装着した医師によるがんゲノム医療	第30回日本医学会総会	ウイंकあいち	43582	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
221	宮野悟	サイバーフィジカル空間で進化する人工知能支援がんゲノム医療	第92回日本整形外科学会学術総会	パシフィコ横浜	43596	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
222	宮野悟	スーパーコンピュータと人工知能で実現したがんゲノム医療	神戸医療産業都市会議	先端医療研究センター	43858	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1
223	山口類	がんの個別化ゲノム医療にAIとスーパーコンピュータが必要な訳	医療IT Expo@大阪	インテックス大阪	43887	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R1

224	AKIKO KISHI	Metabolic Syndrome Risk index Summary and results of an implementation project	ME-BYOサミット神奈川 WHOク リニカルコンソーシアム連携シ ンポジウム	湯本富士屋ホテ ル	43782	東京大学	【10】メタボリック シンドロームのリス ク予測モデル 可視化・予防教 育アプリケーション(カラダ予想 図)の開発及び 効果検証	R1
225	大江和彦	ビッグデータとAI時代の医療	BHCエグゼクティブセミナー2019	TKPガーデンシ ティー心斎橋	43596	東京大学	【11】対話型患者 問診ロボットの開 発	R1
226	大江和彦	AIの医療への応用と課題	第17回 阪神消化管フォーラム	ヒューイット甲子 園	43634	東京大学	【11】対話型患者 問診ロボットの開 発	R1
227	大江和彦	AIが医療を変えるか～診断から経過予測まで～	第64回日本透析医学会総会	みなとみらい会 議センター	43644	東京大学	【11】対話型患者 問診ロボットの開 発	R1
228	大江和彦	AIと情報システムがもたらすこれからの医療	医療・病院管理研究協会	ホギメディカル本 社ビル	43651	東京大学	【11】対話型患者 問診ロボットの開 発	R1
229	大江和彦	次世代健康医療記録システムのための共通プ ラットフォームの構築へ	AI時代に向けた医療情報次世代 標準化シンポジウム	東京大学伊藤国 際ホール	43654	東京大学	【11】対話型患者 問診ロボットの開 発	R1
230	大江和彦	医学研究・医療へのAI/ICT技術の活用に関する 将来展望と課題	日本腎臓学会・日本腎臓病協会 AI・ICTセミナー	フクラシア八重 洲,東京	43673	東京大学	【11】対話型患者 問診ロボットの開 発	R1
231	大江和彦	ゲノム医療と医療情報	21世紀先端医療コンソーシアム ゲノム医療部会	日本プレスセン ター	43714	東京大学	【2】臨床・ゲノム 統合データベー ス構築	R1
232	大江和彦	AI、IoT、ビッグデータの活用がもたらすこれからの 健康・医療サービスの姿	第13回日本薬局学会学術総会	神戸国際展示場	43758	東京大学	【11】対話型患者 問診ロボットの開 発	R1

233	脇 嘉代	生活習慣病の患者を対象としたICT/IoTシステムを用いた自己管理支援	第30回日本医学学会総会2019中部	名古屋国際会議場	43582	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	R1
234	脇 嘉代、南学正臣、大江 和彦	スマホを活用した糖尿病療養指導の最前線－PHR(Personal Health Record)の介入効果－糖尿病腎症に対する自己管理支援ICTシステムの有効性に関するランダム化比較試験	第62回日本糖尿病学会年次学術集会	仙台国際センター	43608	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	R1
235	脇 嘉代	医学ビッグデータとICTの活用の最前線 ICTを用いた自己管理支援	第64回日本透析医学会学術集会・総会	パシフィコ横浜	43644	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	R1
236	脇 嘉代	ICT/IoTを用いた自己管理支援	第19回日本糖尿病情報学会年次学術集会	リジェール松山	43680	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	R1
237	脇 嘉代	糖尿病腎症に対する自己管理支援ICTシステムの有効性に関するランダム化比較試験	第20回日本医療情報学会学術大会	幕張メッセ	43791	東京大学	【17】正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	R1
238	Yoshimura N	Now and Future: Epidemiology of Osteoporosis, Sarcopenia and Frailty in Japan	第63回日本リウマチ学会総会・学術集会	京都市	43571	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R1
239	吉村典子	ロコモティブシンドロームとフレイル、サルコペニアの連関：大規模住民コホートROADスタディより	第92回日本整形外科学会学術総会	横浜市	43597	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R1

240	吉村典子	要介護運動器原因疾患(ロコモ・フレイル・サルコペニア)の相互関係 住民コホートROADの追跡	第155回日本医師会シンポジウム	東京	43645	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
241	吉村典子	ロコモティブシンドロームと他の要介護疾患との関連:住民コホートROADスタディより	第31回日本運動器科学会	岡山	43652	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
242	吉村典子	運動器疾患の予防 骨粗鬆症・変形性関節症・サルコペニア	日本筋学会第5回学術集会	東京	43679	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
243	吉村典子	変形性関節症&ロコモ 変形性関節症の疫学:住民コホート研究ROADの進捗	第37回日本骨代謝学会学術集会	神戸市	43752	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
244	吉村典子	フレイル、サルコペニア、ロコモの疫学	第6回日本サルコペニア・フレイル学会	新潟市	43778	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
245	吉村典子	変形性関節症の疫学:住民コホート研究ROADより	第6回日本サルコペニア・フレイル学会	新潟市	43779	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
246	吉村典子	ロコモティブシンドロームの実態と予防	第26回日本未病システム学会学術総会	名古屋市	43786	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1
247	横山和明	腫瘍由来循環DNAを用いたAML・およびMDSの移植後微小残存病変検出に関する後方視的解析	神奈川移植Forum	中外製薬 神奈川支店	43799	東京大学	【H31W02】白血病における液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R1
248	Tomoyuki Yokota	The Ultra-Flexible Organic Electronics	2019 International Conference on Electronics Packaging(ICEP 2019)	Toki Messe	43574	東京大学	【H31W02】白血病における液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R1

249	Tomoyuki Yokota	Ultraflexible Organic Photonic Devices	235th ECS Meeting	Sheraton Dallas	43613	東京大学	【H31W02】白血病における液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R1
250	Tomoyuki Yokota	Ultra-Flexible Organic Electronics for Bio-Medical Applications	AM-FPD19	龍谷大学響都ホール校友会館	43650	東京大学	【H31W02】白血病における液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R1
251	Tomoyuki Yokota	Ultra-Flexible Organic Imager and Sensors	IDW '19	Sapporo Convention Center	43798	東京大学	【H31W02】白血病における液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R1
252	稲城玲子	CKDとオルガネラストレス: 最近の新しい知見	第1回 Kidney Research Club	リモート開催	44231	東京大学	【3】糖尿病性腎症関連因子の研究	R2
253	稲城玲子	Organelle Cross-Talk and Tubular Inflammation	Kidney Week 2020 (American Society of Nephrology)	リモート開催	44126	東京大学	【3】糖尿病性腎症関連因子の研究	R2
254	稲城玲子	What we learn from metabolome in the kidney	日本糖尿病学会	リモート開催	44109	東京大学	【3】糖尿病性腎症関連因子の研究	R2
255	稲城玲子	Role of tubules in interstitial fibrosis	18th Asian Pacific Congress of Nephrology	リモート開催	44106	東京大学	【3】糖尿病性腎症関連因子の研究	R2
256	植松智	Dysbiosis関連疾患に対する革新的な治療法の創出	第65回日本透析医学会学術集会・総会	Web開催	44138	東京大学、大阪市立大学	【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R2
257	横山和明	血液疾患のプレジジョンメディスンにおけるAI活用の試み	Phizer Leukemia Internet Symposium	東京、WEB配信	44135	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
258	横山和明	急性骨髄性白血病や骨髄異形成症候群において同種移植後の循環腫瘍DNA残存は再発を予測するバイオマーカーである	第82回日本血液学会学術集会シンポジウム Relapse after allogeneic HSCT: Challenges and New Directions	京都国際会議場、web開催	44114	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2

259	東條 有伸	ランゲルハンス細胞組織球症の基礎と臨床	第82回日本血液学会学術集会シンポジウム 教育講演	京都国際会議場、web開催	44114	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
260	井元清哉	オミクスデータによる疾患の分子基盤解明	ポストコロナ新興感染症を見据えた研究開発戦略ワークショップ	Online	44023	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
261	井元清哉	AI / HPC が切り拓く COVID-19 研究最前線	NVIDIAウェビナー	Online	44049	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
262	井元清哉	ゲノムビッグデータ解析の最前線	2020年度統計関連学会連合大会	Online	44083	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解 【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R2
263	井元清哉	人工知能(AI)の臨床医学・ゲノム医学への応用	日本内科学会生涯教育講演会	Online	44101	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
264	井元清哉	GPUが拓く巨大ゲノムプロジェクトとゲノム医療	NVIDIA GPU Technology Conference	Online	44109	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2
265	井元清哉	医療データXゲノム情報によるコロナ制圧研究	データ活用社会創成シンポジウム	Online	44190	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R2

266	井元清哉	データサイエンスとは何か？	第58回日本医療・病院管理学会 学術総会	Online	44107	東京大学	【4】全ゲノム解析 と人工知能技術 を用いた臨床 シーケンスの 社会実装による ヒトの丸ごと理解 【5】全ゲノム・全 メタゲノムシーケ ンス解析	R2
267	井元清哉	Our alter ego “Microbiome” is a key for precision healthcare	東京大学 x Google パートナ シップ締結記念シンポジウム	Online	43893	東京大学	【5】全ゲノム・全 メタゲノムシーケ ンス解析	R2
268	井元清哉	データサイエンスは健康科学・ゲノム医療・ COVID-19感染症研究の駆動力	中央大学理工学研究所特別講 演会	Online	43909	東京大学	【4】全ゲノム解析 と人工知能技術 を用いた臨床 シーケンスの 社会実装による ヒトの丸ごと理解 【5】全ゲノム・全 メタゲノムシーケ ンス解析	R2
269	徳野慎一	ストレス状態を可視化するスマートフォンアプリ ケーション「MIMOSYS」	第20回日本抗加齢医学会総会	バーチャル	44101	東京大学	教育講演 【6】音声病態分 析による精神・神 経疾患領域にお ける未病対策と 発病早期発見の システムの構築	R2
270	岸 暁子	「自分ゴト化から個別化予防医療へ」	次世代医療技術研究会 第2回情	Web開催	44049	東京大学	【10】メタボリック シンドロームのリ スク予測モデル 可視化・予防教 育アプリケーション (カラダ予想 図)の開発及び 効果検証【12】日 常生活における 睡眠およびストレ スの科学的な評 価方法と個別化 対応への研究開 発	R2
271	岸 暁子	「健康の自分ゴト化のための研究開発」	東大COI自分で守る健康社会シン	Web開催	44202	東京大学	【10】メタボリック シンドロームのリ スク予測モデル 可視化・予防教 育アプリケーション (カラダ予想 図)の開発及び 効果検証【12】日 常生活における 睡眠およびストレ スの科学的な評 価方法と個別化 対応への研究開 発	R2

272	中村正裕	「個のデータに着目したパーソナル医療の社会実装と未来予測」	大阪大学 数理・データ科学教育研究センター(MMDS) 主催 研究会「医学研究における数理的方法」	Web開催	44251	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証【12】日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	R2
273	吉村典子	健康寿命延伸を目指して—ロコモ・フレイルの立場から— ロコモ、フレイルの疫学—地域住民コホートROADスタディより—	第93回日本整形外科学会学術総会	オンライン	2020/6/11-8/31	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2
274	吉村典子	骨粗鬆症予防は1石4鳥！ 地域住民コホートROADスタディより	第20回日本抗加齢学会	浜松町コンベンションホール & Hybrid スタジオ	44101	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2
275	吉村典子	ロコモ、サルコペニア、フレイル:要介護の原因疾患の相互関係	第2回健康寿命の延伸を考える会in Saitama	川越市	44107	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2
276	吉村典子	日本の骨粗鬆症コホート研究とその未来ROADスタディ	第22回日本骨粗鬆症学会	オンライン	44114	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2
277	吉村典子、田中栄	骨粗鬆症検診の再構築:低骨密度発見型から高骨折リスク発見型へ これからの骨粗鬆症検診のあり方	第22回日本骨粗鬆症学会	オンデマンド	44114	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2
278	吉村典子	サルコペニアの基礎と臨床 ロコモティブシンドロームとフレイル・サルコペニア	第22回日本骨粗鬆症学会	オンライン	44115	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2
279	吉村典子	整形外科からみた脆弱性骨折 本邦における脆弱性骨折	第38回日本骨代謝学会学術集会	オンライン	44115	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2
280	吉村典子	基礎研究に裏づけられたロコモティブシンドローム対策:ロコモ・サルコペニア・フレイルの関係:大規模住民コホートROAD スタディ	第35回日本整形外科学会基礎学術集会オンライン学術集会	ライブ配信	44119	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2

281	吉村典子	ロコモティブシンドロームとサルコペニア：ロコモ度1,2,3とサルコペニアの合併	第7回日本サルコペニア・フレイル学会大会オンライン	ライブ配信	44149	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2
282	大塚祐多、飯高世子、吉村典子	サルコペニアと栄養の関連- 第5回ROADスタディ調査より	第7回日本サルコペニア・フレイル学会大会オンライン	ライブ配信	44149	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2
283	吉村典子	How to ～ロコモとフレイル：要介護原因疾患の相互作用	第7回日本サルコペニア・フレイル学会大会オンライン	録画配信	44149	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2
284	吉村典子	骨粗鬆症・サルコペニア・フレイル：高齢者のQOLに影響する疾患の相互関係	第13回抗加齢ウィメンズヘルス研究会オンライン	ライブ配信	44164	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R2
285	Takuya Katashima	Viscoelastic Study on Transient Networks Composed of Mutually Reactive Branched Polymers	3rd GLOWing Polymer Symposium in KANTO (GPS-K 2020)	オンライン	44163	東京大学	【R2W06】日帰りで社会復帰が可能な網膜剥離治療を目指した親水性眼内充填材の開発と手術応用に向けた基盤研究	R2
286	横山和明	血液疾患のプレジジョンメディスンにおけるAI活用の試み	Phizer Leukemia Internet Symposium	東京、WEB配信	44135	東京大学	【R2W11】白血病における第三世代液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R2
287	横山和明	急性骨髄性白血病や骨髄異形成症候群において同種移植後の循環腫瘍DNA残存は再発を予測するバイオマーカーである	第82回日本血液学会学術集会シンポジウム Relapse after allogeneic HSCT: Challenges and New Directions	京都国際会議場、web開催	44114	東京大学	【R2W11】白血病における第三世代液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R2
288	東條 有伸	ランゲルハンス細胞組織球症の基礎と臨床	第82回日本血液学会学術集会シンポジウム 教育講演	京都国際会議場、web開催	44114	東京大学	【R2W11】白血病における第三世代液体生検の社会実装に向けた基盤研究	R2
289	稲城玲子	未定	International Maillard Reaction Society-14	オンライン	44463	東京大学、協和キリン株式会社	【3】糖尿病性腎症関連因子の研究	R3
290	稲城玲子	未定	第32回腎とフリーラジカル研究会	熊本	44513	東京大学、協和キリン株式会社	【3】糖尿病性腎症関連因子の研究	R3

291	稲城玲子	未定	World Congress of Nephrology 2022	クアラルンプール	44616	東京大学、協和キリン株式会社	【3】糖尿病性腎症関連因子の研究	R3
292	稲城玲子	Insights from genetic analyses of tubular biology	World Congress of Nephrology 2021	オンライン	44301	東京大学、協和キリン株式会社	【3】糖尿病性腎症関連因子の研究	R3
293	井元清哉	GPUが可能とする大規模ゲノムデータ解析基盤のエクスポネンシャル進化	GPUテクノロジカルカンファレンス	オンライン	44298	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R3
294	井元清哉	人工知能(AI)の臨床医学・ゲノム医学への応用と影響	医療・病院管理研究協会	オンライン	44435	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R3
295	井元清哉	下水中ウイルスのゲノム解析から見える変異株の感染流行実態	防災学術連携体 第9回 Web研究会	オンライン	44467	東京大学	【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R3
296	Seiya Imoto	Genome Big Data Analysis Platform towards Genomic Medicine	第80回 日本癌学会学術総会	オンライン	44470	東京大学	【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解	R3
297	Satoshi Uematsu	Intestinal phage and host bacteria dynamics in healthy Japanese	第80回 日本癌学会学術総会	オンライン	44470	東京大学	【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R3
298	植松智	腸内細菌叢の制御法の開発	第25回 日本がん免疫学会総会	オンライン	44380	東京大学	【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R3
299	植松智	Clostridioides difficile 感染症に対する新規治療法の開発	第50回日本嫌気性菌感染症学会総会・学術集会	オンライン	44346	東京大学	【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R3
300	光吉俊二	音声感情認識・音声病態分析学から人工自我システムまで	日本感情心理学会 第25回大会	京都	42909	東京大学	特別講演【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
301	Yoshimura N	Now and Future: Epidemiology of Osteoporosis, Sarcopenia and Frailty in Japan	第63回日本リウマチ学会総会・学術集会	京都市	43571	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートを用いた要介護予測システムの開発	R1

302	吉村典子、飯高世子、堀井千彬、田中栄、中村耕三	サルコペニア・フレイル対策におけるロコモ予防の重要性: ROAD スタディより	第32回日本運動器科学会	久留米市	44324	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3
303	吉村典子、飯高世子、堀井千彬、田中栄、中村耕三	運動器を予防ターゲットとした地域住民コホートROADスタディ	第32回日本運動器科学会	久留米市	44324	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3
304	飯高世子、堀井千彬、田中栄、吉村典子	骨粗鬆症と変形性関節症の疫学: 股関節を中心に	第23回日本骨粗鬆症学会	神戸市、オンライン	44478	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3
305	吉村典子	中高年女性のロコモ・サルコペニア・フレイル(ROAD研究)	第21回日本抗加齢医学会総会	京都市	44374	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3
306	吉村典子	運動器疫学調査から理学療法士への提言	第39回日本骨代謝学会学術集会	神戸市、オンライン	44477	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3
307	吉村典子	ロコモと骨粗鬆症: 疫学	第39回日本骨代謝学会学術集会	神戸市、オンライン	44479	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R3
308	岸暁子	スマートウォッチの情報の妥当性確認と今後の医療応用の可能性(Fitbitの事例)	心電学関連春季大会2021	Web開催	44310	東京大学	【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	R3
309	Tomoyuki Yokota	Sheet-Type Image Sensor with Near Infrared Sensitive Organic Photodiode	2021 SID (The Society for Information Display) Virtual Display Week Symposium	Online	44317	東京大学	【R03W03】医療機器としてのつけ爪型バイタルセンサの開発	R3
310	片島拓弥	Mechanical property of doubly crosslinked gels	高分子年次大会	オンライン	44343	東京大学	【R2W06】日帰りで社会復帰が可能な網膜剥離治療を目指した親水性眼内充填材の開発と手術応用に向けた基盤研究	R3
311	片島拓弥	スライムのレオロジー	関東高分子若手会サマーキャンプ	オンライン	44413	東京大学	【R2W06】日帰りで社会復帰が可能な網膜剥離治療を目指した親水性眼内充填材の開発と手術応用に向けた基盤研究	R3

COIプログラム 終了報告書 別紙2 活動実績一覧

拠点名: V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核: 東京大学)

⑫-4 発表(その他)

No	発表者	タイトル	学会名等	場所	年月日	発表機関 (参画機関のみ)	備考 (形式、課題番号等)	年度
1			東大COIシンポジウム	日本教育会館 喜山倶楽部	2014/3/28	東海光学	パネル発表【22】エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	H25
2	貴田武実	「次世代医療情報基盤の構築～東京大学COIプロジェクト参加を通じて～」	若者と共存共栄する持続可能な健康長寿社会を目指す～Sustainable Life Care, Ageless Society COI拠点に関するシンポジウム～	東京	2014.3.28	富士通株式会社	【2】臨床・ゲノム統合データベース構築	H26
3	徳淵慎一郎		第2回健康長寿ループの会	東京	2014/12/11	(株)ハビタスケア	パネルディスカッション及びショートプレゼン【27】生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立	H26
4	徳淵慎一郎		指宿市 ヘルスケア事業に関するセミナー		2015/3/13	(株)ハビタスケア	一般講演【27】生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立	H26
5	徳淵慎一郎		株式会社ジェイアール東日本企画、経済産業省「平成26年度健康寿命延伸産業創出推進事業」事業報告会「ヘルスケア産業の最前線 2015 in 関西」		2015/3/20	(株)ハビタスケア	成果報告講演【27】生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立	H26
6	徳淵慎一郎		日常生活に密着したヘルスケアの仕組み創造コンソーシアム、経済産業省「平成26年度健康寿命延伸産業創出推進事業」事業報告会「ヘルスケア産業の最前線 2015」		2015/3/20	(株)ハビタスケア	パネル展示【27】生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立	H26
7	徳淵慎一郎		日常生活に密着したヘルスケアの仕組み創造コンソーシアム、経済産業省「平成26年度健康寿命延伸産業創出推進事業」事業報告会「ヘルスケア産業の最前線 2015」		2015/3/25	(株)ハビタスケア	パネル展示【27】生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立	H26

8	徳野慎一	音声病態分析学が切り開く未来	第3回COIシンポジウム	東京	2016/3/2	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
9	大塚寛	MIMOSYS による「健康の自分ごと化」	第3回COIシンポジウム	東京	2016/3/2	PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
10	光吉俊二	パネルディスカッション “健康の自分ごと化”	第3回COIシンポジウム	東京	2016/3/2	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
11	徳野慎一, 光吉俊二, 栃岡孝宏	音声病態分析学が未来にもたらすもの	第4回健康長寿ループの会	東京	2015/12/10	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
12	光吉俊二	音声分析による感情推定とその応用	第23回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ (WISS2015)	別府	2015/12/4	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
13	Tokuno S	Stress Evaluation by Voice: a novel stress evaluation technology	Annual Bilateral Behavioral Health Conference	Kanagawa	2015/6/23	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
14	徳野慎一	音声病態分析学のこの1年の進捗状況	第6回健康長寿ループの会	東京	2017/2/24	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28

15	大塚寛	MIMOSYS その後	第4回COIシンポジウム	東京	2017/1/18	PST	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H28
16	倉沢 央	糖尿病重症化予防を目的とした治療支援AI	第21回日本遠隔医療学会学術大会ランチョンセミナー3	栃木県総合文化センター	2017/10/1	NTT	ランチョンセミナーでの講演【21】電子カルテに含まれる医療データ分析	H29
17	徳野慎一	音声病態分析の進捗と成果	第5回COIシンポジウム	東京	2018/1/15	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
18	徳野慎一	音声病態分析学技術の現状と展望	第7回健康長寿ループの会	東京	2017/12/1	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
19	Tokuno S	MIMOSYS (Voice analysis of pathophysiology: a monitoring system of the health status of the mind)	My Healthcare Revolution Produced by Japan, WHA70 Evening Seminar	Geneve	2017/5/22	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
20	徳野慎一	音声病態分析: 声で疾患をどこまで区別できるか?	第8回健康長寿ループの会	東京	2018/8/22	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
21	Tokuno S	Future Innovation of Voice Analysis of Pathophysiology	Kanagawa Prefecture Seminar on Healthcare New Frontier in Japan "ME-BYO: Building a Better Future through Behavior Change", WHA71 Evening Seminar	Geneve	2018/5/22	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30

22	徳野慎一	音声によるアスリートのマインドケアおよび強化	東京大学社会連携本部・東京大学スポーツ先端科学研究拠点特別シンポジウム「大学スポーツの未来」	東京	2018/5/10	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H30
23	康永秀生	JMDCデータを利用した研究	NDB・DPCデータベース研究人材育成＜短期集中セミナー＞	東京大学	2018/8/7	東京大学	【7】予防ビジネスにおける医療経済性評価研究一般講演	H30
24	葛西靖明	ファイバー走査技術による細径・高解像度血管内視鏡の実現	第25回「エレクトロニクスにおけるマイクロ接合・実装技術」シンポジウム	パシフィコ横浜	2019/1/30	オリンパス株式会社	【15】血管内ヘルスケアデータを取得する機能を有した低侵襲診断機器(血管内視鏡)に関する研究一般講演	H30
25	古川洋一	日本における遺伝性腫瘍の遺伝学的検査現状	がんに関する全ゲノム解析等の推進に関する部会	東京	2019/10/16	東京大学	厚労省会議	R1
26	Tokuno S	Voice recognition system to detect cognitive decline	WHO Clinical Consortium on Healthy Ageing (CCHA) 2019 annual meeting	Geneve	2019/11/21	東京大学	専門家会合【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
27	徳野慎一	Indication of me-byo using voice - MIMOSYS (Mind Monitoring System) & Its Application	未病サミット	箱根	2019/11/13	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
28	徳野慎一	音声病態分析の進捗状況	COIシンポジウム2019	東京	2019/10/25	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
29	徳野慎一	音声感情認識技術を用いたこころのモニタリングについて	Natureフォーラム：こころの健康とデータサイエンス	東京	2019/10/24	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1

30	Tokuno S	Current Status and Future Prospects of Voice Biomarkers	Kanagawa Prefecture Seminar on Healthcare New Frontier in Japan “ME-BYO: Building a Better Future through Behavior Change”, WHA72 Evening Seminar	Geneve	2019/5/22	東京大学	【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	R1
31	中村正裕、岸暁子, Thomas Svensson	メタボリックシンドロームのリスク予測を活用した行動変容促進モデル構築～メタボリスクAIによる行動変容促進～	第10回健康長寿ループの会	東京大学	2020/2/7	東京大学	一般講演【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証、【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	R1
32	中村正裕	アプリを用いた健康社会の実現と未来	第4回IoTサミット(2019)	東京大学	2019/12/4	東京大学	一般講演【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	R1
33	吉村典子	百寿のために:ロコモ・フレイルを知らう 骨粗鬆症とロコモってなあに?	第6回日本サルコペニア・フレイル学会	新潟市	2019/11/10	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R1
34	吉村典子	知っていますか、ロコモティブシンドローム	ロコモ予防講演会	和歌山県	2019/11/14	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R1
35	吉村典子	百寿のために:ロコモ・フレイルを知らう 骨粗鬆症とロコモってなあに?	第6回日本サルコペニア・フレイル学会	新潟市	2019/11/10	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R1
36	吉村典子	知っていますか、ロコモティブシンドローム	ロコモ予防講演会	和歌山県	2019/11/14	東京大学	【13】地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	R1

COIプログラム 終了報告書 別紙2 活動実績一覧

拠点名: V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核: 東京大学)

⑬ 受賞

No	受賞名	主催(表彰団体名)	受賞者氏名	受賞者所属機関	受賞年月日	URL	備考	年度
1	優秀インタラクティブ発表賞受賞	音声による心の健康度測定の妥当性について, HCGシンポジウム2015 (富山)	篠原修二, 中村光晃, 大宮康宏, 高木宏昌, 牛渡智, 光吉俊二, 徳野慎一	東京大学 株式会社PST	2015/12/17		【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
2	優秀インタラクティブ発表賞受賞	スマートフォンを用いた音声による健康状態のモニタリングシステムの開発, HCGシンポジウム2015 (富山)	大宮康宏, 萩原直樹, 桐田賢, 篠原修二, 中村光晃, 光吉俊二, 徳野慎一	東京大学 株式会社PST	2015/12/16		【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H27
3	Best Poster Award	Royal Society of Chemistry Tokyo International Conference 2016	Carlton F. Hoy	東京大学			【19】統合した携帯型分析システムの開発	H28
4	応用物理学会第11回(2017年度)フェロー賞	応用物理学会	高井まどか	東京大学	2017/9/5		【19】統合した携帯型分析システムの開発	H29
5	2017 ASH Abstract Achievement Awards	American society of hematology (ASH)	Sousuke Nakamura	The university of Tokyo	2017/10/31		【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析、【24】ゲノム解析のためのシーケンサー技術の開発、【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
6	Highly-cited researcher	クラリベイト・アナリティクス社	植松 智	千葉大学、東京大学	2017/11/27		【4】全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装によるヒトの丸ごと理解、【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析、【24】ゲノム解析のためのシーケンサー技術の開発、【25】ウイルスメタゲノム解析の社会実装	H29
7	ポスターワード	生体医工学シンポジウム	大宮康弘	PST株式会社	2017.9		【6】音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	H29
8	優秀ポスター賞	第76回日本公衆衛生学会総会	岸 暁子	東京大学	1905/7/9		【10】メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	H29
9	学術賞	第36回日本骨代謝学会学術集会	星 和人	東京大学	2018/7/1		【16】高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	H30
10	研究奨励賞	日本医療情報学会	倉沢 央	NTTサービスエポリューション研究所	2018/7/1		【21】電子カルテに含まれる医療データ分析	H30

11	Highly Cited Researchers for 2019	クラリベイト・アナリティクス 横田知之	東京大学	2019/12/18	https://recognition.webofsciencegroup.com/awards/highly-cited/2019/	【R03W03】医療機器としてのつけ爪型バイタルセンサの開発	R1
12	Outstanding Paper Award	2019 ICFPE 西仲稯也	東京大学	2019/10/24	https://expo.itri.org.tw/2019/ICFPE/PageDetail/3649	【R03W03】医療機器としてのつけ爪型バイタルセンサの開発	R1
13	NPB特別賞	日本プロ野球連盟 井元清哉	東京大学	2020/12/17		【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R2
14	Jリーグアウォーズ チェアマン特別賞	Jリーグ 井元清哉	東京大学	2020/12/21		【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R2
15	第27回(令和3年度)日本炎症・再生医学会奨励賞	日本炎症・再生医学会 藤本康介	東京大学、大阪市立大学	2021/7/7	http://www.jsir.gr.jp/new/detail24.html	【5】全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析	R3
16	総合研究奨励賞	一般財団法人 総合研究奨励会 片島拓弥	東京大学	2021/07/26		【R03W05】新規親水性眼内充填材による日帰り網膜剥離手術への応用と病態理解に基づく予防に向けた学際的基盤研究	R3

COIプログラム 終了報告書 別紙3 参画機関一覧

拠点名: V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核: 東京大学)

No.	機関名	参画形態 金額[千円]:「★: 受託機関として参画」 ● : 受託機関ではないが、研究開発実施場所として参画 ○ : 上記以外で参画 — : 参画なし								
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
1	東京大学	★	★	★	★	★	★	★	★	★
2	東芝メディカルシステムズ株式会社	●	●	●	●	—	—	—	—	—
3	キヤノンメディカルシステムズ株式会社	—	—	—	—	●	●	●	●	●
4	富士通株式会社	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5	協和キリン株式会社	●	●	●	●	●	●	●	●	●
6	日本アイ・ビー・エム株式会社	—	—	●	●	●	●	●	●	●
7	PST株式会社	—	—	●	●	●	●	●	●	●
8	日本総合システム株式会社	—	—	●	●	●	●	●	●	●
9	株式会社タニタヘルスリンク	—	—	—	—	○	○	○	○	○
10	中外製薬株式会社	—	—	—	●	●	●	●	●	●
11	東和薬品株式会社	●	●	●	●	●	○	○	○	○
12	オリンパス株式会社	—	—	—	—	●	●	●	●	—
13	株式会社スリー・ディー・マトリックス	○	○	○	○	○	○	○	—	—
14	日本調剤株式会社、株式会社東急百貨店	—	—	—	—	○	○	○	—	—
15	日立アロカメディカル株式会社	●	●	●	—	—	—	—	—	—
16	株式会社日立製作所	—	—	—	●	●	●	—	—	—
17	株式会社日立ハイテクノロジーズ	●	●	●	●	●	●	—	—	—
18	東海光学株式会社		●	●	●	●	—	—	—	—

19	エーザイ株式会社	●	●	●	●	●	—	—	—	—
20	クオインタムバイオシステムズ株式会社	—	—	●	●	—	—	—	—	—
21	株式会社医学生物学研究所	—	—	●	●	●	●	●	—	—
22	シミックホールディングス株式会社	—	●	●	●	—	—	—	—	—
23	株式会社ハビタスケア	—	●	●	●	—	—	—	—	—
24	日本触媒株式会社	●	●	●	—	—	—	—	—	—
25	東京化成工業株式会社、 日揮触媒化成株式会社、 黒金化成株式会社	●	●	●	—	—	—	—	—	—
26	ペプチドリーム株式会社	●	●	○	—	—	—	—	—	—
27	日産化学工業株式会社	—	●	●	—	—	—	—	—	—
28	株式会社コスモステクニカルセンター、 株式会社耐熱性酵素研究所	—	●	●	—	—	—	—	—	—
29	東京理化工業株式会社	—	●	●	—	—	—	—	—	—
30	日本電子株式会社	—	●	●	—	—	—	—	—	—
31	株式会社パスカル	—	●	●	—	—	—	—	—	—
32	武田薬品工業株式会社	●	●	●	—	—	—	—	—	—
33	日本ゼオン株式会社	—	●	—	—	—	—	—	—	—
34	日本電信電話株式会社	—	○	○	○	○	○	—	—	—
35	株式会社日本総合研究所	—	—	●	—	—	—	—	—	—
36	東北大学	—	—	—	—	●	●	●	—	●
37	京都大学	—	—	—	—	●	●	—	—	—
38	山形大学	—	—	—	—	—	●	—	—	—
39	東京慈恵会医科大学	—	—	—	—	—		★	★	—
40	香川高等専門学校	—	—	—	—	—	●	●	—	★

41	国立研究開発法人理化学研究所	—	—	—	—	—	—	—	★	—
42	旭川医科大学	—	—	—	—	—	—	—	—	●
43	筑波大学	—	—	—	—	—	—	—	—	●
44	日立総合病院	—	—	—	—	—	—	—	—	●

COIプログラム 終了報告書 別紙5 研究開発テーマと個別研究開発課題の関係一覧

拠点名: V1 『自分で守る健康社会拠点』(中核:東京大学)

終了報告書中の研究開発テーマ		包含する研究開発課題		
番号	テーマ名	番号	課題名	実施機関
1	医用画像診断技術と、低侵襲治療技術の融合によるImage-Guided Treatment (IGT)の実現	1-a	心臓弁治療支援ソリューションの研究開発	東京大学、キヤノンメディカルシステムズ株式会社
		1-b	10000	東京大学、キヤノンメディカルシステムズ株式会社
2	臨床・ゲノム統合データベース構築	2-a	臨床・ゲノム統合データベースを活用したゲノム医療支援システムの開発と展開	東京大学、富士通株式会社
3	糖尿病性腎症関連因子の研究	3-a	糖尿病性腎臓病重症化に関わるバイオマーカー・創薬候補因子の研究開発	東京大学、協和キリン株式会社
		3-b	DialBeticsを用いた「腎不全進展と相関する行動要素」の抽出	東京大学、協和キリン株式会社
4	全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装	4-a	ワンデイ全ゲノム解析のためのシーケンス解析パイプラインの整備	東京大学、日本アイ・ビー・エム株式会社
	全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装	4-b	全ゲノムシーケンス情報を解釈するための人工知能技術の開発	東京大学、日本アイ・ビー・エム株式会社
	全ゲノム解析と人工知能技術を用いた臨床シーケンスの社会実装	4-c	人工知能を用いた全ゲノム臨床シーケンスの社会実装	東京大学、日本アイ・ビー・エム株式会社
5	全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析によるヒトの丸ごと理解	5-a	ウイルスシーケンス解析技術の開発と解析	東京大学
	全ゲノム・全メタゲノムシーケンス解析によるヒトの丸ごと理解	5-b	次世代ファージ療法の開発	東京大学
24	ゲノム解析のためのシーケンサー技術の開発			東京大学医科学研究所、クオントムバイオシステムズ株式会社
6	音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステムの構築	6-a	音声から健常者と患者群を分ける技術「MIMOSYS(Mind Monitoring System)」の開発	東京大学、PST株式会社
		6-b	音声病態分析による精神・神経疾患領域における未病対策と発病早期発見のシステム	東京大学、PST株式会社
7	予防ビジネスにおける医療経済性評価研究	7-a	メタボの予防・治療の効果と医療費に関する分析	東京大学(H27まで株式会社日本総合研究所)
8	患者の在宅健康医療データ連携システムの研究開発	8-a	患者の在宅健康医療データ連携システムの研究開発	東京大学、日本総合システム株式会社、株式会社タニタヘルスリンク
9	ヒト免疫系の機能ゲノム学による統合的理解とこれを用いた免疫疾患の発症予防のためのインターベンション戦略の構築	9-a	eQTL情報を用いた免疫関連疾患リスクスコアの研究開発	東京大学、中外製薬株式会社

10	メタボリックシンドロームのリスク予測モデル可視化・予防教育アプリケーション(カラダ予想図)の開発及び効果検証	10-a	「カラダ予想図」アプリケーションを用いた、メタボリックシンドロームのハイリスク群及び発症前ハイリスク群に対する効果検証およびその研究開発	東京大学
		10-b	生活習慣病から健康長寿研究(ヘルシーエイジング)のためのヘルシーエイジ予測モデルの構築(生活習慣病から健康長寿のための健康年齢予測へ)	東京大学
11	対話型患者問診ロボットの開発	11-a	対話問診型患者情報収集システムの開発	東京大学、(PST株式会社 ○○年に辞退)
12	日常生活における睡眠およびストレスの科学的な評価方法と個別化対応への研究開発	12-a	睡眠とストレスの関連性を解明し健康アドバイスに活用できるアプリケーションの開発	東京大学
		12-b	睡眠・ストレスの個別化対応への機械学習・深層学習の導入および単独アプリケーション開発の可能性探索	東京大学
13	地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	13-a	地域住民長期追跡コホートをを用いた要介護予測システムの開発	東京大学
		13-b	要介護予測アプリ開発に向けた大規模住民データセットの構築	東京大学
14	結晶成長及び反応制御による基盤医薬品の探索と開発			東京大学、東和薬品株式会社
15	血管内ヘルスケアデータを取得する機能を有した低侵襲診断機器(血管内視鏡)に関する研究	15-a	血管内ヘルスケアデータを取得する機能を有した低侵襲診断機器(血管内視鏡)に関する研究	東京大学、オリンパス株式会社
16	高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	16-a	高機能インジェクタブルペプチドハイドロゲルによる、口腔・顎顔面領域用骨・軟骨再生デバイスの開発	東京大学、株式会社スリー・ディー・マトリックス
17	正常域血圧からの高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム構築とIoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	17-a	高血圧性疾患重症化抑制のためのICTシステム(SMART-H)の構築	東京大学、株式会社東急百貨店、日本調剤株式会社
		17-b	IoTを活用した血圧の管理・重症化抑制モデルの開発	東京大学、株式会社東急百貨店、日本調剤株式会社
18	超音波CTによる検診技術の開発/組織内脂肪推定法の開発		超音波CTによる検診技術の開発/組織内脂肪推定法の開発	東京大学、株式会社日立製作所
18	在宅でエコー診断を実施するための技術の開発/組織内脂肪推定法開発		在宅でエコー診断を実施するための技術の開発	東京大学、日立アロカメディカル(株)
19	統合した携帯型分析システムの開発		統合した携帯型分析システムの開発	株式会社日立ハイテクノロジーズ
20	多能性幹細胞の次世代がん治療への応用法の開発		多能性幹細胞の次世代がん治療への応用法の開発	東京大学、協和発酵キリン株式会社
20	がん幹細胞を標的とした早期診断、治療、再発モニタリング手法の確立		がん幹細胞を標的とした早期診断、治療、再発モニタリング手法の確立	東京大学、協和発酵キリン株式会社
21	電子カルテに含まれる医療データ分析		電子カルテに含まれる医療データ分析	東京大学、日本電信電話株式会社
22	エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発		エレクトロクロミック眼鏡のための技術開発	東京大学、東海光学株式会社
23	Preclinicalな状態像の検出指標把握と受診勧奨に導く仕組みの構築→産学連携プロジェクト"THE"		産学連携プロジェクト"THE"	東京大学、エーザイ株式会社

25	ウイルスメタゲノム解析の社会実装		ウイルスメタゲノム解析の社会実装	東京大学医科学研究所、(株)医学生物学研究所(MBL)、
26	尿中バイオマーカーを用いたPOCデバイスによる心腎連関・多臓器不全の早期診断と治療介入		尿中バイオマーカーを用いたPOCデバイスによる心腎連関・多臓器不全の早期診断と治療介入	東京大学、シミックホールディングス株式会社
27	生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立		生活習慣病予防のための健康指導ビジネスの確立	東京大学、株式会社ハビタスケア
28	新原理蓄電池の基本性能向上、材料分析、蓄電池容量向上要因の明確化		新原理蓄電池	東京大学、日本触媒(株)
29	革新的フロー反応による医薬品素材の合成		革新的フロー反応による医薬品素材の合成	東京化成工業株式会社、日揮触媒化成株式会社、黒金化成株式会社
30	高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新／重症薬疹治療薬の開発		高速・省エネ型創薬プラットフォーム技術の革新／重症薬疹治療薬の開発	東京大学、ペプチドリーム株式会社
31	基盤医薬品の高効率合成		ジェネリック医薬品の低コスト合成	東京大学、日産化学工業株式会社
32	医薬品成分の高効率合成		医薬品成分の効率的合成	東京大学、株式会社コスモバイオファーマルセンター株式会社耐熱性酵素研究所
33	全自動フローリアクターの開発		全自動フローリアクターの開発	東京大学、東京理化器械(株)
34	データ共有プラットフォームによる装置連携促進、および、統計・多変量解析ソフトウェアを各種理科学機器データへの適用による創薬プラットフォーム効率化と生化学検査コスト圧縮技術の開発		創薬効率向上のための解析装置の連携とソフト開発	東京大学、日本電子株式会社
35	医薬品三次元分析システムの開発(原子ビームを用いた3次元元素分析装置のための技術開発)		医薬品三次元分析システムの開発	東京大学、パスカル株式会社
36	軟X線顕微鏡による細胞画像測定／超高速分光細胞識別技術		軟X線顕微鏡による細胞画像測定／超高速分光細胞識別技術	東京大学、東海光学株式会社
37	統合疾患データベースの構築とその臨床応用		統合疾患データベースの構築とその臨床応用	東京大学、武田薬品工業株式会社
38	安全で信頼性の高い医薬品製造容器		安全で信頼性の高い医薬品製造容器	東京大学、日本ゼオン株式会社
—	プラットフォーム構築のための拠点推進体制の整備			
H29W02	細胞外ATPを指標とする皮膚がん診断・薬剤投与パッチの開発			
H29W05	バイオエンジニアリング技術を用いた、患者と医療者に優しい低侵襲脳卒中治療の開発			
H30W07	装着感と拘束感のないセンサ(Stress Free Sensing)で取得する生体ビッグデータによる新しい医療デバイス開発への挑戦			

H30W10	低侵襲脳卒中治療を目指した、患者と医療者に優しい バイオエンジニアリング 技術に関する基盤研究			
H30W11	皮膚組織液による皮膚がん診断・薬剤投与パッチの開 発			
H30WD15	生体情報センサのIoT化と得られたビッグデータ解析の ための調査研究」			
H31W02	白血病における液体生検の社会実装に向けた基盤研究			
H31W12	装着感と拘束感のないスマートテキスタイルで取得する 全生活時間ビッグデータによる医療デバイス開発への挑 戦			
R2W06	日帰りでの社会復帰が可能な網膜剥離治療を目指した 親水性眼内充填材の開発と手術応用に向けた基盤研究			
R2W11	白血病における第三世代液体生検の社会実装に向けた 基盤研究			
R2W13	多因子疾患を制御する免疫パスウェイの解明を目指し た、日本人免疫細胞eQTLデータと大規模GWASデータ の統合研究			
R03W03	医療機器としてのつけ爪型バイタルセンサの開発			
R03W05	新規親水性眼内充填材による日帰り網膜剥離手術への 応用と病態理解に基づく予防に向けた学際的基盤研究			
R03W09	歩行能力の在宅モニタリングを目指したフレキシブル超 音波による下肢筋肉量評価技術の基盤研究			

用語集

用語	説明
エキスパートパネル	ゲノム検査の結果を多職種の診療科横断的な体制で検討する院内の専門家カンファレンス。がん遺伝子パネル検査においては開催が保険の算定要件になっており、全国 45 の指定病院で実施されている
ClinVar	米国 NIH/NCBI で運用されている、病的変異と疾患（表現型）を関連付けた包括的なデータベース。無償でデータのダウンロードが可能 URL: https://www.ncbi.nlm.nih.gov/clinvar/
VCF	Variant Call Format の略。次世代シーケンサによるゲノム解析を行った際に検出される遺伝子変異を記述するための国際標準のファイル形式。テキスト形式で 1 行 1 変異で記述される
アノテーション処理	ゲノム解析の結果検出された変異に対して生物学的、医学的な意義づけや注釈情報を付与していく作業。多くの参照データベースを必要とする
エクソーム解析	ゲノム上の遺伝子領域を網羅的に次世代シーケンサーを用いて解読する解析手法。約 20,000 遺伝子（全ゲノムの約 1.5%）の情報が出力される
DBMS	DataBase Management System の略。データベースを管理するシステムやソフトウェアを指す。ここでは ClinVar 等の参照 DB も含めたゲノムデータ全般の管理を担うミドルウェアを指している
HL7 CDA 形式	診療文書（ドキュメント）をシステム間で受け渡すための国際的な標準データ交換規約。XML 形式に準拠している
SS-MIX2 ストレージ	SS-MIX（厚生労働省電子的診療情報交換推進事業）において策定された格納仕様・ディレクトリ構造を実装した医療情報ストレージで、厚生労働省の標準規格。標準化ストレージと拡張ストレージがある
レポジトリシステム	多施設から多くのデータを収集、一元的にアーカイブするための情報基盤。C-CAT ではがん患者の臨床情報とゲノム情報を全国 200 以上の病院から受け付けている
HL7 FHIR	健康医療情報をシステム間で Web API (REST) を用いて連携するための国際的な標準規約。データを「リソース」という単位で構造化していく。ゲノムデータについても定義の策定が進んでいる
GA4GH	Global Alliance for Genomics and Health の略。ヘルスケア領域におけるゲノムデータの利活用のための標準仕様策定や技術開発を行うグローバルコミュニティ

糖尿病性腎臓病 (DKD)	慢性腎臓病 (CKD) の一種であり、糖尿病が原因で起こる。DKD は、透析治療の原因となる腎臓病のなかで最も多く、約 4 割を占める。毎年新たに 1 万 6000 人以上の DKD 患者が、透析治療を開始している。
Fast decliner (FD)	Rapid decliner と呼ばれる。DKD 患者の中でも特に急速な腎機能低下を示す患者群。定量的な定義は複数あるが、いずれの定義においても DKD 患者の 15% 程度を占める。従来、顕性アルブミン尿に続いて腎機能低下が引き起こされるものと考えられてきたが、正常～微量アルブミン尿の段階で急速に腎機能が低下する患者群がいることが認識され、透析人口を減らすために重要な標的患者群として注目が集まっている。
メタボローム解析	生体内に含まれる代謝物質メタボライトの総体を「メタボローム」と呼び、その種類や濃度を網羅的に分析する手法をメタボローム解析と呼ぶ。
バイオマーカー	バイオマーカーには、様々な用途があり、それぞれに異なる概念を持つが、このでは、FD 患者を腎機能低下前に特定する「予後マーカー (prognostic marker)」、または「患者層別マーカー (stratification marker)」を示す。
ヒトゲノム	ゲノム (genome) は、個体を構成するすべての細胞が持つ DNA の塩基配列により規定される遺伝情報の全体を意味し、そこには生物が生命を維持し、子孫を残すために必要な情報が含まれている。ヒトゲノムの DNA は、A、T、C、G の 4 種類の塩基配列の文字列で約 30 億文字の情報からなる。ヒトゲノム上には、約 2 万個の遺伝子 (最近の研究では 2 万 1,300 個) があり、それらはタンパク質を生成する設計図となっている。これら 2 万個の遺伝子領域は、全 DNA 配列の約 2 % 程度を占める。残り 98 % の領域はこれまで主たる機能を持たない部分だと考えられてきたが、体質や病気の発症に関連する部分が次々に発見されてきた。
メタゲノム	メタゲノムとは、ある特定の生物の遺伝情報である「ゲノム (genome)」に「超越」を意味する接頭語「メタ (meta-)」をつけた造語である。一般に、ある環境中に存在する生物全体のゲノムを網羅的に解析することをメタゲノム解析とよび、どのような DNA 配列が検出されたかによって、どのような生物がその環境にいたかを知ることができる。例えば、腸管内には膨大な数の細菌やウイルスが存在する。これが腸内フローラと呼ばれるものである。その中には嫌気性細菌 (酸素存在下では生存できない細菌が含まれる)、難培養性細菌など細菌個別の研究が困難なものが多数含まれている。次世代シーケンサーの発達に伴い、腸管内、もしくは糞便から採取した検体から細菌由来、ウイルス由来の DNA を抽出してシーケンス解析を行うことによりどのような種類の細菌、ウイルスが存在していたかを知ることができるようになってきた。この方法により、腸管内に存在する細菌やウイルスを網羅的に同定することが可能となった。
細菌叢	細菌は土壌、海洋など環境のみならず、我々の皮膚、口腔、鼻腔、目、腸管などにも膨大な数、種類が共生している。細菌叢の解析については、全ての細菌が保有している 16S リボゾーム遺伝子の多様性のある部分 (600 塩基程度) を解析することにより大雑把に細菌の属性を同定できる。しかしながら、その解析では個々の細菌の種類までは分か

	らない。個々の細菌の種類を同定するためには、各細菌がもつ全ゲノムを解析する必要があり、細菌やウイルスを対象に全ゲノムシーケンス（ショットガン解析）を行う必要がある。本プログラムでは、細菌叢に対してしてショットガン解析を実施する。これにより、細菌叢が保有するゲノム情報が遺伝子レベルで解析が可能となり、その数は後述するウイルス叢と合わせて2,000万に達すると予想される。これらのデータ量はヒト全ゲノムデータと同様に膨大であり（16S解析の数百倍。解析にかかる時間は約千倍）、現在医科学研究所ではスーパーコンピュータを用いた超高速データ解析パイプラインを整備して解析を行っている。 腸内細菌叢は個々人で異なり、この違いが肥満、糖尿病、炎症性腸疾患からパーキンソン病などの神経変性疾患に関わることが分かってきた。たとえば、オプシーボのようながん免疫療法薬剤の有効性にも影響を与えている。また、メタゲノム解析により健康者の腸内細菌叢を詳細に調べていくと、一定の割合（20%程度）で赤痢菌や病原性大腸菌が同定される。これらは pathobiont（病原性共生生物）と呼ばれ、現在の健康状態のみならず、将来の疾患発症リスクにも関連している可能性が指摘されている。
ウイルス叢	インフルエンザウイルスやエボラウイルスなど、病原性のウイルスが注目を集めるが、人の腸管などに常在化しているウイルスは、我々のヒト細胞に感染するウイルスではなく、我々に共生している細菌に感染するバクテリオファージがほとんどである。このバクテリオファージは、地球上で1031個存在すると言われ、共生する細菌に感染し、その中で増殖し外界に放出される。また、この感染関係はかなり特異性が高く、あるバクテリオファージはある種の細菌にのみ感染するという特徴を持つ。すなわち、ウイルス叢（バクテリオファージ）は、共生細菌叢に直接影響を与えるものである。たとえば、赤痢菌の志賀毒素と病原性大腸菌O157のベロ毒素の構造は極めて類似しており、それらはバクテリオファージを仲介して伝播されたと考えられている。このように細菌叢とバクテリオファージに代表されるウイルス叢は互いに影響し合い、統合されたシステムを形成している。このシステムが産生する多様な酵素、ビタミンなどの栄養素等が我々の細胞に作用し、個体としての健康状態を支え、時に疾患を引き起こす。このようにウイルス叢の乱れが細菌叢の乱れにも繋がるため、両者を統合して解析することが必要となる。
オミクス	オミクス（omics）とは、DNA、RNA、タンパク質などの分子から得られる情報全体を系統的に調べる学問体系のことである。元々ゲノム（genome）という単語は、遺伝子（gene）に“全体”を意味する接尾語の ome をつけてできた。同様に、転写産物（transcript）全体をトランスクリプトーム（transcriptome）、タンパク質（protein）全体をプロテオーム（proteome）という。同様にバクテリア（bacteria）に対するバクテリオーム（bacteriome）というようになってきている。また接尾語として omics をつけると、“その科学”という意味になり、ゲノム科学はゲノミクス（genomics）、多種類のタンパク質を扱う科学はプロテオミクス、炭水化物や脂質など代謝産物全体を扱うメタボロミクス（metabolomics）などと呼ぶ。これら多くの遺伝的情報や多種類のタンパク質などの情報を科学する新たな学問体系を合わせてオミ

	クスと称する。オミクス解析により、様々な生命現象あるいは病的現象が統合的に理解されることが期待されている。
最先端シーケンス技術	ヒト全ゲノム解読後の 2003 年から米国 NIH のヒトゲノム研究所は、1000 ドルで個人の全ゲノム DNA の塩基配列を決定する技術開発を目的に“1000 ドルゲノムプログラム”を開始し、様々な技術開発を加速した。その結果、2014 年、1 年で 1 万 8 千人の全ゲノムシーケンスを行うことができる HiSeq X 10 が開発され、ヒト全ゲノム情報の解析は 1000 ドルを切った。現在(2019 年 6 月)、1 人あたりの全 DNA 塩基配列データは、600 ドル程度で取得可能となっている。しかし、この解析法はヒト全ゲノムの 30 億文字からなる DNA 塩基配列を 100 文字（リード長という）前後の断片配列としてデータ出力するため、データ取得後に解析処理が必要となる。この技術を用いて、約 20 万円以下でパーソナル全ゲノムの DNA 塩基配列とデータ解析をする会社が登場した。現在、さらなるコスト削減とスピードアップの点から新たな DNA 塩基配列解析技術の開発に多くの世界企業がしのぎを削っている。このうち注目されているものがナノポアシーケンサーやシリコンシーケンサーである。近々、ナノポアタンパクを 2000 個集積したシリコンシーケンサーを用いることで、15 分でパーソナル全ゲノムを DNA 塩基配列決定できる“USB 端子のついた掌に乗る装置”が販売される。この解析から得られるリード長は 5 万～10 万である。さらに、ナノポアを 100 万個集積する技術と CMOS 半導体技術を融合したシリコンシーケンサーも登場し、100 ドルゲノム時代の到来が間近に迫っており、それに対応した研究開発、臨床シーケンス解析開発が必須となる。
臨床シーケンス	病気の原因や発病のメカニズムを究明するために、病気に罹患した患者の組織から DNA や RNA を抽出し、シーケンスを行う研究はこれまで多数行われてきた。しかし遺伝性疾患の診断やがんにおける少数の遺伝子変異解析等を除けば、その結果を患者に開示して本人の病気の治療に利用されることはほとんどなかった。ところが、特定の遺伝子産物を標的とする分子標的薬ががん治療に使用されるようになってから、特定の遺伝子の変異の有無を調べ、治療薬の選択に利用することが増えている。このように、患者本人の病気の診断や治療に利用するために、ゲノム配列を解析することが臨床シーケンスである。本事業では、ヒト由来 DNA、RNA のシーケンスだけでなく、ヒトに共生している細菌やウイルス由来の DNA や RNA に関するシーケンス解析を含めて臨床シーケンスと呼んでいる。最先端シーケンサー技術の解説で述べたように、網羅的なゲノム解析が低コスト・短時間で実現されると、個々の患者から採取した病変組織、正常組織、細菌叢・ウイルス叢を調べるためのサンプル（腸内であれば糞便、口腔であれば唾液や口腔粘膜など）を用いた臨床シーケンスの普及が加速すると思われる。
ゲノム情報の臨床翻訳	がん患者のがん細胞のゲノム情報と正常細胞のゲノム情報から 1 万を超えるがん細胞特異的な DNA や変異の候補が抽出される。これらの情報から、その患者のがんがどのような性質のものであるかを解明する必要がある。すなわち、どのような DNA 変異や異常がどの遺伝子群にあって、それが遺伝性のものか、どのようなメカニズムでがんを生

	み出しているのかなどを理解し、適切な抗がん剤はあるのか、その量とタイミングは、といった臨床の現場に役立つ情報を生み出すことをゲノム情報の臨床翻訳と呼んでいる。新次元ゲノムにおいては、前述のヒトゲノム情報に加えて、どのような細菌、ウイルスがどのような割合で存在し、これら共生細菌・ウイルス遺伝子が、その人の免疫系、代謝系にどのような影響を与えるかを予測したうえで、疾患に対して有効と考えられる薬剤を選択し、その投与量を最適化し、投薬のタイミングを決定する。また、これらの情報が疾患を予防するための生活習慣のプランニングや予防投薬の有無にまで利用されることが求められている。
eQTL	expression quantitative trait locus の略で、遺伝子発現量に影響する遺伝子多型を示す。
TRS	transcriptional risk score の略で、疾患感受性多型から eQTL 効果を受ける遺伝子について、炎症局所の遺伝子発現をスコア化するもの。TRS は遺伝子多型だけからのスコアである polygenic risk score (PRS) よりも、疾患の病型との相関が強いとされている。